

# 授業に関すること

I	単位制度と履修	2
II	授 業	3
III	履修登録	4
IV	特別な履修登録手続きを必要とする授業科目	5
V	履修登録の日程と流れ	10
VI	試験・レポート	11
VII	成 績	14
VIII	GPA制度	15
IX	卒業論文	16
X	他学部聴講制度	16
XI	成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する 成城大学経済学部在学生ののための科目等履修生制度	17
XII	オフィスアワー	19
XIII	卒業延期制度	20
XIV	秋卒業制度	21
XV	転学部・転学科	22

# I 単位制度と履修

## A 単位制度

### 1 単位制度

本学における学修は単位制度によって行われる。単位制度とは、所定の授業科目を履修することによって、4年以上の在学期間中に卒業に必要な総単位数を修得する制度である。

### 2 単位数

- ① 学年の学修期間は定期試験等の日を含めて35週であるが、これを2期に分ける（大学学則第11条・第13条参照）。授業科目の多くは1か年35週または、半期をもって完結する。
- ② 授業の単位は、45時間の学修（教室における授業時間と予習・復習等の教室外における学修時間とを含む）を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とする。
- ③ 単位数はそれぞれの科目によって異なり、授業科目による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算される。

授業科目	授業期間	週回数	単位数	説明
講義科目・演習科目（ゼミナール）	半期	1回	2	週1回、半期の科目を2単位とする。
		2回	3	週2回、半期の科目を3単位とする。
		2回	4	週2回、半期の科目を4単位とする。
	通年	1回	4	週1回、通年の科目を4単位とする。
外国語科目	半期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
		2回	2	週2回、半期の科目を2単位とする。
		4回	4	週4回、半期の科目を4単位とする。
		6回	6	週6回、半期の科目を6単位とする。
	通年	8回	8	週8回、半期の科目を8単位とする。
		1回	2	週1回、通年の科目を2単位とする。
		2回	4	週2回、通年の科目を4単位とする。
スポーツ・ウエルネス実技科目	半期	1回	1	週1回、半期の科目を1単位とする。
	集中	—	1	週1回、半期に相応する授業時間数によって編成される科目を1単位とする。

### 3 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数（卒業要件単位数）は、【履修規定】I総説A開設科目および卒業要件単位数】を参照のこと。

### 4 余剰単位

卒業要件単位数を超えて修得した単位は余剰単位とも称される。なお、その単位も付与され、成績も認定されてCampus Square for Webの個人成績参照および成績証明書に記載される。

## B 履修

### 1 学年配当

授業科目には配当学年が指定されている。在学年次よりも上の年次に配当されている授業科目は原則として履修することができない。

### 2 再履修

単位が認定されなかった授業科目を再び履修することを再履修と呼ぶ。必修科目が不合格となった場合は、必ず再履修しなければならない。

### 3 反復履修の禁止

すでに単位を修得した授業科目を再び履修することを反復履修と呼ぶ。反復履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。

### 4 重複履修の禁止

同一年度に同一名称の授業科目を複数履修することを重複履修と呼ぶ。重複履修は、特に認められた場合を除いて禁止されている。なお、授業科目の名称には副題（〈 〉で囲まれている部分）は含まれない。

※授業科目名称の例

- ・「プロジェクト演習〈企業提案〉」と「プロジェクト演習〈企業との協働〉」は同一名称の授業科目として扱う。
- ・「英語リスニング&スピーキング（初級）」と「英語リスニング&スピーキング（中級）」は別の名称の授業科目として扱う。

### 5 成績評価の前提条件

当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席した者は、当該授業科目修了の認定を受けることができない（大学学則第23条第1項）。

## Ⅱ 授 業

### A 学期と授業期間

本学の授業は1年を前期・後期の2学期に分けて行われ、授業期間は下記の3つに分かれる。

通 年	1年間
半 期	半年間（前期または後期）
集 中	夏季、冬季、春季休業中等の一定期間

### B 時限と授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限※
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	18:00～19:30

※6時限は補講時間帯（通常授業は行われない。）

なお、土曜日は通常授業は行われない。（一部、資格科目等を除く。）

### C 休 講

大学行事が行われたり、各授業科目担当者にやむを得ない事情が発生した場合に、授業を休講することがある。

### D 補 講

休日、休講、日程等の都合により、授業の進行が予定より遅れた際に、臨時の授業を行うことがある。これを補講という。

補講は、原則として月～金曜日の6時限に行う。

### E 教室変更

都合により、授業の教室を変更する場合がある。

履修中の授業科目情報（休講・補講・教室変更等）は、Campus Square for Web（キャンパススクエアフォーウェブ）で確認ができ、メールアドレスを登録しておくことで、その情報が自動配信される。また、1号館1階の掲示板でも授業科目の情報を確認することができる。なお、電話での問い合わせは受け付けていない。

※ Campus Square for Webでは、教員から届出があり次第、随時情報を更新している。

急病等事前に告知ができないときは、授業当日の掲載になる場合がある。

#### 【Campus Square for Web】

Campus Square for Webは学生生活に必要な情報等をインターネットから閲覧・登録できるシステムで、大学ホームページよりアクセスできる。「ユーザ名・パスワード」を忘れてしまった場合などは、メディアネットワークセンター・教務部のいずれかの窓口まで申し出ること。

大学ホームページ

PC : <http://www.seijo.ac.jp>

mobile : <http://www.seijo.ac.jp/i/>

Campus Square for Web

PC・スマートフォン : <https://cs.seijo.ac.jp/campusweb/>

mobile : <https://cs.seijo.ac.jp/campusmobile/>

# III

## 履修登録

### 1 履修登録とは

履修登録は、その年度に自分が履修しようとする授業科目を、必修科目を含めて全て登録する手続きである。この手続きがされていなければ、授業科目の履修はできず、また単位も認定されない。

なお、後期科目についても、前期・通年科目と同様4月に登録する必要がある（p.9の7の科目を除く）。

### 2 Web履修登録（本登録）

履修登録はWeb上で行う。Campus Square for Webを利用した履修登録方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。

### 3 登録期間

#### 【Web履修登録期間】

4月9日（月）8：30～4月18日（水）18：00【3・4年次】

19日（木）18：00【1・2年次】

ただし、4月13日（金）18：00～4月14日（土）8：30の期間は、p.6回<sup>④</sup>の科目の受講者数調整のため、全ての授業科目の履修登録ができない。

### 4 登録時の注意点

- ① 履修の手引、シラバス等をよく読み、履修する授業科目を決定した後に履修登録（Web履修登録）をすること。
- ② 教務部で事前登録を行う授業科目があり、これらの授業科目は原則として取り消すことができない。
- ③ 登録の締切日時を厳守すること。登録締切後は、授業科目の追加や、登録した授業科目の訂正・取り消しを行うことはできない。なお、履修方法上の誤り等により教務部から訂正を指示する可能性があるが、この場合はその指示に従うこと。
- ④ 病気等、やむを得ない理由により締切日時までに登録を完了できない場合は、事前に教務部に相談し、手続きに関する指示を受けること。

#### 【前期開講1週目の授業について】

- ・必修科目、クラス指定の授業科目、予備申請で受講が決定した授業科目については、1週目の授業から出席すること。
- ・選択科目は、原則として1週目の授業では、授業概要の説明が行われる。いろいろな授業に出席し、本年度履修する授業科目を計画的に選択すること。この期間中は、授業途中に教室の出入りをしても構わない。

### 5 履修登録の注意点

- ① 履修登録のできない授業科目
  - ・在学年次よりも上の年次に配当された授業科目
  - ・クラス指定の授業科目で自分のクラス以外の授業科目
  - ・すでに単位を修得した授業科目（例外もあるので、詳細は【履修規定】を参照のこと）
- ② 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目  
Web履修登録の前に特別な履修登録手続きを必要とする授業科目がある。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ 履修科目登録上限単位数  
履修登録することのできる単位数には上限が定められているので、上限の単位数を超えないよう十分留意して登録すること。詳細については【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限を参照すること。
- ④ 本年度履修登録する授業科目がない場合  
4年次生で本年度履修登録する授業科目がない場合でも、必ずCampus Square for Webの履修状況メニューにある「登録・自己判定」ボタンを押下すること。

### 6 履修相談

履修相談は、1号館1階教務部で随時行っている

（月～金-8：30～18：00、土-8：30～13：00、予約不要）。

その他、ガイダンス等を行うが、その場合はCampus Square for Web等で周知する。

# IV

# 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目

## A Web予備申請を必要とする授業科目

### 1 Web予備申請

授業の性質や使用する機材の台数の関係上、受講者数に定員を設ける授業科目がある。これらについては、Web履修登録の前にWeb上での予備申請が必要である。

Web予備申請の要領は以下のとおりだが、申請方法の詳細については、Web履修登録マニュアル（大学ホームページ、または、Campus Square for Webよりダウンロード可）を参照すること。

なお、予備申請期間中は、申請した授業科目を何度でも変更・削除することができる。

### 2 予備申請期間

【予備申請期間】4月2日（月）9：00～4月7日（土）13：00

### 3 申請結果の発表

予備申請を行った授業科目で、抽選により履修が許可されたものは、自動的にWeb履修登録が行われ、不許可となったものは自動的に削除される。申請結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

【申請結果発表（自動登録）日時】4月7日（土）18：00（予定）

### 4 予備申請を必要とする授業科目

Web予備申請を必要とする授業科目は、以下のとおりである。

分野・区分	授 業 科 目	
基 礎 科 目	英語読解（再）【2017年度以降入学者】注2	独語補講 a・b 【2017年度以降入学者】注2
	Communicative English（再）【2017年度以降入学者】注2	仏語補講 a・b 【2017年度以降入学者】注2
	TOEIC（再）【2017年度以降入学者】注2	中国語補講 a・b 【2017年度以降入学者】注2
	英語補講 I～IV 【2016年度以前入学者】	
基礎科目（経済学科）	データ解析入門 I・II	
専門科目（経営学科） 〈経済学科は自由設計科目〉	英経営書読 II 【2016年度以前入学者】	経営情報論 【2016年度以前入学者】
	ビジネスライティング I・II 【2017年度以降入学者】	経営情報論 I・II 【2017年度以降入学者】
自由設計科目	行政法 I	データサイエンス・スキルアップ・プログラム
	選択英語 【2016年度以前入学者】	データサイエンス・アドバンスド・プログラム 注2
	選択英語 a・b 【2017年度以降入学者】	英語リスニング&スピーキング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）
	W R D	英語リーディング&ライティング（初級 a・b、中級 a・b、上級 a・b）
	社会構造論演習 a・b	英会話選択 a・b
	思想・人間論演習 a・b	英文多読 a・b
	表現文化論演習 a・b	独会話選択 a・b
	歴史文化論演習 a・b	独語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	地域空間論演習 a・b	仏会話選択 a・b
	生命科学の世界 a・b	仏語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	数理・自然科学演習 a・b	スペイン語選択（初級 a・b、中級・ディプロム a・b）
	心身論演習 a・b	中国語選択（初級 I a・I b・II a・II b、中級 a・b、上級 a・b）
	キャリア形成 I～IV 【2017年度以降入学者】	韓国語選択（初級 a・b、中級・ディプロム a・b）
	キャリア形成概論 I・II 【2016年度以前入学者】	ディプロム・コース中級・上級（独語 a・b、仏語 a・b）
	プロジェクト演習 【2017年度以降入学者】	コンピュータ・リテラシー A 1・A 2、B～E
	スタート・プログラム I～III 【2016年度以前入学者】注2	図書館活用法
	時事英語 I・II	スポーツ・スタディーズ I～IV
	データサイエンス入門 I・II	ウエルネス・スタディーズ I～IV
	データサイエンス概論	身体表現・スタディーズ I～IV
	データサイエンス応用	スポーツ・ウエルネス実技科目（サイクル・スポーツ、スキーを除く）

注1) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定 II 授業科目一覧表】を参照すること。

注2) 後期開講の「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」、「独語補講 a」、「仏語補講 a」、「中国語補講 a」、「スタート・プログラム I～III」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の申請は、後期に行う。p.9の7を参照すること。

## 5 申請上の注意

- ①【2016年度以前入学者】「英語」に再履修の授業科目がある場合は、「英語補講Ⅰ～Ⅳ」の中から、不合格となった授業科目数分を履修すること。
- ②【2017年度以降入学者】「英語読解」に再履修の授業科目がある場合は「英語読解(再)」を、「Communicative English」に再履修の授業科目がある場合は「Communicative English(再)」を、「TOEIC」に再履修の授業科目がある場合は「TOEIC(再)」を、不合格となった授業科目数分履修すること。
- ③「WRD」は科目の性質上、申請者数が受講者定員を上回った場合、受講者の決定については、1年次生を優先する。
- ④「コンピュータ・リテラシーA1・A2」は複数コマ開講されており、全てセットで履修することになっている。シラバスで確認すること。

## 6 定員に余裕がある授業科目の履修登録

抽選の結果、定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順で本登録を受け付ける。

**【定員に余裕がある授業科目の履修登録期間（Web上の履修登録）】**

4月9日(月) 8:30～4月18日(水) 18:00【3・4年次】

19日(木) 18:00【1・2年次】

ただし、4月13日(金) 18:00～4月14日(土) 8:30の期間は、下記②の受講者数調整のため、全ての授業科目について履修登録ができない。

## B

### 履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目

#### 1 対象科目

- ① 全学共通教育科目のうち、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目【A】Web予備申請を必要とする授業科目および【C】その他の手続きを必要とする授業科目 3 選考または抽選を行う授業科目】以外の授業科目

具体的には、

2017年度以降入学者：経済学科は、p.45～53 第17表、第18表、第19表、第22表に示した科目のうち、Web予備申請、選考または抽選を行わない授業科目

経営学科は、p.107～111 第17表、第18表、第19表に示した科目のうち、Web予備申請、選考または抽選を行わない授業科目

2016年度以前入学者：経済学科は、p.66～67【第4表 自由設計科目-全学共通教育科目】に示した授業科目のうち、Web予備申請、選考または抽選を行わない授業科目

経営学科は、p.128～129、132～133【第4表 自由設計科目-全学共通教育科目】に示した授業科目のうち、Web予備申請、選考または抽選を行わない授業科目

- ② 他学部開設科目【2016年度以降入学者のみ対象】

具体的には、

2017年度以降入学者：経済学科は、p.54～55 第23表に示した授業科目

経営学科は、p.113～114 第21表に示した授業科目

2016年度入学者：経済学科は、p.85～86 第19表に示した授業科目

経営学科は、p.147～148 第19表に示した授業科目

#### 2 抽選対象科目の決定と抽選結果の発表

4月13日(金) 18:00の時点で、登録者が多数にのぼり、教室の収容定員を超えるなどの理由により授業環境が整わないと大学で判断した授業科目は、受講者数の調整のため抽選を行い、受講者を決定する。対象科目については、4月13日(金) 18:00までに履修登録を行うこと。登録した授業科目が抽選の対象となり、**その授業科目の履修が不許可となった場合は、自動的に登録が削除される。**抽選結果については、Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

抽選対象とならなかった授業科目は、①についてのみ各学年の履修登録締切日時まで先着順で登録を受け付ける。②については、**抽選対象とならなかった授業科目も含め、4月13日(金) 18:00以降は履修登録できない。**

なお、下記の期間は抽選処理のため、全ての授業科目について履修登録ができない。

**【抽選処理期間】4月13日(金) 18:00～4月14日(土) 8:30**

#### 3 申請上の注意

履修登録期間中は、登録した授業科目を何度でも変更・削除することができるが、**受講者数調整の対象となり、抽選により履修が許可された授業科目は取り消しができないので、登録に当たっては、履修の手引、シラバス等をよく読んでおくこと。**



## C その他の手続きを必要とする授業科目

### 1 2年次コース別英語

2年次「コース別英語」に関する説明会およびコースの決定は、1年次の冬（日程等は後日 Campus Square for Web等で周知する）に行う。履修登録は教務部が事前登録を行うので、各自のコース・クラスをCampus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。

### 2 2年次ゼミナール

#### ① ゼミナール説明会

「2年次ゼミナール」の申請手続き等について、下記のとおり説明会を開催する。ゼミナールは必修であるので、必ず出席すること。

4月2日（月）経済学科 10:40～11:40 322教室

経営学科 10:40～11:40 321教室

※ 希望ゼミナールのアンケート調査を行う。

#### ② 各ゼミナールの説明会

下記日程で、各ゼミナールの説明および選考方法について説明会を行うので、希望するゼミナールに必ず出席すること。

4月3日（火）経済学科 13:00～14:30

経営学科 10:40～12:10

#### ③ 第一次申請および所属ゼミナールの決定

ゼミナールは定員制であり、申請者が定員を超えたゼミナールでは選考が行われる。

第一次申請期間	4月3日（火）～4日（水）15:00まで
第一次申請状況発表	4月5日（木）9:00 ※当日のみ申請の変更を受け付ける（当日15:00まで）。
第一次申請状況最終発表	4月6日（金）9:00
第一次選考期間 （定員を超えたゼミナールのみ）	4月9日（月）～11日（水）
所属ゼミナールの発表	4月12日（木）9:00 ※希望ゼミナールの選考から選ばれた者は、当日、15:00までに研究事務室にて第二次申請を行う。
所属ゼミナールの最終発表	4月13日（金）9:00

#### ④ 履修登録

履修登録は教務部が行う。なお、Campus Square for Webの履修状況メニュー上に登録されている科目の担当教員名は「教務部」となっているが、所属ゼミナールの最終発表後に、教務部が各ゼミナールへの登録変更を行う。

#### ⑤ 3年次への進級が認められなかった場合

3年次への進級が認められなかった者は、「2年次ゼミナール」を再履修しなければならないので、上記募集日程に従って手続きを行うこと。

### 3 選考または抽選を行う授業科目

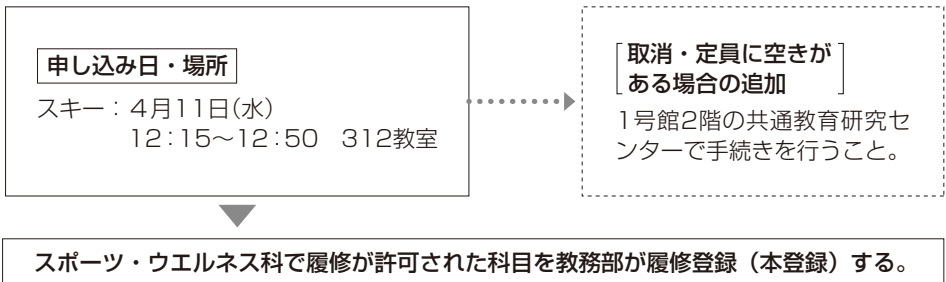
下記の授業科目は、受講者数に定員を設けているため、開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細については掲示・シラバスを確認すること。

- ・「TOEIC（特級）I a・I b、II a・II b」
- ・「ビジネス英語 a・b」
- ・「フレッシュャーズ・セミナー」
- ・「Academic Communication a・b」
- ・国際交流科目のうち「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」

なお、履修が許可された者は、教務部が履修登録を行う。登録された授業科目は取り消すことができないので、シラバス等をよく読んでおくこと。

4 スポーツ・ウェルネス実技科目  
[集中コース]

スポーツ・ウェルネス実技科目のうち、集中コースの科目は、**履修登録をする前に必ずスポーツ・ウェルネス科で履修申し込みの手続きを行わなければならない。**授業内容を参照の上、以下に示すとおり履修手続きを行うこと。



5 海外短期語学研修・海外短期研修

「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の履修登録や参加申し込み等の詳細については、掲示等で周知する。  
また、履修登録方法については、下記のとおりである。研修内容等については、シラバスを参照のこと。

海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 アルバータ州立大学 (カナダ) 【期 間】 2018年8月 (25日間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・夏季)	2単位	【実施大学】 リムリック大学 (アイルランド) 【期 間】 2018年8月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 ニューカッスル大学 (オーストラリア) 【期 間】 2019年2月~3月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (英語・春季)	2単位	【実施大学】 コロラド大学ボルダー校 (アメリカ合衆国) 【期 間】 2019年2月~3月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (独語・春季)	2単位	【実施大学】 ドレスデン工科大学 (ドイツ) 【期 間】 2019年2月~3月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (仏語・春季)	2単位	【実施大学】 西部カトリック大学 (フランス) 【期 間】 2019年2月 (約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2019年度前期科目として単位を認定する。	
海外短期語学研修 (中国語・夏季)	2単位	【実施大学】 北京大学 (中国・北京) 【期 間】 2018年8月~9月 (約4週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。	
セット履修	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1単位	【実施大学】 マレーシア工科大学 (予定) (マレーシア) 【期 間】 2018年8月 (就業体験研修と合わせて約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度後期科目として単位を認定する。
	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	2単位	【実施企業】 現地企業 【期 間】 2018年8月 (就業体験準備と合わせて約3週間) 【履修登録】 研修への参加が認められた者の履修登録は、教務部が行う。 【単位認定】 2018年度通年科目として単位を認定する。

※1 「海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)【1単位】」と「海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)【2単位】」は、セットで履修すること。  
 ※2 特別な履修登録手続きを行うこと、また、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。



履修上の注意については、下記を併せて参照すること。

- 経済学科の2017年度以降入学者は、【履修規定Ⅲ】-3 分野別履修方法 (自由設計科目) **【A】**推奨科目 4 全学共通教育科目 [d 国際交流科目群] 第19表の注意事項④～⑦】
- 経営学科の2017年度以降入学者は、【履修規定Ⅲ】-3 分野別履修方法 (自由設計科目) **【B】**教養科目 2 全学共通教育科目 [d 国際交流科目群] 第19表の注意事項④～⑦】
- 2016年度以前入学者は、【履修規定Ⅲ】-3 分野別履修方法 (自由設計科目) **【B】**全学共通教育科目 第17表の注意事項②～⑤】

**6 短期学外演習  
(自然)**

- ① この授業科目は、Webでの履修登録の前に、事前申し込みが必要である。
- ② 履修希望者は、以下の説明会に出席するなどして内容をよく理解し、当日会場 (あるいは後日、社会イノベーション学部研究事務室) で事前申し込みをすること。詳細はシラバスと配付資料を参照すること。

【説明会】 4月10日(火) : 12:20~12:50、18:00~18:30 32A教室  
4月12日(木) : 12:20~12:50、18:00~18:30 32A教室

**7 後期に履修登録  
を行う授業科目**

後期開講の「英語読解 (再)」、「Communicative English (再)」、「TOEIC (再)」、「独語補講 a」、「仏語補講 a」、「中国語補講 a」、「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の履修登録は以下のとおり、後期開講前に行う。

**【後期開講「英語読解 (再)」、「Communicative English (再)」、「TOEIC (再)」、「独語補講 a」、「仏語補講 a」、「中国語補講 a」、「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」履修登録日程】**

	期 間	方 法
Web予備申請	9月17日 (月) 9:00 9月20日 (木) 13:00	Campus Square for Webにて予備申請を行う。 ※予備申請期間中は申請内容を何度でも修正可能。
抽選結果発表	9月20日 (木) 18:00 (予定)	履修が許可された科目は自動的に登録される。 Campus Square for Webの履修状況メニューで確認すること。
定員に余裕がある授業科目については、下記の期間において先着順でWeb履修登録を受け付ける。 9月21日 (金) 8:30~9月27日 (木) 18:00		

# V

## 履修登録の日程と流れ

授業に関するしごと

### 1 履修登録日程

Web予備申請期間	4月 2日 (月) 9:00~4月 7日 (土) 13:00
抽選結果発表	4月 7日 (土) 18:00 (予定)
Web履修登録期間	4月 9日 (月) 8:30~4月18日 (水) 18:00 【3・4年次】 19日 (木) 18:00 【1・2年次】 ただし、4月13日 (金) 18:00~4月14日 (土) 8:30の期間は、p.6[B]の授業科目の受講者数調整のため、全ての授業科目の履修登録ができない。

### 2 履修登録の流れ

日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限
事前登録科目	必修科目など、その年度に履修しなければならない授業科目が該当し、原則として取り消すことができない。					
(p.5) [A] Web予備申請を必要とする授業科目	Web予備申請を行う。Web予備申請期間中は何度でも申請内容の変更が可能である。	※1 抽選結果確認	定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。		定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。	
(p.6) [B] 履修登録期間中に受講者数の調整を行う授業科目 対象科目① 全学共通教育科目			Web履修登録を行う。	※2 抽選結果確認	定員に余裕がある授業科目は先着順でWeb履修登録を行う。	
対象科目② 他学部開設科目			Web履修登録を行う。	※2 抽選結果確認	履修登録できない。	
(p.7) [C] その他の手続きを必要とする授業科目 3 選考または抽選を行う授業科目	開講前または開講1週目の授業で選考または抽選を行う。詳細は掲示を確認すること。履修が許可された者は教務部がWeb履修登録を行う。					
特別な履修登録手続きを必要としない授業科目	Web履修登録を行う。					
日 時	4月2日 9:00	4月7日 13:00	4月9日 8:30	4月13日 18:00	4月14日 8:30	Web履修登録 期限

※1 抽選の結果、履修が許可された授業科目は自動的にWeb履修登録される。

※2 登録者が多数のため抽選対象となり、履修が不許可となった授業科目は自動的にWeb履修削除される。

# VI 試験・レポート

## A 試験

### 1 試験と単位授与

履修登録をしている授業科目の成績は、学期末、学年末に実施される定期試験および授業への参加度等も総合した成績により評価され、授業科目担当者により合格と判定された者は、単位が授与される。

### 2 試験の種類

#### ① 定期試験

- ・ 学期末定期試験…前期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験
- ・ 学年末定期試験…後期授業終了後の定期試験期間内に行われる試験

#### ② 期前試験…定期試験期間前の授業時間中に実施される試験

#### ③ 定期試験に代わるレポート…定期試験の代わりに、レポートで実施される試験。

提出日・提出先（教務部、授業時間内、各学部研究事務室など）等は授業科目担当者により異なる。

#### ④ 追試験…病気その他やむを得ない事由により、定期試験または期前試験を受験できなかった場合に授業科目担当者の判断により実施される試験（要手続）

※「定期試験に代わるレポート」は、追試験の対象にはならない。

### 3 試験についての連絡

定期試験（筆記試験またはレポート）、期前試験の連絡は、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

その他、中間テスト、小テスト、小レポート等について授業科目担当者から指示があった場合には、Campus Square for Webにて発表する。

#### 【学籍番号およびクラス番号について】

- ・ **学籍番号**は各学生固有の番号で、入学と同時に与えられる。その番号は、在学中はもとより卒業後も変わらない。
- ・ **クラス番号**はクラス内の個人番号である。4月開講時にCampus Square for Webで今年度のクラス番号を各自確認すること（この**クラス番号**は年度により変わるの**で注意すること**）。
- ・ 定期試験、レポート提出、事務手続き等の際には、「学籍番号+クラス番号」が必要になるので、正確に記憶し、省略せずに記入すること。

#### 学籍番号とクラス番号のしくみ

学籍番号	18E1001-	1	A	001
		↑	↑	↑
		学年	クラス	出席番号

## B 定期試験

### 1 注意事項

- ① 履修登録がなされていない授業科目の受験は認めない。
- ② 不正行為は学則に基づき処分される。

### 2 試験期間

【学期末定期試験】7月23日（月）～7月31日（火）

【学年末定期試験】1月21日（月）～1月31日（木）

### 3 試験時間

原則60分とする。

### 4 試験時間割の発表

試験時間割は、原則として定期試験期間の約1週間前にCampus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

### 5 持ち込みを許可する参照物等

試験の際に持ち込みを許可する参照物等がある場合には、Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板にて発表する。

## 6 受験心得

- ① 学生証を必ず持参すること。  
※ 学生証を忘れた場合は、事前に学生課で受験許可証の交付を受けること。
- ② 試験場には、**定刻までに入室**すること。ただし、試験開始後20分までは遅刻者の入室を認める。
- ③ 試験開始後30分以内は退室できない。
- ④ 答案の氏名欄（学籍番号、クラス番号、氏名）と出席カードは、**ペン（鉛筆以外）**で記入すること。
- ⑤ **答案用紙を試験場から持ち出すことは一切認めない**。また、**無記名答案は無効**となる場合があるので注意すること。

## 7 試験開始時間の変更および中止

天候不良、災害、交通障害等により、小田急線（新宿～相模大野）が運行を停止した場合、試験開始時刻の変更（繰り下げ実施等）または中止することがある。

## C 定期試験に代わるレポート

レポートは原則として本人が提出し、**提出期限を厳守**すること。  
また、提出先によって提出要領が異なるので、以下の指示に従って提出すること。

### 1 教務部に提出する場合

#### 表紙

- ① 教務部で配付する「**指定の表紙**」を使用する。
- ② 表紙には必ず「**整理番号**」（Campus Square for Webまたは1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板のレポート科目一覧表を参照のこと）を記入する。

#### 提出要領

- ① 提出レポートは、必ずペン（鉛筆以外）書きとする。
  - ② 用紙の種類について  
**<パソコンを使用する場合>** A4判（横書き）  
**<手書きの場合>**
    - ・ 原稿用紙指定の場合  
横書きの場合…A4判400字詰め／縦書きの場合…B4判400字詰め
    - ・ レポート用紙の場合…A4判（横書き）
- ※ 授業科目担当者から指示がある場合はそれに従うこと。

### 2 教務部以外に提出する場合

#### 表紙

教務部で配付する「指定の表紙」は使用せず、1号館1階エントランスホールのガラスの掲示板に掲示している記入例を参考に、授業科目名・担当者名・題目・学部・学籍番号・学年・クラス・出席番号・氏名等を記入した表紙をつけること。  
なお、ホームページ上からも表紙フォームを印刷できるので必要に応じて使用すること。  
※ ホームページ→在学生の方へ→授業・履修・試験・成績・資格取得→授業関係書類ダウンロード

#### 提出要領

用紙等提出要領は授業科目担当者の指示に従うこと。

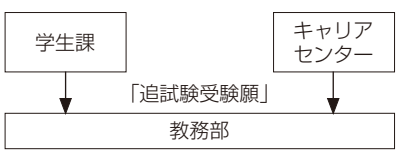
## D 追試験

病気その他やむを得ない事由により定期試験または期前試験を受験できなかった場合、「追試験受験願」を提出することができる（定期試験に代わるレポートは除く）。ただし、以下の理由によるもの以外は「追試験受験願」の提出は認められない。また、提出に係る締切日時等の注意事項はCampus Square for Webおよび1号館1階教務関係掲示板で発表する。

### 1 「追試験受験願」の提出資格

- ① 病気およびケガ  
(医療機関が発行した診断書、または、これに準ずるものを添付 \*当日受験できないことが確認できること。また、医療機関への受診日、病名および加療(療養)期間等が明記されていること。)
- ② 忌引(会葬礼状または死亡診断書添付)
- ③ 交通機関の遅れ  
(遅延証明書添付 \*試験日当日に提出すること。遠距離通学など当日の来校が難しい場合は、当日中に学生課に電話にて仮申請し、翌日、手続きをすること。なお、受付時間は平日17:00、土曜日12:45まで。)
- ④ 就職試験当日  
(就職にかかわる資格試験、教育実習期間および館園実習期間との重複を含む。出席証明書添付。)
- ⑤ その他、教務委員会および厚生補導委員会の審議で正当と認められた事項

### 2 提出要領



- ① 学生課またはキャリアセンターから「追試験受験願」の用紙を受け取る。
- ② 必要事項を記入後、学生課またはキャリアセンターに提出し、承認印を受ける。
- ③ 教務部に「追試験受験願」を提出する。

※ 教務部から授業科目担当者に追試験実施有無を問い合わせ、実施の回答のあった授業科目についてのみ試験を実施する。なお、追試験がレポートに代わる場合もある。また、追試験受験願提出の理由が正当なものであっても、平常の授業において欠席が多い場合などは、追試験を実施しないことがある。

## E 再試験※

- ① 1年次生、2年次生、3年次生：全ての授業科目について、再試験は行わない。
- ② 4年次生（卒業予定者）：学年末試験の結果、卒業に要する単位数を満たすことができなかった者には、教授会の審議を経て、再試験を行うことがある。

(2005年2月20日 経済学部教授会承認)  
(2017年5月 9日 経済学部教授会承認)

※ 本制度は2020年3月31日をもって廃止する。



# VII 成績

## 1 成績評価

成績評価は、前期・後期に実施される定期試験等の他、授業への参加度等も総合して行われる。成績評価基準は授業科目によって異なるので詳細はシラバスを参照すること。なお、成績評価は以下のように表示される。

### 【2014年度以降入学者】

素点	合格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
成績証明書						

### 【2013年度以前入学者】

素点	合格						不合格	
	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
成績証明書	優		良			可	表記せず	

※/（スラッシュ）は、評価不能な場合、即ち出席不良・定期試験等未受験・レポート未提出等で評価できない場合に表示される。

## 2 成績評価の開示

成績評価は、Campus Square for Webで開示する。前期成績開示日は9月上旬頃、前期成績表交付期間は9月中旬頃、学年（後期）成績開示日は3月下旬頃、学年（後期）成績表交付期間は4月上旬を予定しているが、詳細については、後日Campus Square for Web等で周知する。

また、学生の学修状況把握のため、4月初旬には、学生の同意が得られた2~4年次生の保証人に対し、前年度学年（後期）までの成績表を送付する。

なお、上記以外でも、保証人から成績の開示を求められた場合、事情を確認した上で、開示する場合がある。

## 3 成績評価問い合わせ制度

本制度は、本人の成績評価に疑問がある場合、授業科目担当者に問い合わせの申請をすることができ、その回答および結果を申請者本人に開示する制度である。

なお、申請条件・手続き等は以下のとおりである。

### ■ 申請および回答窓口

1号館1階 教務部

### ■ 申請の条件

- ① 当該科目の授業に3分の1以上欠席していないこと（大学学則第23条第1項）。
- ② 当該科目の定期試験、定期試験に代わるレポートを全て受験・提出していること。
- ③ 成績評価の基準（授業科目担当者がシラバスの「成績評価の方法」に記載している条件）を満たしていること。

### ■ 申請の手続き

申請者本人が「成績評価問い合わせ書」を受け取り、申請理由を詳細に記入し、下記の受付期間内に提出すること。この期間を過ぎたものは一切受け付けないので注意すること。

### ■ 「成績評価問い合わせ書」の受付期間

- ・ 2018年度前期成績：6月に掲示等で発表する。
- ・ 2018年度学年（後期）成績：12月に掲示等で発表する。

### ■ 回答方法

申請者には受付時に指定した期間内に、成績評価問い合わせに関する回答および成績結果を開示する。

## 1 制度の概要と目的

2014年度学年成績から、成績評価の方法として、GPA (grade point average) 制度を実施している。

GPAは、単なる成績評価の平均ではなく、授業科目ごとの単位数の違い (=学修に要した時間の差異) が反映された、単位修得に向けた努力や学修計画の的確さ等を映し出す総合的な成績評価の指標である。この制度を通じて、学生自身が、自分にとって必要とする授業科目が何であるかを考え、履修を自己管理し、学修成果がどのレベルに位置するかを把握し、さらなる勉学意欲を高めるための指標とすることが重要である。なお、今後、GPAは、学修状況に関する総合的な判断等にも活用される見込みである。

## 2 GPと成績評価との対応およびGPA値の算定方法

GPA値は、以下のとおり、履修した個々の授業科目の成績評価に対応したGP (grade point) に基づいて算定する。

## 【2014年度以降入学者】

素点	合格				不合格	
	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	評価不能
成績評価	秀	優	良	可	不可	/
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「秀」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「優」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「良」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「可」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「不可」および「/」の単位数を含む)}}$$

## 【2013年度以前入学者】

素点	合格						不合格	
	100~90	89~80	79~75	74~70	69~65	64~60	59~0	評価不能
成績評価	AA	A	BB	B	B-	C	D	/
GP	4.0	3.0	2.0		1.0		0.0	

$$\text{GPA値} = \frac{4.0 \times \text{「AA」の総修得単位数} + 3.0 \times \text{「A」の総修得単位数} + 2.0 \times \text{「BB」および「B」の総修得単位数} + 1.0 \times \text{「B-」および「C」の総修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (「D」および「/」の単位数を含む)}}$$

※GPA値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示する。

※GP (grade point) は「成績評定点」を、GPA (grade point average) は「成績評定点平均」をそれぞれ意味する。

## 3 GPA値算定から除外する授業科目

- ① 卒業要件単位として認められていない授業科目
- ② 成績評価を合否によって行う授業科目。ただし、この授業科目が不合格の場合、その単位数は総履修登録単位数に含まれる。
- ③ 認定によって単位修得が認められた授業科目

## 4 GPA値の表示

各年度および通算のGPA値をCampus Square for Webの成績閲覧画面に表示し、成績表(保証人宛含む)および成績証明書(2013年度以前入学者を除く)に記載する。

## 5 留意事項

不合格科目の履修登録単位数はGPA値の算定に含まれる。従って、いったん履修登録した授業科目を途中で放棄するなど不合格科目が増えるとGPA値は低くなる。よって、履修登録に当たっては、むやみに行うことなく、よく考えた上で履修する授業科目を決めることが肝要である。

## IX 卒業論文

### A 卒業論文題目届

- 用紙配付** 後期開講1回目の4年次ゼミナールの授業にて配付  
**提出期間** 10月1日(月)～10月31日(水) 16:30  
**提出場所** 3号館4階 経済学部研究事務室

### B 卒業論文提出要領

- 1 提出期間** 2018年12月1日(土)～2019年1月15日(火) 16:30  
※ 卒業論文は必ず本人が提出し、提出期限を厳守すること(郵送不可)。
- 2 提出先** 1号館1階 教務部
- 3 原稿用紙**
- ① **パソコンを使用する場合**
- 用紙はA4判のものを使用(感熱紙は不可)すること。
  - 配字は原則として、各ページ1行40字×30行とする。
  - 目次末尾に字詰を注記する(例、横40字×縦30行)。
- ② **原稿用紙を使用する場合**
- A4判400字詰の原稿用紙を使用すること。
  - 使用する筆記具は、黒または青のペン(または万年筆)とする。
- ※ 指導教員の指示がある場合はその指示に従うこと。
- 4 専用ファイルとシール**
- 卒業論文を専用のファイルに綴じ、ファイルのオモテ面に「必要事項」を記入したシール(11cm×8cm程度)を貼付すること。
- 【ファイルに貼付するシールの書き方】 【必要事項】
- |                                                      |                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2018年度卒業<br>○○ゼミ<br>題目<br>経済学部4年○組○○○番<br>学籍番号<br>氏名 | ① 卒業年度(本年度は、2018年度)<br>② 所属ゼミ名(ゼミナール担当教員名)<br>③ 題目<br>④ 学部・学年・クラス・出席番号<br>⑤ 学籍番号<br>⑥ 氏名<br>※専用のファイル、シールは経済学部より配付される。 |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
- 5 とびら(中表紙)** とびら(中表紙)にもファイルのオモテ面に貼付したシールと同じ事項を記入する。

## X 他学部聴講制度

- 1 制度の概要** 所定の手続きを行うことにより、他学部の授業科目を聴講することができる。ただし、試験等は受けることができない。また、単位は授与しない。聴講科目は、履修科目登録上限単位数には含まれない。
- 2 聴講可能科目** Campus Square for Webおよび1号館1階エントランスホールの掲示板にて発表する。
- 3 聴講可能科目数** 年間2科目まで

- 4 手続き方法** 教務部で「他学部聴講願」を受け取り、必要事項を記入の上、教務部に提出すること。
- ① 通年および前期開講科目  
提出期間 4月20日(金)～4月26日(木) 18:00
  - ② 後期開講科目  
提出期間 9月21日(金)～9月27日(木) 18:00
- 5 注意事項**
- ① 聴講可能な授業科目であっても、受講者数が教室の収容人数を超えている場合は申込みを受け付けないので、教務部で確認すること。
  - ② 他学部聴講は、教授会での審議によっては、認められない場合がある。

# XI 成城大学大学院経済学研究科への進学を希望する 成城大学経済学部在学学生のための科目等履修生制度

## A 制度の趣旨

成城大学経済学部在籍する4年次の学生で、本学大学院経済学研究科への進学を志望する優秀な学生に、「科目等履修生制度」を援用して大学院の授業科目を履修することを認める制度である。この制度で修得した単位は、大学院進学後に審査の上、大学院博士課程前期の単位として認定される。これは優秀な、問題発見能力を持つ学部学生に対して、その能力を早期にかつ高度に発展させる機会を与える特例措置であり、これによって学部と大学院をあわせて5年間で修士号を取得することも可能である。なお、この制度へ出願するに当たっては、卒業論文の作成など学部の授業の履修に影響を及ぼさないよう、十分に留意すること。

## B 2018年度実施要項

- 1 出願資格** 以下の①～④の全ての資格を満たす者
- ① 2018年4月1日現在において本学経済学部4年次に在籍し、2019年3月卒業見込の者。
  - ② 本学大学院経済学研究科に進学を志望する者。  
(2019年度経済学研究科Ⅱ期内部推薦入試の受験を予定する者)
  - ③ **【2013年度以前入学者】** 1～3年次の成績において、全科目の平均もしくは専門科目のみの平均がBB(77点)以上であること。(成績換算の方法については、注1を参照のこと。)
  - 【2014年度以降入学者】** 1～3年次のGPAにおいて、全科目の平均もしくは専門科目のみの平均が**2.15**以上であること。
  - ④ 3年次までに、卒業要件単位(124単位)の80%以上(100単位)を修得していること。
- 注1：取得した**全ての卒業要件科目もしくは専門科目**について、成績表のAA～Cの各評価を下記の**成績換算表**に読みかえて「換算点数」とする。ただし、小数点以下は切り捨てる。

成績換算表

評 価	AA	A	BB	B	B-	C
換算点数	95	85	77	72	67	62

例) AAが7科目、Aが12科目、BBが7科目、Bが4科目の場合、次のように算出・読みかえをする。※小数点以下は切り捨てとする。  
 $(95 \times 7 + 85 \times 12 + 77 \times 7 + 72 \times 4) \div 30 = 83.733 \Rightarrow 83$ 点に読みかえる。

<b>2 出願手続</b>	<p>出願を希望する者は、教務部で下記の必要な書類を受け取り、所定の期間内に出願手続を済ませること。</p> <p>① <b>出願期間</b> 4月9日(月)～4月18日(水) 16:30</p> <p>② <b>出願書類</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 願書(本学所定用紙)</li> <li>2) 履修計画書(本学所定用紙)</li> <li>3) 前年度までの成績表</li> </ol> <p>※ なお、出願に当たっては、学部ゼミの指導教員と相談するとともに、大学院進学後に指導教員として指導を受けることを希望する教員の担当する授業科目の第1回目の授業に出席し、担当教員の面接を受け、承認印をもらうこと。</p> <p>③ <b>出願先</b></p> <p>教務部(1号館1階) 受付時間: 月曜日～金曜日 8:30～18:00 土曜日 8:30～13:00</p>
<b>3 審査・決定</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 履修可否の審査は、原則として書類審査および面接とする。</li> <li>② 面接は、大学院進学の志望理由、大学院における履修計画、学部の授業の履修状況などを中心に、大学院進学後の指導教員を希望する担当教員によって、当該年度第1回目の授業時に行われる面接のほか、下記4による他の教員による面接も行う。</li> <li>③ 履修の可否は、研究科教授会で決定する。</li> </ol>
<b>4 面接日・審査結果の発表</b>	<p>① <b>面接日</b> 4月19日(木) 12:20～ (集合12:15、3号館4階経済学部研究事務室)</p> <p>② <b>審査結果の発表</b> 4月27日(金) 10:00 (1号館1階経済学部掲示板)</p>
<b>5 審査料・受講料</b>	<p>審査料は無料。受講料は1単位につき、10,000円。 (いったん納入した受講料は、理由の如何に関わらず、返却しない。)</p>
<b>6 履修条件等</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 履修を許可され、受講料を納入した者には、科目等履修生証を交付する。</li> <li>② 履修可能科目は、経済学研究科の専任教員の担当する博士課程前期の授業科目および研究指導である。</li> <li>③ 大学院進学後に専攻する分野の教員(指導教員とすることを希望する教員)の担当する研究指導または授業科目は、必ず履修しなければならない。大学院在籍1年で修士号を取得することを希望する場合には、当該研究指導を必ず履修すること。</li> <li>④ 履修可能な単位数は、10単位以内とする。</li> <li>⑤ 履修した授業科目の試験に合格したときは、所定の単位を与え、申請により、成績証明書を発行する。</li> </ol>
<b>7 修得単位の取扱い</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 修得した単位は、本学経済学部卒業後、翌年度に本学大学院に入学した場合に限り、10単位を限度に、大学院博士課程前期の修了要件単位として申請することができる。その際、優秀な成績の場合には、大学院在籍1年で修士号を取得することも可能である。</li> <li>② 修得した単位は、学部の修得単位とはならない。</li> </ol>
<b>8 受講手続</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 受講が許可された者には受講許可書が交付されるので、教務部で受け取ること。</li> <li>② 4月27日(金)～5月7日(月)までに受講料を納入すること。(振込み)</li> <li>③ 4月27日(金)～5月12日(土)までに教務部で科目等履修生証を受け取ること。</li> </ol> <p>※ 所定の期日までに、受講手続を終えなかった場合には、履修の意思がないものとみなし、受講許可を取り消す。</p>
<b>9 受講科目の確認</b>	<p>5月12日(土)以降にCampus Square for Webで確認すること。</p>



# XII

# オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が週のある曜日・時間を決めて研究室に在室し、学生はその時間帯に自由に教員を訪ね、質問・相談できる制度である。なお、オフィスアワー以外の時間帯でも質問・相談ができるが、その際は、予め予約を取っておくとよい。

授業に関すること

教 員 名	曜日・時間	場 所
相原 章	火曜日 11:00～12:10	3号館5階 3528
明石 茂生	水曜日 12:15～13:00	3号館5階 3515
浅井 良夫	月曜日 12:00～12:50 その他時間帯は在室時随時対応	3号館5階 3510
阿部 勘一	木曜日 10:40～11:30 金曜日 13:30～14:30 その他時間帯は在室時随時対応	1号館2階 阿部研究室
新井 学	火曜日 14:00～15:00	3号館5階 3511
岩崎 尚人	火曜日 12:10～13:00	3号館5階 3524
上田 晋一	木曜日 12:15～13:00 その他時間帯は在室時随時対応	3号館5階 3527
臼井 英之	水曜日 12:20～13:00	3号館5階 3508
海老島 均	研 修 中	
大津 武	木曜日 12:15～12:55	3号館6階 3621
海保 英孝	火曜日 12:15～13:00	3号館5階 3506
河口 洋行	水曜日 12:10～13:00	3号館5階 3517
神田 範明	月曜日 火曜日 12:15～13:00 木曜日	3号館5階 3522
木下 直也	火曜日 12:10～13:00	3号館5階 3514
木村 周市朗	木曜日 13:30～14:30	3号館6階 3624
金 春姫	月曜日 金曜日 12:10～13:00	3号館5階 3504
小平 裕	月曜日 12:15～12:55	3号館5階 3532
小宮路 雅博	火曜日 金曜日 12:15～12:55	3号館5階 3526
三枝 大修	火曜日 14:00～15:00	3号館5階 3518
境 新一	木曜日 12:15～13:00	3号館6階 3620
庄司 匡宏	金曜日 10:40～11:40	3号館5階 3523
杉本 義行	木曜日 14:40～16:10	3号館5階 3530
竹田 泉	木曜日 15:15～16:00	3号館5階 3529
立川 潔	月曜日 火曜日 12:10～13:00 木曜日	3号館5階 3513
田近 栄治	水曜日 金曜日 13:00～14:30	3号館4階 3415
陳 力衛	火曜日 13:00～14:30	3号館6階 3619
塚原 英敦	研 修 中	
塘 誠	月曜日 12:10～13:00 その他時間帯は在室時随時対応	3号館5階 3503
中田 真佐男	木曜日 12:15～13:15	3号館6階 3623
中村 理香	火曜日 13:30～14:30	3号館5階 3505
花井 清人	木曜日 12:15～12:55	3号館5階 3512
羽根 佳祐	月曜日 12:10～13:00	3号館5階 3531
林 幸司	水曜日 12:15～13:00	3号館5階 3501
平野 創	火曜日 12:15～12:55	3号館5階 3502
福光 寛	火曜日 水曜日 18:00～19:00	3号館5階 3521
牧野 陽子	火曜日 12:10～13:00	3号館5階 3525
増川 純一	水曜日 15:00～16:00	3号館6階 3622
山重 芳子	木曜日 12:10～13:00	3号館5階 3507
油井 雄二	月曜日 13:00～14:00	3号館5階 3516

※非常勤講師については、授業前後に教室や非常勤講師控室で質問・相談を受け付ける。メールアドレスを公開している場合はメールでも可能。なお、シラバスや授業中に教員から別途指示があった場合はそれに従うこと。

1 制度の概要  
(目的)

卒業の要件を満たす学生で、国家試験や資格試験の受験、または、就職活動等の理由により、自らの学修計画に沿って勉学を継続する目的で本学に引き続き在学を希望する場合、卒業を延期し在学することを認める制度である。

卒業を延期することができる期間は、1年(※)ないし半年とする。ただし、卒業延期制度の適用を受けた学生(以下、「卒業延期適用者」)が引き続き当該制度の適用を希望する場合は、1回を限度に、再度卒業の延期を申請することができる。

※ 1年の卒業延期を許可された卒業延期適用者は、所定の手続きを経た上で、当該年度の前期末をもって繰り上げて卒業(以下「繰上卒業」)することができる。

2 対象者  
(資格要件)

卒業延期制度を希望する学生は、次の各号に全て該当しなければならない。

- ① 大学学則第27条に規定する卒業の要件を満たすこと。
- ② 引き続き在学することにより、在学期間が大学学則第5条第2項に規定する年数(8年)を超えないこと。
- ③ 当該年度において授業料等の納付金を滞納していないこと。

## 3 申請手続き

- ① 制度の適用を希望する学生は、本来卒業すべき年度(卒業延期適用者にあつては、延期後の在学期間が終了する年度。以下同じ)の以下の期日までに卒業延期願を提出し、2月下旬ないし9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。
  - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年2月15日(金)
  - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年7月31日(火)
- ② 前項により卒業の延期を許可された学生(以下「卒業延期者」)に対しては、卒業延期許可通知を本人および保証人に交付する。
- ③ 卒業延期者が、事情変更により、本来卒業すべき年度での卒業を希望する場合は、3月9日(土)までに卒業延期許可取消願を提出した場合に限り、教授会で審議の上、認められる。ただし、前期末をもって卒業要件を満たす卒業延期者は、取消しはできない。
- ④ 卒業延期者が、延期期間に係る授業料等の納付金を、以下の期日までに納入しなかった場合は、卒業延期の許可を取り消し、当該年度末、または前期末での卒業とする。
  - ・ 学年末をもって卒業要件を満たす者 2019年3月20日(水)
  - ・ 前期末をもって卒業要件を満たす者 2018年9月19日(水)
- ⑤ 繰上卒業を希望する学生は、7月31日(火)までに繰上卒業願を提出し、9月上旬の教授会で審議の上、許可を受けなければならない。許可が得られた場合、後述する納付金の後期分を返還する。

## 4 申請窓口および提出先

1号館1階 教務部

## 5 申請期間

学年末をもって卒業要件を満たす者  
2018年12月1日(土)～2019年2月15日(金) 12:00  
前期末をもって卒業要件を満たす者  
2018年7月2日(月)～2018年7月31日(火) 12:00

## 6 その他

- ・ 卒業延期者は、履修科目登録上限単位数の範囲内で授業科目を履修することができる。
  - ・ 卒業延期期間中は、病気の理由を除き、休学は認められない。なお、休学期間中の学費の減額は認められない。
  - ・ 卒業延期者の延期期間に係る授業料等の納付金については、以下のとおりとする。
    - 学年末をもって卒業要件を満たす者  
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の7割
    - 前期末をもって卒業要件を満たす者  
授業料・施設費・学習図書整備費・教育充実費に限り年額の3割5分
- ※ その他の納付金である父母の会費、校友会費、学会費については、減額の対象とはならない。教育充実費は2015年度以降入学者のみが対象となる。

## 1 制度の概要・対象者

前年度以前に卒業年次に在学し、卒業要件である大学学則第18条に規定する単位を修得することができず、3月に行われた卒業判定の結果、再び同年次に原級留置（留年）となった者が前期末に卒業要件を満たした場合は、秋（9月）に卒業となる。\*

\* 1年間の卒業延期制度の適用を受けた者が、前期末をもって卒業することを希望する場合には、繰上卒業願の提出が必要となる。詳しくは、【[XIII 卒業延期制度](#)】を参照すること。

## 2 制度の注意点

## ① 秋（9月）で自動的に卒業となる。

本制度の対象者（留年者）が前期末に卒業要件を満たした場合、秋（9月20日付）で自動的に卒業となるので十分注意すること。

※ 履修科目登録上限単位数、卒業確定者発表日等は別途案内する。

## ② 年度末（3月）まで在学を希望する場合、卒業延期制度適用申請を行う必要がある。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、秋（9月）に卒業せず、今年度の3月まで在学を希望する場合は、7月末日までに卒業延期制度適用申請を行う必要がある。申請を行わない場合は自動的に秋卒業となるので注意すること。

※ 「卒業延期制度」の説明会は別途実施する。

## ③ 「卒業見込証明書」には「9月卒業見込」と記載される。

本制度の対象者で前期末に卒業要件を満たす見込みの者が、「卒業見込証明書」を発行した場合、証明書には「9月卒業見込」と記載される。また、「教職課程」履修者の「免許取得見込証明書」についても通常と記載内容が異なる。

## ④ 秋卒業者を対象とした「学位記授与式」は実施しない。

「学位記」等の交付方法については別途案内する。なお、年度末（3月）に実施される「学位記授与式」に参加することは可能である。

## ⑤ 「教育職員免許状」は卒業と同時に交付されない。

秋（9月）卒業する場合は、卒業後、自身で免許交付申請手続きを行うことになる。ただし、上記②により卒業延期制度の適用を受け、年度末（3月）まで在学する場合は、大学で免許交付申請手続きを行う。詳細は教務部教職課程担当まで問い合わせること。

## ⑥ 校納金納付方法は前期・後期2回「分納」となり、1年間分「全納」はできない。

また、秋（9月）卒業した者は後期の校納金が不要となる。

※ 本制度における校納金の詳細については学生課まで問い合わせること。

## ⑦ 秋卒業は就職（活動）に重大な影響を及ぼす可能性がある。

就職内定者および就職活動中の者が本制度の対象者となった場合は、必ずキャリアセンターに相談すること。

その他、不明点については1号館1階教務部まで問い合わせること。

## XV

# 転学部・転学科

他学部・他学科への転入は、各学部学科にて実施される「転学部・転学科審査」（筆記試験、外国語試験、面接試験等）を受け、転入が許可された場合に限り認められる。ただし、転学部・転学科が認められ、他学部・他学科に編入された場合は、在学期間4年で卒業できない場合がある。

なお、「転学部・転学科審査」は毎年実施されるとは限らない。各学部学科において「転学部・転学科審査」が実施される場合は、Campus Square for Webや1号館1階教務関係掲示板にて案内するので、各自確認すること。

また、転学部・転学科を希望する者は、大学ホームページに掲載されている転入希望先の「履修の手引」等を読み、教育課程を理解しておくことが望ましい。

# 経済学部の人材育成の目的と3つの方針

## I 人材育成の目的

経済学部は、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握し、変貌する現実社会に対する洞察力と判断力を養うとともに、事業経営など種々の環境において必要な識見と実践能力を具えた人材を育成することを目的とする。

## II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

経済学部では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業を認定する。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することができる。
2. 経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、経済学的・経営学的に考察することができる。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を具え、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握することができる。

## III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

経済学部では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考えのもとに、2年次から4年次のゼミナールを必修の専門科目とする。
2. 経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、4年次ゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、経済学的・経営学的考察力を涵養するため、専門講義科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経済学科・経営学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

## IV 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

経済学部では、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1. 経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具えている人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2. ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション能力および卒業論文を執筆できる能力を有する人材。
3. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね具え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、経済学や経営学の広い分野に興味と関心を有し、法学および教養などの経済・経営学以外の分野も学ぶ意欲がある人材。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。



# 経済学部 経済学科の人材育成の目的と3つの方針

## I 人材育成の目的

経済学科は、経済社会における諸現象を、理論、歴史および社会の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、経済社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。

## II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

経済学科では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業が認定される。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働することができる。
2. 経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論・応用・歴史・社会問題の側面から考察することができる。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を具備し、経済社会における諸現象を理論的・実証的に把握することができる。

## III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

経済学科では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考えのもとに、2年次から4年次のゼミナールを必修の専門科目とする。
2. 経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、4年次ゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論的・実証的・歴史的考察力を涵養するため、経済理論、応用経済、歴史、社会問題といった幅広い分野の専門講義科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経済学科・経営学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

## Ⅳ 入学者の受入に関 する方針 (アドミッション・ポリシー)

経済学部では、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1. 経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具備している人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2. ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション能力および卒業論文を執筆できる能力を有する人材。
3. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、経済学や経営学の広い分野に興味と関心を有し、法学および教養などの経済・経営学以外の分野も学ぶ意欲がある人材。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

# 経済学部 経営学科の人材育成の目的と3つの方針

## I 人材育成の目的

経営学科は、経済社会ならびに企業経営における諸現象を、経営学に関わる学際的専門領域の幅広い視点から把握・分析する力を持った人材を育成する。また、産業社会が抱える問題に対して自ら課題を発見し解決する能力を持ち、提案および発信能力を身につけたグローバルに活躍する人材を育成する。

## II 卒業の認定に 関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

経営学科では、所定単位の修得をもって、人材育成の目的に照らして定めた以下の条件が満たされたものとし、卒業が認定される。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働することができる。
2. 経営理論を実践するために必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけている。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、経営学、会計学、商学、金融、経営情報学、統計学などの専門的視点から理論的・実証的・歴史的に考察することができる。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を身につけている。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を具備し、経済社会における諸現象を理論的・実証的・歴史的に把握することができる。

## III 教育課程の編成及び 実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

経営学科では、卒業の認定に必要な能力を涵養するために、以下のように教育課程を編成し、実施する。

1. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働する姿勢を涵養するために、少人数教育と個性尊重の考え方のもとに、2年次から4年次のゼミナールを必修の専門科目とする。
2. 経済人として必要なコミュニケーション能力を持ち、課題発見・解決能力、提案および発信能力を身につけるため、ゼミナールでは、教員と学生の双方向コミュニケーションの促進と討論形式による学生間コミュニケーションの活性化を重視し、4年次ゼミナールでは、卒業論文の提出を全員に義務づける。
3. 経済社会を広い視野で総合的に把握し、理論的・実証的・歴史的考察力を涵養するため、経営学、会計学、商学、金融、経営情報学、統計学といった幅広い分野の専門講義科目を「専門基礎科目」と「専門選択科目」に分けて配置し、段階的に専門性を高める。
4. 経済社会に関する課題を発見し、探求するために必要な幅広い知識および方法を修得するために、経営学科・経済学科の垣根を越えて履修可能な「自由設計科目」を配置する。
5. 国際社会で通用する基礎的語学力を養うため、英語だけでなく、第二外国語（独・仏・中国語）を必修とする。また、経済社会における諸現象の理論的・実証的・歴史的な把握に必要な基礎学力を涵養するために、情報処理、数理的分析に関する科目を「基礎科目」に配置する。

## Ⅳ 入学者の受入れに 関する方針 (アドミッション・ポリシー)

経済学部では、経済・社会に対する高い関心を持ち、専門能力の向上と幅広い識見の獲得を目指し、論理的思考力を身につけることを目指す多様な人材を求めている。そのため、語学力、読解力、論理的思考力、表現力の基礎力があり、かつこれらを伸ばす意欲がある入学者受入れを目指している。

1. 経済社会や歴史に対して強い関心を持ち、高校卒業レベルの国語能力や外国語能力を具備している人材。社会や歴史、数学についても高校卒業レベルの基礎知識を持つ人材が望ましい。
2. ゼミナールで、教員と学生、学生同士の討論形式で学ぶことのできるコミュニケーション能力および卒業論文を執筆できる能力を有する人材。
3. 思考の柔軟性と豊かな感性を兼ね備え、主体的に他者と協働することを目指し、特定の専攻分野だけでなく、経済学や経営学の広い分野に興味と関心を有し、法学および教養などの経済・経営学以外の分野も学ぶ意欲がある人材。

※今後、3つの方針が改定された場合には、大学ホームページに公表するので確認してください。

# 経済学科履修規定

[2017年度以降入学者用]

I	総説	30
	A. 開設科目および卒業要件単位数	30
	B. 履修単位制限	31
	C. 2年次から3年次への進級基準	31
II	経済学科授業科目一覧表	32
III	—1 分野別履修方法（基礎科目）	38
	A. 語学	38
	B. 基礎数理	39
III	—2 分野別履修方法（専門科目）	39
	A. ゼミナール	40
	B. 専門基礎科目	40
	C. 専門選択科目	41
III	—3 分野別履修方法（自由設計科目）	42
	A. 推奨科目	43
	B. 一般科目	50
III	—4 分野別履修方法（教職関連科目）	57
IV	経済学科 履修系統図	58



# I 総説

## A 開設科目および卒業要件単位数

- 1 開設科目** 授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。
- 2 卒業要件単位数** 卒業に必要な単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。
- 3 履修上の注意** 履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経済学科 開設科目および卒業要件単位数

分野	区 分		規定単位数		
基礎科目	語学	英語	8		
		第二外国語	6		
	基礎数理		4		
専門科目	ゼミナール		12		
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習	6		
	専門基礎選択科目		16		
	専門選択科目		34		
自由設計科目	推奨科目	専門選択関連科目	20		
		法学関連科目			
		教養科目			
		リテラシー科目群		WRD、IT科目	
		教養科目群		系列科目の一部(注5)	
		全学共通教育科目		キャリアデザイン科目群(注6)	
	国際交流科目群(注7)		18		
	データサイエンス科目群(注8)				
	一般科目	全学共通教育科目		リテラシー科目群	外国語科目
		教養科目群		総合科目、成城学、 系列科目の一部(注5)	
他学部開設科目(注9)					
スポーツ・ウエルネス教育科目(注10)					
教職関連科目(注11)			-		
合 計			124		

【第1表の注意事項】

- (注1) 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の必要単位数に充当することができる。
- (注2) 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の必要単位数に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の必要単位数に充当することができる。  
なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注4) 推奨科目の規定単位数を超えて修得した単位は、一般科目の必要単位数に充当することができる。  
なお、専門選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と推奨科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して20単位を超えていれば、その超えた単位数を一般科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注5) 系列科目は推奨科目と一般科目に分けられる。詳細は、34ページの経済学科授業科目一覧表(第4表)を参照すること。
- (注6) キャリアデザイン科目群のうち「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」から2単位、「プロジェクト演習」から2単位の、計4単位のみ卒業要件単位として認められる。その他のキャリアデザイン科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。
- (注7) 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入

- することができない。
- (注8) データサイエンス科目群のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、卒業要件単位に算入することができない。
- (注9) 他学部開設科目は、8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。
- (注10) スポーツ・ウェルネス教育科目は、4単位まで卒業要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。
- (注11) 教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。

## B 履修単位制限

### 1 履修単位制限

この制度は、履修登録に当たって、安易な登録による科目履修の途中放棄の防止と学問上の興味や知的関心、時間的制約などを十分考慮した上での授業科目選択を促すために設けられたものである。

### 2 履修科目登録上限単位数

第2表 履修科目登録上限単位数

1年	2年	3年	4年
48	48	48	48

※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

#### 【第2表の注意事項】

以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項を参照すること。

- ・教職関連科目
- ・教職課程における「教職に関する科目」
- ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ・国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」と「留学準備演習」）
- ・データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

## C 2年次から3年次への進級基準

2年次から3年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

分野	区分		規定単位数
基礎科目	語学	英語	10
		第二外国語	
	基礎数理		4
専門科目	ゼミナール	2年次ゼミナール	4
	専門基礎必修科目	ミクロ経済学入門・演習 マクロ経済学入門・演習	6
	専門基礎選択科目		8
	専門選択科目		6
自由設計科目	推奨科目		10
計			48

#### 【第3表の注意事項】

- (注1) 基礎数理の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な推奨科目の単位数(10単位)に充当することができる。
- (注2) 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な専門選択科目の単位数(6単位)に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な推奨科目の単位数(10単位)に充当することができる。
- なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して6単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目の必要単位数に充当することができるものとする。

# II

# 経済学科授業科目一覽表

第4表

分野・区分		学年配当	1 年	2 年
基礎科目	語学	英語	基礎英語読解 (1) a① 基礎英語読解 (1) b①	基礎英語読解 (2) a① 基礎英語読解 (2) b①
			英語読解 (1) a① 英語読解 (1) b①	英語読解 (2) a① 英語読解 (2) b①
			上級英語読解 (1) a① 上級英語読解 (1) b①	上級英語読解 (2) a① 上級英語読解 (2) b①
			Basic Communicative English (1) a① Basic Communicative English (1) b①	Basic Communicative English (2) a① Basic Communicative English (2) b①
			Communicative English (1) a① Communicative English (1) b①	Communicative English (2) a① Communicative English (2) b①
			Advanced Communicative English (1) a① Advanced Communicative English (1) b①	Advanced Communicative English (2) a① Advanced Communicative English (2) b①
				基礎TOEIC a① 基礎TOEIC b① TOEIC a① TOEIC b① 上級TOEIC a① 上級TOEIC b①
	第二外国語	独語 (初級) a② 独語 (初級) b②	独語 (中級) a① 独語 (中級) b①	
		仏語 (初級) a② 仏語 (初級) b②	仏語 (中級) a① 仏語 (中級) b①	
		中国語 (初級) a② 中国語 (初級) b②	中国語 (中級) a① 中国語 (中級) b①	
基礎数理		データ解析入門 I ② 数学入門 I ② データ解析入門 II ② 数学入門 II ②		
ゼミナール			2年次ゼミナール④	
専門基礎必修科目		ミクロ経済学入門・演習 ③ マクロ経済学入門・演習 ③		
専門基礎選択科目		経済と社会 I ② ※経済と社会 II ②	[2~4年] ミクロ経済学④ マクロ経済学 I ② 経済学史 I ② ミクロ経済学概論② マクロ経済学 II ② 経済学史 II ② マクロ経済学概論② 統計学④ 市場と政府 I ②	
専門科目	専門選択科目	[1年] フレッシュャーズ・セミナー② [1~4年] 外国史概説A② 外国史概説B② 社会問題入門② 社会科学入門②	[2~4年] 経済数学 I ② 医療経済論 II ② 社会デザイン論 I ② 経済数学 II ② 国際貿易論 I ② 社会デザイン論 II ② ※数理経済学A② 国際貿易論 II ② 日本経済論A② 数理経済学B② 開発経済学 I ② 日本経済論B② ※経済変動論A② 開発経済学 II ② 世界経済事情A② ※経済変動論B② 食料・資源経済論 I ② 世界経済事情B② ※経済統計④ 食料・資源経済論 II ② 国際関係論 I ② 計量経済学 I ② 日本経済史 I ② 国際関係論 II ② 計量経済学 II ② 日本経済史 II ② 経済地理学 I ② 産業経済学④ 西洋経済史 I ② 経済地理学 II ② 経済思想史 I ② 西洋経済史 II ② 英経済書講読 I ② 経済思想史 II ② 東洋経済史 I ② 英経済書講読 II ② 金融論 I ② 東洋経済史 II ② ※独経済書講読B② 金融論 II ② 現代経済史 I ② 仏経済書講読A② 国際金融論 I ② 現代経済史 II ② 仏経済書講読B② 国際金融論 II ② 社会思想史 I ② 中国経済書講読A② 財政学 I ② 社会思想史 II ② ※中国経済書講読B② 財政学 II ② 社会保障論 I ② 応用経済学特別講義C② 公共経済学 I ② 社会保障論 II ② ※応用経済学特別講義D② 公共経済学 II ② 社会キャリア論A② 医療経済論 I ② 社会キャリア論B②	
	自由設計科目	推奨科目 専門選択関連科目	[2~4年] 会計学総論 I ② 財務会計論 I ② 経営戦略論 II ② 会計学総論 II ② 財務会計論 II ② 経営組織論 I ② 企業会計論 I ② 原価計算論④ 経営組織論 II ② 企業会計論 II ② 財務管理論 I ② 人的資源論 I ② 経営管理論 I ② 財務管理論 II ② 人的資源論 II ② 経営管理論 II ② ビジネスライティング I ② ベンチャービジネス論 I ② 経営史 I ② ビジネスライティング II ② ベンチャービジネス論 II ② 経営史 II ② 経営英書講読 I ② ※生産管理論 I ② マーケティング論 I ② 経営英書講読 II ② ※生産管理論 II ② マーケティング論 II ② 証券市場論 I ② 企業論 I ② 経営統計学 I ② 証券市場論 II ② 企業論 II ② 経営統計学 II ② 経営戦略論 I ② 経営情報論 I ②	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

3 年	4 年	卒業要件 単位数	
		4	
		4	
		6	
		4	
3年次ゼミナール④	4年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12	
		6	
※市場と政府Ⅱ② 社会経済史Ⅰ② 社会経済史Ⅱ②	社会政策Ⅰ② 社会政策Ⅱ②	16	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[3・4年]</p> <p>比較制度論A② ※比較制度論B② ※経済理論特別講義A② ※経済理論特別講義B② ※応用経済学特別講義A② ※応用経済学特別講義B② 経済史特別講義A② 経済史特別講義B② ※社会問題特別講義A② ※社会問題特別講義B②</p> </div>		34	
<p>経営情報論Ⅱ② 消費者行動論Ⅰ② 消費者行動論Ⅱ② 商品開発論Ⅰ② 商品開発論Ⅱ② 管理会計論④ ※税務会計論Ⅰ② ※税務会計論Ⅱ② ※国際経営論Ⅰ② ※国際経営論Ⅱ② ※公企業論Ⅰ② ※公企業論Ⅱ②</p>	<p>交通論Ⅰ② 交通論Ⅱ② ※貿易論Ⅰ② ※貿易論Ⅱ② リスクマネジメント論Ⅰ② リスクマネジメント論Ⅱ② 金融システム論Ⅰ② 金融システム論Ⅱ② 会計監査論Ⅰ② 会計監査論Ⅱ② 財務諸表分析Ⅰ② 財務諸表分析Ⅱ②</p>	<p>※中小企業論Ⅰ② ※中小企業論Ⅱ② ※コンピュータ論Ⅰ② ※コンピュータ論Ⅱ② ※経営学特殊講義A② ※経営学特殊講義B② ※経営学特殊講義C② ※経営学特殊講義D② ※経営学特殊講義E② ※経営学特殊講義F②</p>	20

第4表 II. 経済学科授業科目一覧表 (つづき①)

学年配当		1 年		2 年	
分野・区分					
履修規定	経済学科	法学 関連科目			[2~4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④
		教養科目	[1~4年] 外国文化Ⅰa② 外国文化Ⅰb② 外国文化Ⅱa② 外国文化Ⅱb② 外国文化Ⅲa②	外国文化Ⅲb② 外国文化Ⅳa② 外国文化Ⅳb② 心理学a② 心理学b②	数学Ⅰa② 数学Ⅰb② 数学Ⅱa② 数学Ⅱb② ※現代社会とスポーツ②
		推奨科目	[1~4年] WRD④		
		全校共通 教育科目	コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2②	コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC②	コンピュータ・リテラシーD② コンピュータ・リテラシーE②
自由 設計 科目	一般 科目	[1~4年] 英語リスニング&スピーキング (初級) a① 英語リスニング&スピーキング (初級) b① 英語リスニング&スピーキング (中級) a① 英語リスニング&スピーキング (中級) b① 英語リスニング&スピーキング (上級) a① 英語リスニング&スピーキング (上級) b① 英語リーディング&ライティング (初級) a① 英語リーディング&ライティング (初級) b① 英語リーディング&ライティング (中級) a① 英語リーディング&ライティング (中級) b① 英語リーディング&ライティング (上級) a① 英語リーディング&ライティング (上級) b①		英語リーディング&ライティング (上級) b① 英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 英会話選択a① 英会話選択b①	独語選択 (初級) Ia① 独語選択 (初級) Ib① 独語選択 (初級) IIa① 独語選択 (初級) IIb① 独語選択 (中級) a① 独語選択 (中級) b① 独語選択 (上級) a① 独語選択 (上級) b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択 (初級) Ia①
		※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉②		※総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ②	
		成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②	※成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ〈成城と自然〉②	
		現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論Ⅷc② ※現代社会論Ⅷd② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa②	※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② 社会構造論Ⅵb② 社会構造論Ⅶa② 社会構造論Ⅶb② 社会構造論Ⅷa② 社会構造論Ⅷb② 社会構造論Ⅷc② 社会構造論Ⅷd② 思想・人間論Ⅰa② 思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージを"よむ"〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージを"よむ"〉② 思想・人間論Ⅲa② 思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論Ⅳa② 思想・人間論Ⅳb② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b②	※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅶa② 表現文化論Ⅶb② ※歴史文化論Ⅰa② ※歴史文化論Ⅰb② 歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉② 歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉② 歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと職〉② 歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと職〉② ※歴史文化論Ⅳa②	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。



3、4年			卒業要件 単位数
<p><b>[3・4年]</b></p> <p>会社法Ⅰ② 労働基準法④ 税法Ⅱ② 国際経済法④  会社法Ⅱ② 労働組合法④ 金融商品取引法② 公務員法・行政組織法②  国際法Ⅰ④ 国際取引法④ 有価証券法② 消費者法Ⅰ②  国際法Ⅱ④ 環境法② 商取引法② ※消費者法Ⅱ②  行政法Ⅰ④ 社会保障法④ 経済法Ⅰ② 知的財産法④  行政学④ 税法Ⅰ② 経済法Ⅱ②</p>			20
<p>※スポーツ産業論② 選択英語 a① ※政治経済論入門Ⅱ②  TOEIC (特級)Ⅰa① 選択英語 b①  TOEIC (特級)Ⅰb① 中国語 (特級) a①  TOEIC (特級)Ⅱa① 中国語 (特級) b①  TOEIC (特級)Ⅱb① ※政治経済論入門Ⅰ②</p>			
<p>※図書館活用法②</p> <p>ヨーロッパ近現代史a②  ヨーロッパ近現代史b②  アジア近現代史a②  アジア近現代史b②  アメリカ近現代史a②  アメリカ近現代史b②  文化人類学入門a②  文化人類学入門b②  空間システム論入門a②  空間システム論入門b②</p>			
<p>Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) [A]推奨科目 4 全学共通教育科目を参照</p>			
<p>仏語選択 (初級)Ⅰb① 中国語選択 (初級)Ⅰa① 韓国語選択 (中級・ディプロム) b①  仏語選択 (初級)Ⅱa① 中国語選択 (初級)Ⅰb① ディプロム・コース中級 (独語) a①  仏語選択 (初級)Ⅱb① 中国語選択 (初級)Ⅱa① ディプロム・コース中級 (独語) b①  仏語選択 (中級) a① 中国語選択 (初級)Ⅱb① ディプロム・コース上級 (独語) a①  仏語選択 (中級) b① 中国語選択 (中級) a① ディプロム・コース上級 (独語) b①  仏語選択 (上級) a① 中国語選択 (中級) b① ディプロム・コース中級 (仏語) a①  仏語選択 (上級) b① 中国語選択 (上級) a① ディプロム・コース中級 (仏語) b①  スペイン語選択 (初級) a① 中国語選択 (上級) b① ディプロム・コース上級 (仏語) a①  スペイン語選択 (初級) b① 韓国語選択 (初級) a① ディプロム・コース上級 (仏語) b①  スペイン語選択 (中級・ディプロム) a① 韓国語選択 (初級) b①  スペイン語選択 (中級・ディプロム) b① 韓国語選択 (中級・ディプロム) a①</p> <p>総合講座Ⅴ〈余暇学 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉② ※特別講座Ⅰ②  総合講座Ⅵ〈中国文学入門 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉② ※特別講座Ⅱ②</p>			18
<p>※歴史文化論Ⅳb② ※数理の世界a② 自然科学Ⅴb〈比較行動学〉②  ※歴史文化論Ⅴa② ※数理の世界b② 数理・自然科学演習 a②  ※歴史文化論Ⅴb② 数理科学Ⅰa〈情報と論理〉② 数理・自然科学演習 b②  ※歴史文化論演習a② 数理科学Ⅰb〈情報と論理〉② ころと身体 a②  ※歴史文化論演習b② ※数理科学Ⅱa② ころと身体 b②  地域空間論Ⅰa (EU論)② ※数理科学Ⅱb② ※身体と運動・スポーツ a②  地域空間論Ⅰb (EU論)② ※物理の世界a② ※身体と運動・スポーツ b②  地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉② 物理の世界b② 心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉②  地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉② 化学の世界a② 心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉②  地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉② 化学の世界b② 心身論Ⅱa〈ころと発達〉②  地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉② 生命科学の世界a② 心身論Ⅱb〈ころと社会〉②  ※地域空間論Ⅳa② 生命科学の世界b② 心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉②  ※地域空間論Ⅳb② 科学史a② 心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉②  ※地域空間論Ⅴa② 科学史b② 心身論Ⅳa〈食と健康〉②  ※地域空間論Ⅴb② ※自然科学Ⅰa② 心身論Ⅳb〈食と環境〉②  地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉② 自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉② ※心身論Ⅴa②  地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉② 自然科学Ⅱa〈地球と環境〉② ※心身論Ⅴb②  地域空間論Ⅵa〈日本と東アジアの社会と文化〉② 自然科学Ⅱb〈地域と環境〉② 心身論演習 a②  地域空間論Ⅵb〈日本と東アジアの社会と文化〉② 自然科学Ⅲa〈地球科学〉② 心身論演習 b②  地域空間論Ⅶa〈中東の社会と文化〉② 自然科学Ⅲb〈地球科学〉②  地域空間論Ⅶb〈中東の社会と文化〉② ※自然科学Ⅳa②  ※地域空間論演習a② ※自然科学Ⅳb②  ※地域空間論演習b② 自然科学Ⅴa〈比較行動学〉②</p>			



第4表 II. 経済学科授業科目一覧表 (つづき②)

学年配当		1 年	2 年
分野・区分			
自由設計科目	他学部開設科目		[2~4年] ギリシャ古典入門④ 英語文学史④ ギリシャ古典講読④ 美学・芸術学入門a② ローマ古典入門④ 美学・芸術学入門b② ローマ古典講読④ 美術史入門a② 古代国文学講義I② 美術史入門b② 古代国文学講義II② 美学一般講義a② 中古国文学講義I② 美学一般講義b② 中古国文学講義II② 音楽学一般講義a② 中世国文学講義I② 音楽学一般講義b② 中世国文学講義II② 演劇学一般講義a② ※近世国文学講義I② 演劇学一般講義b② ※近世国文学講義II② 映画学一般講義a② 近代国文学講義I② 映画学一般講義b② 近代国文学講義II② 日本美術史一般講義a② 漢文学講義I② 日本美術史一般講義b② 漢文学講義II② 東洋美術史一般講義a② 国語学講義I② 東洋美術史一般講義b② 国語学講義II② 西洋美術史一般講義Ia② 国語国文学講義I② 西洋美術史一般講義Ib② 国語国文学講義II② 西洋美術史一般講義IIa② 国語国文学講義III② 西洋美術史一般講義IIb② 国語国文学講義IV② 美学特殊講義I② 国語国文学講義V② 美学特殊講義II② 国語国文学講義VI② 芸術学特殊講義I② 国語国文学講義VII② 芸術学特殊講義II② 国語国文学講義VIII② 芸術学特殊講義III② 国語国文学講義IX② 芸術学特殊講義IV② 国語国文学講義X② 芸術学特殊講義V② 英語学概論④ 美術史特殊講義I②
	スポーツ・ウエルネス教育科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) Ⅵ 一般科目 3 スポーツ・ウエルネス教育科目を参照】	
教職関連科目		【教職関連科目は、Ⅳ-4 分野別履修方法 (教職関連科目) を参照】	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

3、4年			卒業要件 単位数
美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅱa② 文化史特殊講義Ⅱb② 文化史特殊講義Ⅲa② 文化史特殊講義Ⅲb② 文化史特殊講義Ⅳa② 文化史特殊講義Ⅳb② 民俗学特殊講義Ⅰa② 民俗学特殊講義Ⅰb② 民俗学特殊講義Ⅱa② 民俗学特殊講義Ⅱb② 民俗学特殊講義Ⅲa② 民俗学特殊講義Ⅲb② 文化人類学特殊講義Ⅰa② 文化人類学特殊講義Ⅰb② 文化人類学特殊講義Ⅱa② 文化人類学特殊講義Ⅱb② 文化人類学特殊講義Ⅲa② 文化人類学特殊講義Ⅲb② 考古学a② 考古学b② マスコミ原論② リスクコミュニケーション論② マスコミ史② ジャーナリズム論② 社会心理学②	広告心理学② マスコミ研究法② ※マスコミ講義Ⅰ② ※マスコミ講義Ⅱ② ※マスコミ講義Ⅲ② マスコミ講義Ⅳ② マスコミ講義Ⅴ② ※マスコミ講義Ⅵ② マスコミ講義Ⅶ② マスコミ講義Ⅷ② マスコミ講義Ⅸ② ※コミュニケーション講義Ⅰ② コミュニケーション講義Ⅱ② ※コミュニケーション講義Ⅲ② コミュニケーション講義Ⅳ② ※コミュニケーション講義Ⅴ② コミュニケーション講義Ⅵ② ※コミュニケーション講義Ⅶ② コミュニケーション講義Ⅷ② コミュニケーション講義Ⅸ② マスコミ特殊講義Ⅰ② マスコミ特殊講義Ⅱ② マスコミ特殊講義Ⅲ② マスコミ特殊講義Ⅳ② マスコミ特殊講義Ⅴ② マスコミ特殊講義Ⅵ② ヨーロッパの文化④ ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)② 西洋古典特殊講義a② 西洋古典特殊講義b② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパ文化史④ アメリカ文化史④ 日本文学④ 外国文学④ ※エコロジー論④ 文明と社会④ 家族と社会の変動④ 短期学外演習〈自然〉②	18
[3・4年]			
英語学特殊講義A② 英語学特殊講義B②	英語文学特殊講義A② 英語文学特殊講義B②	英語文化特殊講義A② 英語文化特殊講義B②	
合 計			124

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用

# Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経済学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と基礎数理から構成される。

## A 語学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業・進級に必要な語学の単位数は第5表のとおりである。

第5表 卒業・進級に必要な語学の規定単位数

		1年次		計		
		前期	後期			
英語		基礎英語読解 (1) a① 英語読解 (1) a① 上級英語読解 (1) a①	} いずれか 1科目	基礎英語読解 (1) b① 英語読解 (1) b① 上級英語読解 (1) b①	} いずれか 1科目	4
		Basic Communicative English (1) a① Communicative English (1) a① Advanced Communicative English (1) a①		} いずれか 1科目		
第二外国語	独語	(初級) a②			(初級) b②	
	仏語					
	中国語					
計		4		4		8

		2年次		計		
		前期	後期			
英語		基礎英語読解 (2) a① 英語読解 (2) a① 上級英語読解 (2) a①	} いずれか 1科目	基礎英語読解 (2) b① 英語読解 (2) b① 上級英語読解 (2) b①	} いずれか 1科目	4
		基礎 TOEIC a① TOEIC a① 上級 TOEIC a① Basic Communicative English (2) a① Communicative English (2) a① Advanced Communicative English (2) a①		} いずれか 1科目		
第二外国語	独語	(中級) a①			(中級) b①	
	仏語					
	中国語					
計		3		3		6
計		14				

### 1 「英語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解、もう1つはネイティブの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。

2年次では週2回の授業を、1つは読解、もう1つはTOEIC準備コース／Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。

※ コース選択の方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

### 2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

### 3 履修上の注意

① 英語は下表のとおり履修するクラスが指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と8月実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と2月実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラスを履修する

履修登録は教務部が事前登録を行うので、各自の履修クラスをCampus Square for Web

の履修状況メニューで確認すること。なお、1年次後期の科目の担当教員名は「教務部」となっているが、前期の成績確定後に教務部が実際に受講する各授業科目への登録変更を行う。

② 英語の再履修

配当年次や授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。

※ 登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再履修の方法	
	前期科目が不合格の場合	後期科目が不合格の場合
初 級	補講 a を履修すること。	補講 b を履修すること。
中 級	2年のいずれかのクラスを再履修すること。	2年のいずれかのクラスを再履修すること。

※ 「補講 a」、「補講 b」は前期に不合格になった場合、後期に同じ科目を再履修できる。

## B 基礎数理

### 1 基礎数理

基礎数理の開設科目は、第6表のとおりである。

基礎数理は、経済学科の専門分野にわたって共通に必要なとされる論理的思考や数量的な分析の基礎を習得することを目的とした科目である。

第6表 基礎数理

授 業 科 目	学年配当	単位
データ解析入門Ⅰ	1	2
データ解析入門Ⅱ	1	2
数学入門Ⅰ	1	2
数学入門Ⅱ	1	2

### 2 履修上の注意

① 進級および卒業に必要な単位数は4単位である。

② 「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」はパソコンによる経済データの基礎的な分析能力を身につけることを目的としている。「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講されるが、同一名称の科目を複数履修することはできないので注意すること。

※ 「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 「数学入門Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講される。同一名称の科目を複数履修することはできないので注意すること。

※ 「数学入門Ⅰ・Ⅱ」は1年次のみ、クラスにより受講できる曜限が指定されている。

B、D、E、H組：金曜1限〔Ⅰ：授業コード1346、Ⅱ：授業コード1348〕

A、C、F、G組：金曜2限〔Ⅰ：授業コード1347、Ⅱ：授業コード1349〕

④ 基礎数理の科目が不合格で進級に必要な単位数を満たせない場合は、翌年度に再履修（もしくは基礎数理の別の科目を履修）すること。

⑤ 基礎数理で規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。

## Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「2年次ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎必修科目、専門基礎選択科目、専門選択科目である。卒業に必要な各分野の規定単位数は、第7表に、またそれぞれの開設科目、学年配当は第8表～第10表に示すとおりである。

第7表 専門科目規定単位数

分野	区 分	規定単位数
専 門 科 目	ゼミナール	12
	専門基礎必修科目	6
	専門基礎選択科目	16
	専門選択科目	34
	計	68

## A ゼミナール

### 1 ゼミナール および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、3年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の習得と、主体性と自立心を養うことを目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第8表 ゼミナール

授 業 科 目	学年配当	単 位
2年次ゼミナール	2	4
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

### 2 履修上の注意

- ① ゼミナールは定員が定められており、それを超えた場合には選考することがある。
- ② 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならず、原則として指導教員の変更は認められない（2年次ゼミナールの再履修を除く）。
- ③ 単位の認定は各年次に行うが、不合格の者は次の年次配当のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
- ④ 「2年次ゼミナール」の登録については、【授業に関すること】Ⅳ「特別な履修登録手続きを必要とする授業科目」を参照すること。
- ⑤ 2年次から3年次への進級基準を満たさない者は、「2年次ゼミナール」の単位が修得できた場合でもその修得単位は取り消しとなり、「3年次ゼミナール」を履修することができない。
- ⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は4単位である。「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の者は再履修し、卒業論文を再提出することが義務付けられる。
- ⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること】Ⅷ「卒業論文」を参照すること。

## B 専門基礎科目

### 1 必修科目・ 選択科目

専門基礎科目は必修科目と選択科目から構成され、第9表に示すとおりである。必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は1年次配当の必修科目であり、いずれも「講義クラス」と「演習クラス」からなる週2回の授業である。週1回の「講義クラス」で学んだ基本的な考え方や基礎的な知識の理解を深めるために、少人数での「演習クラス」が用意され、きめ細かな指導が行われる。選択科目は、専門選択科目を学ぶための基礎となる科目である。

第9表 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	学年配当	単 位	規定 単位数	区分	授 業 科 目	学年配当	単 位	規定 単位数
必修 科目	ミクロ経済学入門・演習	1	3	6	選択 科目	統計学	2～4	4	16
	マクロ経済学入門・演習	1	3			経済学史Ⅰ	2～4	2	
選択 科目	経済と社会Ⅰ	1	2	経済学史Ⅱ		2～4	2		
	※経済と社会Ⅱ	1	2	市場と政府Ⅰ		2～4	2		
	ミクロ経済学	2～4	4	※市場と政府Ⅱ		2～4	2		
	ミクロ経済学概論	2～4	2	社会経済史Ⅰ		2～4	2		
	マクロ経済学概論	2～4	2	社会経済史Ⅱ		2～4	2		
	マクロ経済学Ⅰ	2～4	2	社会政策Ⅰ		2～4	2		
	マクロ経済学Ⅱ	2～4	2	社会政策Ⅱ		2～4	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 2 履修上の注意

- ① 必修科目の「ミクロ経済学入門・演習」および「マクロ経済学入門・演習」は複数クラス開講されるが、教務部がクラスを指定し、事前登録を行う。なお、単位未修得者も、教務部で事前登録を行う。
- ② 選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 選択科目の「経済と社会Ⅰ」および「経済と社会Ⅱ」は、経済学科1年次のみ履修することができる。

## C 専門選択科目

### 1 専門選択科目

専門選択科目は、第10表に示すとおりである。

専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経済学科開設の科目である。

第10表 専門選択科目

授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位
フレッシュャーズ・セミナー	1	2	現代経済史Ⅰ	2～4	2
外国史概説A	1～4	2	現代経済史Ⅱ	2～4	2
外国史概説B	1～4	2	社会思想史Ⅰ	2～4	2
社会問題入門	1～4	2	社会思想史Ⅱ	2～4	2
社会科学入門	1～4	2	社会保障論Ⅰ	2～4	2
経済数学Ⅰ	2～4	2	社会保障論Ⅱ	2～4	2
経済数学Ⅱ	2～4	2	社会キャリア論A	2～4	2
※数理経済学A	2～4	2	社会キャリア論B	2～4	2
数理経済学B	2～4	2	社会デザイン論Ⅰ	2～4	2
※経済変動論A	2～4	2	社会デザイン論Ⅱ	2～4	2
※経済変動論B	2～4	2	日本経済論A	2～4	2
※経済統計論	2～4	4	日本経済論B	2～4	2
計量経済学Ⅰ	2～4	2	世界経済事情A	2～4	2
計量経済学Ⅱ	2～4	2	世界経済事情B	2～4	2
産業経済学	2～4	4	国際関係論Ⅰ	2～4	2
経済思想史Ⅰ	2～4	2	国際関係論Ⅱ	2～4	2
経済思想史Ⅱ	2～4	2	経済地理学Ⅰ	2～4	2
金融論Ⅰ	2～4	2	経済地理学Ⅱ	2～4	2
金融論Ⅱ	2～4	2	英経済書講読Ⅰ	2～4	2
国際金融論Ⅰ	2～4	2	英経済書講読Ⅱ	2～4	2
国際金融論Ⅱ	2～4	2	※独経済書講読A	2～4	2
財政学Ⅰ	2～4	2	※独経済書講読B	2～4	2
財政学Ⅱ	2～4	2	仏経済書講読A	2～4	2
公共経済学Ⅰ	2～4	2	仏経済書講読B	2～4	2
公共経済学Ⅱ	2～4	2	中国経済書講読A	2～4	2
医療経済論Ⅰ	2～4	2	※中国経済書講読B	2～4	2
医療経済論Ⅱ	2～4	2	比較制度論A	3・4	2
国際貿易論Ⅰ	2～4	2	※比較制度論B	3・4	2
国際貿易論Ⅱ	2～4	2	※経済理論特別講義A	3・4	2
開発経済学Ⅰ	2～4	2	※経済理論特別講義B	3・4	2
開発経済学Ⅱ	2～4	2	※応用経済学特別講義A	3・4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2～4	2	※応用経済学特別講義B	3・4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2～4	2	応用経済学特別講義C	2～4	2
日本経済史Ⅰ	2～4	2	※応用経済学特別講義D	2～4	2
日本経済史Ⅱ	2～4	2	経済史特別講義A	3・4	2
西洋経済史Ⅰ	2～4	2	経済史特別講義B	3・4	2
西洋経済史Ⅱ	2～4	2	※社会問題特別講義A	3・4	2
東洋経済史Ⅰ	2～4	2	※社会問題特別講義B	3・4	2
東洋経済史Ⅱ	2～4	2			

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 2 履修上の注意

- ① 専門選択科目の卒業に必要な規定単位数は34単位である。
- ② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、推奨科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。  
なお、専門基礎選択科目から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を推奨科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- ③ 「フレッシュャーズ・セミナー」は、経済学科1年次のみ履修することができる。
- ④ 「フレッシュャーズ・セミナー」は複数コマ開講されるが、同一名称の科目を複数履修することはできないので注意すること。  
※ 「フレッシュャーズ・セミナー」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑤ 2年次以降、専門選択科目の履修は、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。
- ⑥ 2018年度に「英経済書講読A」と「英経済書講読B」の科目名称は「英経済書講読Ⅰ」と「英経済書講読Ⅱ」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。



# Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

## 1 自由設計科目

自由設計科目は、各人の専門能力を高めると同時に、各人の興味・関心に関連した知識、スキルを習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、第11表に示されるとおり、12区分から構成されている。

なお、自由設計科目の規定単位数は、第12表に示される単位によっても充当することができる。

第11表 自由設計科目

区 分			規定単位数	
推奨科目	専門選択関連科目		20	
	法学関連科目			
	教養科目			
	全学共通教育科目	リテラシー科目群		WRD、IT科目
		教養科目群		系列科目の一部
		キャリアデザイン科目群		
		国際交流科目群		
データサイエンス科目群				
一般科目	全学共通教育科目	リテラシー科目群	外国語科目	18
		教養科目群	総合科目、成城学、系列科目の一部	
	他学部開設科目			
	スポーツ・ウエルネス教育科目			

第12表 自由設計科目に充当できる単位

区 分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
基礎数理	4	推奨科目の単位として充当
専門選択科目 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位	34	

区 分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
推奨科目 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位 専門基礎選択科目の規定単位数を超えて修得した単位	20	一般科目の単位として充当

## 2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。

## A 推奨科目

推奨科目は、「専門選択関連科目」、「法学関連科目」、「教養科目」、「全学共通教育科目」によって構成される。

### 1 専門選択 関連科目

専門選択関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経営学系の専門科目であり、開設科目は第13表に示すとおりである。

第13表 専門選択関連科目（学年配当：2～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
会計学総論Ⅰ	2	経営情報論Ⅰ	2
会計学総論Ⅱ	2	経営情報論Ⅱ	2
企業会計論Ⅰ	2	消費者行動論Ⅰ	2
企業会計論Ⅱ	2	消費者行動論Ⅱ	2
経営管理論Ⅰ	2	商品開発論Ⅰ	2
経営管理論Ⅱ	2	商品開発論Ⅱ	2
経営史Ⅰ	2	管理会計論	4
経営史Ⅱ	2	※税務会計論Ⅰ	2
マーケティング論Ⅰ	2	※税務会計論Ⅱ	2
マーケティング論Ⅱ	2	※国際経営論Ⅰ	2
経営統計学Ⅰ	2	※国際経営論Ⅱ	2
経営統計学Ⅱ	2	※公企業論Ⅰ	2
財務会計論Ⅰ	2	※公企業論Ⅱ	2
財務会計論Ⅱ	2	交通論Ⅰ	2
原価計算論	4	交通論Ⅱ	2
財務管理論Ⅰ	2	※貿易論Ⅰ	2
財務管理論Ⅱ	2	※貿易論Ⅱ	2
ビジネスライティングⅠ	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2
ビジネスライティングⅡ	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2
経営英書講読Ⅰ	2	金融システム論Ⅰ	2
経営英書講読Ⅱ	2	金融システム論Ⅱ	2
証券市場論Ⅰ	2	会計監査論Ⅰ	2
証券市場論Ⅱ	2	会計監査論Ⅱ	2
経営戦略論Ⅰ	2	財務諸表分析Ⅰ	2
経営戦略論Ⅱ	2	財務諸表分析Ⅱ	2
経営組織論Ⅰ	2	※中小企業論Ⅰ	2
経営組織論Ⅱ	2	※中小企業論Ⅱ	2
人的資源論Ⅰ	2	※コンピュータ論Ⅰ	2
人的資源論Ⅱ	2	※コンピュータ論Ⅱ	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2	経営学特殊講義 A	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2	※経営学特殊講義 B	2
※生産管理論Ⅰ	2	※経営学特殊講義 C	2
※生産管理論Ⅱ	2	※経営学特殊講義 D	2
企業論Ⅰ	2	経営学特殊講義 E	2
企業論Ⅱ	2	経営学特殊講義 F	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

#### 【第13表の注意事項】

「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## 2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、第14表に示すとおりである。

第14表 法学関連科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
民法概論	2~4	4	社会保障法	3・4	4
商法概論	2~4	4	税法Ⅰ	3・4	2
憲法	2~4	4	税法Ⅱ	3・4	2
会社法Ⅰ	3・4	2	金融商品取引法	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2	有価証券法	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4	商取引法	3・4	2
国際法Ⅱ	3・4	4	経済法Ⅰ	3・4	2
行政法Ⅰ	3・4	4	経済法Ⅱ	3・4	2
行政学	3・4	4	国際経済法	3・4	4
労働基準法	3・4	4	公務員法・行政組織法	3・4	2
労働組合法	3・4	4	消費者法Ⅰ	3・4	2
国際取引法	3・4	4	※消費者法Ⅱ	3・4	2
環境法	3・4	2	知的財産法	3・4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第14表の注意事項】

「行政法Ⅰ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## 3 教養科目

教養科目の開設科目は、第15表に示すとおりである。

第15表 教養科目 (学年配当：1~4年次)

授業科目	単 位	授業科目	単 位	授業科目	単 位
外国文化Ⅰa	2	心理学b	2	TOEIC (特級)Ⅱa	1
外国文化Ⅰb	2	数学Ⅰa	2	TOEIC (特級)Ⅱb	1
外国文化Ⅱa	2	数学Ⅰb	2	選択英語a	1
外国文化Ⅱb	2	数学Ⅱa	2	選択英語b	1
外国文化Ⅲa	2	数学Ⅱb	2	中国語 (特級) a	1
外国文化Ⅲb	2	※現代社会とスポーツ	2	中国語 (特級) b	1
外国文化Ⅳa	2	※スポーツ産業論	2	※政治経済論入門Ⅰ	2
外国文化Ⅳb	2	TOEIC (特級)Ⅰa	1	※政治経済論入門Ⅱ	2
心理学a	2	TOEIC (特級)Ⅰb	1		

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第15表の注意事項】

- ① 2018年度に「TOEIC (特級) a」と「TOEIC (特級) b」の科目名称は「TOEIC (特級)Ⅰa」と「TOEIC (特級)Ⅰb」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。
- ② 2018年度に「TOEIC (特級)Ⅱa」、「TOEIC (特級)Ⅱb」、「中国語 (特級) a」、「中国語 (特級) b」が新設された。
- ③ 「TOEIC (特級)Ⅰa」、「TOEIC (特級)Ⅰb」、「TOEIC (特級)Ⅱa」、「TOEIC (特級)Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

#### 4 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、第16表～第20表に示すとおりである。

##### 〔注意事項〕

全学共通教育科目の学年配当は、第18表に記載する「キャリアデザイン科目」、第19表に記載する「国際交流科目」、第20表に記載する「データサイエンス科目」を除き、1～4年次である。

#### 〔a リテラシー科目群〕

リテラシー科目群の開設科目は第16表のとおりである。

第16表 リテラシー科目群（WRD、IT科目）（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
WRD	4	※コンピュータ・リテラシーC	2
コンピュータ・リテラシーA1	2	コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーA2	2	コンピュータ・リテラシーE	2
コンピュータ・リテラシーB	2	※図書館活用法	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

##### 〔第16表の注意事項〕

リテラシー科目群の開設科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

#### 〔b 教養科目群〕

教養科目群の開設科目は第17表のとおりである。

第17表 教養科目群（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
社会学入門 a	2	西洋思想入門 a	2
社会学入門 b	2	西洋思想入門 b	2
メディア論入門 a	2	東洋思想入門 a	2
メディア論入門 b	2	東洋思想入門 b	2
国際関係論入門 a	2	日本思想入門 a	2
国際関係論入門 b	2	日本思想入門 b	2
経済学入門 a	2	歴史学入門 a	2
経済学入門 b	2	歴史学入門 b	2
政治学入門 a	2	日本近現代史 a	2
政治学入門 b	2	日本近現代史 b	2
情報社会論入門 a	2	ヨーロッパ近現代史 a	2
情報社会論入門 b	2	ヨーロッパ近現代史 b	2
法学（含む日本国憲法）a	2	アジア近現代史 a	2
法学（含む日本国憲法）b	2	アジア近現代史 b	2
哲学入門 a	2	アメリカ近現代史 a	2
哲学入門 b	2	アメリカ近現代史 b	2
宗教学入門 a	2	文化人類学入門 a	2
宗教学入門 b	2	文化人類学入門 b	2
倫理学入門 a	2	空間システム論入門 a	2
倫理学入門 b	2	空間システム論入門 b	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

## [ c キャリアデザイン科目群 ]

キャリアデザイン科目群の開設科目は第18表のとおりである。

第18表 キャリアデザイン科目群

授 業 科 目	学年配当	単位
☆キャリア形成Ⅰ〈コミュニケーション〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅱ〈リーダーシップ〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅲ〈ワークライフバランス〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅳ〈チームワーク・協働〉	1～4	2
★プロジェクト演習〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業提案〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業との協働〉	1・2	2
業界企業分析	2～4	2
職業選択	2～4	2
※キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
※キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
時事英語Ⅰ	1～4	2
時事英語Ⅱ	1～4	2
時事問題研究	2～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第18表の注意事項】

- ① キャリアデザイン科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② キャリアデザイン科目群のうち、「時事英語Ⅰ」、「時事英語Ⅱ」および学年配当が2年次以上の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【全学共通教育科目Ⅴ】キャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、1年次は2単位、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅰ】総説【B】履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を限度として、推奨科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 「プロジェクト演習」は、3年次以降は履修することができない。
- ⑤ 「プロジェクト演習」について、修得できる単位数は1科目2単位までとする。
- ⑥ 「キャリア・プランニング・プログラムⅡ」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。

[ d 国際交流科目群 ]

国際交流科目群の開設科目は第19表のとおりである。

第19表 国際交流科目群

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1	
英語等による 地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2	
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
英語等による 特定のテーマ を扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期 語学研修	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1～4	2

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用



第19表 国際交流科目群（つづき）

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
受け入れ留学生科目	日本語A〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語A〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語A〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語A〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈初級〉	1～4	8
	日本語B〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈中級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈初級〉	1～4	8
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第19表の注意事項】

- ① 国際交流科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 国際交流科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・国際交流科目のうち、「留学対策科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ 国際交流科目のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- ④ 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。
 

研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の置ききの科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の認定を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。
 

また、特別な履修登録手続きを行う科目であること、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ⑥ 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
- ⑦ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑧ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑨ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑩ 2017年度をもって「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。
- ⑪ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

## 〔e データサイエンス科目群〕

データサイエンス科目群の開設科目は第20表のとおりである。

第20表 データサイエンス科目

授 業 科 目	学年配当	単 位
☆データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
☆データサイエンス概論	1～4	2
☆データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
データサイエンス応用	2～4	2
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 〔第20表の注意事項〕

- ① データサイエンス科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【[履修規定](#)】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ データサイエンス科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として推奨科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ⑤ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

一般科目は、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」、「スポーツ・ウエルネス教育科目」によって構成される。

### 1 全学共通教育科目

全学共通教育科目の開設科目は、第21表～第22表に示すとおりである。

#### [ a リテラシー科目群 ]

リテラシー科目群の開設科目は第21表のとおりである。

第21表 リテラシー科目群（外国語科目）（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
英語リスニング&スピーキング（初級）a	1	仏語選択（初級）I a	1
英語リスニング&スピーキング（初級）b	1	仏語選択（初級）I b	1
英語リスニング&スピーキング（中級）a	1	仏語選択（初級）II a	1
英語リスニング&スピーキング（中級）b	1	仏語選択（初級）II b	1
英語リスニング&スピーキング（上級）a	1	仏語選択（中級）a	1
英語リスニング&スピーキング（上級）b	1	仏語選択（中級）b	1
英語リーディング&ライティング（初級）a	1	仏語選択（上級）a	1
英語リーディング&ライティング（初級）b	1	仏語選択（上級）b	1
英語リーディング&ライティング（中級）a	1	スペイン語選択（初級）a	1
英語リーディング&ライティング（中級）b	1	スペイン語選択（初級）b	1
英語リーディング&ライティング（上級）a	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）a	1
英語リーディング&ライティング（上級）b	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）b	1
英会話選択a	1	中国語選択（初級）I a	1
英会話選択b	1	中国語選択（初級）I b	1
ビジネス英語a	1	中国語選択（初級）II a	1
ビジネス英語b	1	中国語選択（初級）II b	1
英文多読a	1	中国語選択（中級）a	1
英文多読b	1	中国語選択（中級）b	1
Academic Communication a	1	中国語選択（上級）a	1
Academic Communication b	1	中国語選択（上級）b	1
独会話選択a	1	韓国語選択（初級）a	1
独会話選択b	1	韓国語選択（初級）b	1
独語選択（初級）I a	1	韓国語選択（中級・ディプロム）a	1
独語選択（初級）I b	1	韓国語選択（中級・ディプロム）b	1
独語選択（初級）II a	1	ディプロム・コース中級（独語）a	1
独語選択（初級）II b	1	ディプロム・コース中級（独語）b	1
独語選択（中級）a	1	ディプロム・コース上級（独語）a	1
独語選択（中級）b	1	ディプロム・コース上級（独語）b	1
独語選択（上級）a	1	ディプロム・コース中級（仏語）a	1
独語選択（上級）b	1	ディプロム・コース中級（仏語）b	1
仏会話選択a	1	ディプロム・コース上級（仏語）a	1
仏会話選択b	1	ディプロム・コース上級（仏語）b	1

#### 〔第21表の注意事項〕

- ① リテラシー科目群の開設科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② 2018年度から、通年（2単位）で開講していた外国語科目は、前期 a（1単位）、後期 b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称の a または b の科目は履修できない。  
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）

- ③ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ④ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 （同一言語において1つ以上の条件を満たすこと）	備考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修も可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a」および「選択（中級）b」の計2単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の中級の単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修も可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」と「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。  
同様に、「選択（中級）」を修得していた場合は、「選択（中級）a」および「選択（中級）b」を修得しているものとみなす。

- ⑤ 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。

※単位修得の例

- ・「ディプロム・コース中級（独語）a」を2単位、「ディプロム・コース中級（独語）b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- ・「ディプロム・コース中級（仏語）a」を2単位、「ディプロム・コース上級（仏語）a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- ・「ディプロム・コース中級（独語）a」を3単位、「ディプロム・コース中級（仏語）a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

- ⑥ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項⑤については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧科目	新科目
ディプロム・コース中級（独語）A	ディプロム・コース中級（独語）a
ディプロム・コース中級（独語）B	ディプロム・コース中級（独語）b
ディプロム・コース上級（独語）A	ディプロム・コース上級（独語）a
ディプロム・コース上級（独語）B	ディプロム・コース上級（独語）b
ディプロム・コース中級（仏語）A	ディプロム・コース中級（仏語）a
ディプロム・コース中級（仏語）B	ディプロム・コース中級（仏語）b
ディプロム・コース上級（仏語）A	ディプロム・コース上級（仏語）a
ディプロム・コース上級（仏語）B	ディプロム・コース上級（仏語）b

[ b 教養科目群 ]

教養科目群の開設科目は第22表のとおりである。

第22表 教養科目群 (学年配当: 1~4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
※総合講座 I	2	※思想・人間論Ⅲa	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	2	※思想・人間論Ⅲb	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2	思想・人間論演習 a	2
※総合講座Ⅳ	2	思想・人間論演習 b	2
総合講座Ⅴ〈余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	2	文学入門 a	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	2	文学入門 b	2
※特別講座 I	2	言語学入門 a	2
※特別講座Ⅱ	2	言語学入門 b	2
成城学園を知る	2	音楽入門 a	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	音楽入門 b	2
※成城学Ⅱ	2	※表象文化論入門 a	2
※成城学Ⅲ	2	※表象文化論入門 b	2
※成城学Ⅳ	2	※表現文化論Ⅰa	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2	※表現文化論Ⅰb	2
現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉	2	※表現文化論Ⅱa	2
現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉	2	※表現文化論Ⅱb	2
現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉	2	表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉	2
現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉	2	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉	2
※現代社会論Ⅲa	2	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	2
※現代社会論Ⅲb	2	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	2
現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉	2	※表現文化論Ⅴa	2
現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉	2	※表現文化論Ⅴb	2
※現代社会論Ⅴa	2	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	2
※現代社会論Ⅴb	2	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	2
現代社会論Ⅵa〈平和論〉	2	表現文化論演習 a	2
現代社会論Ⅵb〈平和論〉	2	表現文化論演習 b	2
現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	※歴史文化論Ⅰa	2
現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	※歴史文化論Ⅰb	2
※現代社会論Ⅷa	2	歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉	2
※現代社会論Ⅷb	2	歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉	2
※現代社会論演習 a	2	歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2
※現代社会論演習 b	2	歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2
社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉	2	※歴史文化論Ⅳa	2
社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉	2	※歴史文化論Ⅳb	2
社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉	2	※歴史文化論Ⅴa	2
社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉	2	※歴史文化論Ⅴb	2
※社会構造論Ⅲa	2	※歴史文化論演習 a	2
※社会構造論Ⅲb	2	※歴史文化論演習 b	2
社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉	2	地域空間論Ⅰa〈EU論〉	2
社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉	2	地域空間論Ⅰb〈EU論〉	2
※社会構造論Ⅴa	2	地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉	2
※社会構造論Ⅴb	2	地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉	2
社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉	2	地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉	2
※社会構造論Ⅵb	2	地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉	2
社会構造論演習 a	2	※地域空間論Ⅳa	2
社会構造論演習 b	2	※地域空間論Ⅳb	2
※思想・人間論Ⅰa	2	※地域空間論Ⅴa	2
※思想・人間論Ⅰb	2	※地域空間論Ⅴb	2
思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉	2	地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉	2
思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉	2	地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉	2

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用



第22表 教養科目群（つづき）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	自然科学Ⅲa〈地球科学〉	2
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	自然科学Ⅲb〈地球科学〉	2
地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉	2	※自然科学Ⅳa	2
地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉	2	※自然科学Ⅳb	2
※地域空間論演習 a	2	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉	2
※地域空間論演習 b	2	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉	2
※数理の世界 a	2	数理・自然科学演習 a	2
※数理の世界 b	2	数理・自然科学演習 b	2
数理科学Ⅰa〈情報と論理〉	2	こころと身体 a	2
数理科学Ⅰb〈情報と論理〉	2	こころと身体 b	2
※数理科学Ⅱa	2	※身体と運動・スポーツ a	2
※数理科学Ⅱb	2	※身体と運動・スポーツ b	2
物理の世界 a	2	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉	2
物理の世界 b	2	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉	2
化学の世界 a	2	心身論Ⅱa〈こころと発達〉	2
化学の世界 b	2	心身論Ⅱb〈こころと社会〉	2
生命科学の世界 a	2	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2
生命科学の世界 b	2	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2
科学史 a	2	心身論Ⅳa〈食と健康〉	2
科学史 b	2	心身論Ⅳb〈食と環境〉	2
※自然科学Ⅰa	2	※心身論Ⅴa	2
自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉	2	※心身論Ⅴb	2
自然科学Ⅱa〈地球と環境〉	2	心身論演習 a	2
自然科学Ⅱb〈地域と環境〉	2	心身論演習 b	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第22表の注意事項】

- ① 教養科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ「特別な履修登録手続きを必要とする授業科目」を参照すること。
- ② 「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。**ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。**
- ③ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」はセットで履修することになっている。  
 なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。



2 他学部開設科目 他学部開設科目は、第23表に示すとおりである。

第23表 他学部開設科目

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2~4	4		東洋美術史一般講義a	2~4	2	
ギリシャ古典講読	2~4	4		東洋美術史一般講義b	2~4	2	
ローマ古典入門	2~4	4		西洋美術史一般講義Ⅰa	2~4	2	
ローマ古典講読	2~4	4		西洋美術史一般講義Ⅰb	2~4	2	
古代国文学講義Ⅰ	2~4	2		西洋美術史一般講義Ⅱa	2~4	2	
古代国文学講義Ⅱ	2~4	2		西洋美術史一般講義Ⅱb	2~4	2	
中古国文学講義Ⅰ	2~4	2		美学特殊講義Ⅰ	2~4	2	
中古国文学講義Ⅱ	2~4	2		美学特殊講義Ⅱ	2~4	2	
中世国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅰ	2~4	2	
中世国文学講義Ⅱ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅱ	2~4	2	
※近世国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅲ	2~4	2	
※近世国文学講義Ⅱ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅳ	2~4	2	
近代国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅴ	2~4	2	
近代国文学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅰ	2~4	2	
漢文学講義Ⅰ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅱ	2~4	2	
漢文学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅲ	2~4	2	
国語学講義Ⅰ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅳ	2~4	2	
国語学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅴ	2~4	2	
国語国文学講義Ⅰ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅱa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅱ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅱb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅲ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅲa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅳ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅲb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅴ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅳa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅵ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅳb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅶ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅰa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅷ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅰb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅸ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅱa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅹ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅱb	2~4	2	
英語学概論	2~4	4		民俗学特殊講義Ⅲa	2~4	2	
英語文学史	2~4	4		民俗学特殊講義Ⅲb	2~4	2	
英語学特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅰa	2~4	2	
英語学特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅰb	2~4	2	
英語文学特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅱa	2~4	2	
英語文学特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅱb	2~4	2	
英語文化特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅲa	2~4	2	
英語文化特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅲb	2~4	2	
美学・芸術学入門a	2~4	2		考古学a	2~4	2	
美学・芸術学入門b	2~4	2		考古学b	2~4	2	
美術史入門a	2~4	2		マスコミ原論	2~4	2	
美術史入門b	2~4	2		リスクコミュニケーション論	2~4	2	
美学一般講義a	2~4	2		マスコミ史	2~4	2	
美学一般講義b	2~4	2		ジャーナリズム論	2~4	2	
音楽学一般講義a	2~4	2	社会心理学	2~4	2		
音楽学一般講義b	2~4	2	広告心理学	2~4	2		
演劇学一般講義a	2~4	2	マスコミ研究法	2~4	2		
演劇学一般講義b	2~4	2	※マスコミ講義Ⅰ	2~4	2		
映画学一般講義a	2~4	2	※マスコミ講義Ⅱ	2~4	2		
映画学一般講義b	2~4	2	※マスコミ講義Ⅲ	2~4	2		
日本美術史一般講義a	2~4	2	マスコミ講義Ⅳ	2~4	2		
日本美術史一般講義b	2~4	2	マスコミ講義Ⅴ	2~4	2		

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用

第23表 他学部開設科目（つづき）

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	
※マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸	
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2		ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2		西洋古典特殊講義a	2～4	2		
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2		西洋古典特殊講義b	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb（独）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa（仏）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb（仏）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2		ヨーロッパ文化史	2～4	4		法
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2		アメリカ文化史	2～4	4		
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2		日本文学	2～4	4		
ヨーロッパの文化	2～4	4		外国文学	2～4	4		社会 イノベー ション
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2		※エコロジー論	2～4	4		
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2		文明と社会	2～4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2		家族と社会の変動	2～4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2		短期学外演習〈自然〉	2～4	2		

注）※印の科目は本年度休講である。

〔第23表の注意事項〕

- ① 他学部開設科目は、履修登録締切日が通常の日程とは異なる。詳細については、【授業に  
関することⅣ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。

3 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は、第24表に示すとおりである。

第24表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目 (半期2単位)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目 (半期または集中1単位)	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
		剣道（古武道） ダンスパフォーマンス	

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第24表の注意事項】

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位として認められる。**
- ③ スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。**後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。**
- ⑥ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑦ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。
- ⑧ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

## Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

- ① 第25表に示す教職関連科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
- ② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。**
- ③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【**教職課程**】I 教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

第25表 教職関連科目

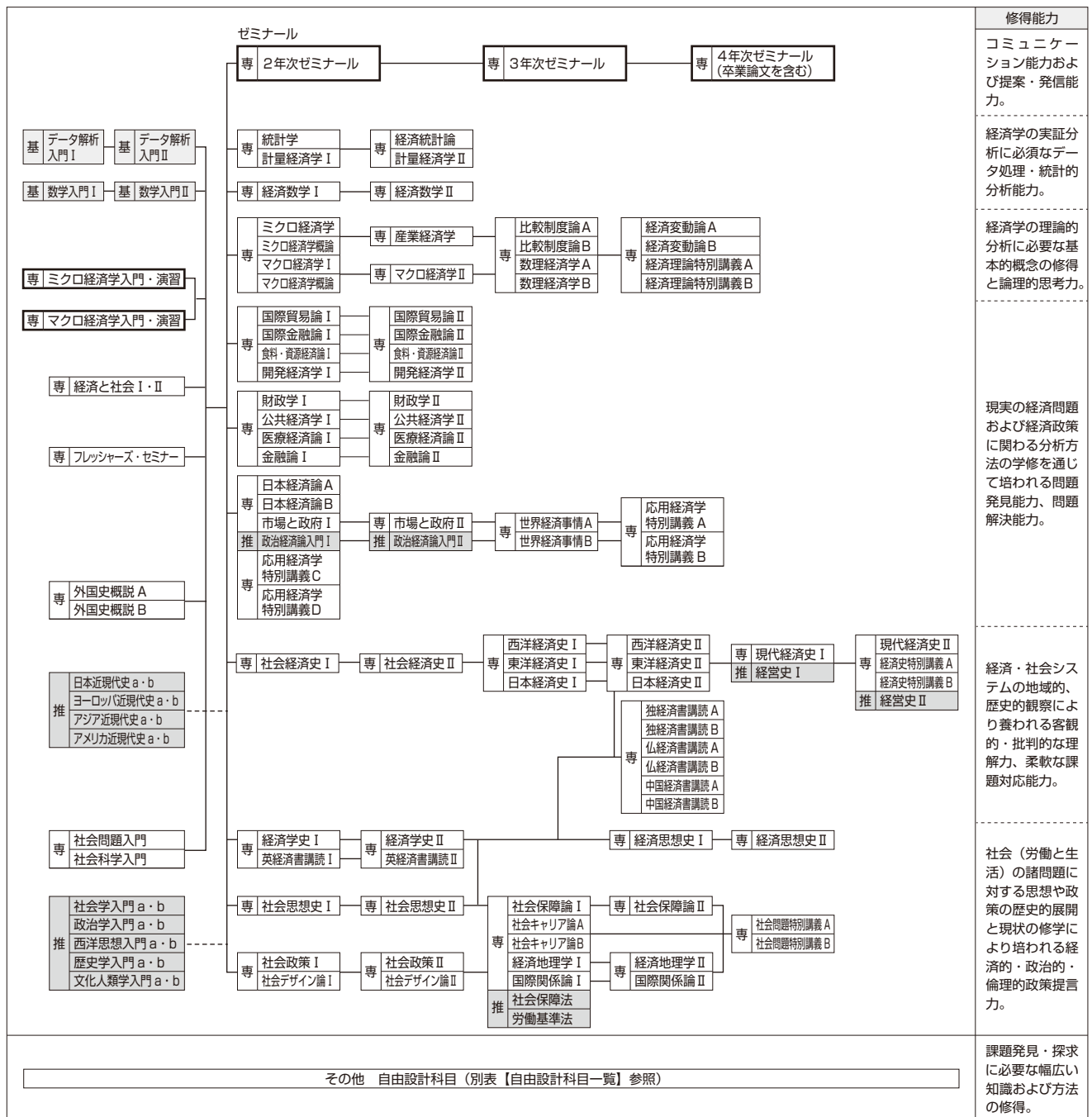
授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説 a	2~4	2
日本史概説 b	2~4	2
文化史特殊講義 I a	2~4	2
文化史特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 I a	2~4	2
歴史学特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 II a	2~4	2
歴史学特殊講義 II b	2~4	2
歴史学特殊講義 III a	2~4	2
歴史学特殊講義 III b	2~4	2
日本文化史 a	2~4	2
日本文化史 b	2~4	2
東洋文化史 a	2~4	2
東洋文化史 b	2~4	2
西洋文化史 a	2~4	2
西洋文化史 b	2~4	2
人文地理学 a	2~4	2
人文地理学 b	2~4	2
地理学講義 a	2~4	2
地理学講義 b	2~4	2
地誌学 a	2~4	2
地誌学 b	2~4	2
哲学講義 a	2~4	2
哲学講義 b	2~4	2
宗教学講義 a	2~4	2
宗教学講義 b	2~4	2
倫理学講義 a	2~4	2
倫理学講義 b	2~4	2
哲学史特殊講義 a	2~4	2
哲学史特殊講義 b	2~4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

# IV 経済学科 履修系統図

凡例： **基** 基礎数理科目 **専** 専門科目 **推** 自由設計科目（推奨科目） 末尾文字：①末尾「II」の科目は同一科目名の末尾「I」の科目内容を前提とする。  
 ②末尾文字にA～Dを持つ同一科目名の科目間には前提関係はない。  
 ③語学の（ ）内数字は学年、「a」は前期科目、「b」は後期科目を表す。

【語学】		修得能力
英語	基礎英語読解 (1) a・b	国際社会で必要とされる外国語能力。
	英語読解 (1) a・b	
	上級英語読解 (1) a・b	
	Basic Communicative English (1) a・b	
	Communicative English (1) a・b	
	Advanced Communicative English (1) a・b	
	基礎英語読解 (2) a・b	
	英語読解 (2) a・b	
	上級英語読解 (2) a・b	
	Basic Communicative English (2) a・b	
Communicative English (2) a・b		
Advanced Communicative English (2) a・b		
第二外国語	基礎 TOEIC a・b	
	TOEIC a・b	
	上級 TOEIC a・b	
	独語 (初級) a・b	
	独語 (中級) a・b	
	仏語 (初級) a・b	
仏語 (中級) a・b		
中国語 (初級) a・b		
中国語 (中級) a・b		



【自由設計科目一覧】

注意：「政治経済論入門」及び「専門選択関連科目」以外の科目の末尾ローマ数字（Ⅰ、Ⅱなど）は前提関係を示さない。

推薦	専門選択 関連科目	会計学総論Ⅰ・Ⅱ	財務会計論Ⅰ・Ⅱ	経営戦略論Ⅰ・Ⅱ	経営情報論Ⅰ・Ⅱ	公企業論Ⅰ・Ⅱ	財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ
	法学関連 科目	民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法
	教養科目	政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC(特級)Ⅰa・b	中国語(特級)a・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論
科目	リテラシー科目群	WRD	コンピュータ・リテラシー	図書館活用法			
	教養科目群	社会学入門a・b	経済学入門a・b	法(含む日本憲法)a・b	倫理学入門a・b	日本思想入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b
	キャリア デザイン科目群	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	業界企業分析	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ	時事問題研究		
	国際交流科目群	Academic SkillsⅠ～Ⅵ	North American Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠ～Ⅳ	海外短期研修	
	データサイエンス科目群	データサイエンス入門Ⅰ	データサイエンス概論	データサイエンス入門Ⅱ	データサイエンス応用	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	データサイエンス・アドバンスド・プログラム
	総合科目	総合講座Ⅰ～Ⅵ	特別講座Ⅰ・Ⅱ				
	成城学	成城学園を知る	成城学Ⅰ～Ⅴ				
一般	他学部開設科目	ギリシャ古典入門	漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	東洋美術史一般講義a・b	考古学a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅹ
	総合科目	英語リスニング&スピーキング	英会話選択	英文多読	独会話選択	仏会話選択	スペイン語選択
	成城学	英語リーディング&ライティング	ビジネス英語	Academic Communication	独語選択	仏語選択	中国語選択
	系列科目	現代社会論Ⅰa・b～Ⅶa・b	思想・人間論Ⅰa・b～Ⅲa・b	音楽入門a・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	数理の世界a・b	生命科学の世界a・b
	現代社会論演習a・b	思想・人間論演習a・b	表象文化論入門a・b	歴史文化論演習a・b	数理学Ⅰa・b・Ⅱa・b	科学史a・b	身体と運動・スポーツa・b
	社会構造論Ⅰa・b～Ⅵa・b	文学入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅵa・b	地域空間論Ⅰa・b～Ⅷa・b	物理の世界a・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b
	社会構造論演習a・b	言語学入門a・b	表現文化論演習a・b	地域空間論演習a・b	化学の世界a・b	数理・自然科学演習a・b	心身論演習a・b
	西洋古典特殊講義a・b	アメリカ文化史					
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰab(独)	日本文学					
	ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱab(仏)	外国文学					
スポーツ・ウエルネス 教育科目	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&コンディショニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	サイクル・スポーツ
ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	フットサル	スキー	
身体観・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー&フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ヨガ&ピラティス		
アクアエクササイズ	剣道(古武道)	水泳	テニス	バレーボール	レクリエーション・スポーツ		

履修規定

経済学科

2017年度以降入学者用



# 経済学科履修規定

[2016年度以前入学者用]

I	総説	62
	A. 開設科目および卒業要件単位数	62
	B. 履修単位制限	63
	C. 2年次から3年次への進級基準	63
II	経済学科授業科目一覧表	64
III	—1 分野別履修方法（基礎科目）	72
	A. 基礎科目A群	72
	B. 基礎科目B群	72
III	—2 分野別履修方法（専門科目）	73
	A. ゼミナール	73
	B. 専門基礎科目	74
	C. 専門選択科目	75
III	—3 分野別履修方法（自由設計科目）	76
	A. 学部開設科目	77
	B. 全学共通教育科目	79
	C. 他学部開設科目	85
	D. スポーツ・ウエルネス教育科目	87
III	—4 分野別履修方法（教職関連科目）	88

# I 総説

## A 開設科目および卒業要件単位数

### 1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。

### 2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

### 3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経済学科 開設科目および卒業要件単位数

分野	区 分		規定単位数
基礎科目	基礎科目A群	英語	8
		第二外国語	6
	基礎科目B群		4
専門科目	ゼミナール		12
	専門基礎科目A群	経済学講義・演習Ⅰ	6
		経済学講義・演習Ⅱ	
	専門基礎科目B群		8
専門選択科目		34	
自由設計科目	学部開設科目	専門選択関連科目	46
		法学関連科目	
		教養科目	
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	
		教養科目群	
		キャリアデザイン科目群(注4)	
		国際交流科目群(注5)	
	他学部開設科目		
スポーツ・ウエルネス教育科目(注7)			
教職関連科目		—(注8)	
合 計			124

(注1)

(注2)

(注3)

#### 【第1表の注意事項】

- (注1) 基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の必要単位数に充当することができる。
- (注2) 専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の必要単位数に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の必要単位数に充当することができる。  
 なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注4) キャリアデザイン科目群のうち「キャリア形成概論Ⅰ」および「キャリア形成概論Ⅱ」のみ卒業要件単位として認められる。その他のキャリアデザイン科目の修得単位は、卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。
- (注5) 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- (注6) データサイエンス科目群のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、卒業要件単位に算入することができない。
- (注7) スポーツ・ウエルネス教育科目は、4単位まで卒業要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。
- (注8) 教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。

**B**

**履修単位制限**

**1 履修単位制限**

この制度は、履修登録に当たって、安易な登録による科目履修の途中放棄の防止と学問上の興味や知的関心、時間的制約などを十分考慮した上での授業科目選択を促すために設けられたものである。

**2 履修科目登録上限単位数**

**第2表 履修科目登録上限単位数**

1 年	2 年	3 年	4 年
44	48	48	48

**【第2表の注意事項】**

以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項を参照すること。

- 教職関連科目
- 教職課程における「教職に関する科目」
- キャリアデザイン科目群の開設科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- 国際交流科目群の開設科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」）
- データサイエンス科目群の開設科目のうち卒業要件単位として認められない科目

**C**

**2年次から3年次への進級基準**

2年次から3年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、2年次終了までに**第3表**に示す所定の単位を修得していなければならない。

**第3表 進級基準**

分野	区分		規定単位数
基礎科目	基礎科目A群	英語	8
		第二外国語	6
	基礎科目B群		4
専門科目	ゼミナール	2年次ゼミナール	4
	専門基礎科目A群	経済学講義・演習 I	6
		経済学講義・演習 II	
	専門基礎科目B群		4
専門選択科目		6	
自由設計科目	(注4)		8
計			46

**【第3表の注意事項】**

- (注1) 基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な自由設計科目の単位数（8単位）に充当することができる。
- (注2) 専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な専門選択科目の単位数（6単位）に充当することができる。
- (注3) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な自由設計科目の単位数（8単位）に充当することができる。  
 なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して6単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注4) スポーツ・ウェルネス教育科目は、4単位まで進級要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。

# II

# 経済学科授業科目一覧表

第4表

分野・区分		学年配当	1 年	2 年
基礎科目	基礎科目A群	英語	英語(1)講読② 英語(1)オラルコミュニケーション②	英語(2)講読② 英語(2)コース別②
		第二外国語	独語(初級)④	独語(中級)②
			仏語(初級)④ 中国語(初級)④	仏語(中級)② 中国語(中級)②
基礎科目B群			データ解析入門Ⅰ② データ解析入門Ⅱ② 数学入門Ⅰ② 数学入門Ⅱ②	
ゼミナール				2年次ゼミナール④
専門基礎科目A群			経済学講義・演習Ⅰ③ 経済学講義・演習Ⅱ③	
専門基礎科目B群			-[1~4年]- 社会科学概論④ 経済と社会Ⅰ② ※経済と社会Ⅱ②	-[2~4年]- ミクロ経済学④ マクロ経済学④ 統計学④ 経済学史④ 市場と政府Ⅰ② ※市場と政府Ⅱ② 社会経済史④ 社会政策④
専門科目	専門選択科目			-[2~4年]- 経済数学④ 経済原論④ ※数理経済学Ⅰ② 数理経済学Ⅱ② ※経済変動論④ ※経済統計論④ 計量経済学④ 産業経済学④ 経済思想史④ 比較制度論Ⅰ② ※比較制度論Ⅱ② 金融論Ⅰ② 金融論Ⅱ② 国際金融論Ⅰ② 国際金融論Ⅱ② 財政学Ⅰ② 財政学Ⅱ② 公共経済学Ⅰ② 公共経済学Ⅱ② 医療経済論Ⅰ② 医療経済論Ⅱ② 国際貿易論Ⅰ② 国際貿易論Ⅱ② 開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 食料・資源経済論Ⅰ② 食料・資源経済論Ⅱ② 日本経済史④ 西洋経済史④ 東洋経済史④ 外国史概説④ 現代経済史④ 社会思想史④ 社会保障論④ 社会キャリア論④ 社会デザイン論④ 日本経済論Ⅰ② 日本経済論Ⅱ② 世界経済事情Ⅰ② 世界経済事情Ⅱ② 国際関係論④ 経済地理学④ 英経済書講読④ ※独経済書講読④ 仏経済書講読④ 中国経済書講読A② ※中国経済書講読B② 応用経済学特別講義Ⅲ② ※応用経済学特別講義Ⅳ②
自由設計科目	学部開設科目 専門選択関連科目		-[1~4年]- 経営学総論④	-[2~4年]- 経営管理論④ 基礎簿記④ 企業会計論④ 財務会計論④ マーケティング総論④ 経営史④ 人的資源論④ 企業論④ 原価計算論④ 商学通論④ 消費者行動論④ 英経営書講読Ⅰ④ 英経営書講読Ⅱ④ 経営組織論④ 経営戦略論④ 財務管理論④ ※国際経営論④ 管理会計論④ 会計監査論④ 経営統計学④ 経営情報論④ ※税務会計論④ 経営分析④ 金融システム論④ 証券市場論④ ※貿易論④ 交通論④ リスクマネジメント論④ ※コンピュータ論④ ※生産管理論④ ※公企業論④ ※中小企業論④ 商品開発論④ ベンチャービジネス論④ 経営学特殊講義Ⅰ② ※経営学特殊講義Ⅱ② ※経営学特殊講義Ⅲ② ※経営学特殊講義Ⅳ② 経営学特殊講義Ⅴ② 経営学特殊講義Ⅵ②

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

3 年	4 年	卒業要件 単位数
		8
		6
		4
3年次ゼミナール④	4年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		6
		8
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[3・4年]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※経済理論特別講義Ⅰ②</li> <li>※経済理論特別講義Ⅱ②</li> <li>※応用経済学特別講義Ⅰ②</li> <li>※応用経済学特別講義Ⅱ②</li> <li>経済史特別講義Ⅰ②</li> <li>経済史特別講義Ⅱ②</li> <li>※社会問題特別講義Ⅰ②</li> <li>※社会問題特別講義Ⅱ②</li> </ul> </div>		34
		46

第4表 II. 経済学科授業科目一覧表 2016年度入学者用①

学年配当		1 年	2 年
分野・区分			
学部開設科目	法学関連科目		[2~4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④
	教養科目	[1~4年] 外国文化Ⅰ④ 外国文化ⅡA④ 外国文化ⅢA④	外国文化ⅣA④ 心理学④ 数学Ⅰ④
自由設計科目	全学共通教育科目	[1~4年] WRD④	
		選択英語② 英語リスニング&スピーキング (初級) a① 英語リスニング&スピーキング (初級) b① 英語リスニング&スピーキング (中級) a① 英語リスニング&スピーキング (中級) b① 英語リスニング&スピーキング (上級) a① 英語リスニング&スピーキング (上級) b① 英語リーディング&ライティング (初級) a① 英語リーディング&ライティング (初級) b① 英語リーディング&ライティング (中級) a① 英語リーディング&ライティング (中級) b① 英語リーディング&ライティング (上級) a① 英語リーディング&ライティング (上級) b①	英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択 (初級) I a① 独語選択 (初級) I b① 独語選択 (初級) II a①
自由設計科目	全学共通教育科目	コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2②	コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC②
		※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉②	総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ②
自由設計科目	全学共通教育科目	成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②
		社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学 (含む日本国憲法) a② 法学 (含む日本国憲法) b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb②	社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージをよむ〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b②
キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は、			

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経済学科

2016年度以前入学者用



3、4年			卒業要件 単位数
<b>[3・4年]</b> 会社法Ⅰ② 労働基準法④ 税法Ⅱ② 国際経済法④ 会社法Ⅱ② 労働組合法④ 金融商品取引法② 公務員法・行政組織法② 国際法Ⅰ④ 国際取引法④ 有価証券法② 消費者法Ⅰ② 国際法Ⅱ④ 環境法② 商取引法② ※消費者法Ⅱ② 行政法Ⅰ④ 社会保障法④ 経済法Ⅰ② 知的財産法④ 行政学④ 税法Ⅰ② 経済法Ⅱ②			
TOEIC (特級)Ⅰa①	TOEIC (特級)Ⅱb①	※政治経済論入門Ⅰ②	
TOEIC (特級)Ⅰb①	中国語 (特級) a①	※政治経済論入門Ⅱ②	
TOEIC (特級)Ⅱa①	中国語 (特級) b①		
独語選択 (初級)Ⅱb①	仏語選択 (上級) a①	中国語選択 (上級) b①	
独語選択 (中級) a①	仏語選択 (上級) b①	韓国語選択 (初級) a①	
独語選択 (中級) b①	スペイン語選択 (初級) a①	韓国語選択 (初級) b①	
独語選択 (上級) a①	スペイン語選択 (初級) b①	韓国語選択 (中級・ディプロム) a①	
独語選択 (上級) b①	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a①	韓国語選択 (中級・ディプロム) b①	
仏会話選択 a①	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b①	ディプロム・コース中級 (独語) a①	
仏会話選択 b①	中国語選択 (初級)Ⅰa①	ディプロム・コース中級 (独語) b①	
仏語選択 (初級)Ⅰa①	中国語選択 (初級)Ⅰb①	ディプロム・コース上級 (独語) a①	
仏語選択 (初級)Ⅰb①	中国語選択 (初級)Ⅱa①	ディプロム・コース上級 (独語) b①	
仏語選択 (初級)Ⅱa①	中国語選択 (初級)Ⅱb①	ディプロム・コース中級 (仏語) a①	
仏語選択 (初級)Ⅱb①	中国語選択 (中級) a①	ディプロム・コース中級 (仏語) b①	
仏語選択 (中級) a①	中国語選択 (中級) b①	ディプロム・コース上級 (仏語) a①	
仏語選択 (中級) b①	中国語選択 (上級) a①	ディプロム・コース上級 (仏語) b①	
コンピュータ・リテラシーD②	※図書館活用法②		
コンピュータ・リテラシーE②			
総合講座Ⅵ〈余暇学 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉②	※特別講座Ⅰ②		
総合講座Ⅶ〈中国文学入門 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉②	※特別講座Ⅱ②		
※成城学Ⅳ②			
成城学Ⅴ〈成城と自然〉②			
歴史学入門a②	※数理の世界a②		
歴史学入門b②	※数理の世界b②		
日本近現代史a②	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉②		
日本近現代史b②	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉②		
ヨーロッパ近現代史a②	※数理科学Ⅱa②		
ヨーロッパ近現代史b②	※数理科学Ⅱb②		
アジア近現代史a②	物理の世界a②		
アジア近現代史b②	物理の世界b②		
アメリカ近現代史a②	化学の世界a②		
アメリカ近現代史b②	化学の世界b②		
※歴史文化論Ⅰa②	生命科学の世界a②		
※歴史文化論Ⅰb②	生命科学の世界b②		
歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉②	科学史a②		
歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉②	科学史b②		
歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉②	※自然科学Ⅰa②		
歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉②	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉②		
※歴史文化論Ⅳa②	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉②		
※歴史文化論Ⅳb②	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉②		
※歴史文化論Ⅴa②	自然科学Ⅲa〈地球科学〉②		
※歴史文化論Ⅴb②	自然科学Ⅲb〈地球科学〉②		
※歴史文化論演習a②	※自然科学Ⅳa②		
※歴史文化論演習b②	※自然科学Ⅳb②		
文化人類学入門a②	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉②		
文化人類学入門b②	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉②		
空間システム論入門a②	数理・自然科学演習a②		
空間システム論入門b②	数理・自然科学演習b②		
地域空間論Ⅰa〈EU論〉②	ところと身体a②		
地域空間論Ⅰb〈EU論〉②	ところと身体b②		
地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉②	※身体と運動・スポーツa②		
地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉②	※身体と運動・スポーツb②		
地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉②	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉②		
地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉②	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉②		
※地域空間論Ⅳa②	心身論Ⅱa〈こころと発達〉②		
※地域空間論Ⅳb②	心身論Ⅱb〈こころと社会〉②		
※地域空間論Ⅴa②	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉②		
※地域空間論Ⅴb②	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉②		
地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉②	心身論Ⅳa〈食と健康〉②		
地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉②	心身論Ⅳb〈食と環境〉②		
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉②	※心身論Ⅴa②		
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉②	※心身論Ⅴb②		
地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉②	心身論演習a②		
地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉②	心身論演習b②		
※地域空間論演習a②			
※地域空間論演習b②			
Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) ㊦全学共通教育科目を参照			

(次ページへ続く)

第4表 II. 経済学科授業科目一覧表 2016年度入学者用②

学年配当		1 年	2 年
分野・区分			
自由設計科目	他学部開設科目		[2～4年] ギリシャ語(初級)④ ギリシャ語(中級)④ ラテン語(初級)④ ラテン語(中級)④ 古代国文学講義Ⅰ② 古代国文学講義Ⅱ② 中古国文学講義Ⅰ② 中古国文学講義Ⅱ② 中世国文学講義Ⅰ② 中世国文学講義Ⅱ② ※近世国文学講義Ⅰ② ※近世国文学講義Ⅱ② 近代国文学講義Ⅰ② 近代国文学講義Ⅱ② 漢文学講義Ⅰ② 漢文学講義Ⅱ② 国語学講義Ⅰ② 国語学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅰ② 国語国文学講義Ⅱ② 国語国文学講義Ⅲ② 国語国文学講義Ⅳ② 国語国文学講義Ⅴ② 国語国文学講義Ⅵ② 国語国文学講義Ⅶ② 国語国文学講義Ⅷ② 国語国文学講義Ⅸ② 国語国文学講義Ⅹ② 英語学概論④ 英語文学史④ 美学・芸術学入門 a② 美学・芸術学入門 b② 美術史入門 a② 美術史入門 b② 美学一般講義 a② 美学一般講義 b② 音楽学一般講義 a② 音楽学一般講義 b② 演劇学一般講義 a② 演劇学一般講義 b② 映画学一般講義 a② 映画学一般講義 b② 日本美術史一般講義 a② 日本美術史一般講義 b② 東洋美術史一般講義 a② 東洋美術史一般講義 b② 西洋美術史一般講義 I a② 西洋美術史一般講義 I b② 西洋美術史一般講義 II a② 西洋美術史一般講義 II b② 美学特殊講義Ⅰ② 美学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅰ② 芸術学特殊講義Ⅱ② 芸術学特殊講義Ⅲ② 芸術学特殊講義Ⅳ② 芸術学特殊講義Ⅴ② 美術史特殊講義Ⅰ②
	スポーツ・ウエルネス教育科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅳ-3 分野別履修方法(自由設計科目)D]スポーツ・ウエルネス教育科目を参照】	
教職関連科目		【教職関連科目は、Ⅳ-4 分野別履修方法(教職関連科目)を参照】	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経済学科

2016年度以前入学者用

3、4年			卒業要件 単位数
美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅱa② 文化史特殊講義Ⅱb② 文化史特殊講義Ⅲa② 文化史特殊講義Ⅲb② 文化史特殊講義Ⅳa② 文化史特殊講義Ⅳb② 民俗学特殊講義Ⅰa② 民俗学特殊講義Ⅰb② 民俗学特殊講義Ⅱa② 民俗学特殊講義Ⅱb② 民俗学特殊講義Ⅲa② 民俗学特殊講義Ⅲb② 文化人類学特殊講義Ⅰa② 文化人類学特殊講義Ⅰb② 文化人類学特殊講義Ⅱa② 文化人類学特殊講義Ⅱb② 文化人類学特殊講義Ⅲa② 文化人類学特殊講義Ⅲb② 考古学 a② 考古学 b② マスコミ原論② マスコミ史② ジャーナリズム論② リスクコミュニケーション論② 社会心理学②	広告心理学② マスコミ研究法② ※マスコミ講義Ⅰ② ※マスコミ講義Ⅱ② ※マスコミ講義Ⅲ② マスコミ講義Ⅳ② マスコミ講義Ⅴ② ※マスコミ講義Ⅵ② マスコミ講義Ⅶ② マスコミ講義Ⅷ② マスコミ講義Ⅸ② ※コミュニケーション講義Ⅰ② コミュニケーション講義Ⅱ② ※コミュニケーション講義Ⅲ② コミュニケーション講義Ⅳ② ※コミュニケーション講義Ⅴ② コミュニケーション講義Ⅵ② ※コミュニケーション講義Ⅶ② コミュニケーション講義Ⅷ② コミュニケーション講義Ⅸ② マスコミ特殊講義Ⅰ② マスコミ特殊講義Ⅱ② マスコミ特殊講義Ⅲ② マスコミ特殊講義Ⅳ② マスコミ特殊講義Ⅴ② マスコミ特殊講義Ⅵ② ヨーロッパの文化④ ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)② 西洋古典特殊講義 a② 西洋古典特殊講義 b② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパ文化史④ アメリカ文化史④ 日本文学④ 外国文学④ ※エコロジー論④ 文明と社会④ 家族と社会の変動④ 短期学外演習(自然)②	46
[3・4年]			
英語学特殊講義A② 英語学特殊講義B②	英語学特殊講義A② 英語学特殊講義B②	英語文化特殊講義A② 英語文化特殊講義B②	
合 計			124

履修規定

経済学科

2016年度以前入学者用

第4表 II. 経済学科授業科目一覧表 2015年度以前入学者用

学年配当		1 年	2 年		
分野・区分					
学部開設科目	法学関連科目		[2~4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④		
	教養科目	[1~4年] 外国文化Ⅰ④ 外国文化ⅡA④ 外国文化ⅢA④	外国文化ⅣA④ 心理学④ 数学Ⅰ④		
自由設計科目	全学共通教育科目	[1~4年] WRD④			
		選択英語② 英語リスニング&スピーキング (初級) a① 英語リスニング&スピーキング (初級) b① 英語リスニング&スピーキング (中級) a① 英語リスニング&スピーキング (中級) b① 英語リスニング&スピーキング (上級) a① 英語リスニング&スピーキング (上級) b① 英語リーディング&ライティング (初級) a① 英語リーディング&ライティング (初級) b① 英語リーディング&ライティング (中級) a① 英語リーディング&ライティング (中級) b① 英語リーディング&ライティング (上級) a① 英語リーディング&ライティング (上級) b①	英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択 (初級) I a① 独語選択 (初級) I b① 独語選択 (初級) II a①		
		コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2②	コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC②		
		※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉②	総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ②		
		成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②		
		社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学 (含む日本国憲法) a② 法学 (含む日本国憲法) b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb②	社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージをよむ〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の"いま"〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b②		
		キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は、			
		他学部開設科目	[1~4年] ギリシャ語 (初級) ④ ギリシャ語 (中級) ④	ラテン語 (初級) ④ ラテン語 (中級) ④	マスコミ研究法②
		スポーツ・ウエルネス教育科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) Ⅳ スポーツ・ウエルネス教育科目を参照】		
		教職関連科目	【教職関連科目は、Ⅳ-4 分野別履修方法 (教職関連科目) を参照】		

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

3、4年			卒業要件 単位数
<b>[3・4年]</b> 会社法Ⅰ② 労働基準法④ 税法Ⅱ② 国際経済法④ 会社法Ⅱ② 労働組合法④ 金融商品取引法② 公務員法・行政組織法② 国際法Ⅰ④ 国際取引法④ 有価証券法② 消費者法Ⅰ② 国際法Ⅱ④ 環境法② 商取引法② ※消費者法Ⅱ② 行政法Ⅰ④ 社会保障法④ 経済法Ⅰ② 知的財産法④ 行政学④ 税法Ⅰ② 経済法Ⅱ②			
TOEIC (特級) Ia①	TOEIC (特級) Ib①	TOEIC (特級) IIa①	※政治経済論入門Ⅰ② ※政治経済論入門Ⅱ②
TOEIC (特級) IIa①	TOEIC (特級) IIb①	中国語 (特級) a①	
		中国語 (特級) b①	
独語選択 (初級) IIb①	仏語選択 (上級) a①	中国語選択 (上級) b①	
独語選択 (中級) a①	仏語選択 (上級) b①	韓国語選択 (初級) a①	
独語選択 (中級) b①	スペイン語選択 (初級) a①	韓国語選択 (初級) b①	
独語選択 (上級) a①	スペイン語選択 (初級) b①	韓国語選択 (中級・ディプロム) a①	
独語選択 (上級) b①	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a①	韓国語選択 (中級・ディプロム) b①	
仏会話選択a①	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b①	ディプロム・コース中級 (独語) a①	
仏会話選択b①	中国語選択 (初級) Ia①	ディプロム・コース中級 (独語) b①	
仏語選択 (初級) Ia①	中国語選択 (初級) Ib①	ディプロム・コース中級 (独語) a①	
仏語選択 (初級) Ib①	中国語選択 (初級) IIa①	ディプロム・コース中級 (独語) b①	
仏語選択 (初級) IIa①	中国語選択 (初級) IIb①	ディプロム・コース上級 (独語) a①	
仏語選択 (初級) IIb①	中国語選択 (初級) a①	ディプロム・コース上級 (独語) b①	
仏語選択 (初級) a①	中国語選択 (中級) a①	ディプロム・コース中級 (仏語) a①	
仏語選択 (中級) a①	中国語選択 (中級) b①	ディプロム・コース中級 (仏語) b①	
仏語選択 (中級) b①	中国語選択 (上級) a①	ディプロム・コース上級 (仏語) a①	
		ディプロム・コース上級 (仏語) b①	
コンピュータ・リテラシーD②		※図書館活用法②	
コンピュータ・リテラシーE②			
総合講座Ⅴ〈余暇学 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉②		※特別講座Ⅰ②	
総合講座Ⅵ〈中国文学入門 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉②		※特別講座Ⅱ②	
※成城学Ⅳ②			
成城学Ⅴ〈成城と自然〉②			
歴史学入門a②	※数理の世界a②		
歴史学入門b②	※数理の世界b②		
日本近現代史a②	数理科学Ⅰa〈情報と論理〉②		
日本近現代史b②	数理科学Ⅰb〈情報と論理〉②		
ヨーロッパ近現代史a②	※数理科学Ⅱa②		
ヨーロッパ近現代史b②	※数理科学Ⅱb②		
アジア近現代史a②	物理の世界a②		
アジア近現代史b②	物理の世界b②		
アメリカ近現代史a②	化学の世界a②		
アメリカ近現代史b②	化学の世界b②		
※歴史文化論Ⅰa②	生命科学の世界a②		
※歴史文化論Ⅰb②	生命科学の世界b②		
歴史文化論Ⅱa〈江戸の文化〉②	科学史a②		
歴史文化論Ⅱb〈江戸の文化〉②	科学史b②		
歴史文化論Ⅲa〈グローバル・ヒストリーと西欧〉②	※自然科学Ⅰa②		
歴史文化論Ⅲb〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉②	自然科学Ⅰb〈自然と漁業・林業〉②		
※歴史文化論Ⅳa②	自然科学Ⅱa〈地球と環境〉②		
※歴史文化論Ⅳb②	自然科学Ⅱb〈地域と環境〉②		
※歴史文化論Ⅴa②	自然科学Ⅲa〈地球科学〉②		
※歴史文化論Ⅴb②	自然科学Ⅲb〈地球科学〉②		
※歴史文化論演習a②	※自然科学Ⅳa②		
※歴史文化論演習b②	※自然科学Ⅳb②		
文化人類学入門a②	自然科学Ⅴa〈比較行動学〉②		
文化人類学入門b②	自然科学Ⅴb〈比較行動学〉②		
空間システム論入門a②	数理・自然科学演習a②		
空間システム論入門b②	数理・自然科学演習b②		
地域空間論Ⅰa〈EU論〉②	こころと身体a②		
地域空間論Ⅰb〈EU論〉②	こころと身体b②		
地域空間論Ⅱa〈朝鮮半島の社会と文化〉②	※身体と運動・スポーツa②		
地域空間論Ⅱb〈朝鮮半島の社会と文化〉②	※身体と運動・スポーツb②		
地域空間論Ⅲa〈東南アジアの社会と文化〉②	心身論Ⅰa〈脳の機能と心の機能〉②		
地域空間論Ⅲb〈東南アジアの社会と文化〉②	心身論Ⅰb〈精神疾患と脳〉②		
※地域空間論Ⅳa②	心身論Ⅱa〈こころと発達〉②		
※地域空間論Ⅳb②	心身論Ⅱb〈こころと社会〉②		
※地域空間論Ⅴa②	心身論Ⅲa〈運動・スポーツと心のしくみ〉②		
※地域空間論Ⅴb②	心身論Ⅲb〈運動・スポーツと身体のしくみ〉②		
地域空間論Ⅵa〈アフリカの社会と文化〉②	心身論Ⅳa〈食と健康〉②		
地域空間論Ⅵb〈アフリカの社会と文化〉②	心身論Ⅳb〈食と環境〉②		
地域空間論Ⅶa〈日本と東アジアの社会と文化〉②	※心身論Ⅴa②		
地域空間論Ⅶb〈日本と東アジアの社会と文化〉②	※心身論Ⅴb②		
地域空間論Ⅷa〈中東の社会と文化〉②	心身論演習a②		
地域空間論Ⅷb〈中東の社会と文化〉②	心身論演習b②		
※地域空間論演習a②			
※地域空間論演習b②			
Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) ㊦全学共通教育科目を参照			
合計			124



# Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経済学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、基礎科目A群（外国語）と基礎科目B群から構成される。

## A 基礎科目A群

基礎科目A群は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業・進級に必要な基礎科目A群の単位数は第5表のとおりである。

第5表 卒業・進級に必要な基礎科目A群の規定単位数

		1年次	2年次		計
英 語		(講読) ② (オーラル・コミュニケーション) ②	(講読) ② (コース別) ②	TOEIC準備コース 英会話コース	8
	第二外国語	独 語 仏 語 中国語	(初級) ④	(中級) ②	
計		8	6		14

### 1 「英 語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解力を培うための講読の授業、もう1つはネイティブの講師による英会話・聞き取り中心の授業である。

2年次では週2回の授業を、1つは講読、もう1つはTOEIC準備コース／英会話コースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。

※ コース選択の方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

### 2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

### 3 再 履 修

#### ① 英語の再履修

配当年次や授業内容に関わらず不合格となった科目数分の「英語補講」（Ⅰ～Ⅳまで開講）を履修すること。

※ 登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

#### ② 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再 履 修 の 方 法
初 級	補講ⅠとⅡの両方を履修すること。
中 級	2年のいずれかのクラスで再履修すること。

## B 基礎科目B群

### 1 基礎科目B群

基礎科目B群の開設科目は、第6表のとおりである。

基礎科目B群は、経済学科の専門分野にわたって共通に必要なとされる論理的思考や数量的な分析の基礎を習得することを目的とした科目である。



第6表 基礎科目B群

授 業 科 目	学年配当	単位
データ解析入門Ⅰ	1	2
データ解析入門Ⅱ	1	2
数学入門Ⅰ	1	2
数学入門Ⅱ	1	2

2 履修上の注意

- ① 進級および卒業に必要な単位数は4単位である。
- ② 「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」はパソコンによる経済データの基礎的な分析能力を身につけることを目的としている。「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講されるが、同一名称の科目を複数履修することはできないので注意すること。  
※ 「データ解析入門Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ 「数学入門Ⅰ・Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講される。同一名称の科目を複数履修することはできないので注意すること。
- ④ 基礎科目B群の科目が不合格で進級に必要な単位数を満たせない場合は、翌年度に再履修（もしくはB群の別の科目を履修）すること。
- ⑤ 基礎科目B群で規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。

## Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「2年次ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎科目A群、専門基礎科目B群、専門選択科目である。卒業に必要な各分野の規定単位数は、第7表に、またそれぞれの開設科目、学年配当は第8表～第10表に示すとおりである。

第7表 専門科目規定単位数

分野	区 分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	12
	専門基礎科目A群	6
	専門基礎科目B群	8
	専門選択科目	34
	計	60

### A ゼミナール

1 ゼミナール  
および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、3年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の習得と、主体性と自立心を養うことを目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第8表 ゼミナール

授 業 科 目	学年配当	単位
2年次ゼミナール	2	4
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

## 2 履修上の注意

- ① ゼミナールは定員が定められており、それを超えた場合には選考することがある。
- ② 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならないが、原則として指導教員の変更は認められない（2年次ゼミナールの再履修を除く）。
- ③ 単位の認定は各年次に行うが、不合格の者は次の年次配当のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
- ④ 「2年次ゼミナール」の登録については、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ 2年次から3年次への進級基準を満たさない者は、「2年次ゼミナール」の単位が修得できた場合でもその修得単位は取り消しとなり、「3年次ゼミナール」を履修することができない。
- ⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は4単位である。「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の者は再履修し、卒業論文を再提出することが義務付けられる。
- ⑦ 卒業論文の提出要領については【[授業に関すること](#)】[Ⅹ](#)卒業論文】を参照すること。

## B 専門基礎科目

### 1 A群・B群

専門基礎科目はA群とB群から構成され、[第9表](#)に示すとおりである。

A群科目の「経済学講義・演習Ⅰ」および「経済学講義・演習Ⅱ」は1年次配当の必修科目であり、いずれも「講義クラス」と「演習クラス」からなる週2回の授業である。週1回の「講義クラス」で学んだ基本的な考え方や基礎的な知識の理解を深めるために、少人数での「演習クラス」が用意され、きめ細かな指導が行われる。

B群科目は、専門選択科目を学ぶための基礎となる科目である。

第9表 専門基礎科目

区分	授 業 科 目	学年配当	単位	規定単位数
A群	経済学講義・演習Ⅰ	1	3	6
	経済学講義・演習Ⅱ	1	3	
B群	社会科学概論	1~4	4	8
	経済と社会Ⅰ	1	2	
	※経済と社会Ⅱ	1	2	
	ミクロ経済学	2~4	4	
	マクロ経済学	2~4	4	
	統 計 学	2~4	4	
	経 済 学 史	2~4	4	
	市場と政府Ⅰ	2~4	2	
	※市場と政府Ⅱ	2~4	2	
	社会経済史	2~4	4	
社 会 政 策	2~4	4		

注) ※印の科目は本年度休講である。

## 2 履修上の注意

- ① A群科目の「経済学講義・演習Ⅰ」および「経済学講義・演習Ⅱ」の単位未修得者は、教務部で事前登録を行う。
- ② B群で規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ③ B群科目の「経済と社会Ⅰ」および「経済と社会Ⅱ」は、経済学科1年次のみ履修することができる。

## C 専門選択科目

### 1 専門選択科目

専門選択科目は、第10表に示すとおりである。

専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経済学科開設の科目である。

第10表 専門選択科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
経済数学	2~4	4	東洋経済史	2~4	4
経済原論	2~4	4	外国史概説	2~4	4
※数理経済学Ⅰ	2~4	2	現代経済史	2~4	4
数理経済学Ⅱ	2~4	2	社会思想史	2~4	4
※経済変動論	2~4	4	社会保障論	2~4	4
※経済統計論	2~4	4	社会キャリア論	2~4	4
計量経済学	2~4	4	社会デザイン論	2~4	4
産業経済学	2~4	4	日本経済論Ⅰ	2~4	2
経済思想史	2~4	4	日本経済論Ⅱ	2~4	2
比較制度論Ⅰ	2~4	2	世界経済事情Ⅰ	2~4	2
※比較制度論Ⅱ	2~4	2	世界経済事情Ⅱ	2~4	2
金融論Ⅰ	2~4	2	国際関係論	2~4	4
金融論Ⅱ	2~4	2	経済地理学	2~4	4
国際金融論Ⅰ	2~4	2	英経済書講読	2~4	4
国際金融論Ⅱ	2~4	2	※独経済書講読	2~4	4
財政学Ⅰ	2~4	2	仏経済書講読	2~4	4
財政学Ⅱ	2~4	2	中国経済書講読A	2~4	2
公共経済学Ⅰ	2~4	2	※中国経済書講読B	2~4	2
公共経済学Ⅱ	2~4	2	応用経済学特別講義Ⅲ	2~4	2
医療経済論Ⅰ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅳ	2~4	2
医療経済論Ⅱ	2~4	2	※経済理論特別講義Ⅰ	3・4	2
国際貿易論Ⅰ	2~4	2	※経済理論特別講義Ⅱ	3・4	2
国際貿易論Ⅱ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅰ	3・4	2
開発経済学Ⅰ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅱ	3・4	2
開発経済学Ⅱ	2~4	2	経済史特別講義Ⅰ	3・4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2~4	2	経済史特別講義Ⅱ	3・4	2
食料・資源経済論Ⅱ	2~4	2	※社会問題特別講義Ⅰ	3・4	2
日本経済史	2~4	4	※社会問題特別講義Ⅱ	3・4	2
西洋経済史	2~4	4			

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 2 履修上の注意

- ① 専門選択科目の卒業に必要な規定単位数は34単位である。
- ② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。  
 なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して34単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- ③ 2年次以降、専門選択科目の履修は、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。

# Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

## 1 自由設計科目

自由設計科目は、各人の専門能力を高めると同時に、各人の興味・関心に関連した知識、スキルを習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、第11表に示されるとおり、10区分から構成されている。

なお、自由設計科目の規定単位数は、第12表に示される単位によっても充当することができる。

第11表 自由設計科目

区 分		規定単位数	
学部開設科目	専門選択関連科目	46	
	法学関連科目		
	教 養 科 目		
全学共通教育科目	リテラシー科目群		
	教養科目群		
	キャリアデザイン科目群		
	国際交流科目群		
	データサイエンス科目群		
他学部開設科目			
スポーツ・ウエルネス教育科目			

第12表 自由設計科目に充当できる単位

区 分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
基礎科目B群	4	自由設計科目の単位として充当
専門選択科目	34	
専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位		

## 2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。

## A 学部開設科目

学部開設科目は原則的に経済学部が開設する科目であり、「専門選択関連科目」、「法学関連科目」、「教養科目」によって構成される。

### 1 専門選択 関連科目

専門選択関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経営学系の専門科目であり、開設科目は第13表に示すとおりである。

第13表 専門選択関連科目

授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位
経営学総論	1～4	4	経営情報論	2～4	4
経営管理論	2～4	4	※税務会計論	2～4	4
基礎簿記	2～4	4	経営分析	2～4	4
企業会計論	2～4	4	金融システム論	2～4	4
財務会計論	2～4	4	証券市場論	2～4	4
マーケティング総論	2～4	4	※貿易論	2～4	4
経営史	2～4	4	交通論	2～4	4
人的資源論	2～4	4	リスクマネジメント論	2～4	4
企業論	2～4	4	※コンピュータ論	2～4	4
原価計算論	2～4	4	※生産管理論	2～4	4
商学通論	2～4	4	※公企業論	2～4	4
消費者行動論	2～4	4	※中小企業論	2～4	4
英経営書講読Ⅰ	2～4	4	商品開発論	2～4	4
英経営書講読Ⅱ	2～4	4	ベンチャービジネス論	2～4	4
経営組織論	2～4	4	経営学特殊講義Ⅰ	2～4	2
経営戦略論	2～4	4	※経営学特殊講義Ⅱ	2～4	2
財務管理論	2～4	4	※経営学特殊講義Ⅲ	2～4	2
※国際経営論	2～4	4	※経営学特殊講義Ⅳ	2～4	2
管理会計論	2～4	4	経営学特殊講義Ⅴ	2～4	2
会計監査論	2～4	4	経営学特殊講義Ⅵ	2～4	2
経営統計学	2～4	4			

注) ※印の科目は本年度休講である。

#### 【第13表の注意事項】

「英経営書講読Ⅱ」および「経営情報論」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。

## 2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、第14表に示すとおりである。

第14表 法学関連科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
民法概論	2～4	4	社会保障法	3・4	4
商法概論	2～4	4	税 法 I	3・4	2
憲 法	2～4	4	税 法 II	3・4	2
会社法 I	3・4	2	金融商品取引法	3・4	2
会社法 II	3・4	2	有価証券法	3・4	2
国際法 I	3・4	4	商取引法	3・4	2
国際法 II	3・4	4	経済法 I	3・4	2
行政法 I	3・4	4	経済法 II	3・4	2
行政学	3・4	4	国際経済法	3・4	4
労働基準法	3・4	4	公務員法・行政組織法	3・4	2
労働組合法	3・4	4	消費者法 I	3・4	2
国際取引法	3・4	4	※消費者法 II	3・4	2
環 境 法	3・4	2	知的財産法	3・4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 〔第14表の注意事項〕

「行政法 I」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【[授業に関すること](#)Ⅳ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## 3 教養科目

教養科目の開設科目は、第15表に示すとおりである。

第15表 教養科目（学年配当：1～4年次）

授業科目	単 位	授業科目	単 位	授業科目	単 位
外国文化 I	4	数学 II	4	TOEIC (特級) II b	1
外国文化 II A	4	※現代社会とスポーツ	2	中国語 (特級) a	1
外国文化 III A	4	※スポーツ産業論	2	中国語 (特級) b	1
外国文化 IV A	4	TOEIC (特級) I a	1	※政治経済論入門 I	2
心理学	4	TOEIC (特級) I b	1	※政治経済論入門 II	2
数学 I	4	TOEIC (特級) II a	1		

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 〔第15表の注意事項〕

- ① 2018年度に「TOEIC (特級) a」と「TOEIC (特級) b」の科目名称は「TOEIC (特級) I a」と「TOEIC (特級) I b」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。
- ② 2018年度に「TOEIC (特級) II a」、「TOEIC (特級) II b」、「中国語 (特級) a」、「中国語 (特級) b」が新設された。
- ③ 「TOEIC (特級) I a」、「TOEIC (特級) I b」、「TOEIC (特級) II a」、「TOEIC (特級) II b」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【[授業に関すること](#)Ⅳ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。



## B 全学共通教育科目

全学共通教育科目の一覧は、p.66 第4表 経済学科授業科目一覧表に示されている。

### 〔注意事項〕

- ① 全学共通教育科目の学年配当は、第16表に記載する「キャリアデザイン科目」、第17表に記載する「国際交流科目」、第18表に記載する「データサイエンス科目」を除き、1～4年次である。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ③ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。  
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）
- ④ 2016年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（上級）	独語選択（上級）a
	独語選択（上級）b
仏語選択（上級）	仏語選択（上級）a
	仏語選択（上級）b
中国語選択（上級）	中国語選択（上級）a
	中国語選択（上級）b

- ⑤ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

⑥ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目(グレード)	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を) 満たすこと	備考
独語選択(初級) Ia・Ib・IIa・IIb 仏語選択(初級) Ia・Ib・IIa・IIb 中国語選択(初級) Ia・Ib・IIa・IIb	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、Ia・Ib・IIa・IIbの同学年での履修を強く勧める。
独語選択(中級) a・b 仏語選択(中級) a・b 中国語選択(中級) a・b	・上記「選択(初級) Ia」、「選択(初級) Ib」、「選択(初級) IIa」、「選択(初級) IIb」の計4単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。
独語選択(上級) a・b 仏語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	・上記「選択(中級) a」および「選択(中級) b」の計2単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の中級の単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択(初級) A」を修得していた場合は、「選択(初級) Ia」と「選択(初級) Ib」を、「選択(初級) B」を修得していた場合は、「選択(初級) IIa」と「選択(初級) IIb」を修得しているものとみなす。  
同様に、「選択(中級)」を修得していた場合は、「選択(中級) a」および「選択(中級) b」を修得しているものとみなす。

⑦ 「ディプロム・コース」は同一言語の同グレード内での重複・反復履修はA・B合わせて3単位を限度とし、そのうち2単位までを卒業要件単位に算入することができる。

※単位修得の例

- ・「ディプロム・コース中級(独語) A」を2単位、「ディプロム・コース中級(独語) B」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- ・「ディプロム・コース中級(仏語) A」を2単位、「ディプロム・コース上級(仏語) A」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- ・「ディプロム・コース中級(独語) A」を3単位、「ディプロム・コース中級(仏語) A」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

⑧ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項⑦については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧科目	新科目
ディプロム・コース中級(独語) A	ディプロム・コース中級(独語) a
ディプロム・コース中級(独語) B	ディプロム・コース中級(独語) b
ディプロム・コース上級(独語) A	ディプロム・コース上級(独語) a
ディプロム・コース上級(独語) B	ディプロム・コース上級(独語) b
ディプロム・コース中級(仏語) A	ディプロム・コース中級(仏語) a
ディプロム・コース中級(仏語) B	ディプロム・コース中級(仏語) b
ディプロム・コース上級(仏語) A	ディプロム・コース上級(仏語) a
ディプロム・コース上級(仏語) B	ディプロム・コース上級(仏語) b

⑨ 「総合講座V」および「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。

⑩ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。

⑪ 2017年度から、全学共通教育科目のうち、通年(4単位)で開講していた系列科目は(系列科目については【全学共通教育科目】□教養科目群 3系列科目 第7表を参照)、前期a(2単位)、後期b(2単位)に分割して開講する。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目を履修できない。(例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)

- ⑫ キャリアデザイン科目群の開設科目は第16表、国際交流科目群の開設科目は第17表、データサイエンス科目群の開設科目は第18表のとおりである。

第16表 キャリアデザイン科目群

授 業 科 目	学年配当	単 位
☆キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
☆キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2
スタート・プログラムⅠ〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
スタート・プログラムⅡ〈企業提案〉	1・2	2
スタート・プログラムⅢ〈企業との協働〉	1・2	2
ワークライフバランス論	2～4	2
※キャリアモデル・ケーススタディ	2～4	2
アドバンス・プログラム	2・3	2
業界企業分析論	2～4	2
職業選択論	2～4	2
※グローバルビジネス論	3・4	2
チャレンジ・プログラム	3・4	2
時事英語Ⅰ	1～4	2
時事英語Ⅱ	1～4	2
時事問題研究	2～4	2
※就業力実践Ⅰ	2～4	2
※就業力実践Ⅱ	2～4	2
※就業力実践Ⅲ	2～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第16表の注意事項】

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、4単位を限度として自由設計科目の卒業要件単位に算入することができる。ただし、3年次以降は履修できない。
- ② 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（2科目4単位）の単位の修得が履修の条件となる。
- ③ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ④ 「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」および「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
- ⑤ 「チャレンジ・プログラム」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。
- ⑥ キャリアデザイン科目群の開設科目は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑦ キャリアデザイン科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
  - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【[全学共通教育科目](#)】[Ⅴ](#)キャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【[履修規定](#)】[Ⅰ](#)総説 [Ⅱ](#)履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

第17表 国際交流科目群

区分	授業科目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1	
英語等による 地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
英語等による 特定のテーマ を扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期 語学研修	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1～4	2

履修規定

経済学科

2016年度以前入学者用

第17表 国際交流科目群（つづき）

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
受け入れ留学生科目	日本語A〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語A〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語A〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語A〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈初級〉	1～4	8
	日本語B〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈中級・総合日本語〉	1～4	2
日本語B〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第17表の注意事項】

- ① 国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- ② 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。  
研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ③ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の認定を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。  
また、特別な履修登録手続きを行う科目であること、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることも考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ④ 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
- ⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑦ 国際交流科目群の授業科目には、特別な履修登録手続きが必要な科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑧ 国際交流科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。  
  - ・国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ総説Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑨ 2018年度に「Special Topics ⅣA」、「Special Topics ⅣB」が新設された。
- ⑩ 2017年度をもって「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。
- ⑪ 2018年度に「Academic Skills ⅤA」、「Academic Skills ⅤB」、「Academic Skills ⅥA」、「Academic Skills ⅥB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。



第18表 データサイエンス科目群

授 業 科 目	学年配当	単 位
☆データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
☆データサイエンス概論	1～4	2
☆データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
データサイエンス応用	2～4	2
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第18表の注意事項】

- ① データサイエンス科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として自由設計科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ③ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ④ データサイエンス科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑤ データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅰ】総説【B】履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。



## C 他学部開設科目

他学部開設科目は、第19表に示すとおりである。

第19表 他学部開設科目 2016年度入学者用

授業科目	学年配当	単位	開設学部	授業科目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ語(初級)	2~4	4	文芸	東洋美術史一般講義 a	2~4	2	文芸
ギリシャ語(中級)	2~4	4		東洋美術史一般講義 b	2~4	2	
ラテン語(初級)	2~4	4		西洋美術史一般講義 Ia	2~4	2	
ラテン語(中級)	2~4	4		西洋美術史一般講義 Ib	2~4	2	
古代国文学講義 I	2~4	2		西洋美術史一般講義 IIa	2~4	2	
古代国文学講義 II	2~4	2		西洋美術史一般講義 IIb	2~4	2	
中古国文学講義 I	2~4	2		美学特殊講義 I	2~4	2	
中古国文学講義 II	2~4	2		美学特殊講義 II	2~4	2	
中世国文学講義 I	2~4	2		芸術学特殊講義 I	2~4	2	
中世国文学講義 II	2~4	2		芸術学特殊講義 II	2~4	2	
※近世国文学講義 I	2~4	2		芸術学特殊講義 III	2~4	2	
※近世国文学講義 II	2~4	2		芸術学特殊講義 IV	2~4	2	
近代国文学講義 I	2~4	2		芸術学特殊講義 V	2~4	2	
近代国文学講義 II	2~4	2		美術史特殊講義 I	2~4	2	
漢文学講義 I	2~4	2		美術史特殊講義 II	2~4	2	
漢文学講義 II	2~4	2		美術史特殊講義 III	2~4	2	
国語学講義 I	2~4	2		美術史特殊講義 IV	2~4	2	
国語学講義 II	2~4	2		美術史特殊講義 V	2~4	2	
国語国文学講義 I	2~4	2		文化史特殊講義 IIa	2~4	2	
国語国文学講義 II	2~4	2		文化史特殊講義 IIb	2~4	2	
国語国文学講義 III	2~4	2		文化史特殊講義 IIIa	2~4	2	
国語国文学講義 IV	2~4	2		文化史特殊講義 IIIb	2~4	2	
国語国文学講義 V	2~4	2		文化史特殊講義 IVa	2~4	2	
国語国文学講義 VI	2~4	2		文化史特殊講義 IVb	2~4	2	
国語国文学講義 VII	2~4	2		民俗学特殊講義 Ia	2~4	2	
国語国文学講義 VIII	2~4	2		民俗学特殊講義 Ib	2~4	2	
国語国文学講義 IX	2~4	2		民俗学特殊講義 IIa	2~4	2	
国語国文学講義 X	2~4	2		民俗学特殊講義 IIb	2~4	2	
英語学概論	2~4	4		民俗学特殊講義 IIIa	2~4	2	
英語文学史	2~4	4		民俗学特殊講義 IIIb	2~4	2	
英語学特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 Ia	2~4	2	
英語学特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 Ib	2~4	2	
英語文学特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 IIa	2~4	2	
英語文学特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 IIb	2~4	2	
英語文化特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 IIIa	2~4	2	
英語文化特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 IIIb	2~4	2	
美学・芸術学入門 a	2~4	2		考古学 a	2~4	2	
美学・芸術学入門 b	2~4	2		考古学 b	2~4	2	
美術史入門 a	2~4	2		マスコミ原論	2~4	2	
美術史入門 b	2~4	2		マスコミ史	2~4	2	
美学一般講義 a	2~4	2		ジャーナリズム論	2~4	2	
美学一般講義 b	2~4	2		リスクコミュニケーション論	2~4	2	
音楽学一般講義 a	2~4	2		社会心理学	2~4	2	
音楽学一般講義 b	2~4	2	広告心理学	2~4	2		
演劇学一般講義 a	2~4	2	マスコミ研究法	2~4	2		
演劇学一般講義 b	2~4	2	※マスコミ講義 I	2~4	2		
映画学一般講義 a	2~4	2	※マスコミ講義 II	2~4	2		
映画学一般講義 b	2~4	2	※マスコミ講義 III	2~4	2		
日本美術史一般講義 a	2~4	2	マスコミ講義 IV	2~4	2		
日本美術史一般講義 b	2~4	2	マスコミ講義 V	2~4	2		

履修規定

経済学科

2016年度以前入学者用

第19表 他学部開設科目 (つづき)

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
※マスコミ講義Ⅵ	2~4	2	文芸	ヨーロッパの文学講義Ⅰ (独)	2~4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2~4	2		ヨーロッパの文学講義Ⅱ (仏)	2~4	2	
マスコミ講義Ⅷ	2~4	2		西洋古典特殊講義 a	2~4	2	
マスコミ講義Ⅸ	2~4	2		西洋古典特殊講義 b	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅰ	2~4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa (独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅱ	2~4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb (独)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅲ	2~4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa (仏)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅳ	2~4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb (仏)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅴ	2~4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ (独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅵ	2~4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ (仏)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅶ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa (独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅷ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb (独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅸ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa (仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅰ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb (仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅱ	2~4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ (独)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅲ	2~4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ (仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅳ	2~4	2		ヨーロッパ文化史	2~4	4	法
マスコミ特殊講義Ⅴ	2~4	2		アメリカ文化史	2~4	4	
マスコミ特殊講義Ⅵ	2~4	2		日本文学	2~4	4	
ヨーロッパの文化	2~4	4		外国文学	2~4	4	
ヨーロッパの思想講義Ⅰ (独)	2~4	2	※エコロジー論	2~4	4	社会 イノベ ーション	
ヨーロッパの思想講義Ⅱ (仏)	2~4	2	文明と社会	2~4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ (独)	2~4	2	家族と社会の変動	2~4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ (仏)	2~4	2	短期学外演習〈自然〉	2~4	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

第19表 他学部開設科目 2015年度以前入学者用

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ語 (初級)	1~4	4	文芸
ギリシャ語 (中級)	1~4	4	
ラテン語 (初級)	1~4	4	
ラテン語 (中級)	1~4	4	
マスコミ研究法	1~4	2	

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第19表の注意事項】

【2016年度入学者】

- ① 他学部開設科目は、履修登録締切日が通常の日程とは異なる。詳細については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。

## D スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は、第20表に示すとおりである。

第20表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目 (半期2単位)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目 (半期または集中1単位)	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
	身体表現文化	剣道（古武道）	ダンスパフォーマンス

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第20表の注意事項】

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位として認められる。**
- ② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ③ スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。**後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。**
- ⑥ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑦ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。
- ⑧ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

## Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

- ① 第21表に示す教職関連科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
- ② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。**
- ③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程】Ⅰ 教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

第21表 教職関連科目 2015年度以降入学者

授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説a	2~4	2
日本史概説b	2~4	2
文化史特殊講義Ⅰa	2~4	2
文化史特殊講義Ⅰb	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅰa	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅰb	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅱa	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅱb	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅲa	2~4	2
歴史学特殊講義Ⅲb	2~4	2
日本文化史a	2~4	2
日本文化史b	2~4	2
東洋文化史a	2~4	2
東洋文化史b	2~4	2
西洋文化史a	2~4	2
西洋文化史b	2~4	2
人文地理学a	2~4	2
人文地理学b	2~4	2
地理学講義a	2~4	2
地理学講義b	2~4	2
地 誌 学a	2~4	2
地 誌 学b	2~4	2
哲 学 講 義a	2~4	2
哲 学 講 義b	2~4	2
宗教学講義a	2~4	2
宗教学講義b	2~4	2
倫理学講義a	2~4	2
倫理学講義b	2~4	2
哲学史特殊講義a	2~4	2
哲学史特殊講義b	2~4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

第21表 教職関連科目 2014年度以前入学者

授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説	2~4	4
文化史特殊講義Ⅰ	2~4	4
文化史特殊講義Ⅱ	2~4	4
文化史特殊講義Ⅲ	2~4	4
歴史学特殊講義Ⅰ	2~4	4
歴史学特殊講義Ⅱ	2~4	4
歴史学特殊講義Ⅲ	2~4	4
日本文化史	2~4	4
東洋文化史	2~4	4
西洋文化史	2~4	4
人文地理学	2~4	4
地理学講義	2~4	4
地 誌 学	2~4	4
哲 学 講 義	2~4	4
宗教学講義	2~4	4
倫理学講義	2~4	4
哲学史特殊講義	2~4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

# 経営学科履修規定

[2017年度以降入学者用]

I	総説	90
	A. 開設科目および卒業要件単位数	90
	B. 履修単位制限	91
	C. 2年次から3年次への進級基準	91
II	経営学科授業科目一覧表	92
III	—1 分野別履修方法（基礎科目）	98
	A. 語学	98
	B. 初年次教育科目	99
III	—2 分野別履修方法（専門科目）	99
	A. 必修科目	100
	B. 専門基礎科目	100
	C. 専門選択科目	101
III	—3 分野別履修方法（自由設計科目）	102
	A. 専門関連科目	103
	B. 教養科目	104
III	—4 分野別履修方法（教職関連科目）	116
IV	経営学科 履修系統図	118

# I 総説

## A 開設科目および卒業要件単位数

- 1 開設科目** 授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。
- 2 卒業要件単位数** 卒業に必要な単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から第1表に示す規定の単位数を修得しなければならない。
- 3 履修上の注意** 履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経営学科 開設科目および卒業要件単位数

分野	区 分		規定単位数	
基礎科目	語学	英語	8	
		第二外国語	6	
	初年次教育科目	ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ	8	
		データ分析Ⅰ・Ⅱ		
専門科目	ゼミナール		12	
	専門基礎科目		8 (注1)	
	専門選択科目		44 (注2)	
自由設計科目	専門関連科目	経済学関連科目	20	
		法学関連科目		
	教養科目	経済学部開設・教養科目		18 (注1)
		全学共通教育科目	リテラシー科目群	
			教養科目群	
			キャリアデザイン科目群(注3)	
			国際交流科目群(注4)	
	データサイエンス科目群(注5)			
他学部開設科目(注6)				
スポーツ・ウエルネス教育科目(注7)				
教職関連科目(注8)			—	
合 計			124	

### 【第1表の注意事項】

- (注1) 専門基礎科目の規定単位数を超えて修得した単位は、教養科目の必要単位数に充当することができる。
- (注2) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、専門関連科目の必要単位数に充当することができる。
- (注3) キャリアデザイン科目群のうち「キャリア形成Ⅰ～Ⅳ」から2単位、「プロジェクト演習」から2単位のみ卒業要件単位として認められる。その他のキャリアデザイン科目の修得単位は、卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。
- (注4) 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- (注5) データサイエンス科目群のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、卒業要件単位に算入することができない。
- (注6) 他学部開設科目は、8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。
- (注7) スポーツ・ウエルネス教育科目は、4単位まで卒業要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。
- (注8) 教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。



**B**

**履修単位制限**

**1 履修単位制限**

この制度は、履修登録に当たって、安易な登録による科目履修の途中放棄の防止と学問上の興味や知的関心、時間的制約などを十分考慮した上での授業科目選択を促すために設けられたものである。

**2 履修科目登録上限単位数**

第2表 履修科目登録上限単位数

1 年	2 年	3 年	4 年
48	48	48	48

※1年次は、後期に英語（2単位）を履修するため、教務部で事前にダミーの科目を2単位分履修登録してある。

**【第2表の注意事項】**

以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項を参照すること。

- ・ 教職関連科目
- ・ 教職課程における「教職に関する科目」
- ・ キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ・ 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」と「留学準備演習」）
- ・ データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

**C**

**2年次から3年次への進級基準**

2年次から3年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

分野	区 分		規定単位数
	語学	英語 第二外国語	
基礎科目	初年次教育科目	ビジネス概論Ⅰ・Ⅱ	4
		データ分析Ⅰ・Ⅱ	4
	ゼミナール	2年次ゼミナール	4
専門科目	専門基礎科目		8
	専門選択科目		8
自由設計科目	教養科目(注2)		10
計			48

(注1)

**【第3表の注意事項】**

(注1) 専門基礎科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な教養科目の単位数（10単位）に充当することができる。

(注2) スポーツ・ウェルネス教育科目は、4単位まで進級要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。

# Ⅱ 経営学科授業科目一覽表

第4表

分野・区分		学年配当		1 年	2 年
基礎科目	語学	英語	基礎英語読解 (1) a①	基礎英語読解 (2) a①	基礎英語読解 (2) b①
			基礎英語読解 (1) b①		
			英語読解 (1) a①	英語読解 (2) a①	英語読解 (2) b①
			英語読解 (1) b①		
			上級英語読解 (1) a①	上級英語読解 (2) a①	上級英語読解 (2) b①
			上級英語読解 (1) b①		
			Basic Communicative English (1) a①	Basic Communicative English (2) a①	Basic Communicative English (2) b①
		Basic Communicative English (1) b①			
		Communicative English (1) a①	Communicative English (2) a①	Communicative English (2) b①	
		Communicative English (1) b①			
Advanced Communicative English (1) a①	Advanced Communicative English (2) a①	Advanced Communicative English (2) b①			
Advanced Communicative English (1) b①					
		基礎TOEIC a①	基礎TOEIC b①		
		TOEIC a①	TOEIC b①		
		上級TOEIC a①	上級TOEIC b①		
	第二外国語	独語 (初級) a②	独語 (初級) b②	独語 (中級) a①	独語 (中級) b①
		仏語 (初級) a②	仏語 (初級) b②	仏語 (中級) a①	仏語 (中級) b①
		中国語 (初級) a②	中国語 (初級) b②	中国語 (中級) a①	中国語 (中級) b①
	初年次教育科目	ビジネス概論 I ②	データ分析 I ②		
		ビジネス概論 II ②	データ分析 II ②		
	ゼミナール			2年次ゼミナール④	
	専門基礎科目	経営学総論 I ②	商学総論 I ②		
		経営学総論 II ②	商学総論 II ②		
		会計学総論 I ②	経済学 I ②		
		会計学総論 II ②	経済学 II ②		
	専門科目	専門選択科目		[2~4年]	
				企業会計論 I ②	財務会計論 II ②
			企業会計論 II ②	原価計算論④	
			経営管理論 I ②	財務管理論 I ②	
			経営管理論 II ②	財務管理論 II ②	
			経営史 I ②	ビジネスライティング I ②	
			経営史 II ②	ビジネスライティング II ②	
			マーケティング論 I ②	経営英書講読 I ②	
			マーケティング論 II ②	経営英書講読 II ②	
			経営統計学 I ②	証券市場論 I ②	
			経営統計学 II ②	証券市場論 II ②	
			経営数学 I ②	経営戦略論 I ②	
			経営数学 II ②	経営戦略論 II ②	
			財務会計論 I ②	経営組織論 I ②	
	自由設計科目	経済学関連科目	[1~4年]	[2年]	
			外国史概説 A②	ミクロ経済学④	数理経済学B②
		外国史概説 B②	ミクロ経済学概論②	※経済変動論A②	
		社会問題入門②	マクロ経済学概論②	※経済変動論B②	
		社会科学入門②	マクロ経済学 I ②	※経済統計論④	
			マクロ経済学 II ②	計量経済学 I ②	
			統計学④	計量経済学 II ②	
			経済学史 I ②	産業経済学④	
			経済学史 II ②	経済思想史 I ②	
			市場と政府 I ②	経済思想史 II ②	
			※市場と政府 II ②	金融論 I ②	
			社会経済史 I ②	金融論 II ②	
			社会経済史 II ②	国際金融論 I ②	
			社会政策 I ②	国際金融論 II ②	
			社会政策 II ②	財政学 I ②	
			※数理経済学A②	財政学 II ②	
	自由設計科目	法学関連科目		[2~4年]	
				民法概論④	
			商法概論④		
			憲法④		

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

3 年		4 年		卒業要件 単位数		
				8		
				6		
				8		
3年次ゼミナール④		4年次ゼミナール（卒業論文を含む）④		12		
				8		
経営組織論Ⅱ② 人的資源論Ⅰ② 人的資源論Ⅱ② ベンチャービジネス論Ⅰ② ベンチャービジネス論Ⅱ② ※生産管理論Ⅰ② ※生産管理論Ⅱ② 企業論Ⅰ② 企業論Ⅱ② 経営情報論Ⅰ② 経営情報論Ⅱ② 消費者行動論Ⅰ② 消費者行動論Ⅱ②		商品開発論Ⅰ② 商品開発論Ⅱ② 管理会計論④ ※税務会計論Ⅰ② ※税務会計論Ⅱ② ※国際経営論Ⅰ② ※国際経営論Ⅱ② ※公企業論Ⅰ② ※公企業論Ⅱ② 交通論Ⅰ② 交通論Ⅱ② ※貿易論Ⅰ② ※貿易論Ⅱ②		リスクマネジメント論Ⅰ② リスクマネジメント論Ⅱ② 金融システム論Ⅰ② 金融システム論Ⅱ② 会計監査論Ⅰ② 会計監査論Ⅱ② 財務諸表分析Ⅰ② 財務諸表分析Ⅱ② ※中小企業論Ⅰ② ※中小企業論Ⅱ② ※コンピュータ論Ⅰ② ※コンピュータ論Ⅱ② 経営学特殊講義A②	※経営学特殊講義B② ※経営学特殊講義C② ※経営学特殊講義D② ※経営学特殊講義E② ※経営学特殊講義F②	44
公共経済学Ⅰ② 公共経済学Ⅱ② 医療経済論Ⅰ② 医療経済論Ⅱ② 国際貿易論Ⅰ② 国際貿易論Ⅱ② 開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 食料・資源経済論Ⅰ② 食料・資源経済論Ⅱ② 日本経済史Ⅰ② 日本経済史Ⅱ② 西洋経済史Ⅰ② 西洋経済史Ⅱ② 東洋経済史Ⅰ②		東洋経済史Ⅱ② 現代経済史Ⅰ② 現代経済史Ⅱ② 社会思想史Ⅰ② 社会思想史Ⅱ② 社会保障論Ⅰ② 社会保障論Ⅱ② 社会キャリア論A② 社会キャリア論B② 社会デザイン論Ⅰ② 社会デザイン論Ⅱ② 日本経済論A② 日本経済論B② 世界経済事情A② 世界経済事情B②		国際関係論Ⅰ② 国際関係論Ⅱ② 経済地理学Ⅰ② 経済地理学Ⅱ② 英経済書講読Ⅰ② 英経済書講読Ⅱ② ※独経済書講読A② ※独経済書講読B② 仏経済書講読A② 仏経済書講読B② 中国経済書講読A② 中国経済書講読B② 応用経済学特別講義C② ※応用経済学特別講義D②	[3・4年] 比較制度論A② ※比較制度論B② ※経済理論特別講義A② ※経済理論特別講義B② ※応用経済学特別講義A② ※応用経済学特別講義B② 経済史特別講義A② 経済史特別講義B② ※社会問題特別講義A② ※社会問題特別講義B②	20
[3・4年] 会社法Ⅰ② 会社法Ⅱ② 国際法Ⅰ④ 国際法Ⅱ④ 行政法Ⅰ④ 行政学④		労働基準法④ 労働組合法④ 国際取引法④ 環境法② 社会保障法④ 税法Ⅰ②		税法Ⅱ② 金融商品取引法② 有価証券法② 商取引法② 経済法Ⅰ② 経済法Ⅱ②	国際経済法④ 公務員法・行政組織法② 消費者法Ⅰ② ※消費者法Ⅱ② 知的財産法④	

第4表 II. 経営学科授業科目一覧表(つづき①)

学年配当		1 年		2 年		
分野・区分						
履修規定	経済学部 開設・ 教養科目	[1~4年]				
		外国文化Ⅰa② 外国文化Ⅰb② 外国文化Ⅱa② 外国文化Ⅱb② 外国文化Ⅲa②	外国文化Ⅲb② 外国文化Ⅳa② 外国文化Ⅳb② 心理学a② 心理学b②	数学Ⅰa② 数学Ⅰb② 数学Ⅱa② 数学Ⅱb② ※現代社会とスポーツ②		
履修規定	自由設計科目	[1~4年] WRD④				
		英語リスニング&スピーキング(初級)a① 英語リスニング&スピーキング(初級)b① 英語リスニング&スピーキング(中級)a① 英語リスニング&スピーキング(中級)b① 英語リスニング&スピーキング(上級)a① 英語リスニング&スピーキング(上級)b① 英語リーディング&ライティング(初級)a① 英語リーディング&ライティング(初級)b① 英語リーディング&ライティング(中級)a① 英語リーディング&ライティング(中級)b① 英語リーディング&ライティング(上級)a①	英語リーディング&ライティング(上級)b① 英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 独会話選択a① 独会話選択b①	独語選択(初級)Ⅰa① 独語選択(初級)Ⅰb① 独語選択(初級)Ⅱa① 独語選択(初級)Ⅱb① 独語選択(中級)a① 独語選択(中級)b① 独語選択(上級)a① 独語選択(上級)b① 仏会話選択a① 仏会話選択b① 仏語選択(初級)Ⅰa①		
履修規定	教養科目	コンピュータ・リテラシーA 1② コンピュータ・リテラシーA 2②		コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC②		
		※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉②		総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ②		
履修規定	全学共通 教育科目	成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②		※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②		
		社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a②		情報社会論入門b② 法学(含む日本国憲法)a② 法学(含む日本国憲法)b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb② 社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b②		
履修規定	経営学科	※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージをよむ〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a②		※成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ〈成城と自然〉②		
		キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は				

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

3、4年			卒業要件 単位数
※スポーツ産業論② TOEIC (特級) I a① TOEIC (特級) I b① TOEIC (特級) II a① TOEIC (特級) II b①	選択英語a① 選択英語b① 中国語 (特級) a① 中国語 (特級) b① ※政治経済論入門 I ②	※政治経済論入門 II ②	
仏語選択 (初級) I b① 仏語選択 (初級) II a① 仏語選択 (初級) II b① 仏語選択 (中級) a① 仏語選択 (中級) b① 仏語選択 (上級) a① 仏語選択 (上級) b① スペイン語選択 (初級) a① スペイン語選択 (初級) b① スペイン語選択 (中級・ディプロム) a① スペイン語選択 (中級・ディプロム) b①	中国語選択 (初級) I a① 中国語選択 (初級) I b① 中国語選択 (初級) II a① 中国語選択 (初級) II b① 中国語選択 (中級) a① 中国語選択 (中級) b① 中国語選択 (上級) a① 中国語選択 (上級) b① 韓国語選択 (初級) a① 韓国語選択 (初級) b① 韓国語選択 (中級・ディプロム) a①	韓国語選択 (中級・ディプロム) b① ディプロム・コース中級 (独語) a① ディプロム・コース中級 (独語) b① ディプロム・コース上級 (独語) a① ディプロム・コース上級 (独語) b① ディプロム・コース中級 (仏語) a① ディプロム・コース中級 (仏語) b① ディプロム・コース上級 (仏語) a① ディプロム・コース上級 (仏語) b①	
※図書館活用法②			
総合講座V (余暇学 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)) ② 総合講座VI (中国文学入門 (世田谷6大学コンソーシアム連携授業)) ②		※特別講座 I ② ※特別講座 II ②	
表現文化論演習b② 歴史学入門a② 歴史学入門b② 日本近現代史a② 日本近現代史b② ヨーロッパ近現代史a② ヨーロッパ近現代史b② アジア近現代史a② アジア近現代史b② アメリカ近現代史 a② アメリカ近現代史 b② ※歴史文化論 I a② ※歴史文化論 I b② 歴史文化論 II a (江戸の文化)② 歴史文化論 II b (江戸の文化)② 歴史文化論 III a (グローバル・ヒストリーと西欧)② 歴史文化論 III b (グローバル・ヒストリーと非西欧)② ※歴史文化論 IV a② ※歴史文化論 IV b② ※歴史文化論 Va② ※歴史文化論 Vb② ※歴史文化論演習 a② ※歴史文化論演習 b② 文化人類学入門 a② 文化人類学入門 b② 空間システム論入門 a② 空間システム論入門 b② 地域空間論 I a (EU 論)② 地域空間論 I b (EU 論)②	地域空間論 II a (朝鮮半島の社会と文化)② 地域空間論 II b (朝鮮半島の社会と文化)② 地域空間論 III a (東南アジアの社会と文化)② 地域空間論 III b (東南アジアの社会と文化)② ※地域空間論 IV a② ※地域空間論 IV b② ※地域空間論 Va② ※地域空間論 Vb② 地域空間論 VI a (アフリカの社会と文化)② 地域空間論 VI b (アフリカの社会と文化)② 地域空間論 VII a (日本と東アジアの社会と文化)② 地域空間論 VII b (日本と東アジアの社会と文化)② 地域空間論 VIII a (中東の社会と文化)② 地域空間論 VIII b (中東の社会と文化)② ※地域空間論演習 a② ※地域空間論演習 b② ※数理の世界 a② ※数理の世界 b② 数理科学 I a (情報と論理)② 数理科学 I b (情報と論理)② ※数理科学 II a② ※数理科学 II b② 物理の世界 a② 物理の世界 b② 化学の世界 a② 化学の世界 b② 生命科学の世界 a② 生命科学の世界 b② 科学史 a②	科学史 b② ※自然科学 I a② 自然科学 I b (自然と漁業・林業)② 自然科学 II a (地球と環境)② 自然科学 II b (地球と環境)② 自然科学 III a (地球科学)② 自然科学 III b (地球科学)② ※自然科学 IV a② ※自然科学 IV b② 自然科学 Va (比較行動学)② 自然科学 Vb (比較行動学)② 数理・自然科学演習 a② 数理・自然科学演習 b② ことごとと身体 a② ことごとと身体 b② ※身体と運動・スポーツ a② ※身体と運動・スポーツ b② 心身論 I a (脳の機能と心の機能)② 心身論 I b (精神疾患と脳)② 心身論 II a (ことごとと発達)② 心身論 II b (ことごとと社会)② 心身論 III a (運動・スポーツと心のしくみ)② 心身論 III b (運動・スポーツと身体のしくみ)② 心身論 IV a (食と健康)② 心身論 IV b (食と環境)② ※心身論 Va② ※心身論 Vb② 心身論演習 a② 心身論演習 b②	18
Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) Ⅳ 教養科目 2 全学共通教育科目を参照			

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

第4表 II. 経営学科授業科目一覧表（つづき②）

学年配当		1 年	2 年
分野・区分			
自由設計科目	他学部開設科目		[2~4年] ギリシャ古典入門④ 英語文学史④ ギリシャ古典講読④ 美学・芸術学入門a② ローマ古典入門④ 美学・芸術学入門b② ローマ古典講読④ 美術史入門a② 古代国文学講義I② 美術史入門b② 古代国文学講義II② 美学一般講義a② 中古国文学講義I② 美学一般講義b② 中古国文学講義II② 音楽学一般講義a② 中世国文学講義I② 音楽学一般講義b② 中世国文学講義II② 演劇学一般講義a② ※近世国文学講義I② 演劇学一般講義b② ※近世国文学講義II② 映画学一般講義a② 近代国文学講義I② 映画学一般講義b② 近代国文学講義II② 日本美術史一般講義a② 漢文学講義I② 日本美術史一般講義b② 漢文学講義II② 東洋美術史一般講義a② 国語学講義I② 東洋美術史一般講義b② 国語学講義II② 西洋美術史一般講義Ia② 国語国文学講義I② 西洋美術史一般講義Ib② 国語国文学講義II② 西洋美術史一般講義IIa② 国語国文学講義III② 西洋美術史一般講義IIb② 国語国文学講義IV② 美学特殊講義I② 国語国文学講義V② 美学特殊講義II② 国語国文学講義VI② 芸術学特殊講義I② 国語国文学講義VII② 芸術学特殊講義II② 国語国文学講義VIII② 芸術学特殊講義III② 国語国文学講義IX② 芸術学特殊講義IV② 国語国文学講義X② 芸術学特殊講義V② 英語学概論④ 美術史特殊講義I②
	スポーツ・ウエルネス教育科目	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）B] 教養科目 4 スポーツ・ウエルネス教育科目を参照】	
	教職関連科目	【教職関連科目は、Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）を参照】	

注1) ○で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用



3、4年			卒業要件 単位数
美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅱa② 文化史特殊講義Ⅱb② 文化史特殊講義Ⅲa② 文化史特殊講義Ⅲb② 文化史特殊講義Ⅳa② 文化史特殊講義Ⅳb② 民俗学特殊講義Ⅰa② 民俗学特殊講義Ⅰb② 民俗学特殊講義Ⅱa② 民俗学特殊講義Ⅱb② 民俗学特殊講義Ⅲa② 民俗学特殊講義Ⅲb② 文化人類学特殊講義Ⅰa② 文化人類学特殊講義Ⅰb② 文化人類学特殊講義Ⅱa② 文化人類学特殊講義Ⅱb② 文化人類学特殊講義Ⅲa② 文化人類学特殊講義Ⅲb② 考古学a② 考古学b② マスコミ原論② リスクコミュニケーション論② マスコミ史② ジャーナリズム論② 社会心理学②	広告心理学② マスコミ研究法② ※マスコミ講義Ⅰ② ※マスコミ講義Ⅱ② ※マスコミ講義Ⅲ② マスコミ講義Ⅳ② マスコミ講義Ⅴ② ※マスコミ講義Ⅵ② マスコミ講義Ⅶ② マスコミ講義Ⅷ② マスコミ講義Ⅸ② ※コミュニケーション講義Ⅰ② コミュニケーション講義Ⅱ② ※コミュニケーション講義Ⅲ② コミュニケーション講義Ⅳ② ※コミュニケーション講義Ⅴ② コミュニケーション講義Ⅵ② ※コミュニケーション講義Ⅶ② コミュニケーション講義Ⅷ② コミュニケーション講義Ⅸ② マスコミ特殊講義Ⅰ② マスコミ特殊講義Ⅱ② マスコミ特殊講義Ⅲ② マスコミ特殊講義Ⅳ② マスコミ特殊講義Ⅴ② マスコミ特殊講義Ⅵ② ヨーロッパの文化④ ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)② 西洋古典特殊講義a② 西洋古典特殊講義b② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパ文化史④ アメリカ文化史④ 日本文学④ 外国文学④ ※エコロジー論④ 文明と社会④ 家族と社会の変動④ 短期学外演習<自然>②	18
[3・4年] 英語学特殊講義A② 英語学特殊講義B②			英語文学特殊講義A② 英語文学特殊講義B② 英語文化特殊講義A② 英語文化特殊講義B②
合 計			124

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

# Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経営学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、語学と初年次教育科目から構成される。

## A 語学

語学は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業・進級に必要な語学の単位数は第5表のとおりである。

第5表 卒業・進級に必要な語学の規定単位数

		1年次		計		
		前期	後期			
英語		基礎英語読解 (1) a① 英語読解 (1) a① 上級英語読解 (1) a①	} いずれか 1科目	基礎英語読解 (1) b① 英語読解 (1) b① 上級英語読解 (1) b①	} いずれか 1科目	4
		Basic Communicative English (1) a① Communicative English (1) a① Advanced Communicative English (1) a①		} いずれか 1科目		
第二外国語	独語	(初級) a②			(初級) b②	
	仏語					
	中国語					
計		4		4		8
		2年次		計		
		前期	後期			
英語		基礎英語読解 (2) a① 英語読解 (2) a① 上級英語読解 (2) a①	} いずれか 1科目	基礎英語読解 (2) b① 英語読解 (2) b① 上級英語読解 (2) b①	} いずれか 1科目	4
		基礎 TOEIC a① TOEIC a① 上級 TOEIC a① Basic Communicative English (2) a① Communicative English (2) a① Advanced Communicative English (2) a①		} いずれか 1科目		
第二外国語	独語	(中級) a①			(中級) b①	
	仏語					
	中国語					
計		3		3		6
計		14				

### 1 「英語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解、もう1つはネイティブの講師による英会話・聞き取り中心のCommunicative Englishである。

2年次では週2回の授業を、1つは読解、もう1つはTOEIC準備コース／Communicative Englishコースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。

※ コース選択の方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

### 2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

### 3 履修上の注意

① 英語は下表のとおり履修する科目が指定されている。

1年次前期	認定テストの結果により決定される
1年次後期	1年次前期の英語科目の成績と8月実施の認定テストの結果により決定される
2年次前期	1年次の英語科目の成績と2月実施の認定テストの結果により決定される
2年次後期	2年次前期と同じクラスを履修する

履修登録は教務部が事前登録を行うので、各自の履修科目をCampus Square for Webの

履修状況メニューで確認すること。なお、1年次後期の科目の担当教員名は「教務部」となっているが、前期の成績確定後に教務部が実際に受講する各授業科目への登録変更を行う。

② 英語の再履修

配当年次や授業の難易度に関わらず、再履修用に開講している科目（「英語読解（再）」、「Communicative English（再）」、「TOEIC（再）」）を、不合格となった科目数分履修すること。なお、**再履修用の科目は重複・反復履修が可能である。**

※ 登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

③ 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再履修の方法	
	前期科目が不合格の場合	後期科目が不合格の場合
初 級	補講 a を履修すること。	補講 b を履修すること。
中 級	2年のいずれかのクラスを再履修すること。	2年のいずれかのクラスを再履修すること。

※ 「補講 a」、「補講 b」は前期に不合格になった場合、後期に同じ科目を再履修できる。

## B 初年次教育科目

### 1 初年次教育科目

初年次教育科目の開設科目は、**第6表**のとおりである。

初年次教育科目は、経営学科の専門領域にわたって共通に必要なとされる基礎的知識・スキルを習得することを目的とした科目である。

第6表 基礎科目B群

授 業 科 目	学年配当	単 位
ビジネス概論Ⅰ	1	2
ビジネス概論Ⅱ	1	2
データ分析Ⅰ	1	2
データ分析Ⅱ	1	2

### 2 履修上の注意

① 「データ分析Ⅰ」、「データ分析Ⅱ」はそれぞれ複数コマ開講されるが、指定されたクラスで履修すること。

② 初年次教育科目が不合格の場合は以下の科目を再履修すること。

単位未修得科目	再履修の方法
ビジネス概論Ⅰ	1年次と同じ科目を再履修すること
ビジネス概論Ⅱ	
データ分析Ⅰ	2年次向けに開講される該当科目を履修すること
データ分析Ⅱ	

## Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「2年次ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎科目、専門選択科目である。卒業に必要な各分野の規定単位数は**第7表**に、またそれぞれの開設科目、学年配当は**第8表～第10表**に示すとおりである。

第7表 専門科目規定単位数

分野	区 分	規定単位数
専 門 科 目	ゼミナール	12
	専門基礎科目	8
	専門選択科目	44
計		64

## A 必修科目

### 1 ゼミナール および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、3年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の習得と、主体的・自立的な人間性の向上を目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第8表 ゼミナール

授 業 科 目	学年配当	単位
2年次ゼミナール	2	4
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

### 2 履修上の注意

- ① ゼミナールは定員が定められており、それを超えた場合には選考することがある。
- ② 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならないが、原則として指導教員の変更は認められない（2年次ゼミナールの再履修を除く）。
- ③ 単位の認定は各年次に行うが、不合格の者は次の年次配当のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
- ④ 「2年次ゼミナール」の登録については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ 2年次から3年次への進級基準を満たさない者は、「2年次ゼミナール」の単位が修得できた場合でもその修得単位は取り消しとなり、「3年次ゼミナール」を履修することができない。
- ⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は4単位である。「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の者は再履修し、卒業論文を再提出することが義務付けられる。
- ⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること】Ⅷ卒業論文】を参照すること。

## B 専門基礎科目

### 1 専門基礎科目

専門基礎科目は第9表に示すとおりである。

専門基礎科目は、経営学科での専門領域の科目を学修する上で必要な基礎的知識を習得することを目的とした科目である。

第9表 専門基礎科目（学年配当：1年次）

授 業 科 目	単位	規定単位数
経営学総論Ⅰ	2	8
経営学総論Ⅱ	2	
会計学総論Ⅰ	2	
会計学総論Ⅱ	2	
商学総論Ⅰ	2	
商学総論Ⅱ	2	
経済学Ⅰ	2	
経済学Ⅱ	2	

### 2 履修上の注意

- ① 専門基礎科目の規定単位数を超えて修得した単位は、教養科目の修得単位として卒業要件単位数に算入することができる。
- ② 専門基礎科目は必修科目ではないが、1年次は全ての科目を履修することになっている。
- ③ 専門基礎科目が不合格の場合は1年次と同じ科目を再履修すること。

## C 専門選択科目

### 1 専門選択科目

専門選択科目は、第10表に示すとおりである。

専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経営学科開設の科目である。

第10表 専門選択科目（学年配当：2～4年次）

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
企業会計論Ⅰ	2～4	2	経営情報論Ⅰ	2～4	2
企業会計論Ⅱ	2～4	2	経営情報論Ⅱ	2～4	2
経営管理論Ⅰ	2～4	2	消費者行動論Ⅰ	2～4	2
経営管理論Ⅱ	2～4	2	消費者行動論Ⅱ	2～4	2
経営史Ⅰ	2～4	2	商品開発論Ⅰ	2～4	2
経営史Ⅱ	2～4	2	商品開発論Ⅱ	2～4	2
マーケティング論Ⅰ	2～4	2	管理会計論	2～4	4
マーケティング論Ⅱ	2～4	2	※税務会計論Ⅰ	2～4	2
経営統計学Ⅰ	2～4	2	※税務会計論Ⅱ	2～4	2
経営統計学Ⅱ	2～4	2	※国際経営論Ⅰ	2～4	2
経営数学Ⅰ	2～4	2	※国際経営論Ⅱ	2～4	2
経営数学Ⅱ	2～4	2	※公企業論Ⅰ	2～4	2
財務会計論Ⅰ	2～4	2	※公企業論Ⅱ	2～4	2
財務会計論Ⅱ	2～4	2	交通論Ⅰ	2～4	2
原価計算論	2～4	4	交通論Ⅱ	2～4	2
財務管理論Ⅰ	2～4	2	※貿易論Ⅰ	2～4	2
財務管理論Ⅱ	2～4	2	※貿易論Ⅱ	2～4	2
ビジネスライティングⅠ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅰ	2～4	2
ビジネスライティングⅡ	2～4	2	リスクマネジメント論Ⅱ	2～4	2
経営英書講読Ⅰ	2～4	2	金融システム論Ⅰ	2～4	2
経営英書講読Ⅱ	2～4	2	金融システム論Ⅱ	2～4	2
証券市場論Ⅰ	2～4	2	会計監査論Ⅰ	2～4	2
証券市場論Ⅱ	2～4	2	会計監査論Ⅱ	2～4	2
経営戦略論Ⅰ	2～4	2	財務諸表分析Ⅰ	2～4	2
経営戦略論Ⅱ	2～4	2	財務諸表分析Ⅱ	2～4	2
経営組織論Ⅰ	2～4	2	※中小企業論Ⅰ	2～4	2
経営組織論Ⅱ	2～4	2	※中小企業論Ⅱ	2～4	2
人的資源論Ⅰ	2～4	2	※コンピュータ論Ⅰ	2～4	2
人的資源論Ⅱ	2～4	2	※コンピュータ論Ⅱ	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義A	2～4	2
ベンチャービジネス論Ⅱ	2～4	2	※経営学特殊講義B	2～4	2
※生産管理論Ⅰ	2～4	2	※経営学特殊講義C	2～4	2
※生産管理論Ⅱ	2～4	2	※経営学特殊講義D	2～4	2
企業論Ⅰ	2～4	2	経営学特殊講義E	2～4	2
企業論Ⅱ	2～4	2	経営学特殊講義F	2～4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 2 履修上の注意

- ① 専門選択科目の卒業に必要な規定単位数は44単位である。
- ② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、専門関連科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。
- ③ 2年次以降、専門選択科目の履修は、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。
- ④ 「ビジネスライティングⅠ・Ⅱ」および「経営情報論Ⅰ・Ⅱ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

# Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

## 1 自由設計科目

自由設計科目は、学生の興味、関心、専門分野に対応した知識を習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、第11表に示されるとおり、10区分から構成されている。なお、自由設計科目の規定単位数は、第12表に示される単位によっても充当することができる。

第11表 自由設計科目

区 分		規定単位数	
専門関連科目	経済学関連科目	20	
	法学関連科目		
教養科目	経済学部開設・教養科目	18	
	全学共通教育科目		リテラシー科目群
			教養科目群
			キャリアデザイン科目群
			国際交流科目群
	データサイエンス科目群		
他学部開設科目			
スポーツ・ウエルネス教育科目			

第12表 自由設計科目に充当できる単位

区 分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
専門選択科目	44	専門関連科目の単位として充当
専門基礎科目の規定単位数を超えて修得した単位	8	教養科目の単位として充当

## 2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。



## A 専門関連科目

専門関連科目は、「経済学関連科目」と「法学関連科目」によって構成される。

### 1 経済学関連科目

経済学関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経済学系の専門科目であり、開設科目は第13表に示すとおりである。

第13表 経済学関連科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
外国史概説 A	1~4	2	日本経済史 I	2~4	2
外国史概説 B	1~4	2	日本経済史 II	2~4	2
社会問題入門	1~4	2	西洋経済史 I	2~4	2
社会科学入門	1~4	2	西洋経済史 II	2~4	2
ミクロ経済学	2~4	4	東洋経済史 I	2~4	2
ミクロ経済学概論	2~4	2	東洋経済史 II	2~4	2
マクロ経済学概論	2~4	2	現代経済史 I	2~4	2
マクロ経済学 I	2~4	2	現代経済史 II	2~4	2
マクロ経済学 II	2~4	2	社会思想史 I	2~4	2
統計学	2~4	4	社会思想史 II	2~4	2
経済学史 I	2~4	2	社会保障論 I	2~4	2
経済学史 II	2~4	2	社会保障論 II	2~4	2
市場と政府 I	2~4	2	社会キャリア論 A	2~4	2
※市場と政府 II	2~4	2	社会キャリア論 B	2~4	2
社会経済史 I	2~4	2	社会デザイン論 I	2~4	2
社会経済史 II	2~4	2	社会デザイン論 II	2~4	2
社会政策 I	2~4	2	日本経済論 A	2~4	2
社会政策 II	2~4	2	日本経済論 B	2~4	2
※数理経済学 A	2~4	2	世界経済事情 A	2~4	2
数理経済学 B	2~4	2	世界経済事情 B	2~4	2
※経済変動論 A	2~4	2	国際関係論 I	2~4	2
※経済変動論 B	2~4	2	国際関係論 II	2~4	2
※経済統計論	2~4	4	経済地理学 I	2~4	2
計量経済学 I	2~4	2	経済地理学 II	2~4	2
計量経済学 II	2~4	2	英経済書講読 I	2~4	2
産業経済学	2~4	4	英経済書講読 II	2~4	2
経済思想史 I	2~4	2	※独経済書講読 A	2~4	2
経済思想史 II	2~4	2	※独経済書講読 B	2~4	2
金融論 I	2~4	2	仏経済書講読 A	2~4	2
金融論 II	2~4	2	仏経済書講読 B	2~4	2
国際金融論 I	2~4	2	中国経済書講読 A	2~4	2
国際金融論 II	2~4	2	※中国経済書講読 B	2~4	2
財政学 I	2~4	2	比較制度論 A	3・4	2
財政学 II	2~4	2	※比較制度論 B	3・4	2
公共経済学 I	2~4	2	※経済理論特別講義 A	3・4	2
公共経済学 II	2~4	2	※経済理論特別講義 B	3・4	2
医療経済論 I	2~4	2	※応用経済学特別講義 A	3・4	2
医療経済論 II	2~4	2	※応用経済学特別講義 B	3・4	2
国際貿易論 I	2~4	2	応用経済学特別講義 C	2~4	2
国際貿易論 II	2~4	2	※応用経済学特別講義 D	2~4	2
開発経済学 I	2~4	2	経済史特別講義 A	3・4	2
開発経済学 II	2~4	2	経済史特別講義 B	3・4	2
食料・資源経済論 I	2~4	2	※社会問題特別講義 A	3・4	2
食料・資源経済論 II	2~4	2	※社会問題特別講義 B	3・4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

#### 〔第13表の注意事項〕

2018年度に「英経済書講読A」と「英経済書講読B」の科目名称は「英経済書講読I」と「英経済書講読II」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。

## 2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、第14表に示すとおりである。

第14表 法学関連科目

授業科目	学年配当	単位	授業科目	学年配当	単位
民法概論	2~4	4	社会保障法	3・4	4
商法概論	2~4	4	税法Ⅰ	3・4	2
憲法	2~4	4	税法Ⅱ	3・4	2
会社法Ⅰ	3・4	2	金融商品取引法	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2	有価証券法	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4	商取引法	3・4	2
国際法Ⅱ	3・4	4	経済法Ⅰ	3・4	2
行政法Ⅰ	3・4	4	経済法Ⅱ	3・4	2
行政学	3・4	4	国際経済法	3・4	4
労働基準法	3・4	4	公務員法・行政組織法	3・4	2
労働組合法	3・4	4	消費者法Ⅰ	3・4	2
国際取引法	3・4	4	※消費者法Ⅱ	3・4	2
環境法	3・4	2	知的財産法	3・4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第14表の注意事項】

「行政法Ⅰ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## B 教養科目

教養科目は「経済学部開設・教養科目」、「全学共通教育科目」、「他学部開設科目」、「スポーツ・ウエルネス教育科目」によって構成される。

### 1 経済学部開設・教養科目

経済学部開設・教養科目は、第15表に示すとおりである。

第15表 教養科目（学年配当：1~4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
外国文化Ⅰa	2	心理学b	2	TOEIC（特級）Ⅱa	1
外国文化Ⅰb	2	数学Ⅰa	2	TOEIC（特級）Ⅱb	1
外国文化Ⅱa	2	数学Ⅰb	2	選択英語a	1
外国文化Ⅱb	2	数学Ⅱa	2	選択英語b	1
外国文化Ⅲa	2	数学Ⅱb	2	中国語（特級）a	1
外国文化Ⅲb	2	※現代社会とスポーツ	2	中国語（特級）b	1
外国文化Ⅳa	2	※スポーツ産業論	2	※政治経済論入門Ⅰ	2
外国文化Ⅳb	2	TOEIC（特級）Ⅰa	1	※政治経済論入門Ⅱ	2
心理学a	2	TOEIC（特級）Ⅰb	1		

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第15表の注意事項】

- ① 2018年度に「TOEIC（特級）a」と「TOEIC（特級）b」の科目名称は「TOEIC（特級）Ⅰa」と「TOEIC（特級）Ⅰb」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。
- ② 2018年度に「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」、「中国語（特級）a」、「中国語（特級）b」が新設された。
- ③ 「TOEIC（特級）Ⅰa」、「TOEIC（特級）Ⅰb」、「TOEIC（特級）Ⅱa」、「TOEIC（特級）Ⅱb」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## 2 全学共通教育科目

全学共通教育科目は、第16表～第20表に示すとおりである。

### 〔注意事項〕

全学共通教育科目の学年配当は、第18表に記載する「キャリアデザイン科目」、第19表に記載する「国際交流科目」、第20表に記載する「データサイエンス科目」を除き、1～4年次である。

### 〔a リテラシー科目群〕

リテラシー科目群の開設科目は第16表のとおりである。

第16表 リテラシー科目群（学年配当：1～4年次）

授業科目	単位	授業科目	単位
WRD	4	仏語選択（初級）Ⅱb	1
英語リスニング&スピーキング（初級）a	1	仏語選択（中級）a	1
英語リスニング&スピーキング（初級）b	1	仏語選択（中級）b	1
英語リスニング&スピーキング（中級）a	1	仏語選択（上級）a	1
英語リスニング&スピーキング（中級）b	1	仏語選択（上級）b	1
英語リスニング&スピーキング（上級）a	1	スペイン語選択（初級）a	1
英語リスニング&スピーキング（上級）b	1	スペイン語選択（初級）b	1
英語リーディング&ライティング（初級）a	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）a	1
英語リーディング&ライティング（初級）b	1	スペイン語選択（中級・ディプロム）b	1
英語リーディング&ライティング（中級）a	1	中国語選択（初級）Ⅰa	1
英語リーディング&ライティング（中級）b	1	中国語選択（初級）Ⅰb	1
英語リーディング&ライティング（上級）a	1	中国語選択（初級）Ⅱa	1
英語リーディング&ライティング（上級）b	1	中国語選択（初級）Ⅱb	1
英会話選択a	1	中国語選択（中級）a	1
英会話選択b	1	中国語選択（中級）b	1
ビジネス英語a	1	中国語選択（上級）a	1
ビジネス英語b	1	中国語選択（上級）b	1
英文多読a	1	韓国語選択（初級）a	1
英文多読b	1	韓国語選択（初級）b	1
Academic Communication a	1	韓国語選択（中級・ディプロム）a	1
Academic Communication b	1	韓国語選択（中級・ディプロム）b	1
独会話選択a	1	ディプロム・コース中級（独語）a	1
独会話選択b	1	ディプロム・コース中級（独語）b	1
独語選択（初級）Ⅰa	1	ディプロム・コース上級（独語）a	1
独語選択（初級）Ⅰb	1	ディプロム・コース上級（独語）b	1
独語選択（初級）Ⅱa	1	ディプロム・コース中級（仏語）a	1
独語選択（初級）Ⅱb	1	ディプロム・コース中級（仏語）b	1
独語選択（中級）a	1	ディプロム・コース上級（仏語）a	1
独語選択（中級）b	1	ディプロム・コース上級（仏語）b	1
独語選択（上級）a	1	コンピュータ・リテラシーA1	2
独語選択（上級）b	1	コンピュータ・リテラシーA2	2
仏会話選択a	1	コンピュータ・リテラシーB	2
仏会話選択b	1	※コンピュータ・リテラシーC	2
仏語選択（初級）Ⅰa	1	コンピュータ・リテラシーD	2
仏語選択（初級）Ⅰb	1	コンピュータ・リテラシーE	2
仏語選択（初級）Ⅱa	1	※図書館活用法	2

注）※印の科目は本年度休講である。

### 〔第16表の注意事項〕

- ① リテラシー科目群の開設科目は、特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 2018年度から、通年（2単位）で開講していた外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。  
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）

- ③ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

- ④ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目（グレード）	履修の条件 （同一言語において1つ以上の条件を 満たすこと）	備考
独語選択（初級）I a・I b・II a・II b 仏語選択（初級）I a・I b・II a・II b 中国語選択（初級）I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択（中級）a・b 仏語選択（中級）a・b 中国語選択（中級）a・b	・上記「選択（初級）I a」、「選択（初級）I b」、「選択（初級）II a」、「選択（初級）II b」の計4単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。
独語選択（上級）a・b 仏語選択（上級）a・b 中国語選択（上級）a・b	・上記「選択（中級）a」および「選択（中級）b」の計2単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の中級の単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択（初級）A」を修得していた場合は、「選択（初級）I a」と「選択（初級）I b」を、「選択（初級）B」を修得していた場合は、「選択（初級）II a」と「選択（初級）II b」を修得しているものとみなす。  
同様に、「選択（中級）」を修得していた場合は、「選択（中級）a」および「選択（中級）b」を修得しているものとみなす。

- ⑤ 「ディプロム・コース」は重複・反復履修が可能である。ただし、卒業要件単位に算入することができるのは同一言語の同グレード内で2単位までとする。

※単位修得の例

- ・「ディプロム・コース中級（独語）a」を2単位、「ディプロム・コース中級（独語）b」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- ・「ディプロム・コース中級（仏語）a」を2単位、「ディプロム・コース上級（仏語）a」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- ・「ディプロム・コース中級（独語）a」を3単位、「ディプロム・コース中級（仏語）a」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

- ⑥ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項⑤については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧科目	新科目
ディプロム・コース中級（独語）A	ディプロム・コース中級（独語）a
ディプロム・コース中級（独語）B	ディプロム・コース中級（独語）b
ディプロム・コース上級（独語）A	ディプロム・コース上級（独語）a
ディプロム・コース上級（独語）B	ディプロム・コース上級（独語）b
ディプロム・コース中級（仏語）A	ディプロム・コース中級（仏語）a
ディプロム・コース中級（仏語）B	ディプロム・コース中級（仏語）b
ディプロム・コース上級（仏語）A	ディプロム・コース上級（仏語）a
ディプロム・コース上級（仏語）B	ディプロム・コース上級（仏語）b

[ b 教養科目群 ]

教養科目群の開設科目は第17表のとおりである。

第17表 教養科目群 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
※総合講座 I	2	※社会構造論Ⅲa	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉	2	※社会構造論Ⅲb	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2	社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉	2
※総合講座Ⅳ	2	社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉	2
総合講座Ⅴ〈余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	2	※社会構造論Ⅴa	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業)〉	2	※社会構造論Ⅴb	2
※特別講座Ⅰ	2	社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉	2
※特別講座Ⅱ	2	※社会構造論Ⅵb	2
成城学園を知る	2	社会構造論演習 a	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2	社会構造論演習 b	2
※成城学Ⅱ	2	哲学入門 a	2
※成城学Ⅲ	2	哲学入門 b	2
※成城学Ⅳ	2	宗教学入門 a	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2	宗教学入門 b	2
社会学入門 a	2	倫理学入門 a	2
社会学入門 b	2	倫理学入門 b	2
メディア論入門 a	2	西洋思想入門 a	2
メディア論入門 b	2	西洋思想入門 b	2
現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉	2	東洋思想入門 a	2
現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉	2	東洋思想入門 b	2
現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉	2	日本思想入門 a	2
現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉	2	日本思想入門 b	2
※現代社会論Ⅲa	2	※思想・人間論Ⅰa	2
※現代社会論Ⅲb	2	※思想・人間論Ⅰb	2
現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉	2	思想・人間論Ⅱa〈イメージを“よむ”〉	2
現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉	2	思想・人間論Ⅱb〈イメージを“よむ”〉	2
※現代社会論Ⅴa	2	※思想・人間論Ⅲa	2
※現代社会論Ⅴb	2	※思想・人間論Ⅲb	2
現代社会論Ⅵa〈平和論〉	2	思想・人間論演習 a	2
現代社会論Ⅵb〈平和論〉	2	思想・人間論演習 b	2
現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	文学入門 a	2
現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉	2	文学入門 b	2
※現代社会論Ⅷa	2	言語学入門 a	2
※現代社会論Ⅷb	2	言語学入門 b	2
※現代社会論演習 a	2	音楽入門 a	2
※現代社会論演習 b	2	音楽入門 b	2
国際関係論入門 a	2	※表象文化論入門 a	2
国際関係論入門 b	2	※表象文化論入門 b	2
経済学入門 a	2	※表現文化論Ⅰa	2
経済学入門 b	2	※表現文化論Ⅰb	2
政治学入門 a	2	※表現文化論Ⅱa	2
政治学入門 b	2	※表現文化論Ⅱb	2
情報社会論入門 a	2	表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉	2
情報社会論入門 b	2	表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉	2
法学(含む日本国憲法) a	2	表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉	2
法学(含む日本国憲法) b	2	表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉	2
社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉	2	※表現文化論Ⅴa	2
社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉	2	※表現文化論Ⅴb	2
社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉	2	表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉	2
社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉	2	表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉	2

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用



第17表 教養科目群（つづき）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
表現文化論演習 a	2	※地域空間論演習 a	2
表現文化論演習 b	2	※地域空間論演習 b	2
歴史学入門 a	2	※数理の世界 a	2
歴史学入門 b	2	※数理の世界 b	2
日本近現代史 a	2	数理科学 I a 〈情報と論理〉	2
日本近現代史 b	2	数理科学 I b 〈情報と論理〉	2
ヨーロッパ近現代史 a	2	※数理科学 II a	2
ヨーロッパ近現代史 b	2	※数理科学 II b	2
アジア近現代史 a	2	物理の世界 a	2
アジア近現代史 b	2	物理の世界 b	2
アメリカ近現代史 a	2	化学の世界 a	2
アメリカ近現代史 b	2	化学の世界 b	2
※歴史文化論 I a	2	生命科学の世界 a	2
※歴史文化論 I b	2	生命科学の世界 b	2
歴史文化論 II a 〈江戸の文化〉	2	科学史 a	2
歴史文化論 II b 〈江戸の文化〉	2	科学史 b	2
歴史文化論 III a 〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	※自然科学 I a	2
歴史文化論 III b 〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2	自然科学 I b 〈自然と漁業・林業〉	2
※歴史文化論 IV a	2	自然科学 II a 〈地球と環境〉	2
※歴史文化論 IV b	2	自然科学 II b 〈地域と環境〉	2
※歴史文化論 V a	2	自然科学 III a 〈地球科学〉	2
※歴史文化論 V b	2	自然科学 III b 〈地球科学〉	2
※歴史文化論演習 a	2	※自然科学 IV a	2
※歴史文化論演習 b	2	※自然科学 IV b	2
文化人類学入門 a	2	自然科学 V a 〈比較行動学〉	2
文化人類学入門 b	2	自然科学 V b 〈比較行動学〉	2
空間システム論入門 a	2	数理・自然科学演習 a	2
空間システム論入門 b	2	数理・自然科学演習 b	2
地域空間論 I a 〈EU論〉	2	こころと身体 a	2
地域空間論 I b 〈EU論〉	2	こころと身体 b	2
地域空間論 II a 〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	※身体と運動・スポーツ a	2
地域空間論 II b 〈朝鮮半島の社会と文化〉	2	※身体と運動・スポーツ b	2
地域空間論 III a 〈東南アジアの社会と文化〉	2	心身論 I a 〈脳の機能と心の機能〉	2
地域空間論 III b 〈東南アジアの社会と文化〉	2	心身論 I b 〈精神疾患と脳〉	2
※地域空間論 IV a	2	心身論 II a 〈こころと発達〉	2
※地域空間論 IV b	2	心身論 II b 〈こころと社会〉	2
※地域空間論 V a	2	心身論 III a 〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2
※地域空間論 V b	2	心身論 III b 〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2
地域空間論 VI a 〈アフリカの社会と文化〉	2	心身論 IV a 〈食と健康〉	2
地域空間論 VI b 〈アフリカの社会と文化〉	2	心身論 IV b 〈食と環境〉	2
地域空間論 VII a 〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	※心身論 V a	2
地域空間論 VII b 〈日本と東アジアの社会と文化〉	2	※心身論 V b	2
地域空間論 VIII a 〈中東の社会と文化〉	2	心身論演習 a	2
地域空間論 VIII b 〈中東の社会と文化〉	2	心身論演習 b	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第17表の注意事項】

- ① 教養科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 「総合講座Ⅴ」および「総合講座Ⅵ」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。
- ③ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」はセットで履修することになっている。  
 なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用



## 〔c キャリアデザイン科目群〕

キャリアデザイン科目群の開設科目は第18表のとおりである。

第18表 キャリアデザイン科目群

授 業 科 目	学年配当	単位
☆キャリア形成Ⅰ〈コミュニケーション〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅱ〈リーダーシップ〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅲ〈ワークライフバランス〉	1～4	2
☆キャリア形成Ⅳ〈チームワーク・協働〉	1～4	2
★プロジェクト演習〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業提案〉	1・2	2
★プロジェクト演習〈企業との協働〉	1・2	2
業界企業分析	2～4	2
職業選択	2～4	2
※キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2
※キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2
時事英語Ⅰ	1～4	2
時事英語Ⅱ	1～4	2
時事問題研究	2～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

### 〔第18表の注意事項〕

- ① キャリアデザイン科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【[授業に関すること](#)】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ② キャリアデザイン科目群のうち、「時事英語Ⅰ」、「時事英語Ⅱ」および学年配当が2年次以上の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【[全学共通教育科目](#)】Eキャリアデザイン科目群）の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、1年次は2単位、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【[履修規定](#)】I総説B履修単位制限 2履修科目登録上限単位数を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目から2単位、★の付いた科目から2単位、計4単位を限度として、教養科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 「プロジェクト演習」は、3年次以降は履修することができない。
- ⑤ 「プロジェクト演習」について、修得できる単位数は1科目2単位までとする。
- ⑥ 「キャリア・プランニング・プログラムⅡ」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。

[ d 国際交流科目群 ]

国際交流科目群の開設科目は第19表のとおりである。

第19表 国際交流科目群

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
英語等による 地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2	
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
英語等による 特定のテーマ を扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期 語学研修	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1～4	2

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

第19表 国際交流科目群（つづき）

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
受け入れ留学生科目	日本語A〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語A〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語A〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語A〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈初級〉	1～4	8
	日本語B〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈中級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈初級〉	1～4	8
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第19表の注意事項】

- ① 国際交流科目群の授業科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 国際交流科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・国際交流科目のうち、「留学対策科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ 国際交流科目のうち、「留学対策科目」と「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- ④ 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の可否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の認定を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位に算入できるのはあわせて2単位までである。また、特別な履修登録手続きを行う科目であること、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることを考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学修計画を立てておくこと。
- ⑥ 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
- ⑦ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑧ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑨ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑩ 2017年度をもって「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。
- ⑪ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。

## 〔e データサイエンス科目群〕

データサイエンス科目群の開設科目は第20表のとおりである。

第20表 データサイエンス科目群

授 業 科 目	学年配当	単 位
☆データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
☆データサイエンス概論	1～4	2
☆データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
データサイエンス応用	2～4	2
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 〔第20表の注意事項〕

- ① データサイエンス科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数】を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ③ データサイエンス科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として教養科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ④ 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ⑤ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

3 他学部開設科目 他学部開設科目は、第21表に示すとおりである。

第21表 他学部開設科目

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ古典入門	2~4	4	文芸	東洋美術史一般講義a	2~4	2	文芸
ギリシャ古典講読	2~4	4		東洋美術史一般講義b	2~4	2	
ローマ古典入門	2~4	4		西洋美術史一般講義Ⅰa	2~4	2	
ローマ古典講読	2~4	4		西洋美術史一般講義Ⅰb	2~4	2	
古代国文学講義Ⅰ	2~4	2		西洋美術史一般講義Ⅱa	2~4	2	
古代国文学講義Ⅱ	2~4	2		西洋美術史一般講義Ⅱb	2~4	2	
中古国文学講義Ⅰ	2~4	2		美学特殊講義Ⅰ	2~4	2	
中古国文学講義Ⅱ	2~4	2		美学特殊講義Ⅱ	2~4	2	
中世国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅰ	2~4	2	
中世国文学講義Ⅱ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅱ	2~4	2	
※近世国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅲ	2~4	2	
※近世国文学講義Ⅱ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅳ	2~4	2	
近代国文学講義Ⅰ	2~4	2		芸術学特殊講義Ⅴ	2~4	2	
近代国文学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅰ	2~4	2	
漢文学講義Ⅰ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅱ	2~4	2	
漢文学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅲ	2~4	2	
国語学講義Ⅰ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅳ	2~4	2	
国語学講義Ⅱ	2~4	2		美術史特殊講義Ⅴ	2~4	2	
国語国文学講義Ⅰ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅱa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅱ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅱb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅲ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅲa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅳ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅲb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅴ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅳa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅵ	2~4	2		文化史特殊講義Ⅳb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅶ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅰa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅷ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅰb	2~4	2	
国語国文学講義Ⅸ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅱa	2~4	2	
国語国文学講義Ⅹ	2~4	2		民俗学特殊講義Ⅱb	2~4	2	
英語学概論	2~4	4		民俗学特殊講義Ⅲa	2~4	2	
英語文学史	2~4	4		民俗学特殊講義Ⅲb	2~4	2	
英語学特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅰa	2~4	2	
英語学特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅰb	2~4	2	
英語文学特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅱa	2~4	2	
英語文学特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅱb	2~4	2	
英語文化特殊講義A	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅲa	2~4	2	
英語文化特殊講義B	3・4	2		文化人類学特殊講義Ⅲb	2~4	2	
美学・芸術学入門a	2~4	2		考古学a	2~4	2	
美学・芸術学入門b	2~4	2		考古学b	2~4	2	
美術史入門a	2~4	2		マスコミ原論	2~4	2	
美術史入門b	2~4	2		リスクコミュニケーション論	2~4	2	
美学一般講義a	2~4	2		マスコミ史	2~4	2	
美学一般講義b	2~4	2		ジャーナリズム論	2~4	2	
音楽学一般講義a	2~4	2	社会心理学	2~4	2		
音楽学一般講義b	2~4	2	広告心理学	2~4	2		
演劇学一般講義a	2~4	2	マスコミ研究法	2~4	2		
演劇学一般講義b	2~4	2	※マスコミ講義Ⅰ	2~4	2		
映画学一般講義a	2~4	2	※マスコミ講義Ⅱ	2~4	2		
映画学一般講義b	2~4	2	※マスコミ講義Ⅲ	2~4	2		
日本美術史一般講義a	2~4	2	マスコミ講義Ⅳ	2~4	2		
日本美術史一般講義b	2~4	2	マスコミ講義Ⅴ	2~4	2		

履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

第21表 他学部開設科目（つづき）

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	
※マスコミ講義Ⅵ	2～4	2	文芸	ヨーロッパの文学講義Ⅰ（独）	2～4	2	文芸	
マスコミ講義Ⅶ	2～4	2		ヨーロッパの文学講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
マスコミ講義Ⅷ	2～4	2		西洋古典特殊講義a	2～4	2		
マスコミ講義Ⅸ	2～4	2		西洋古典特殊講義b	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅰ	2～4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅱ	2～4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb（独）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅲ	2～4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa（仏）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅳ	2～4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb（仏）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅴ	2～4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅵ	2～4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
※コミュニケーション講義Ⅶ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅷ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb（独）	2～4	2		
コミュニケーション講義Ⅸ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅰ	2～4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅱ	2～4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ（独）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅲ	2～4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ（仏）	2～4	2		
マスコミ特殊講義Ⅳ	2～4	2		ヨーロッパ文化史	2～4	4		法
マスコミ特殊講義Ⅴ	2～4	2		アメリカ文化史	2～4	4		
マスコミ特殊講義Ⅵ	2～4	2		日本文学	2～4	4		
ヨーロッパの文化	2～4	4		外国文学	2～4	4		
ヨーロッパの思想講義Ⅰ（独）	2～4	2		※エコロジー論	2～4	4	社会 イノベーション	
ヨーロッパの思想講義Ⅱ（仏）	2～4	2		文明と社会	2～4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ（独）	2～4	2		家族と社会の変動	2～4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ（仏）	2～4	2		短期学外演習〈自然〉	2～4	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第21表の注意事項】

- ① 他学部開設科目は、履修登録締切日が通常の日程とは異なる。詳細については、【授業に関すること】Ⅳ 特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。



4 スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は、第22表に示すとおりである。

第22表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス講義・演習科目 (半期2単位)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス実技科目 (半期または集中1単位)	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス		

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第22表の注意事項】

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関することⅣ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位として認められる。**
- ③ スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。**後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。**
- ⑥ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑦ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。
- ⑧ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

## Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

- ① 第23表に示す教職関連科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
- ② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。**
- ③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程 I 教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

第23表 教職関連科目

授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説 a	2~4	2
日本史概説 b	2~4	2
文化史特殊講義 I a	2~4	2
文化史特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 I a	2~4	2
歴史学特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 II a	2~4	2
歴史学特殊講義 II b	2~4	2
歴史学特殊講義 III a	2~4	2
歴史学特殊講義 III b	2~4	2
日本文化史 a	2~4	2
日本文化史 b	2~4	2
東洋文化史 a	2~4	2
東洋文化史 b	2~4	2
西洋文化史 a	2~4	2
西洋文化史 b	2~4	2
人文地理学 a	2~4	2
人文地理学 b	2~4	2
地理学講義 a	2~4	2
地理学講義 b	2~4	2
地誌学 a	2~4	2
地誌学 b	2~4	2
哲学講義 a	2~4	2
哲学講義 b	2~4	2
宗教学講義 a	2~4	2
宗教学講義 b	2~4	2
倫理学講義 a	2~4	2
倫理学講義 b	2~4	2
哲学史特殊講義 a	2~4	2
哲学史特殊講義 b	2~4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。



# IV 経営学科 履修系統図

## 【基礎科目】

英語	基礎英語読解 (1) a・b 英語読解 (1) a・b 上級英語読解 (1) a・b	基礎英語読解 (2) a・b 英語読解 (2) a・b 上級英語読解 (2) a・b
第2 外国語	Basic Communicative English (1) a・b Communicative English (1) a・b Advanced Communicative English (1) a・b	Basic Communicative English (2) a・b Communicative English (2) a・b Advanced Communicative English (2) a・b 基礎TOEIC a・b TOEIC a・b 上級TOEIC a・b
	独語 (初級) a・b 仏語 (初級) a・b 中国語 (初級) a・b	独語 (中級) a・b 仏語 (中級) a・b 中国語 (中級) a・b
初年次 教育科目	データ分析 I II ビジネス概論 I II	

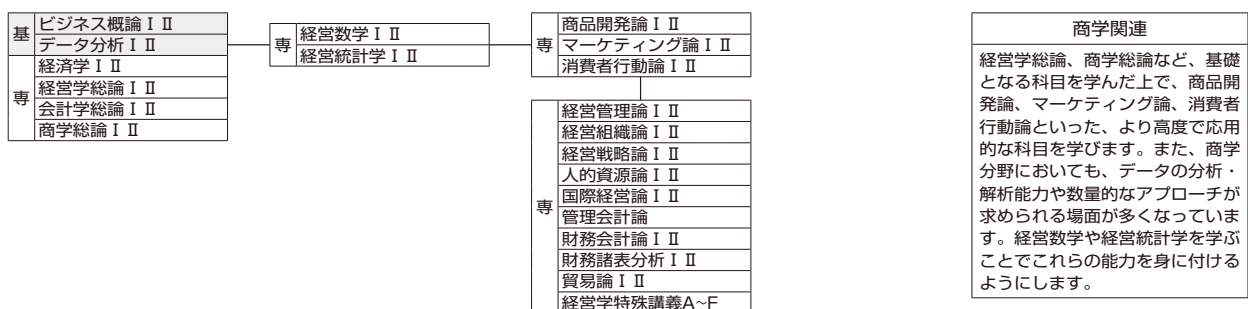
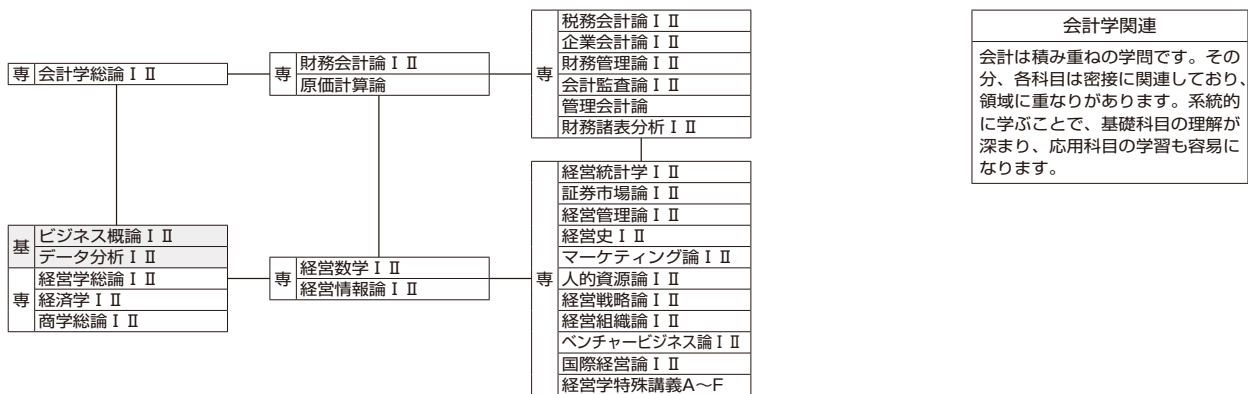
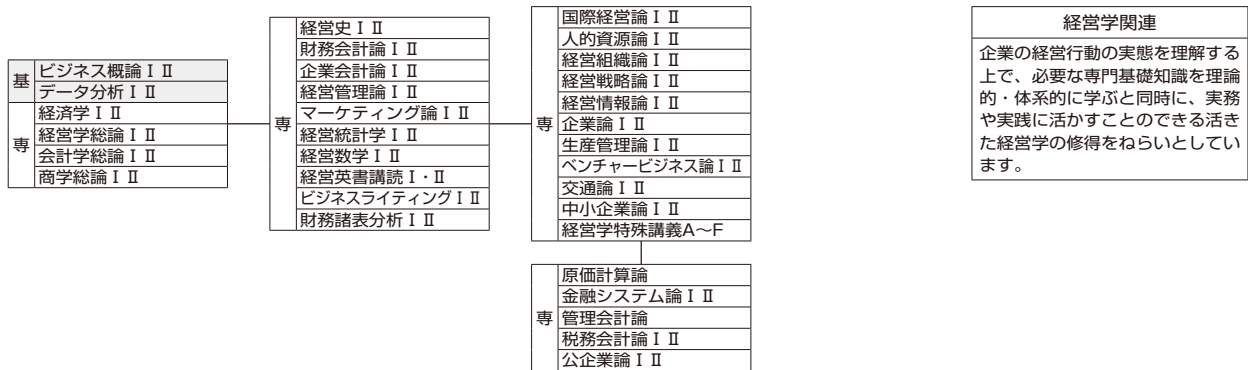
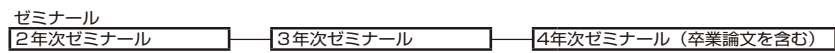
凡例：基 基礎科目

専 専門基礎科目

済 経済学科関連科目

全 全学共通教育科目

## 【専門科目】



履修規定

経営学科

2017年度以降入学者用

基	ビジネス概論Ⅱ
基	データ分析Ⅱ
専	経済学Ⅱ
専	経営学総論Ⅱ
専	会計学総論Ⅱ
専	商学総論Ⅱ

専	経営数学Ⅱ
専	金融システム論Ⅱ
専	証券市場論Ⅱ
専	財務会計論Ⅱ
専	企業会計論Ⅱ

専	財務管理論Ⅱ
専	ベンチャービジネス論Ⅱ
専	国際金融論Ⅰ・Ⅱ
専	統計学Ⅱ
専	リスクマネジメント論Ⅱ
専	原価計算論
専	管理会計論

専	経営統計学Ⅱ
専	経営組織論Ⅱ
専	経営情報論Ⅱ

専	会計監査論Ⅱ
専	税務会計論Ⅱ
専	経営学特殊講義A~F

**金融関連**

1年次に経済学を履修した上で、2年次に金融システム論、証券市場論、3年次に財務管理論は必須です。金融機関への就職を希望する者は経営数学、国際金融論を履修してください。企業の財務セクションを希望する人は、財務会計など会計系科目を履修してください。

基	ビジネス概論Ⅱ
基	データ分析Ⅱ
専	経済学Ⅱ
専	経営学総論Ⅱ
専	会計学総論Ⅱ
専	商学総論Ⅱ
全	データサイエンス概論
全	データサイエンス入門Ⅱ

専	経営数学Ⅱ
専	経営統計学Ⅱ

専	経営情報論Ⅱ
専	経営学特殊講義A~F
全	データサイエンス・スキルアップ・プログラム
全	データサイエンス・アドバンスト・プログラム

専	商品開発論Ⅱ
専	マーケティング論Ⅱ
専	消費者行動論Ⅱ
専	生産管理論Ⅱ
専	経営戦略論Ⅱ
専	コンピュータ論Ⅱ
全	データサイエンス入門Ⅱ
全	データサイエンス応用

**情報関連**

経営学のどの分野を学ぶ上でも、データがきちんと読めて分析できる能力は大変重要です。データ分析でその基礎をしっかりと身に付け、経営統計学で知識を発展させた上で、更に実践的な内容を経営情報論で学びます。

【自由設計科目】

専門関連	経済学関連科目	外国史概説A・B	マクロ経済学概論	数理経済学A・B	金融論Ⅰ・Ⅱ	開発経済学Ⅰ・Ⅱ	社会思想Ⅰ・Ⅱ	国際関係論Ⅰ・Ⅱ	応用経済学特別講義C・D
	法学関連科目	民法概論	国際法Ⅰ・Ⅱ	労働組合法	税法Ⅰ・Ⅱ	経済法Ⅰ・Ⅱ	知的財産法		
	経済学部開設・教養科目	政治経済入門Ⅰ・Ⅱ	TOEIC(特級)Ⅰa・b	中国語(特級)a・b	心理学a・b	数学Ⅱa・b	スポーツ産業論		

全学共通教育科目	リテラシー科目群	WRD	英会話選択	Academic Communication	仏会話選択	中国語選択	コンピュータリテラシー		
	英リスニング&スピーキング	ビジネス英語	独会話選択	仏語選択	韓国語選択	図書館活用法			
	英リーディング&ライティング	英文多読	独語選択	スペイン語選択		ティーム・コース(独、仏)			
	教養科目群	総合講座Ⅰ～Ⅶ	現代社会論演習a・b	社会構造論演習a・b	思想・人間論Ⅰa・b・Ⅱa・b	表現文化論演習a・b	歴史文化論演習a・b	物理の世界a・b	身体と運動・スポーツa・b
	特別講座Ⅰ・Ⅱ	国際関係論入門a・b	哲学入門a・b	思想・人間論演習a・b	歴史学入門a・b	文化人類学入門a・b	化学の世界a・b	心身論Ⅰa・b～Ⅴa・b	
	成城学園を知る	経済学入門a・b	宗教学入門a・b	文学入門a・b	日本近現代史a・b	空間システム論入門a・b	生命科学の世界a・b	心身論演習a・b	
	成城学Ⅰ～Ⅴ	政治学入門a・b	倫理学入門a・b	言語学入門a・b	ヨーロッパ近現代史a・b	地域空間論Ⅰa・b・Ⅱa・b	科学史a・b		
	社会学入門a・b	情報社会論入門a・b	西洋思想入門a・b	音楽入門a・b	アジア近現代史a・b	地域空間論演習a・b	自然科学Ⅰa・b～Ⅴa・b		
	メディア論入門a・b	法学(含む日本憲法)a・b	東洋思想入門a・b	表象文化論入門a・b	アメリカ近現代史a・b	数理の世界a・b	数理・自然科学演習a・b		
	現代社会Ⅰa・b～Ⅴa・b	社会構造論Ⅰa・b～Ⅴa・b	日本思想入門a・b	表現文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	歴史文化論Ⅰa・b～Ⅴa・b	数理科学Ⅰa・b・Ⅱa・b	こころと身体a・b		
キャリアデザイン科目群	キャリア形成Ⅰ～Ⅳ	業界企業分析	キャリア・プランニング・プログラムⅠ・Ⅱ	時事問題研究					
プロジェクト演習	職業選択	時事英語Ⅰ・Ⅱ							
国際交流科目群	Academic SkillsⅠ～Ⅵ	North American Studies	Asian Studies	Special TopicsⅠ～Ⅳ	海外短期研修				
European Studies	Oceanian Studies	Japan StudiesⅠ～Ⅷ	海外短期語学研修	留学準備演習					
データサイエンス科目群	データサイエンス入門Ⅰ	データサイエンス概論	データサイエンス入門Ⅱ	データサイエンス応用	データサイエンス・スキルアップ・プログラム	データサイエンス・アドバンスト・プログラム			
他学部開設科目	ギリシャ古典入門	漢文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義A	東洋美術史一般講義a・b	考古学a・b	コミュニケーション講義Ⅰ～Ⅳ	西洋古典特殊講義a・b	ヨーロッパ文化史	
ギリシャ古典講義	国語学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文化特殊講義B	西洋美術史一般講義Ⅰa・b	マスコミ原論	マスコミ特殊講義Ⅰ～Ⅶ	ヨーロッパの思想講義Ⅰa・b(独)	アメリカ文化史		
ローマ古典入門	国語学講義Ⅰ～Ⅳ	美学・芸術学入門a・b	西洋美術史一般講義Ⅱa・b	リスクコミュニケーション論	ヨーロッパの文化	ヨーロッパの思想講義Ⅱa・b(独)	日本文学		
ローマ古典講義	英語学概論	美術史入門a・b	美学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	マスコミ史	ヨーロッパの思想講義Ⅲ(独)	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)	外国文学		
古代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語文学史	美学一般講義a・b	芸術学特殊講義Ⅰ～Ⅴ	ジャーナリズム論	ヨーロッパの思想講義Ⅳ(仏)	ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)	エコロジー論		
中古国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	音楽学一般講義a・b	美術史特殊講義Ⅰ～Ⅴ	社会心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa・b(独)	文明と社会		
中世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	演劇学一般講義a・b	文化史特殊講義Ⅱa・b・Ⅲa・b	広告心理学	ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)	ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa・b(仏)	家族と社会の変動		
近世国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義A	映画学一般講義a・b	民俗学特殊講義Ⅰa・b・Ⅱa・b	マスコミ研究法	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)	短期学外演習		
近代国文学講義Ⅰ・Ⅱ	英語学特殊講義B	日本美術史一般講義a・b	文化人類学特殊講義Ⅰa・b・Ⅱa・b	マスコミ講義Ⅰ～Ⅳ	ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)	ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)			
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&コアトレーニング	ゴルフ	ソフトボール	トレーニング	フィットネス	サイクル・スポーツ		
ウエルネス・スタディーズⅠ～Ⅳ	エアロビクス&ピラティス	コンディショニング	卓球	バスケットボール	バスケットボール	フットサル	スキー		
身体表現・スタディーズⅠ～Ⅳ	オルタナティブスポーツ	サッカー&フットサル	ダンスパフォーマンス	バドミントン	ヨガ&ピラティス				
アクアエクササイズ	剣道(古武道)	水泳	テニス	バレーボール	レクリエーションスポーツ				

# 経営学科履修規定

[2016年度以前入学者用]

I	総説	122
	A. 開設科目および卒業要件単位数	122
	B. 履修単位制限	123
	C. 2年次から3年次への進級基準	123
II	経営学科授業科目一覧表	124
III	—1 分野別履修方法（基礎科目）	134
	A. 基礎科目A群	134
	B. 基礎科目B群	134
III	—2 分野別履修方法（専門科目）	135
	A. 必修科目	135
	B. 専門基礎科目	136
	C. 専門選択科目	137
III	—3 分野別履修方法（自由設計科目）	138
	A. 学部開設科目	139
	B. 全学共通教育科目	141
	C. 他学部開設科目	147
	D. スポーツ・ウエルネス教育科目	149
III	—4 分野別履修方法（教職関連科目）	150



# I 総説

## A 開設科目および卒業要件単位数

### 1 開設科目

授業科目は、基礎科目、専門科目、自由設計科目、および教職関連科目の4つの分野から構成されている。

### 2 卒業要件単位数

卒業に必要な単位数は**124単位**であり、基礎科目、専門科目、および自由設計科目の3分野から**第1表**に示す規定の単位数を修得しなければならない。

### 3 履修上の注意

履修に当たっては、後述の履修単位制限および2年次から3年次への進級基準に十分注意すること。

第1表 経営学科 開設科目および卒業要件単位数

分野	区 分		規定単位数
基礎科目	基礎科目A群	英語	8
		第二外国語	6
	基礎科目B群	データ分析	4
		基礎簿記	4
専門科目	ゼミナール		12
	専門基礎科目A群	ビジネス概論	4
	専門基礎科目B群		8 (注1)
	専門選択科目		32 (注2)
自由設計科目	学部開設科目	専門選択関連科目	46
		法学関連科目	
		教養科目	
	全学共通教育科目	リテラシー科目群	
		教養科目群	
		キャリアデザイン科目群 (注3)	
		国際交流科目群 (注4)	
	他学部開設科目		
スポーツ・ウェルネス教育科目 (注6)			
教職関連科目		—(注7)	
合 計			124

#### 〔第1表の注意事項〕

- (注1) 専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の必要単位数に充当することができる。
- (注2) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の必要単位数に充当することができる。  
 なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して32単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- (注3) キャリアデザイン科目群のうち「キャリア形成概論Ⅰ」および「キャリア形成概論Ⅱ」の修得単位のみ卒業要件単位として認められる。その他のキャリアデザイン科目の修得単位は、卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。
- (注4) 国際交流科目群のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- (注5) データサイエンス科目群のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」および「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、卒業要件単位に算入することができない。
- (注6) スポーツ・ウェルネス教育科目は、4単位まで卒業要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。
- (注7) 教職関連科目の修得単位は卒業要件単位としては認められず、余剰単位の取扱いとなる。

**B**

**履修単位制限**

1 履修単位制限

この制度は、履修登録に当たって、安易な登録による科目履修の途中放棄の防止と学問上の興味や知的関心、時間的制約などを十分考慮した上での授業科目選択を促すために設けられたものである。

2 履修科目登録上限単位数

第2表 履修科目登録上限単位数

1 年	2 年	3 年	4 年
44	48	48	48

〔第2表の注意事項〕

以下に挙げる科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については各課程・科目群の項を参照すること。

- ・ 教職関連科目
- ・ 教職課程における「教職に関する科目」
- ・ キャリアデザイン科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目
- ・ 国際交流科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目（「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」）
- ・ データサイエンス科目群の授業科目のうち卒業要件単位として認められない科目

**C**

**2年次から3年次への進級基準**

2年次から3年次へ進級するには、基礎科目、専門科目、自由設計科目のそれぞれについて、2年次終了までに第3表に示す所定の単位を修得していなければならない。

第3表 進級基準

分野	区 分		規定単位数
基礎科目	基礎科目A群	英語	8
		第二外国語	6
	基礎科目B群	データ分析	4
		基礎簿記	4
専門科目	ゼミナール	2年次ゼミナール	4
	専門基礎科目A群	ビジネス概論	4
	専門基礎科目B群		4 ← (注1)
	専門選択科目		4 ← (注2)
自由設計科目	(注3)		8 ← (注2)
計			46

〔第3表の注意事項〕

(注1) 専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な専門選択科目の単位数（4単位）に充当することができる。

(注2) 専門選択科目の規定単位数を超えて修得した単位は、進級に必要な自由設計科目の単位数（8単位）に充当することができる。

なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して4単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。

(注3) スポーツ・ウエルネス教育科目は、4単位まで進級要件単位として認められる。4単位を超えて修得した分は、余剰単位の取扱いとなる。

# II

# 経営学科授業科目一覽表

第4表 2013年度以降入学者用

分野・区分		学年配当	1 年	2 年
基礎科目	基礎科目A群	英語	英語 (1) 講読② 英語 (1) フォルムコミュニケーション②	英語 (2) 講読② 英語 (2) コース別②
		第二外国語	独語 (初級) ④	独語 (中級) ②
			仏語 (初級) ④	仏語 (中級) ②
	基礎科目B群	データ分析④ 基礎簿記④		
ゼミナール				2年次ゼミナール④
専門基礎科目A群			ビジネス概論④	
専門基礎科目B群			-[1~4年]- 経営学総論④ マーケティング総論④	-[2~4年]- 経営管理論④ 企業会計論④ 財務会計論④ 経営史④ 経営統計学④ 商学通論④
専門科目 専門選択科目				-[2~4年]- 人的資源論④ 企業論④ 原価計算論④ 経営数学④ 消費者行動論④ 英経営書講読Ⅰ④ 英経営書講読Ⅱ④ 経営組織論④ 経営戦略論④ 財務管理論④ ※国際経営論④ 管理会計論④ 会計監査論④ 経営情報論④ ※税務会計論④ 経営分析④ 金融論Ⅰ② 金融論Ⅱ② 金融システム論④ 証券市場論④ ※貿易論④ 交通論④ リスクマネジメント論④ ※コンピュータ論④ ※生産管理論④ ※公企業論④ ※中小企業論④ 商品開発論④ ベンチャービジネス論④ 経営学特殊講義Ⅰ② ※経営学特殊講義Ⅱ② ※経営学特殊講義Ⅲ② ※経営学特殊講義Ⅳ② 経営学特殊講義Ⅴ② 経営学特殊講義Ⅵ②
自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目			-[1~4年]- 社会科学概論④	-[2~4年]- ミクロ経済学④ マクロ経済学④ 統計学④ 経済学史④ 市場と政府Ⅰ② ※市場と政府Ⅱ② 社会経済史④ 社会政策④ 経済原論④ ※数理経済学Ⅰ② 数理経済学Ⅱ② ※経済変動論④ ※経済統計論④ 計量経済学④ 産業経済学④ 経済思想史④ 比較制度論Ⅰ② ※比較制度論Ⅱ② 国際金融論Ⅰ② 国際金融論Ⅱ② 財政学Ⅰ② 財政学Ⅱ② 公共経済学Ⅰ② 公共経済学Ⅱ② 医療経済論Ⅰ② 医療経済論Ⅱ② 国際貿易論Ⅰ② 国際貿易論Ⅱ② 開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 食料・資源経済論Ⅰ② 食料・資源経済論Ⅱ② 日本経済史④ 西洋経済史④ 東洋経済史④ 外国史概説④ 現代経済史④ 社会思想史④ 社会保障論④ 社会キャリア論④ 社会デザイン論④ 日本経済論Ⅰ② 日本経済論Ⅱ② 世界経済事情Ⅰ② 世界経済事情Ⅱ② 国際関係論④ 経済地理学④ 英経済書講読④ ※独経済書講読④ 仏経済書講読④ 中国経済書講読A② ※中国経済書講読B② 応用経済学特別講義Ⅲ② ※応用経済学特別講義Ⅳ②

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

3 年	4 年	卒業要件 単位数
		8
		6
		8
3年次ゼミナール④	4年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		4
		8
		32
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>[3・4年]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※経済理論特別講義Ⅰ②</li> <li>※経済理論特別講義Ⅱ②</li> <li>※応用経済学特別講義Ⅰ②</li> <li>※応用経済学特別講義Ⅱ②</li> <li>経済史特別講義Ⅰ②</li> <li>経済史特別講義Ⅱ②</li> <li>※社会問題特別講義Ⅰ②</li> <li>※社会問題特別講義Ⅱ②</li> </ul> </div>		46

第4表 2012年度以前入学者用

分野・区分		学年配当	1 年	2 年
基礎科目	基礎科目A群	英語	英語(1) 講読② 英語(1) オラルコミュニケーション②	英語(2) 講読② 英語(2) コース別②
		第二外国語	独語(初級)④	独語(中級)②
			仏語(初級)④	仏語(中級)②
	基礎科目B群	データ分析④ 基礎簿記④		
ゼミナール				2年次ゼミナール④
専門基礎科目A群			ビジネス概論④	
専門基礎科目B群			[1~4年] 経営学総論④ マーケティング総論④	[2~4年] 経営管理論④ 企業会計論④ 財務会計論④ 経営史④
専門科目 専門選択科目				[2~4年] 人的資源論④ 企業論④ 原価計算論④ 経営数学④ 商学通論④ 消費者行動論④ 英経営書講読Ⅰ④ 英経営書講読Ⅱ④ 経営組織論④ 経営戦略論④ 財務管理論④ ※国際経営論④ 管理会計論④ 会計監査論④ 経営統計学④ 経営情報論④ ※税務会計論④ 経営分析④ 金融論Ⅰ② 金融論Ⅱ② 金融システム論④ 証券市場論④ ※貿易論④ 交通論④ リスクマネジメント論④ ※コンピュータ論④ ※生産管理論④ ※公企業論④ ※中小企業論④ 商品開発論④ ベンチャービジネス論④ 経営学特殊講義Ⅰ② ※経営学特殊講義Ⅱ② ※経営学特殊講義Ⅲ② ※経営学特殊講義Ⅳ② 経営学特殊講義Ⅴ② 経営学特殊講義Ⅵ②
自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目			[1~4年] 社会科学概論④	[2~4年] ミクロ経済学④ マクロ経済学④ 統計学④ 経済学史④ 市場と政府Ⅰ② ※市場と政府Ⅱ② 社会経済史④ 社会政策④ 経済原論④ ※数理経済学Ⅰ② 数理経済学Ⅱ② ※経済変動論④ ※経済統計論④ 計量経済学④ 産業経済学④ 経済思想史④ 比較制度論Ⅰ② ※比較制度論Ⅱ② 国際金融論Ⅰ② 国際金融論Ⅱ② 財政学Ⅰ② 財政学Ⅱ② 公共経済学Ⅰ② 公共経済学Ⅱ② 医療経済論Ⅰ② 医療経済論Ⅱ② 国際貿易論Ⅰ② 国際貿易論Ⅱ② 開発経済学Ⅰ② 開発経済学Ⅱ② 食料・資源経済学Ⅰ② 食料・資源経済学Ⅱ② 日本経済史④ 西洋経済史④ 東洋経済史④ 外国史概説④ 現代経済史④ 社会思想史④ 社会保障論④ 社会キャリア論④ 社会デザイン論④ 日本経済論Ⅰ② 日本経済論Ⅱ② 世界経済事情Ⅰ② 世界経済事情Ⅱ② 国際関係論④ 経済地理学④ 英経済書講読④ ※独経済書講読④ 仏経済書講読④ 中国経済書講読A② ※中国経済書講読B② 応用経済学特別講義Ⅲ② ※応用経済学特別講義Ⅳ②

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

3 年	4 年	卒業要件 単位数
		8
		6
		8
3年次ゼミナール④	4年次ゼミナール（卒業論文を含む）④	12
		4
		8
		32
[3・4年] ※経済理論特別講義Ⅰ② ※経済理論特別講義Ⅱ② ※応用経済学特別講義Ⅰ② ※応用経済学特別講義Ⅱ② 経済史特別講義Ⅰ② 経済史特別講義Ⅱ② ※社会問題特別講義Ⅰ② ※社会問題特別講義Ⅱ②		46



第4表 II. 経営学科授業科目一覧表 2016年度入学者用 ①

学年配当		1 年	2 年
分野・区分			
学部開設科目	法学 関連科目		[2~4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④
	教養科目	[1~4年] 外国文化Ⅰ④ 外国文化ⅡA④ 外国文化ⅢA④	外国文化ⅣA④ 心理学④ ※経済学④ 数学Ⅰ④ 数学Ⅱ④ ※現代社会とスポーツ②
自由設計科目	全学共通 教育科目	[1~4年] WRD④ 選択英語② 英語リスニング&スピーキング (初級) a① 英語リスニング&スピーキング (初級) b① 英語リスニング&スピーキング (中級) a① 英語リスニング&スピーキング (中級) b① 英語リスニング&スピーキング (上級) a① 英語リスニング&スピーキング (上級) b① 英語リーディング&ライティング (初級) a① 英語リーディング&ライティング (初級) b① 英語リーディング&ライティング (中級) a① 英語リーディング&ライティング (中級) b① 英語リーディング&ライティング (上級) a① 英語リーディング&ライティング (上級) b①	英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択 (初級) I a① 独語選択 (初級) I b① 独語選択 (初級) II a①
		コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2② ※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉② 成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC② 総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ② 成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②
		社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論Ⅷc② ※現代社会論Ⅷd② ※現代社会論Ⅷe② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学 (含む日本国憲法) a② 法学 (含む日本国憲法) b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb②	社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② ※思想・人間論Ⅱa〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅱb〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② ※思想・人間論Ⅲc② ※思想・人間論Ⅲd② ※思想・人間論Ⅲe② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b②
		キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は、	

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

3、4年			卒業要件 単位数
<b>[3・4年]</b> 会社法Ⅰ② 労働基準法④ 税法Ⅱ② 国際経済法④ 会社法Ⅱ② 労働組合法④ 金融商品取引法② 公務員法・行政組織法② 国際法Ⅰ④ 国際取引法④ 有価証券法② 消費者法Ⅰ② 国際法Ⅱ④ 環境法② 商取引法② ※消費者法Ⅱ② 行政法Ⅰ④ 社会保険法④ 経済法Ⅰ② 知的財産法④ 行政学④ 税法Ⅰ② 経済法Ⅱ②			
※スポーツ産業論② TOEIC (特級)Ⅱa① 中国語 (特級) b① TOEIC (特級)Ⅰa① TOEIC (特級)Ⅱb① ※政治経済論入門Ⅰ② TOEIC (特級)Ⅰb① 中国語 (特級) a① ※政治経済論入門Ⅱ②			
独語選択 (初級)Ⅱb① 仏語選択 (上級) a① 中国語選択 (上級) b① 独語選択 (中級) a① 仏語選択 (上級) b① 韓国語選択 (初級) a① 独語選択 (中級) b① スペイン語選択 (初級) a① 韓国語選択 (初級) b① 独語選択 (上級) a① スペイン語選択 (初級) b① 韓国語選択 (中級・ディプロム) a① 独語選択 (上級) b① スペイン語選択 (中級・ディプロム) a① 韓国語選択 (中級・ディプロム) b① 仏会話選択 a① スペイン語選択 (中級・ディプロム) b① ディプロム・コース中級 (独語) a① 仏会話選択 b① 中国語選択 (初級)Ⅰa① 中国語選択 (初級)Ⅰb① ディプロム・コース中級 (独語) b① 仏語選択 (初級)Ⅰa① 中国語選択 (初級)Ⅰb① ディプロム・コース上級 (独語) a① 仏語選択 (初級)Ⅰb① 中国語選択 (初級)Ⅱa① ディプロム・コース上級 (独語) b① 仏語選択 (初級)Ⅱa① 中国語選択 (初級)Ⅱb① ディプロム・コース中級 (仏語) a① 仏語選択 (初級)Ⅱb① 中国語選択 (中級) a① ディプロム・コース中級 (仏語) b① 仏語選択 (中級) a① 中国語選択 (中級) b① ディプロム・コース上級 (仏語) a① 仏語選択 (中級) b① 中国語選択 (上級) a① ディプロム・コース上級 (仏語) b①			
コンピュータ・リテラシーD② ※図書館活用法② コンピュータ・リテラシーE②			
総合講座Ⅴ (余暇学(世田谷6大学コンソーシアム連携授業))② ※特別講座Ⅰ② 総合講座Ⅵ (中国文学入門(世田谷6大学コンソーシアム連携授業))② ※特別講座Ⅱ②			
※成城学Ⅳ② 成城学Ⅴ (成城と自然)②			
歴史学入門a② ※数理の世界a② 歴史学入門b② ※数理の世界b② 日本近現代史a② 数理科学Ⅰa (情報と論理)② 日本近現代史b② 数理科学Ⅰb (情報と論理)② ヨーロッパ近現代史a② ※数理科学Ⅱa② ヨーロッパ近現代史b② ※数理科学Ⅱb② アジア近現代史a② 物理の世界a② アジア近現代史b② 物理の世界b② アメリカ近現代史a② 化学の世界a② アメリカ近現代史b② 化学の世界b② ※歴史文化論Ⅰa② 生命科学の世界a② ※歴史文化論Ⅰb② 生命科学の世界b② 歴史文化論Ⅱa (江戸の文化)② 科学史a② 歴史文化論Ⅱb (江戸の文化)② 科学史b② 歴史文化論Ⅲa (グローバル・ヒストリーと西欧)② ※自然科学Ⅰa② 歴史文化論Ⅲb (グローバル・ヒストリーと非西欧)② 自然科学Ⅰb (自然と漁業・林業)② ※歴史文化論Ⅳa② 自然科学Ⅱa (地球と環境)② ※歴史文化論Ⅳb② 自然科学Ⅱb (地域と環境)② ※歴史文化論Ⅴa② 自然科学Ⅲa (地球科学)② ※歴史文化論Ⅴb② 自然科学Ⅲb (地球科学)② ※歴史文化論演習a② ※自然科学Ⅳa② ※歴史文化論演習b② ※自然科学Ⅳb② 文化人類学入門a② 自然科学Ⅴa (比較行動学)② 文化人類学入門b② 自然科学Ⅴb (比較行動学)② 空間システム論入門a② 数理・自然科学演習a② 空間システム論入門b② 数理・自然科学演習b② 地域空間論Ⅰa (EU論)② ころと身体a② 地域空間論Ⅰb (EU論)② ころと身体b② 地域空間論Ⅱa (朝鮮半島の社会と文化)② ※身体と運動・スポーツa② 地域空間論Ⅱb (朝鮮半島の社会と文化)② ※身体と運動・スポーツb② 地域空間論Ⅲa (東南アジアの社会と文化)② 心身論Ⅰa (脳の機能と心の機能)② 地域空間論Ⅲb (東南アジアの社会と文化)② 心身論Ⅰb (精神疾患と脳)② ※地域空間論Ⅳa② 心身論Ⅱa (ころと発達)② ※地域空間論Ⅳb② 心身論Ⅱb (ころと社会)② ※地域空間論Ⅴa② 心身論Ⅲa (運動・スポーツと心のしくみ)② ※地域空間論Ⅴb② 心身論Ⅲb (運動・スポーツと身体のしくみ)② 地域空間論Ⅵa (アフリカの社会と文化)② 心身論Ⅳa (食と健康)② 地域空間論Ⅵb (アフリカの社会と文化)② 心身論Ⅳb (食と環境)② 地域空間論Ⅶa (日本と東アジアの社会と文化)② ※心身論Ⅴa② 地域空間論Ⅶb (日本と東アジアの社会と文化)② ※心身論Ⅴb② 地域空間論Ⅷa (中東の社会と文化)② 心身論演習a② 地域空間論Ⅷb (中東の社会と文化)② 心身論演習b② ※地域空間論演習a② ※地域空間論演習b②			46
Ⅳ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) Ⅳ全学共通教育科目を参照			

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

第4表 II. 経営学科授業科目一覧表 2016年度入学者用 ②

学年配当		1 年	2 年	
分野・区分				
自由設計科目	他学部開設科目		[2~4年] ギリシャ語(初級) ④ ギリシャ語(中級) ④ ラテン語(初級) ④ ラテン語(中級) ④ 古代国文学講義Ⅰ ② 古代国文学講義Ⅱ ② 中古国文学講義Ⅰ ② 中古国文学講義Ⅱ ② 中世国文学講義Ⅰ ② 中世国文学講義Ⅱ ② ※近世国文学講義Ⅰ ② ※近世国文学講義Ⅱ ② 近代国文学講義Ⅰ ② 近代国文学講義Ⅱ ② 漢文学講義Ⅰ ② 漢文学講義Ⅱ ② 国語学講義Ⅰ ② 国語学講義Ⅱ ② 国語国文学講義Ⅰ ② 国語国文学講義Ⅱ ② 国語国文学講義Ⅲ ② 国語国文学講義Ⅳ ② 国語国文学講義Ⅴ ② 国語国文学講義Ⅵ ② 国語国文学講義Ⅶ ② 国語国文学講義Ⅷ ② 国語国文学講義Ⅸ ② 国語国文学講義Ⅹ ② 英語学概論 ④	英語文学史 ④ 美学・芸術学入門 a② 美学・芸術学入門 b② 美術史入門 a② 美術史入門 b② 美学一般講義 a② 美学一般講義 b② 音楽学一般講義 a② 音楽学一般講義 b② 演劇学一般講義 a② 演劇学一般講義 b② 映画学一般講義 a② 映画学一般講義 b② 日本美術史一般講義 a② 日本美術史一般講義 b② 東洋美術史一般講義 a② 東洋美術史一般講義 b② 西洋美術史一般講義 I a② 西洋美術史一般講義 I b② 西洋美術史一般講義 II a② 西洋美術史一般講義 II b② 美学特殊講義 I ② 美学特殊講義 II ② 芸術学特殊講義 I ② 芸術学特殊講義 II ② 芸術学特殊講義 III ② 芸術学特殊講義 IV ② 芸術学特殊講義 V ② 芸術学特殊講義 I ②
	スポーツ・ウエルネス教育科目	—	【スポーツ・ウエルネス教育科目は、Ⅲ-3 分野別履修方法(自由設計科目) ㊦ スポーツ・ウエルネス教育科目を参照】	
教職関連科目		【教職関連科目は、Ⅲ-4 分野別履修方法(教職関連科目)を参照】		

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

3、4年			卒業要件 単位数
美術史特殊講義Ⅱ② 美術史特殊講義Ⅲ② 美術史特殊講義Ⅳ② 美術史特殊講義Ⅴ② 文化史特殊講義Ⅱa② 文化史特殊講義Ⅱb② 文化史特殊講義Ⅲa② 文化史特殊講義Ⅲb② 文化史特殊講義Ⅳa② 文化史特殊講義Ⅳb② 民俗学特殊講義Ⅰa② 民俗学特殊講義Ⅰb② 民俗学特殊講義Ⅱa② 民俗学特殊講義Ⅱb② 民俗学特殊講義Ⅲa② 民俗学特殊講義Ⅲb② 文化人類学特殊講義Ⅰa② 文化人類学特殊講義Ⅰb② 文化人類学特殊講義Ⅱa② 文化人類学特殊講義Ⅱb② 文化人類学特殊講義Ⅲa② 文化人類学特殊講義Ⅲb② 考古学 a② 考古学 b② マスコミ原論② マスコミ史② ジャーナリズム論② リスクコミュニケーション論② 社会心理学②	広告心理学② マスコミ研究法② ※マスコミ講義Ⅰ② ※マスコミ講義Ⅱ② ※マスコミ講義Ⅲ② マスコミ講義Ⅳ② マスコミ講義Ⅴ② ※マスコミ講義Ⅵ② マスコミ講義Ⅶ② マスコミ講義Ⅷ② マスコミ講義Ⅸ② ※コミュニケーション講義Ⅰ② コミュニケーション講義Ⅱ② ※コミュニケーション講義Ⅲ② コミュニケーション講義Ⅳ② ※コミュニケーション講義Ⅴ② コミュニケーション講義Ⅵ② ※コミュニケーション講義Ⅶ② コミュニケーション講義Ⅷ② コミュニケーション講義Ⅸ② マスコミ特殊講義Ⅰ② マスコミ特殊講義Ⅱ② マスコミ特殊講義Ⅲ② マスコミ特殊講義Ⅳ② マスコミ特殊講義Ⅴ② マスコミ特殊講義Ⅵ② ヨーロッパの文化④ ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)②	ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)② 西洋古典特殊講義 a② 西洋古典特殊講義 b② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)② ※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)② ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)② ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)② ヨーロッパ文化史④ アメリカ文化史④ 日本文学④ 外国文学④ ※エコロジー論④ 文明と社会④ 家族と社会の変動④ 短期学外演習(自然)②	46
[3・4年] 英語学特殊講義A② 英語学特殊講義B②			
英語文学特殊講義A② 英語文学特殊講義B②			
英語文化特殊講義A② 英語文化特殊講義B②			
合 計			124

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

第4表 II. 経営学科授業科目一覧表 2015年度以前入学者用

学年配当		1 年	2 年		
分野・区分					
学部開設科目	法学関連科目		[2~4年] 民法概論④ 商法概論④ 憲法④		
	教養科目	[1~4年] 外国文化Ⅰ④ 外国文化ⅡA④ 外国文化ⅢA④	外国文化ⅣA④ 心理学④ ※経済学④  数学Ⅰ④ 数学Ⅱ④ ※現代社会とスポーツ②		
自由設計科目	全学共通教育科目	[1~4年] WRD④			
		選択英語② 英語リスニング&スピーキング (初級) a① 英語リスニング&スピーキング (初級) b① 英語リスニング&スピーキング (中級) a① 英語リスニング&スピーキング (中級) b① 英語リスニング&スピーキング (上級) a① 英語リスニング&スピーキング (上級) b① 英語リーディング&ライティング (初級) a① 英語リーディング&ライティング (初級) b① 英語リーディング&ライティング (中級) a① 英語リーディング&ライティング (中級) b① 英語リーディング&ライティング (上級) a① 英語リーディング&ライティング (上級) b①	英会話選択a① 英会話選択b① ビジネス英語a① ビジネス英語b① 英文多読a① 英文多読b① Academic Communication a① Academic Communication b① 独会話選択a① 独会話選択b① 独語選択 (初級) I a① 独語選択 (初級) I b① 独語選択 (初級) II a①		
		コンピュータ・リテラシーA1② コンピュータ・リテラシーA2②	コンピュータ・リテラシーB② ※コンピュータ・リテラシーC②		
		※総合講座Ⅰ② 総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース/感動と価値の創造〉②	総合講座Ⅲ〈環境〉② ※総合講座Ⅳ②		
		成城学園を知る② 成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉②	※成城学Ⅱ② ※成城学Ⅲ②		
		社会学入門a② 社会学入門b② メディア論入門a② メディア論入門b② 現代社会論Ⅰa〈現代の宗教と国家〉② 現代社会論Ⅰb〈現代の宗教と社会〉② 現代社会論Ⅱa〈サブカルチャー史〉② 現代社会論Ⅱb〈サブカルチャー論〉② ※現代社会論Ⅲa② ※現代社会論Ⅲb② 現代社会論Ⅳa〈戦後日本文化論〉② 現代社会論Ⅳb〈戦後日本文化論〉② ※現代社会論Ⅴa② ※現代社会論Ⅴb② 現代社会論Ⅵa〈平和論〉② 現代社会論Ⅵb〈平和論〉② 現代社会論Ⅶa〈カルチュラル・スタディーズ〉② 現代社会論Ⅶb〈カルチュラル・スタディーズ〉② ※現代社会論Ⅷa② ※現代社会論Ⅷb② ※現代社会論演習a② ※現代社会論演習b② 国際関係論入門a② 国際関係論入門b② 経済学入門a② 経済学入門b② 政治学入門a② 政治学入門b② 情報社会論入門a② 情報社会論入門b② 法学 (含む日本国憲法) a② 法学 (含む日本国憲法) b② 社会構造論Ⅰa〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅰb〈自由と平等〉② 社会構造論Ⅱa〈社会と組織〉② 社会構造論Ⅱb〈ネットワークと組織〉② ※社会構造論Ⅲa② ※社会構造論Ⅲb② 社会構造論Ⅳa〈日常生活と社会経済〉② 社会構造論Ⅳb〈日常生活と社会経済〉② ※社会構造論Ⅴa② ※社会構造論Ⅴb② 社会構造論Ⅵa〈現代日本と政治〉② ※社会構造論Ⅵb②	社会構造論演習a② 社会構造論演習b② 哲学入門a② 哲学入門b② 宗教学入門a② 宗教学入門b② 倫理学入門a② 倫理学入門b② 西洋思想入門a② 西洋思想入門b② 東洋思想入門a② 東洋思想入門b② 日本思想入門a② 日本思想入門b② ※思想・人間論Ⅰa② ※思想・人間論Ⅰb② 思想・人間論Ⅱa〈イメージをよむ〉② 思想・人間論Ⅱb〈イメージをよむ〉② ※思想・人間論Ⅲa② ※思想・人間論Ⅲb② 思想・人間論演習a② 思想・人間論演習b② 文学入門a② 文学入門b② 言語学入門a② 言語学入門b② 音楽入門a② 音楽入門b② ※表象文化論入門a② ※表象文化論入門b② ※表現文化論Ⅰa② ※表現文化論Ⅰb② ※表現文化論Ⅱa② ※表現文化論Ⅱb② 表現文化論Ⅲa〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅲb〈映画の“いま”〉② 表現文化論Ⅳa〈民俗と作法の表現文化論〉② 表現文化論Ⅳb〈伝統芸術文化論〉② ※表現文化論Ⅴa② ※表現文化論Ⅴb② 表現文化論Ⅵa〈文学と地域文化〉② 表現文化論Ⅵb〈文学と地域文化〉② 表現文化論演習a② 表現文化論演習b②		
		キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目【キャリアデザイン科目、国際交流科目、データサイエンス科目は、			
		他学部開設科目	[1~4年] ギリシャ語 (初級) ④ ギリシャ語 (中級) ④	ラテン語 (初級) ④ ラテン語 (中級) ④	マスコミ研究法②
		スポーツ・ウェルネス教育科目	【スポーツ・ウェルネス教育科目は、Ⅲ-3 分野別履修方法 (自由設計科目) ㊦スポーツ・ウェルネス教育科目を参照】		
		教職関連科目	【教職関連科目は、Ⅲ-4 分野別履修方法 (教職関連科目) を参照】		

注1) 丸で囲まれた数字は単位数を表す。  
 注2) ※印の科目は本年度休講である。

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用







# Ⅲ-1 分野別履修方法（基礎科目）

基礎科目は経営学科で学修する上で前提となる基礎知識の習得を目的とした科目であり、基礎科目A群（外国語）と基礎科目B群から構成される。

## A 基礎科目A群

基礎科目A群は、英語および第二外国語（独語・仏語・中国語のいずれか1つ）であり、必修科目である。卒業・進級に必要な基礎科目A群の単位数は第5表のとおりである。

第5表 卒業・進級に必要な基礎科目A群の規定単位数

		1年次	2年次	計
英 語		(講読) ② (オーラル・コミュニケーション) ②	(講読) ②	8
			(コース別) ② TOEIC準備コース 英会話コース	
第二外国語	独 語	(初級) ④	(中級) ②	6
	仏 語			
	中国語			
計		8	6	14

### 1 「英 語」

1年次配当の週2回の英語の授業は、1つは読解力を培うための講読の授業、もう1つはネイティブの講師による英会話・聞き取り中心の授業である。

2年次では週2回の授業を、1つは講読、もう1つはTOEIC準備コース/英会話コースのいずれかを各自の関心に応じて1つ選ぶコース別英語の授業を行う。

※ コース選択の方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

なお、TOEIC準備コース履修者はTOEIC IPテストの受験が必要となる。授業中の指示に従い、各自が手続きをすることになる。

### 2 「独語」・「仏語」・「中国語」

1年次配当の「初級」は週2回、2年次配当の「中級」は週1回の授業を行う。

### 3 再 履 修

#### ① 英語の再履修

配当年次や授業内容に関わらず不合格となった科目数分の「英語補講」（Ⅰ～Ⅳまで開講）を履修すること。

※ 登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

#### ② 独語・仏語・中国語の再履修

単位未修得科目	再 履 修 の 方 法
初 級	補講ⅠとⅡの両方を履修すること。
中 級	2年のいずれかのクラスで再履修すること。

## B 基礎科目B群

### 1 基礎科目B群

基礎科目B群の開設科目は、第6表のとおりである。

基礎科目B群は、経営学科の専門領域にわたって共通に必要なとされる基礎的知識・スキルを習得することを目的とした科目である。

第6表 基礎科目B群

授 業 科 目	学年配当	単 位
データ分析	1	4
基礎簿記	1	4

## 2 履修上の注意

基礎科目B群の科目が不合格の場合は、次の科目を再履修すること。

授業科目	学年配当	曜限	授業コード
データ分析	2	木2	1646
基礎簿記	2	木1	1647

# Ⅲ-2 分野別履修方法（専門科目）

専門科目は、ゼミナール（「2年次ゼミナール」、「3年次ゼミナール」および「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」）、専門基礎科目A群、専門基礎科目B群、専門選択科目である。卒業に必要な各分野の規定単位数は第7表に、またそれぞれの開設科目、学年配当は第8表～第10表に示すとおりである。

第7表 専門科目規定単位数

分野	区分	規定単位数
専門科目	ゼミナール	12
	専門基礎科目A群	4
	専門基礎科目B群	8
	専門選択科目	32
計		56

## A 必修科目

### 1 ゼミナール および卒業論文

2、3、4年次の学生は、全員がゼミナールを履修しなければならない。ゼミナールは学生各人が学問上の興味や知的関心に従って自らの専門分野を選択し、当該分野の指導教員の下で、3年間にわたり活発な討論や研究発表などを行うことにより、専門知識の習得と、主体的・自立的な人間性の向上を目的としている。この間に学んだ成果は最終的に卒業論文としてまとめる。

第8表 ゼミナール

授業科目	学年配当	単位
2年次ゼミナール	2	4
3年次ゼミナール	3	4
4年次ゼミナール（卒業論文を含む）	4	4

## 2 履修上の注意

- ① ゼミナールは定員が定められており、それを超えた場合には選考することがある。
- ② 2、3、4年次を通して同一の指導教員のゼミナールを履修しなければならないが、原則として指導教員の変更は認められない（2年次ゼミナールの再履修を除く）。
- ③ 単位の認定は各年次に行うが、不合格の者は次の年次配当のゼミナールを履修することができず、当該年次ゼミナールを再履修しなければならない。
- ④ 「2年次ゼミナール」の登録については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑤ 2年次から3年次への進級基準を満たさない者は、「2年次ゼミナール」の単位が修得できた場合でもその修得単位は取り消しとなり、「3年次ゼミナール」を履修することができない。
- ⑥ 「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」は4単位である。「4年次ゼミナール（卒業論文を含む）」が不合格の者は再履修し、卒業論文を再提出することが義務付けられる。
- ⑦ 卒業論文の提出要領については【授業に関すること】Ⅷ卒業論文】を参照すること。

## B 専門基礎科目

### 1 A群・B群

専門基礎科目はA群とB群から構成され、第9表に示すとおりである。

A群科目は、経営学科で学修する内容を網羅的に理解し、2年次以降の学修・研究の方向性を考慮する上での指針を提供することを目的とした科目である。B群科目は、経営学科での専門領域の科目を学修する上で必要な基礎的知識を習得することを目的とした科目である。

第9表 専門基礎科目 2013年度以降入学者用

区分	授 業 科 目	学年配当	単位	規定単位数
A群	ビジネス概論	1	4	4
B群	経営学総論	1～4	4	8
	マーケティング総論	1～4	4	
	経営管理論	2～4	4	
	企業会計論	2～4	4	
	財務会計論	2～4	4	
	経 営 史	2～4	4	
	経営統計学	2～4	4	
	商学通論	2～4	4	

第9表 専門基礎科目 2012年度以前入学者用

区分	授 業 科 目	学年配当	単位	規定単位数
A群	ビジネス概論	1	4	4
B群	経営学総論	1～4	4	8
	マーケティング総論	1～4	4	
	経営管理論	2～4	4	
	企業会計論	2～4	4	
	財務会計論	2～4	4	
	経 営 史	2～4	4	

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 2 履修上の注意

- ① A群「ビジネス概論」が不合格の場合は、翌年度に再履修すること。
- ② B群で規定単位数を超えて修得した単位は、専門選択科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。

## 1 専門選択科目

専門選択科目は、第10表に示すとおりである。

専門選択科目は、各人が専門領域の知識を習得し、専門能力を高めることを目的とした経営学科開設の科目である。

第10表 専門選択科目（学年配当：2～4年次） 2013年度以降入学者用

授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
人的資源論	4	会計監査論	4	※生産管理論	4
企業論	4	経営情報論	4	※公企業論	4
原価計算論	4	※税務会計論	4	※中小企業論	4
経営数学	4	経営分析	4	商品開発論	4
消費者行動論	4	金融論Ⅰ	2	ベンチャービジネス論	4
英経営書講読Ⅰ	4	金融論Ⅱ	2	経営学特殊講義Ⅰ	2
英経営書講読Ⅱ	4	金融システム論	4	※経営学特殊講義Ⅱ	2
経営組織論	4	証券市場論	4	※経営学特殊講義Ⅲ	2
経営戦略論	4	※貿易論	4	※経営学特殊講義Ⅳ	2
財務管理論	4	交通論	4	経営学特殊講義Ⅴ	2
※国際経営論	4	リスクマネジメント論	4	経営学特殊講義Ⅵ	2
管理会計論	4	※コンピュータ論	4		

第10表 専門選択科目（学年配当：2～4年次） 2012年度以前入学者用

授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
人的資源論	4	会計監査論	4	※生産管理論	4
企業論	4	経営統計学	4	※公企業論	4
原価計算論	4	経営情報論	4	※中小企業論	4
経営数学	4	※税務会計論	4	商品開発論	4
商学通論	4	経営分析	4	ベンチャービジネス論	4
消費者行動論	4	金融論Ⅰ	2	経営学特殊講義Ⅰ	2
英経営書講読Ⅰ	4	金融論Ⅱ	2	※経営学特殊講義Ⅱ	2
英経営書講読Ⅱ	4	金融システム論	4	※経営学特殊講義Ⅲ	2
経営組織論	4	証券市場論	4	※経営学特殊講義Ⅳ	2
経営戦略論	4	※貿易論	4	経営学特殊講義Ⅴ	2
財務管理論	4	交通論	4	経営学特殊講義Ⅵ	2
※国際経営論	4	リスクマネジメント論	4		
管理会計論	4	※コンピュータ論	4		

注) ※印の科目は本年度休講である。

## 2 履修上の注意

- ① 専門選択科目の卒業に必要な規定単位数は32単位である。
- ② 専門選択科目で規定単位数を超えて修得した単位は、自由設計科目の修得単位として卒業要件単位に算入することができる。  
 なお、専門基礎科目B群から充当した単位数がある場合も、その単位数と専門選択科目として配置された科目を修得した単位数とを合計して32単位を超えていれば、その超えた単位数を自由設計科目の必要単位数に充当することができるものとする。
- ③ 2年次以降、専門選択科目の履修は、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。
- ④ 「英経営書講読Ⅱ」および「経営情報論」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

# Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）

## 1 自由設計科目

自由設計科目は、学生の興味、関心、専門分野に対応した知識を習得することを目的とした科目である。自由設計科目は、第11表に示されるとおり、10区分から構成されている。なお、自由設計科目の規定単位数は、第12表に示される単位によっても充当することができる。

第11表 自由設計科目

区 分		規定単位数
学部開設科目	専門選択関連科目	46
	法学関連科目	
	教養科目	
全学共通教育科目	リテラシー科目群	
	教養科目群	
	キャリアデザイン科目群	
	国際交流科目群	
	データサイエンス科目群	
他学部開設科目		
スポーツ・ウエルネス教育科目		

第12表 自由設計科目に充当できる単位

区 分	規定単位数	左記の規定単位数を超えて修得した単位の取り扱い
専門選択科目	32	自由設計科目の単位として充当
専門基礎科目B群の規定単位数を超えて修得した単位		

## 2 履修上の注意

自由設計科目の2年次以降の履修については、別途配付している「成城大学経済学部履修ガイドブック」に所属するゼミナール担当教員が示す履修モデルを参考にすること。

## A 学部開設科目

学部開設科目は原則的に経済学部が開設する科目であり、「専門選択関連科目」、「法学関連科目」、「教養科目」によって構成される。

### 1 専門選択 関連科目

専門選択関連科目は、専門科目の専門選択科目に関連する経済学系の専門科目であり、開設科目は第13表に示すとおりである。

第13表 専門選択関連科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
社会科学概論	1~4	4	食料・資源経済論Ⅱ	2~4	2
ミクロ経済学	2~4	4	日本経済史	2~4	4
マクロ経済学	2~4	4	西洋経済史	2~4	4
統 計 学	2~4	4	東洋経済史	2~4	4
経 済 学 史	2~4	4	外国史概説	2~4	4
市場と政府Ⅰ	2~4	2	現代経済史	2~4	4
※市場と政府Ⅱ	2~4	2	社会思想史	2~4	4
社会経済史	2~4	4	社会保障論	2~4	4
社会政策	2~4	4	社会キャリア論	2~4	4
経済原論	2~4	4	社会デザイン論	2~4	4
※数理経済学Ⅰ	2~4	2	日本経済論Ⅰ	2~4	2
数理経済学Ⅱ	2~4	2	日本経済論Ⅱ	2~4	2
※経済変動論	2~4	4	世界経済事情Ⅰ	2~4	2
※経済統計論	2~4	4	世界経済事情Ⅱ	2~4	2
計量経済学	2~4	4	国際関係論	2~4	4
産業経済学	2~4	4	経済地理学	2~4	4
経済思想史	2~4	4	英経済書講読	2~4	4
比較制度論Ⅰ	2~4	2	※独経済書講読	2~4	4
※比較制度論Ⅱ	2~4	2	仏経済書講読	2~4	4
国際金融論Ⅰ	2~4	2	中国経済書講読A	2~4	2
国際金融論Ⅱ	2~4	2	※中国経済書講読B	2~4	2
財 政 学 Ⅰ	2~4	2	応用経済学特別講義Ⅲ	2~4	2
財 政 学 Ⅱ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅳ	2~4	2
公共経済学Ⅰ	2~4	2	※経済理論特別講義Ⅰ	3・4	2
公共経済学Ⅱ	2~4	2	※経済理論特別講義Ⅱ	3・4	2
医療経済論Ⅰ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅰ	3・4	2
医療経済論Ⅱ	2~4	2	※応用経済学特別講義Ⅱ	3・4	2
国際貿易論Ⅰ	2~4	2	経済史特別講義Ⅰ	3・4	2
国際貿易論Ⅱ	2~4	2	経済史特別講義Ⅱ	3・4	2
開発経済学Ⅰ	2~4	2	※社会問題特別講義Ⅰ	3・4	2
開発経済学Ⅱ	2~4	2	※社会問題特別講義Ⅱ	3・4	2
食料・資源経済論Ⅰ	2~4	2			

注) ※印の科目は本年度休講である。



## 2 法学関連科目

法学関連科目の開設科目は、第14表に示すとおりである。

第14表 法学関連科目

授 業 科 目	学年配当	単 位	授 業 科 目	学年配当	単 位
民法概論	2~4	4	社会保障法	3・4	4
商法概論	2~4	4	税法Ⅰ	3・4	2
憲 法	2~4	4	税法Ⅱ	3・4	2
会社法Ⅰ	3・4	2	金融商品取引法	3・4	2
会社法Ⅱ	3・4	2	有価証券法	3・4	2
国際法Ⅰ	3・4	4	商取引法	3・4	2
国際法Ⅱ	3・4	4	経済法Ⅰ	3・4	2
行政法Ⅰ	3・4	4	経済法Ⅱ	3・4	2
行政学	3・4	4	国際経済法	3・4	4
労働基準法	3・4	4	公務員法・行政組織法	3・4	2
労働組合法	3・4	4	消費者法Ⅰ	3・4	2
国際取引法	3・4	4	※消費者法Ⅱ	3・4	2
環 境 法	3・4	2	知的財産法	3・4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第14表の注意事項】

- ① 「行政法Ⅰ」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## 3 教養科目

教養科目の開設科目は、第15表に示すとおりである。

第15表 教養科目 (学年配当：1~4年次)

授業科目	単 位	授業科目	単 位	授業科目	単 位
外国文化Ⅰ	4	数学Ⅰ	4	TOEIC (特級)Ⅱ a	1
外国文化Ⅱ A	4	数学Ⅱ	4	TOEIC (特級)Ⅱ b	1
外国文化Ⅲ A	4	※現代社会とスポーツ	2	中国語 (特級) a	1
外国文化Ⅳ A	4	※スポーツ産業論	2	中国語 (特級) b	1
心理学	4	TOEIC (特級)Ⅰ a	1	※政治経済論入門Ⅰ	2
※経済学	4	TOEIC (特級)Ⅰ b	1	※政治経済論入門Ⅱ	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第15表の注意事項】

- ① 2018年度に「TOEIC (特級) a」と「TOEIC (特級) b」の科目名称は「TOEIC (特級)Ⅰ a」と「TOEIC (特級)Ⅰ b」に変更された。変更前の科目の単位を修得している場合、変更後の科目を履修することはできない。
- ② 2018年度に「TOEIC (特級)Ⅱ a」、「TOEIC (特級)Ⅱ b」、「中国語 (特級) a」、「中国語 (特級) b」が新設された。
- ③ 「TOEIC (特級)Ⅰ a」、「TOEIC (特級)Ⅰ b」、「TOEIC (特級)Ⅱ a」、「TOEIC (特級)Ⅱ b」は特別な履修登録手続きが必要である。登録方法については【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。

## B 全学共通教育科目

全学共通教育科目の一覧は、p.128、132 第4表 経営学科授業科目一覧表に示されている。

### 〔注意事項〕

- ① 全学共通教育科目の学年配当は、第16表に記載する「キャリアデザイン科目」、第17表に記載する「国際交流科目」、第18表に記載する「データサイエンス科目」を除き、1～4年次である。
- ② 全学共通教育科目の中には特別な履修登録手続きが必要な授業科目があるので、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を必ず参照すること。
- ③ 2018年度から、通年（2単位）で開講していた外国語科目は、前期a（1単位）、後期b（1単位）に分割して開講する。2017年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目は履修できない。  
（例：2017年度までに「英語リスニング&スピーキング（初級）」の単位を修得している場合、「英語リスニング&スピーキング（初級）a」および「英語リスニング&スピーキング（初級）b」を履修できない。）
- ④ 2016年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（上級）	独語選択（上級）a
	独語選択（上級）b
仏語選択（上級）	仏語選択（上級）a
	仏語選択（上級）b
中国語選択（上級）	中国語選択（上級）a
	中国語選択（上級）b

- ⑤ 2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧科目	新科目
独語選択（初級）A	独語選択（初級）I a
	独語選択（初級）I b
独語選択（初級）B	独語選択（初級）II a
	独語選択（初級）II b
仏語選択（初級）A	仏語選択（初級）I a
	仏語選択（初級）I b
仏語選択（初級）B	仏語選択（初級）II a
	仏語選択（初級）II b
中国語選択（初級）A	中国語選択（初級）I a
	中国語選択（初級）I b
中国語選択（初級）B	中国語選択（初級）II a
	中国語選択（初級）II b

⑥ 独語選択、仏語選択、中国語選択の履修に際しては、以下の条件を満たさなければならない。

授業科目(グレード)	履修の条件 (同一言語において1つ以上の条件を満たすこと)	備考
独語選択(初級) I a・I b・II a・II b 仏語選択(初級) I a・I b・II a・II b 中国語選択(初級) I a・I b・II a・II b	・全学生履修可	教育上の効果を高めるために、I a・I b・II a・II bの同学年での履修を強く勧める。
独語選択(中級) a・b 仏語選択(中級) a・b 中国語選択(中級) a・b	・上記「選択(初級) I a」、「選択(初級) I b」、「選択(初級) II a」、「選択(初級) II b」の計4単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の初級4単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。
独語選択(上級) a・b 仏語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	・上記「選択(中級) a」および「選択(中級) b」の計2単位を修得した者 ・経済学部第2外国語の中級の単位を修得した者 ・その他、一定の語学能力があると認められた者	左記履修の条件を満たしていれば、a・bどちらかのみ履修可。

※上記の履修の条件については、2017年度以前に「選択(初級) A」を修得していた場合は、「選択(初級) I a」と「選択(初級) I b」を、「選択(初級) B」を修得していた場合は、「選択(初級) II a」と「選択(初級) II b」を修得しているものとみなす。  
同様に、「選択(中級)」を修得していた場合は、「選択(中級) a」および「選択(中級) b」を修得しているものとみなす。

⑦ 「ディプロム・コース」は、同一言語の同グレード内での重複・反復履修はA・B合わせて3単位を限度とし、そのうち2単位までを卒業要件単位に算入することができる。

※単位修得の例

- ・「ディプロム・コース中級(独語) A」を2単位、「ディプロム・コース中級(独語) B」を1単位修得した場合、3単位中2単位が卒業要件単位に算入され、1単位は余剰単位となる。
- ・「ディプロム・コース中級(仏語) A」を2単位、「ディプロム・コース上級(仏語) A」を2単位修得した場合、4単位とも卒業要件単位に算入される。
- ・「ディプロム・コース中級(独語) A」を3単位、「ディプロム・コース中級(仏語) A」を3単位修得した場合、6単位中4単位が卒業要件単位に算入され、2単位は余剰単位となる。

⑧ 2018年度に以下のように科目の名称が変更された。上記の注意事項⑦については、旧科目の単位を修得している場合、新科目の単位を修得済みであるとみなされる。

旧科目	新科目
ディプロム・コース中級(独語) A	ディプロム・コース中級(独語) a
ディプロム・コース中級(独語) B	ディプロム・コース中級(独語) b
ディプロム・コース上級(独語) A	ディプロム・コース上級(独語) a
ディプロム・コース上級(独語) B	ディプロム・コース上級(独語) b
ディプロム・コース中級(仏語) A	ディプロム・コース中級(仏語) a
ディプロム・コース中級(仏語) B	ディプロム・コース中級(仏語) b
ディプロム・コース上級(仏語) A	ディプロム・コース上級(仏語) a
ディプロム・コース上級(仏語) B	ディプロム・コース上級(仏語) b

⑨ 「総合講座V」および「総合講座VI」は、年度をかえて同一名称の科目を反復履修できる。ただし、反復履修して修得した単位は卒業要件単位に算入することはできない。

⑩ 「成城学Ⅲ」と「成城学Ⅳ」は、セットで履修することになっている。なお、「成城学Ⅲ」または「成城学Ⅳ」のいずれかの単位をすでに修得している者で、本年度にもう一方の科目の履修を希望する場合は、Web履修登録期間締切日までに教務部に申し出ること。

⑪ 2017年度から、全学共通教育科目のうち、通年(4単位)で開講していた系列科目は(系列科目については【全学共通教育科目】□教養科目群 3系列科目 第7表を参照)、前期a(2単位)、後期b(2単位)に分割して開講する。なお、2016年度までに通年科目の単位を修得している場合、同一名称のaまたはbの科目を履修できない。(例：2016年度までに「社会学入門」の単位を修得している場合、「社会学入門a」または「社会学入門b」を履修できない)

⑫ キャリアデザイン科目群の開設科目は第16表、国際交流科目群の開設科目は第17表、データサイエンス科目群の開設科目は第18表のとおりである。

第16表 キャリアデザイン科目群

授 業 科 目	学年配当	単位
☆キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2
☆キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2
スタート・プログラムⅠ〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2
スタート・プログラムⅡ〈企業提案〉	1・2	2
スタート・プログラムⅢ〈企業との協働〉	1・2	2
ワークライフバランス論	2～4	2
※キャリアモデル・ケーススタディ	2～4	2
アドバンス・プログラム	2・3	2
業界企業分析論	2～4	2
職業選択論	2～4	2
※グローバルビジネス論	3・4	2
チャレンジ・プログラム	3・4	2
時事英語Ⅰ	1～4	2
時事英語Ⅱ	1～4	2
時事問題研究	2～4	2
※就業力実践Ⅰ	2～4	2
※就業力実践Ⅱ	2～4	2
※就業力実践Ⅲ	2～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

【第16表の注意事項】

- ① キャリアデザイン科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、4単位を限度として自由設計科目の卒業要件単位に算入することができる。ただし、3年次以降は履修できない。
- ② 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」（2科目4単位）の単位の修得が履修の条件となる。
- ③ 「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」のうち、修得できる単位数は、1科目2単位までとする。
- ④ 「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」および「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」は3年次以降は履修することができない。
- ⑤ 「チャレンジ・プログラム」の受講を希望する学生は、履修登録前にキャリアセンターへ申し出ること。
- ⑥ キャリアデザイン科目群の開設科目は、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【[授業に関すること](#)】[Ⅳ](#)特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ⑦ キャリアデザイン科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・キャリアデザイン科目群の授業科目のうち「スタート・プログラムⅠ～Ⅲ」について、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した学生は、履修科目登録上限単位数を2単位を超えて履修登録することができる。
  - ・「成城大学就業力育成・認定プログラム」（詳細は【[全学共通教育科目](#)】[E](#)キャリアデザイン科目群】の項を参照）の受講申請をした学生は、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次はキャリアセンターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、2年次は8単位、3年次は4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
 ただし、他の特例措置（【[履修規定](#)】[I](#)総説 [B](#)履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

第17表 国際交流科目群

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	※Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
英語等による 地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	※European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	※North American Studies B	1～4	2
	※Oceanian Studies A	1～4	2
	※Oceanian Studies B	1～4	2
	※Asian Studies A	1～4	2
	Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	※Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	※Japan Studies VII A	1～4	2
	※Japan Studies VII B	1～4	2
	Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
英語等による 特定のテーマを 扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	※Special Topics III A	1～4	2
	※Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期 語学研修	海外短期語学研修 (英語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (英語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (独語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (仏語・春季)	*	2
	海外短期語学研修 (中国語・夏季)	1～4	2
	海外短期語学研修 (英語・就業体験準備)	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修 (マレーシア・就業体験研修)	1～4	2

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用



第17表 国際交流科目群（つづき）

区分	授 業 科 目	学年配当	単位
受け入れ留学生科目	日本語A〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語A〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語A〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語A〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語A〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語A〈初級〉	1～4	8
	日本語B〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語B〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語B〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語B〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
日本語B〈中級・総合日本語〉	1～4	2	
日本語B〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。

【第17表の注意事項】

- ① 国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」は卒業要件単位に算入することができない。
- ② 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。  
研修への参加申し込みをもって、該当する授業科目への履修登録とする。なお、Campus Square for Web上では、研修に参加する年度は単位数が0の仮置き科目、その翌年度に2単位の科目を履修登録する。これらのCampus Square for Web上の履修登録はいずれも教務部が行う。履修登録された2単位は、研修の翌年度の履修科目登録上限単位数に含まれる。研修参加申し込み後は、研修自体がやむを得ず中止となった場合を除き、研修への実際の参加の当否にかかわらず、履修登録を取り消すことができないので注意すること。
- ③ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」は、一度単位の認定を受けた科目も再履修することができ、同一年度に複数の科目を履修することもできる。ただし、認定された単位のうち卒業要件単位数に算入できるのはあわせて2単位までである。  
また、特別な履修登録手続きを行う科目であること、やむを得ない理由により研修が中止となる場合があることも考慮し、履修科目登録上限単位数や卒業・進級要件単位数に注意して学習計画を立てておくこと。
- ④ 「海外短期語学研修（英語・就業体験準備）【1単位】」と「海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）【2単位】」はセットで履修することになっている。
- ⑤ 「海外短期語学研修」および「海外短期研修」の成績評価は、他の科目とは異なり、合格であれば「合」（英文成績証明書は「P」）と表示される。
- ⑥ 受け入れ留学生科目は、交換留学協定校からの受入交換留学生である者または、外国人留学生のうち所定の要件に該当する者のみ履修できる。
- ⑦ 国際交流科目群の授業科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑧ 国際交流科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。  
・国際交流科目のうち、「留学対策科目」、「英語等による地域研究科目」および「留学準備演習」の履修については、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合（1年次は国際センターが行う学力考査等で一定の基準を満たしている場合）、各年次4単位まで履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ総説 Ⅱ履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑨ 2018年度に「Special Topics IVA」、「Special Topics IVB」が新設された。
- ⑩ 2017年度をもって「日本語コミュニケーションA」、「日本語コミュニケーションB」は廃講となった。
- ⑪ 2018年度に「Academic Skills VA」、「Academic Skills VB」、「Academic Skills VIA」、「Academic Skills VIB」の学年配当は「1～4」から「2～4」に変更された。



第18表 データサイエンス科目群

授 業 科 目	学年配当	単 位
☆データサイエンス入門Ⅰ	1～4	2
☆データサイエンス概論	1～4	2
☆データサイエンス入門Ⅱ	2～4	2
データサイエンス応用	2～4	2
データサイエンス・スキルアップ・プログラム	2～4	2
データサイエンス・アドバンスド・プログラム	2～4	2

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第18表の注意事項】

- ① データサイエンス科目の修得単位のうち、☆の付いた科目のみ、6単位を限度として自由設計科目の卒業要件単位に算入することができる。
- ② 「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」は、「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修（「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」が前期開講科目あるいは夏季集中講義である場合は、「データサイエンス入門Ⅱ」を前期に履修）していることが履修の条件となる。
- ③ 「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」は、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修していることが履修の条件となる。
- ④ データサイエンス科目群の開設科目には、特別な履修登録手続きが必要な授業科目がある。登録方法については、【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目を参照すること。
- ⑤ データサイエンス科目群の授業科目の履修について、履修科目登録上限単位数に関する特例措置が以下のとおり設けられている。
  - ・データサイエンス科目群の授業科目のうち、「データサイエンス応用」、「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」、「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」について、前年までの成績（GPA等）が一定の基準を満たしている場合、2年次は6単位、3年次は6単位まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定Ⅰ】総説【B】履修単位制限 2履修科目登録上限単位数）を参照も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。
- ⑥ 2018年度に「データサイエンス・スキルアッププログラム」と「データサイエンス・アドバンスド・プログラム」の学年配当は「3・4」から「2～4」に変更された。

## C 他学部開設科目

他学部開設科目は、第19表に示すとおりである。

第19表 他学部開設科目 2016年度入学者用

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ語（初級）	2～4	4	文芸	東洋美術史一般講義 a	2～4	2	文芸
ギリシャ語（中級）	2～4	4		東洋美術史一般講義 b	2～4	2	
ラテン語（初級）	2～4	4		西洋美術史一般講義 I a	2～4	2	
ラテン語（中級）	2～4	4		西洋美術史一般講義 I b	2～4	2	
古代国文学講義 I	2～4	2		西洋美術史一般講義 II a	2～4	2	
古代国文学講義 II	2～4	2		西洋美術史一般講義 II b	2～4	2	
中古国文学講義 I	2～4	2		美学特殊講義 I	2～4	2	
中古国文学講義 II	2～4	2		美学特殊講義 II	2～4	2	
中世国文学講義 I	2～4	2		芸術学特殊講義 I	2～4	2	
中世国文学講義 II	2～4	2		芸術学特殊講義 II	2～4	2	
※近世国文学講義 I	2～4	2		芸術学特殊講義 III	2～4	2	
※近世国文学講義 II	2～4	2		芸術学特殊講義 IV	2～4	2	
近代国文学講義 I	2～4	2		芸術学特殊講義 V	2～4	2	
近代国文学講義 II	2～4	2		美術史特殊講義 I	2～4	2	
漢文学講義 I	2～4	2		美術史特殊講義 II	2～4	2	
漢文学講義 II	2～4	2		美術史特殊講義 III	2～4	2	
国語学講義 I	2～4	2		美術史特殊講義 IV	2～4	2	
国語学講義 II	2～4	2		美術史特殊講義 V	2～4	2	
国語国文学講義 I	2～4	2		文化史特殊講義 II a	2～4	2	
国語国文学講義 II	2～4	2		文化史特殊講義 II b	2～4	2	
国語国文学講義 III	2～4	2		文化史特殊講義 III a	2～4	2	
国語国文学講義 IV	2～4	2		文化史特殊講義 III b	2～4	2	
国語国文学講義 V	2～4	2		文化史特殊講義 IV a	2～4	2	
国語国文学講義 VI	2～4	2		文化史特殊講義 IV b	2～4	2	
国語国文学講義 VII	2～4	2		民俗学特殊講義 I a	2～4	2	
国語国文学講義 VIII	2～4	2		民俗学特殊講義 I b	2～4	2	
国語国文学講義 IX	2～4	2		民俗学特殊講義 II a	2～4	2	
国語国文学講義 X	2～4	2		民俗学特殊講義 II b	2～4	2	
英語学概論	2～4	4		民俗学特殊講義 III a	2～4	2	
英語文学史	2～4	4		民俗学特殊講義 III b	2～4	2	
英語学特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 I a	2～4	2	
英語学特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 I b	2～4	2	
英語文学特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 II a	2～4	2	
英語文学特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 II b	2～4	2	
英語文化特殊講義 A	3・4	2		文化人類学特殊講義 III a	2～4	2	
英語文化特殊講義 B	3・4	2		文化人類学特殊講義 III b	2～4	2	
美学・芸術学入門 a	2～4	2		考古学 a	2～4	2	
美学・芸術学入門 b	2～4	2		考古学 b	2～4	2	
美術史入門 a	2～4	2		マスコミ原論	2～4	2	
美術史入門 b	2～4	2		マスコミ史	2～4	2	
美学一般講義 a	2～4	2		ジャーナリズム論	2～4	2	
美学一般講義 b	2～4	2		リスクコミュニケーション論	2～4	2	
音楽学一般講義 a	2～4	2		社会心理学	2～4	2	
音楽学一般講義 b	2～4	2		広告心理学	2～4	2	
演劇学一般講義 a	2～4	2	マスコミ研究法	2～4	2		
演劇学一般講義 b	2～4	2	※マスコミ講義 I	2～4	2		
映画学一般講義 a	2～4	2	※マスコミ講義 II	2～4	2		
映画学一般講義 b	2～4	2	※マスコミ講義 III	2～4	2		
日本美術史一般講義 a	2～4	2	マスコミ講義 IV	2～4	2		
日本美術史一般講義 b	2～4	2	マスコミ講義 V	2～4	2		

履修規定

経営学科

2016年度以前入学者用

第19表 他学部開設科目 (つづき)

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部	授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
※マスコミ講義Ⅵ	2~4	2	文芸	ヨーロッパの文学講義Ⅰ(独)	2~4	2	文芸
マスコミ講義Ⅶ	2~4	2		ヨーロッパの文学講義Ⅱ(仏)	2~4	2	
マスコミ講義Ⅷ	2~4	2		西洋古典特殊講義 a	2~4	2	
マスコミ講義Ⅸ	2~4	2		西洋古典特殊講義 b	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅰ	2~4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰa(独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅱ	2~4	2		ヨーロッパの言語特殊講義Ⅰb(独)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅲ	2~4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱa(仏)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅳ	2~4	2		※ヨーロッパの言語特殊講義Ⅱb(仏)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅴ	2~4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅰ(独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅵ	2~4	2		ヨーロッパの思想特殊講義Ⅱ(仏)	2~4	2	
※コミュニケーション講義Ⅶ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰa(独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅷ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅰb(独)	2~4	2	
コミュニケーション講義Ⅸ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱa(仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅰ	2~4	2		ヨーロッパの歴史特殊講義Ⅱb(仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅱ	2~4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅰ(独)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅲ	2~4	2		ヨーロッパの文学特殊講義Ⅱ(仏)	2~4	2	
マスコミ特殊講義Ⅳ	2~4	2		ヨーロッパ文化史	2~4	4	法
マスコミ特殊講義Ⅴ	2~4	2		アメリカ文化史	2~4	4	
マスコミ特殊講義Ⅵ	2~4	2		日本文学	2~4	4	
ヨーロッパの文化	2~4	4		外国文学	2~4	4	
ヨーロッパの思想講義Ⅰ(独)	2~4	2	※エコロジー論	2~4	4	社会 イノベー ション	
ヨーロッパの思想講義Ⅱ(仏)	2~4	2	文明と社会	2~4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅰ(独)	2~4	2	家族と社会の変動	2~4	4		
ヨーロッパの歴史講義Ⅱ(仏)	2~4	2	短期学外演習〈自然〉	2~4	2		

注) ※印の科目は本年度休講である。

第19表 他学部開設科目 2015年度以前入学者用

授 業 科 目	学年配当	単位	開設学部
ギリシャ語(初級)	1~4	4	文芸
ギリシャ語(中級)	1~4	4	
ラテン語(初級)	1~4	4	
ラテン語(中級)	1~4	4	
マスコミ研究法	1~4	2	

注) ※印の科目は本年度休講である。

【第19表の注意事項】

【2016年度入学者】

- ① 他学部開設科目は、履修登録締切日が通常の日程とは異なる。詳細については【授業に関すること】Ⅳ特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ② 他学部開設科目は、同一年度に8単位までしか履修できない。修得した単位は累計で8単位まで卒業要件単位として認められる。8単位を超えて修得した分は、余剰単位の扱いとなる。

## D スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は、第20表に示すとおりである。

第20表 スポーツ・ウエルネス教育科目（学年配当：1～4年次）

カテゴリー	系列	授業科目・種目、コース	
スポーツ・ウエルネス 講義・演習科目 (半期2単位)	スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉 ※スポーツ・スタディーズⅡ スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉 ※スポーツ・スタディーズⅣ	
	ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉 ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉 ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉 ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	
	身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉 身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉 身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉 身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	
スポーツ・ウエルネス 実技科目 (半期または集中1単位)	スポーツ文化	※オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球 テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	定時コース
		※サイクル・スポーツ スキー	集中コース
	ウエルネス文化	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳 ※トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	定時コース
		身体表現文化	剣道（古武道） ダンスパフォーマンス

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) ※印の科目は本年度休講である。

### 【第20表の注意事項】

- ① スポーツ・ウエルネス教育科目は、**4単位まで卒業要件単位として認められる。**
- ② スポーツ・ウエルネス教育科目は、特別な履修登録手続きが必要になるので【授業に関することⅣ】特別な履修登録手続きを必要とする授業科目】を参照すること。
- ③ スポーツ・ウエルネス講義・演習科目の第1回目の授業は、第1体育館1階講義室または、指定された教室でガイダンスを行う。
- ④ スポーツ・ウエルネス実技科目の第1回目の授業は、前期・後期ともに、第1体育館Aフロアでガイダンスを行う。なお、ガイダンスに出席するにあたり着替えは不要である。
- ⑤ スポーツ・ウエルネス実技科目は、前期・後期の半期開講科目である。**後期開講科目についても前期開講科目と同様に4月の履修申し込み日および履修登録期間に手続きを終えなければならない。**
- ⑥ 健康上の問題および心身に障がいのある履修希望者には、個別に対応する。希望者は履修登録期間内に教務部または科目担当専任教員まで申し出ること。
- ⑦ スポーツ・ウエルネス実技科目は一度単位を修得した種目も再履修することができ、同一種目が複数開講されている場合は複数の履修も可能である。
- ⑧ 教員免許の取得を希望する者は、スポーツ・ウエルネス実技科目2単位を修得しなければならない。

## Ⅲ-4 分野別履修方法（教職関連科目）

- ① 第21表に示す教職関連科目は、教職課程を登録した者が「教科に関する科目」として履修するために開設された科目であるが、教職課程を登録していない者もこれらの科目を履修することができる。
- ② 教職課程の登録如何を問わず、**修得した単位は卒業・進級に必要な単位としては認められない（余剰単位の取扱いとなる）。**
- ③ 教職関連科目は、履修科目登録上限単位数を超えて履修することが認められる場合がある。詳細については、【教職課程】Ⅰ 教職課程 4 履修科目登録上限単位数の特例措置】を参照すること。

第21表 教職関連科目 2015年度以降入学者

授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説a	2~4	2
日本史概説b	2~4	2
文化史特殊講義 I a	2~4	2
文化史特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 I a	2~4	2
歴史学特殊講義 I b	2~4	2
歴史学特殊講義 II a	2~4	2
歴史学特殊講義 II b	2~4	2
歴史学特殊講義 III a	2~4	2
歴史学特殊講義 III b	2~4	2
日本文化史 a	2~4	2
日本文化史 b	2~4	2
東洋文化史 a	2~4	2
東洋文化史 b	2~4	2
西洋文化史 a	2~4	2
西洋文化史 b	2~4	2
人文地理学 a	2~4	2
人文地理学 b	2~4	2
地理学講義 a	2~4	2
地理学講義 b	2~4	2
地 誌 学 a	2~4	2
地 誌 学 b	2~4	2
哲 学 講 義 a	2~4	2
哲 学 講 義 b	2~4	2
宗教学講義 a	2~4	2
宗教学講義 b	2~4	2
倫理学講義 a	2~4	2
倫理学講義 b	2~4	2
哲学史特殊講義 a	2~4	2
哲学史特殊講義 b	2~4	2
職 業 指 導	4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

第21表 教職関連科目 2014年度以前入学者

授 業 科 目	学年配当	単位
日本史概説	2~4	4
文化史特殊講義 I	2~4	4
文化史特殊講義 II	2~4	4
文化史特殊講義 III	2~4	4
歴史学特殊講義 I	2~4	4
歴史学特殊講義 II	2~4	4
歴史学特殊講義 III	2~4	4
日本文化史	2~4	4
東洋文化史	2~4	4
西洋文化史	2~4	4
人文地理学	2~4	4
地理学講義	2~4	4
地 誌 学	2~4	4
哲 学 講 義	2~4	4
宗教学講義	2~4	4
倫理学講義	2~4	4
哲学史特殊講義	2~4	4
職 業 指 導	4	4

注) ※印の科目は本年度休講である。

# 2017年度以前 授業科目の新設・名称変更・廃講 一覧表

## 科目の新設

新設年度	授 業 科 目 名	備 考	
2017年度	中国経済書講読A・B	2017年度以降入学者 経済学科：専門科目 専門選択科目 経営学科：自由設計科目 専門関連科目  2016年度以前入学者 経済学科：専門科目 専門選択科目 経営学科：自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目	
	TOEIC（特級）a・b	2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 推奨科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度以前入学者 自由設計科目 学部開設科目 教養科目	
	社会学入門a・b 国際関係論入門a・b 政治学入門a・b 法学（含む日本国憲法）a・b 宗教学入門a・b 西洋思想入門a・b 日本思想入門a・b 日本近現代史a・b アジア近現代史a・b 文化人類学入門a・b 留学準備演習	メディア論入門a・b 経済学入門a・b 情報社会論入門a・b 哲学入門a・b 倫理学入門a・b 東洋思想入門a・b 歴史学入門a・b ヨーロッパ近現代史a・b アメリカ近現代史a・b 空間システム論入門a・b	2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 推奨科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度以前入学者 自由設計科目 全学共通教育科目
	特別講座Ⅰ・Ⅱ 現代社会論演習a・b 社会構造論演習a・b 思想・人間論演習a・b 言語学入門a・b 表象文化論入門a・b 表現文化論演習a・b 歴史文化論演習a・b 地域空間論演習a・b 数理科学Ⅰ～Ⅱ a・b 化学の世界a・b 科学史a・b 数理・自然科学演習a・b 身体と運動・スポーツa・b 心身論演習a・b	現代社会論Ⅰ～Ⅷ a・b 社会構造論Ⅰ～Ⅵ a・b 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ a・b 文学入門a・b 音楽入門a・b 表現文化論Ⅰ～Ⅵ a・b 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ a・b 地域空間論Ⅰ～Ⅷ a・b 数理の世界a・b 物理の世界a・b 生命科学の世界a・b 自然科学Ⅰ～Ⅴ a・b こころと身体a・b 心身論Ⅰ～Ⅴ a・b	2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 一般科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度以前入学者 自由設計科目 全学共通教育科目
古代国文学講義Ⅰ 中古国文学講義Ⅰ 中世国文学講義Ⅰ 近世国文学講義Ⅰ 近代国文学講義Ⅰ 漢文学講義Ⅰ 国語学講義Ⅰ 国語国文学講義Ⅰ 国語国文学講義Ⅲ 国語国文学講義Ⅴ 国語国文学講義Ⅶ 国語国文学講義Ⅸ 英語学概論 英語学特殊講義A 英語文学特殊講義A 英語文化特殊講義A	古代国文学講義Ⅱ 中古国文学講義Ⅱ 中世国文学講義Ⅱ 近世国文学講義Ⅱ 近代国文学講義Ⅱ 漢文学講義Ⅱ 国語学講義Ⅱ 国語国文学講義Ⅱ 国語国文学講義Ⅳ 国語国文学講義Ⅵ 国語国文学講義Ⅷ 国語国文学講義Ⅹ 英語文学史 英語学特殊講義B 英語文学特殊講義B 英語文化特殊講義B	2016年度以降入学者のみ履修可  2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 一般科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度入学者 自由設計科目 他学部開設科目	

履修規定

科目新設等一覧表



新設年度	授 業 科 目 名	備 考	
2017年度	美学・芸術学入門 a 美術史入門 a 美学一般講義 a 音楽学一般講義 a 演劇学一般講義 a 映画学一般講義 a 日本美術史一般講義 a 東洋美術史一般講義 a 西洋美術史一般講義 I a 西洋美術史一般講義 II a 美学特殊講義 I 芸術学特殊講義 I 芸術学特殊講義 III 芸術学特殊講義 V 美術史特殊講義 II 美術史特殊講義 IV 文化史特殊講義 II a 文化史特殊講義 III a 文化史特殊講義 IV a 民俗学特殊講義 I a 民俗学特殊講義 II a 民俗学特殊講義 III a 文化人類学特殊講義 I a 文化人類学特殊講義 II a 文化人類学特殊講義 III a 考古学 a マスコミ原論 マスコミ史 社会心理学 マスコミ講義 I マスコミ講義 III マスコミ講義 V マスコミ講義 VII マスコミ講義 IX コミュニケーション講義 II コミュニケーション講義 IV コミュニケーション講義 VI コミュニケーション講義 VIII マスコミ特殊講義 I マスコミ特殊講義 III マスコミ特殊講義 V ヨーロッパの文化 ヨーロッパの思想講義 II (仏) ヨーロッパの歴史講義 II (仏) ヨーロッパの文学講義 II (仏) ヨーロッパの文学講義 II (仏) 西洋古典特殊講義 b ヨーロッパの言語特殊講義 I b (独) ヨーロッパの言語特殊講義 II b (仏) ヨーロッパの思想特殊講義 II (仏) ヨーロッパの歴史特殊講義 I b (独) ヨーロッパの歴史特殊講義 II b (仏) ヨーロッパの文学特殊講義 I (独) ヨーロッパの文学特殊講義 II (仏) アメリカ文化史 外国文学 文明と社会 短期学外演習	美学・芸術学入門 b 美術史入門 b 美学一般講義 b 音楽学一般講義 b 演劇学一般講義 b 映画学一般講義 b 日本美術史一般講義 b 東洋美術史一般講義 b 西洋美術史一般講義 I b 西洋美術史一般講義 II b 美学特殊講義 II 芸術学特殊講義 II 芸術学特殊講義 IV 美術史特殊講義 I 美術史特殊講義 III 美術史特殊講義 V 文化史特殊講義 II b 文化史特殊講義 III b 文化史特殊講義 IV b 民俗学特殊講義 I b 民俗学特殊講義 II b 民俗学特殊講義 III b 文化人類学特殊講義 I b 文化人類学特殊講義 II b 文化人類学特殊講義 III b 考古学 b リスクコミュニケーション論 ジャーナリズム論 広告心理学 マスコミ講義 II マスコミ講義 IV マスコミ講義 VI マスコミ講義 VIII コミュニケーション講義 I コミュニケーション講義 III コミュニケーション講義 V コミュニケーション講義 VII コミュニケーション講義 IX マスコミ特殊講義 II マスコミ特殊講義 IV マスコミ特殊講義 VI ヨーロッパの思想講義 I (独) ヨーロッパの歴史講義 I (独) ヨーロッパの文学講義 I (独) 西洋古典特殊講義 a ヨーロッパの言語特殊講義 I a (独) ヨーロッパの言語特殊講義 II a (仏) ヨーロッパの思想特殊講義 I (独) ヨーロッパの歴史特殊講義 I a (独) ヨーロッパの歴史特殊講義 II a (仏) ヨーロッパの文学特殊講義 I (独) ヨーロッパ文化史 日本文学 エコロジー論 家族と社会の変動	2016年度以降入学者のみ履修可  2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 一般科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度入学者 自由設計科目 他学部開設科目
		身体表現・スタディーズIV	2017年度以降入学者 経済学科：自由設計科目 一般科目 経営学科：自由設計科目 教養科目  2016年度入学者 自由設計科目 スポーツ・ウエルネス教育科目
2016年度	経営学特殊講義VI	経済学科：自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目 経営学科：専門科目 専門選択科目	
	独語選択(上級) a・b 中国語選択(上級) a・b	仏語選択(上級) a・b	自由設計科目 全学共通教育科目
	スポーツ・スタディーズIV 身体表現・スタディーズIII	ウエルネス・スタディーズIII・IV	自由設計科目 スポーツ・ウエルネス教育科目

新設年度	授 業 科 目 名	備 考
2015年度	政治経済論入門Ⅰ・Ⅱ	自由設計科目 学部開設科目 教養科目
	総合講座Ⅴ・Ⅵ Special TopicsⅢA・B 海外短期研修(マレーシア・就業体験研修) データサイエンス入門Ⅰ・Ⅱ データサイエンス概論 データサイエンス応用 データサイエンス・スキルアップ・プログラム データサイエンス・アドバンスド・プログラム スポーツ・スタディーズⅢ 身体表現・スタディーズⅠ・Ⅱ	自由設計科目 全学共通教育科目
2014年度	ディプロム・コース中級(独語)A・B ディプロム・コース上級(独語)A・B ディプロム・コース中級(仏語)A・B ディプロム・コース上級(仏語)A・B 独語選択(初級)A・B 仏語選択(初級)A・B	自由設計科目 全学共通教育科目
	アドバンス・プログラム	2011年度以降入学者履修可： 自由設計科目 全学共通教育科目
2013年度	数学Ⅰ	2006年度以降入学者履修可： 経済学科：自由設計科目
	Academic SkillsⅠ～ⅥA・B European StudiesA・B North American StudiesA・B Oceanian StudiesA・B Asian StudiesA・B Japan StudiesⅡA・B Japan StudiesⅤ～ⅧA・B 中国語選択(初級)A・B 中国語選択(中級) 中国語選択(上級) 図書館活用法 スポーツ・スタディーズⅠ・Ⅱ ウエルネス・スタディーズⅠ・Ⅱ	自由設計科目
2012年度	特別講座	自由設計科目
	時事英語Ⅰ	2011年度以降入学者履修可：自由設計科目

## 科目の名称変更

変更年度	旧科目名	新科目名	備 考
2016年度	金融機関論	金融システム論	経済学科：自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目 経済学科：専門科目 専門選択科目
	保険論	リスクマネジメント	
2014年度	独会話選択（中級）	独会話選択	自由設計科目
	仏会話選択（中級）	仏会話選択	
2013年度	現代社会論特別講義Ⅰ	Special TopicsⅠA	自由設計科目
	現代社会論特別講義Ⅱ	Special TopicsⅠB	
	社会構造論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅠA	
	社会構造論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅠB	
	思想・人間論特別講義Ⅰ	Special TopicsⅡA	
	思想・人間論特別講義Ⅱ	Special TopicsⅡB	
	表現文化論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅣA	
	表現文化論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅣB	
	地域空間論特別講義Ⅰ	Japan StudiesⅢA	
	地域空間論特別講義Ⅱ	Japan StudiesⅢB	
	生涯スポーツ論Ⅰ	現代社会とスポーツ	
	生涯スポーツ論Ⅱ	スポーツ産業論	
2012年度	時事英語	時事英語Ⅱ	2011年度以降入学者履修可：自由設計科目

※旧名称の科目の単位を修得している場合は、新名称の科目を履修することができない。

## 科目の廃講

廃講年度	授業科目名	備考
2016年度	会計学総論	経済学科：自由設計科目 学部開設科目 専門選択関連科目
	民法Ⅰ（総則） 民法Ⅱ（物権） 民法Ⅲ（債権総論） 民法Ⅳ（債権各論） 民法Ⅴ（親族・相続）	自由設計科目 学部開設科目 法学関連科目
	外国文化ⅡB 外国文化ⅢB 外国文化ⅣB	自由設計科目 学部開設科目 教養科目
	特別講座 メディア論入門 国際関係論入門 政治学入門 法学（含む日本国憲法） 哲学入門 倫理学入門 東洋思想入門 思想・人間論Ⅰ～Ⅲ 言語学入門 表象文化論入門 歴史学入門 ヨーロッパ近現代史 アメリカ近現代史 歴史文化論特別講義Ⅰ・Ⅱ 空間システム論入門 数理の世界 物理の世界 生命科学の世界 自然科学Ⅰ～Ⅴ こころと身体 心身論Ⅰ～Ⅴ	社会学入門 現代社会論Ⅰ～Ⅷ 経済学入門 情報社会論入門 社会構造論Ⅰ～Ⅵ 宗教学入門 西洋思想入門 日本思想入門 文学入門 音楽入門 表現文化論Ⅰ～Ⅵ 日本近現代史 アジア近現代史 歴史文化論Ⅰ～Ⅴ 文化人類学入門 地域空間論Ⅰ～Ⅷ 数理科学Ⅰ・Ⅱ 化学の世界 科学史 数理・自然科学特別講義Ⅰ・Ⅱ 身体と運動・スポーツ 心身論特別講義Ⅰ・Ⅱ
2015年度	独語選択（上級） 仏語選択（上級） 中国語選択（上級）	自由設計科目 全学共通教育科目
2014年度	天文学	自由設計科目 学部開設科目 教養科目
2013年度	独会話選択（初級） 仏会話選択（初級） 独語選択（初級） 仏語選択（初級）	自由設計科目 全学共通教育科目
	キャリア形成論Ⅰ～Ⅳ	2010年度以前入学者履修可：自由設計科目 全学共通教育科目
2012年度	中国語選択（初級）、 中国語選択（中級・ディプロム）、 中国語選択（中級・講読）	自由設計科目

※修得した単位は各分野・区分の単位として認められる。  
※廃講年度は、その科目が最後に開講された年度を示す。

# 全学共通教育科目

A	全学共通教育の理念	158
B	全学共通教育開設科目群	158
C	リテラシー科目群	158
	1) WRD	
	2) 外国語科目	
	3) IT 科目	
D	教養科目群	160
	1) 総合科目	
	2) 成城学	
	3) 系列科目	
E	キャリアデザイン科目群	164
F	国際交流科目群	168
G	データサイエンス科目群	170
H	スポーツ・ウェルネス教育科目	171

## A 全学共通教育の理念

成城大学は、個性を尊重し、創造力に富む感性豊かな学生を育成するという建学の理念を掲げてきた。これらの理念に今日的な意味を与え、良質な教育を供給し、学生諸君の自主的活動の促進をはかるために、学部毎の専門科目と併行して、教養教育を中心とした全学共通教育カリキュラムを導入している。

全学共通教育の具体的な教育目標は以下のとおりである。

- (1) 多様化する社会、文化を理解できる素養を育てる
- (2) 批判的かつ創造的な思考力・判断力を培う
- (3) 主体的に学び、積極的にコミュニケーションをとる能力を養う

## B 全学共通教育開設科目群

全学共通教育科目の開設科目群は、第1表に示されている。

なお、第1表に示される科目群・分野は、学部や入学年度によってカリキュラム上の位置づけ等が異なるので、自分の該当する学部・入学年度の履修規定を必ず確認すること。

第1表 全学共通教育科目

科目群	分野
リテラシー科目群	WRD
	外国語科目
	IT科目
教養科目群	総合科目
	成城学
	系列科目
キャリアデザイン科目群	
国際交流科目群	
データサイエンス科目群	
スポーツ・ウエルネス教育科目	スポーツ・ウエルネス講義・演習科目
	スポーツ・ウエルネス実技科目

《各学部カリキュラム上の位置づけ》

学部	分野
経済	自由設計科目
文芸	共通科目
法	基礎部門
社会イノベーション	総合教養科目、学部共通科目または一般共通科目

## C リテラシー科目群

リテラシー科目群は、全学共通教育の理念に基づき、大学における学習および社会生活において必要なコミュニケーションをとる能力を身につけるための科目群である。具体的には、大学における様々な学習の基礎となる知識の理解力、創造的な思考力、的確な判断力を培うための科目、国際化する社会の中で、国際的なレベルでのコミュニケーションに対応する能力を養うための科目、高度情報社会の中で、情報を的確に処理し、主体的に情報を創造し発信する能力を身につけるための科目などによって構成されている。

なお、リテラシー科目群は、以下のとおり3つの分野に分かれる。

### 1 WRD

高等学校までの勉学は一定のプログラムに従って提供される知識の受容を中心とするが、大学の勉学は自分で問題の所在を明らかにし、自発的に思考をめぐらし、しかもその結果を自らの言葉として表現することを基本とする。こうした大学での学びの姿勢を修得するのが、「WRD」である。

「WRD」(ワードと読む)とは、「Write書く、Read読む、Debate議論する」の頭文字である。これらの行為は、どの学問においても土台となるものである。最近、高等学校までの学習において、これらの基礎訓練を積んでいないことが多い。「WRD」は、以上のような実践的訓練をする場でもある。



第2表 WRD

授 業 科 目	学年配当	単 位
W R D	1～4	4

2 外国語科目

外国語科目は、学生の国際的コミュニケーション能力を高めるために、各学部設置の外国語科目に加えて設置されるものである。

大学入学以前に既習の英語については、聴く・話す・読む・書くの技能向上を目指すクラス、卒業後に必要となるビジネス英語を集中的に学ぶクラス、多読による読解力養成を目的とするクラスがある。

その他の外国語は、初歩文法を学ぶクラスから、高度なコミュニケーション能力を養成するクラスまで段階を追ったクラス編成となっている。ディプロム・コースは各外国語の資格認定試験突破を目標に授業が展開される。

外国語科目の開設科目は、第3表に示されている。

第3表-1 外国語科目 (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英語リスニング&スピーキング (初級) a	1	独語選択 (上級) a	1
英語リスニング&スピーキング (初級) b	1	独語選択 (上級) b	1
英語リスニング&スピーキング (中級) a	1	仏会話選択 a	1
英語リスニング&スピーキング (中級) b	1	仏会話選択 b	1
英語リスニング&スピーキング (上級) a	1	仏語選択 (初級) I a	1
英語リスニング&スピーキング (上級) b	1	仏語選択 (初級) I b	1
英語リーディング&ライティング (初級) a	1	仏語選択 (初級) II a	1
英語リーディング&ライティング (初級) b	1	仏語選択 (初級) II b	1
英語リーディング&ライティング (中級) a	1	仏語選択 (中級) a	1
英語リーディング&ライティング (中級) b	1	仏語選択 (中級) b	1
英語リーディング&ライティング (上級) a	1	仏語選択 (上級) a	1
英語リーディング&ライティング (上級) b	1	仏語選択 (上級) b	1
英 会 話 選 択 a	1	スペイン語選択 (初級) a	1
英 会 話 選 択 b	1	スペイン語選択 (初級) b	1
ビジネス英語 a	1	スペイン語選択 (中級・ディプロム) a	1
ビジネス英語 b	1	スペイン語選択 (中級・ディプロム) b	1
英 文 多 読 a	1	中国語選択 (初級) I a	1
英 文 多 読 b	1	中国語選択 (初級) I b	1
Academic Communication a	1	中国語選択 (初級) II a	1
Academic Communication b	1	中国語選択 (初級) II b	1
独 会 話 選 択 a	1	中国語選択 (中級) a	1
独 会 話 選 択 b	1	中国語選択 (中級) b	1
独 語 選 択 (初級) I a	1	中国語選択 (上級) a	1
独 語 選 択 (初級) I b	1	中国語選択 (上級) b	1
独 語 選 択 (初級) II a	1	韓国語選択 (初級) a	1
独 語 選 択 (初級) II b	1	韓国語選択 (初級) b	1
独 語 選 択 (中級) a	1	韓国語選択 (中級・ディプロム) a	1
独 語 選 択 (中級) b	1	韓国語選択 (中級・ディプロム) b	1

注) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】授業科目一覧表を参照すること。

第3表-2 外国語科目 (ディプロム・コース) (学年配当：1～4年次)

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
ディプロム・コース中級 (独語) a	1	ディプロム・コース中級 (独語) b	1
ディプロム・コース上級 (独語) a	1	ディプロム・コース上級 (独語) b	1
ディプロム・コース中級 (仏語) a	1	ディプロム・コース中級 (仏語) b	1
ディプロム・コース上級 (仏語) a	1	ディプロム・コース上級 (仏語) b	1

《英語到達目標》

①「英語リスニング&スピーキング」、「英語リーディング&ライティング」

初級：TOEIC 600—700点、英検2級程度

中級：TOEIC 700—800点、英検準1級程度

上級：TOEIC 800—990点、英検1級程度

- ②「英会話選択」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ③「ビジネス英語」—受講者のレベルや要請に応じて、初級～上級のレベルを目指す。
- ④「英文多読」—受講者のレベルや要請に応じて、中級～上級のレベルを目指す。
- ⑤「Academic Communication」—上級、それもかなり上位のレベルを目指す。

**《ディプロム・コース到達目標》**

- ① 中級（独語・仏語）：独検・仏検の4～3級の合格。
- ② 上級（独語・仏語）：独検・仏検の（準）2級～準1級の合格。

**3 IT 科目**

IT科目は、主としてパソコンを用いて、様々なデータを処理する手法とその応用を学ぶ科目である。基礎的なパソコンの操作方法はもちろん、全学共通教育の理念に基づいて、パソコンを用いてコミュニケーション能力（情報受信発信能力）やプレゼンテーション能力（表現能力）を身につけることを目的とする。

具体的には、ワープロソフトを用いた文書作成方法や、表計算ソフトを用いたデータ処理、インターネットを活用した情報収集と整理など、パソコンの基本的な活用の手法を学ぶ科目、その応用科目として、パソコンを用いて統計学的なデータ処理を行う手法を学ぶ科目、パソコンを用いて画像や映像を加工・編集したり、ウェブページを制作することを通じて、情報の整理や表現の手法を学ぶ科目が設置されている。

また、「図書館活用法」では、近年の情報を巡る環境や情報媒体の変化に対応した図書館利用リテラシー能力の修得を目指す。

IT科目の開設科目は、第4表に示されている。

**第4表 IT科目（学年配当：1～4年次）**

授 業 科 目	単 位
コンピュータ・リテラシーA 1	2
コンピュータ・リテラシーA 2	2
コンピュータ・リテラシーB	2
コンピュータ・リテラシーC	2
コンピュータ・リテラシーD	2
コンピュータ・リテラシーE	2
図書館活用法	2

注) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】授業科目一覧表を参照すること。

**D 教養科目群**

教養科目群は、「現代社会において生活を営む市民として必要な教養を身につける」ことを目標に設置される。近年、学問は専門という名のもとに細分化しており、これらを統括的に捉える眼を養うために、現代社会の多様なあり方を積極的に学び、思考訓練をすることはきわめて重要である。現代における「教養」を志向するのが成城大学の教養科目群である。

**1 総合科目**

総合科目は、特定の主題に関する諸現象を、学際的・総合的に分析・把握する能力を養うとともに、教養科目・専門科目を問わず、学習の動機づけを行う講義である。コーディネーターである教員が、学生の自発的な学習を支援するよう、講義の方向づけを行う。

総合科目の開設科目は、第5表に示されている。

**第5表 総合科目（学年配当：1～4年次）**

授 業 科 目	単 位
総合講座Ⅰ	2
総合講座Ⅱ〈アート・プロデュース／感動と価値の創造〉	2
総合講座Ⅲ〈環境〉	2
総合講座Ⅳ	2
総合講座Ⅴ〈余暇学（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
総合講座Ⅵ〈中国文学入門（世田谷6大学コンソーシアム連携授業）〉	2
特別講座Ⅰ	2
特別講座Ⅱ	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。  
 注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】授業科目一覧表を参照すること。

## 2 成 城 学

成城学は、成城学園に関するもの、成城という地域の歴史や地理に関するもの、成城の民俗誌に関するもの、成城の自然（史・誌）に関する内容で構成される。  
成城学には、講義形式を中心とするものと、学生参加型の授業形式のもの（成城フィールド・スタディー）とがある。  
成城学の開設科目は、第6表に示されている。

第6表 成城学（学年配当：1～4年次）

授 業 科 目	単 位
成城学園を知る	2
成城学Ⅰ〈柳田國男と民俗学〉	2
成城学Ⅱ	2
成城学Ⅲ	2
成城学Ⅳ	2
成城学Ⅴ〈成城と自然〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。  
注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅱ「授業科目一覧表」を参照すること。

## 3 系 列 科 目

系列科目は、9つの学問分野による分類の下に、各分野を概観し基礎知識を提供する「基幹科目」と各分野の最新の話題や特殊事項の研究を志向する「展開科目」から構成されており、各科目間は重層構造を持っている。学問分野という視点、時間（歴史）と空間（地域）という視点や、関心のある主題という視点など、受講生の様々な関心や興味に合わせた組み合わせで受講することによって、幅広い教養の獲得だけにとどまらず、所属学部の専門的研究を補う広い視野を確保できるよう工夫がなされている。また、教養科目群のコンセプトである現代における「教養」を志向すべく、現代に特化した内容を中心とした科目が配置されている。系列科目の開設科目は、第7表に示されている。

### 《系列の概要》

系 列 名	概 要
現代社会論系列	複雑化する現代社会の事象に目を向け、それらの諸相を解析する能力を身につける新しい学問領域の科目で構成される。
社会構造論系列	政治や経済など、社会の構成と機能を理解する上で、必要な学問の枠組みを学ぶ科目で構成される。
思想・人間論系列	人間のあり方・世界のあり方について、先人がどのような問いをたて、どのような解を得てきたか、彼らの思考の筋道を辿り、現代人の新たな考察への手がかりを得られる科目で構成される。
表現文化論系列	人間生活の根幹をなす多種多様な表現の基底にある歴史的背景・生活環境を視野に入れ、さらに現代における複雑化した表現の諸相を考察する科目で構成される。
歴史文化論系列	過去と対話することによって、現代に至る人間の営みを照射し、受講生が歴史を自ずから再構成する方法を身につけることができる科目で構成される。
地域空間論系列	国際化する社会を理解するための方法や、地理的空間を科学的に考えるための知識と、世界各地域の社会や文化の諸相について学ぶ科目によって構成される。
数理科学系列	自然科学は数学の言葉で書かれている。科学技術文明を生きる者として数理の感覚を身につける科目、自然や社会、芸術に隠された数学的秩序を探る科目で構成される。
自然科学系列	現代科学技術文明を形成する科学の方法・発展過程をあとづけ、その功罪を考察する科目と、身近な現象・自然環境を科学的視点からとらえる科目で構成される。
心身論系列	人間の身体機能や精神構造、さらに人間相互のかかわりを理解するための知識と、心身の健康を維持するための知識を学ぶ科目で構成される。

第7表 系列科目（学年配当：1～4年次）

系列	授 業 科 目 名	単 位	系列	授 業 科 目 名	単 位	
現代社会論系列	基 幹	社会学入門 a	2	思想・人間論系列	哲学入門 a	2
		社会学入門 b	2		哲学入門 b	2
		メディア論入門 a	2		宗教学入門 a	2
		メディア論入門 b	2		宗教学入門 b	2
	展 開	現代社会論 I a 〈現代の宗教と国家〉	2		倫理学入門 a	2
		現代社会論 I b 〈現代の宗教と社会〉	2		倫理学入門 b	2
		現代社会論 II a 〈サブカルチャー史〉	2		西洋思想入門 a	2
		現代社会論 II b 〈サブカルチャー論〉	2		西洋思想入門 b	2
		現代社会論 III a	2		東洋思想入門 a	2
		現代社会論 III b	2		東洋思想入門 b	2
		現代社会論 IV a 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 a	2
		現代社会論 IV b 〈戦後日本文化論〉	2		日本思想入門 b	2
		現代社会論 V a	2		思想・人間論 I a	2
		現代社会論 V b	2		思想・人間論 I b	2
		現代社会論 VI a 〈平和論〉	2		思想・人間論 II a 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VI b 〈平和論〉	2		思想・人間論 II b 〈イメージを“よむ”〉	2
		現代社会論 VII a 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III a	2
		現代社会論 VII b 〈カルチュラル・スタディーズ〉	2		思想・人間論 III b	2
		現代社会論 VIII a	2		思想・人間論演習 a	2
		現代社会論 VIII b	2		思想・人間論演習 b	2
現代社会論演習 a	2	文学入門 a	2			
現代社会論演習 b	2	文学入門 b	2			
社会構造論系列	基 幹	国際関係論入門 a	2	表現文化論系列	言語学入門 a	2
		国際関係論入門 b	2		言語学入門 b	2
		経済学入門 a	2		音楽入門 a	2
		経済学入門 b	2		音楽入門 b	2
	展 開	政治学入門 a	2		表象文化論入門 a	2
		政治学入門 b	2		表象文化論入門 b	2
		情報社会論入門 a	2		表現文化論 I a	2
		情報社会論入門 b	2		表現文化論 I b	2
		法学（含む日本国憲法） a	2		表現文化論 II a	2
		法学（含む日本国憲法） b	2		表現文化論 II b	2
		社会構造論 I a 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III a 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 I b 〈自由と平等〉	2		表現文化論 III b 〈映画の“いま”〉	2
		社会構造論 II a 〈社会と組織〉	2		表現文化論 IV a 〈民俗と作法の表現文化論〉	2
		社会構造論 II b 〈ネットワークと組織〉	2		表現文化論 IV b 〈伝統芸術文化論〉	2
		社会構造論 III a	2		表現文化論 V a	2
		社会構造論 III b	2		表現文化論 V b	2
		社会構造論 IV a 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI a 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 IV b 〈日常生活と社会経済〉	2		表現文化論 VI b 〈文学と地域文化〉	2
		社会構造論 V a	2		表現文化論演習 a	2
		社会構造論 V b	2		表現文化論演習 b	2
社会構造論 VI a 〈現代日本と政治〉	2					
社会構造論 VI b	2					
社会構造論演習 a	2					
社会構造論演習 b	2					

全学共通教育科目

第7表 系列科目（学年配当：1～4年次）（つづき）

系列	授業科目名	単位	系列	授業科目名	単位				
歴史文化論系列	基幹	歴史学入門 a	2	数理科学系列	数学の世界 a	2			
		歴史学入門 b	2		数学の世界 b	2			
		日本近現代史 a	2		展開	数理科学 I a 〈情報と論理〉	2		
		日本近現代史 b	2			数理科学 I b 〈情報と論理〉	2		
		ヨーロッパ近現代史 a	2			数理科学 II a	2		
		ヨーロッパ近現代史 b	2			数理科学 II b	2		
		アジア近現代史 a	2		基幹	物理の世界 a	2		
		アジア近現代史 b	2			物理の世界 b	2		
	アメリカ近現代史 a	2	化学の世界 a	2					
	アメリカ近現代史 b	2	化学の世界 b	2					
	歴史文化論 I a	2	生命科学の世界 a	2					
	歴史文化論 I b	2	生命科学の世界 b	2					
	歴史文化論 II a 〈江戸の文化〉	2	科学史 a	2					
	歴史文化論 II b 〈江戸の文化〉	2	科学史 b	2					
	展開	歴史文化論 III a 〈グローバル・ヒストリーと西欧〉	2	自然科学系列	自然科学 I a	2			
		歴史文化論 III b 〈グローバル・ヒストリーと非西欧〉	2		自然科学 I b 〈自然と漁業・林業〉	2			
		歴史文化論 IV a	2		展開	自然科学 II a 〈地球と環境〉	2		
		歴史文化論 IV b	2			自然科学 II b 〈地域と環境〉	2		
		歴史文化論 V a	2			自然科学 III a 〈地球科学〉	2		
		歴史文化論 V b	2			自然科学 III b 〈地球科学〉	2		
		歴史文化論演習 a	2		基幹	自然科学 IV a	2		
		歴史文化論演習 b	2			自然科学 IV b	2		
	基幹	文化人類学入門 a	2	自然科学 V a 〈比較行動学〉		2			
		文化人類学入門 b	2	自然科学 V b 〈比較行動学〉		2			
		空間システム論入門 a	2	数理・自然科学演習 a		2			
		空間システム論入門 b	2	数理・自然科学演習 b		2			
	地域空間論系列	展開	地域空間論 I a 〈EU論〉	2		心身論系列	基幹	こころと身体 a	2
			地域空間論 I b 〈EU論〉	2				こころと身体 b	2
地域空間論 II a 〈朝鮮半島の社会と文化〉			2	身体と運動・スポーツ a	2				
地域空間論 II b 〈朝鮮半島の社会と文化〉			2	身体と運動・スポーツ b	2				
地域空間論 III a 〈東南アジアの社会と文化〉		2	展開	心身論 I a 〈脳の機能と心の機能〉	2				
地域空間論 III b 〈東南アジアの社会と文化〉		2		心身論 I b 〈精神疾患と脳〉	2				
地域空間論 IV a		2		心身論 II a 〈こころと発達〉	2				
地域空間論 IV b		2		心身論 II b 〈こころと社会〉	2				
地域空間論 V a		2		心身論 III a 〈運動・スポーツと心のしくみ〉	2				
地域空間論 V b		2		心身論 III b 〈運動・スポーツと身体のしくみ〉	2				
地域空間論 VI a 〈アフリカの社会と文化〉		2		心身論 IV a 〈食と健康〉	2				
地域空間論 VI b 〈アフリカの社会と文化〉		2		心身論 IV b 〈食と環境〉	2				
地域空間論 VII a 〈日本と東アジアの社会と文化〉		2	心身論 V a	2					
地域空間論 VII b 〈日本と東アジアの社会と文化〉		2	心身論 V b	2					
地域空間論 VIII a 〈中東の社会と文化〉		2	心身論演習 a	2					
地域空間論 VIII b 〈中東の社会と文化〉		2	心身論演習 b	2					
地域空間論演習 a	2								
地域空間論演習 b	2								

注1) 系列の欄に示されている基幹は基幹科目、展開は展開科目を指す。  
 注2) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。  
 注3) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定Ⅱ】授業科目一覧表を参照すること。

全学共通教育科目



## E キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン科目群は、大学卒業後、ひいては将来の人生設計に欠かせない職業観に関する知識を学習する科目群である。働くことの意義や、適職を見つけるための方法などを学びながら、自分のキャリア（＝人生）を発見し構築していくことを主たる目的とする科目群である。

キャリアデザイン科目群の開設科目は、第8表に示されている。

第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】

テ ー マ 等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
<p>「キャリア形成概念の理解」～自らのキャリアを様々なテーマを基にして考える～</p> <p>キャリア形成において重要なことは、自身の現状に応じて必要なことを必要なタイミングで学び、経験を積むというプロセスを経ていくことである。本授業科目は、成城大学におけるキャリア教育のスタート科目として位置付け、履修者はキャリア形成の過程の中で「自分と他者と社会」について考え、大学で学ぶ意味、働く意味と目的、自分の強みやキャリアの在りかたを段階的に追究し意味づけができるようになることを目指す。</p> <p>キャリア形成において、「自己理解」「他者理解」「社会理解」は重要な段階・流れであり、(1) 自分とこれまで、(2) 自分を取りまく社会について、(3) これからの自分の在り方について、を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を複数のテーマと関連付けながら学ぶ。</p>	キャリア形成Ⅰ 〈コミュニケーション〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：コミュニケーションとキャリア形成</p> <p>現代社会において欠かすことのできない「コミュニケーション能力」について、キャリア形成の観点から考察・理解する。キャリアを形成していく上で必要なコミュニケーション・スタイルを学ぶとともに、他者との関係性について理解を深め、自身のキャリア形成の気付きに繋げる。また、自分の歩んできた道を振り返り、これからのあり方を考える。その際には、自分の強みを整理・理解すること、将来を想像し、目標を設定して行動を起こすことの重要性を学ぶ。授業では、ペア・グループワークを用いて理解促進に繋げていく。</p>
	キャリア形成Ⅱ 〈リーダーシップ〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：リーダーシップとキャリア形成</p> <p>組織・集団においてそこに属するメンバーは、それぞれの場面や状況に応じて「リーダーシップ」を求められるが、そこで求められるリーダーシップは様々であり、あらゆるパターンが存在する。キャリア形成の過程において、他者との関わり、他者への影響力を理解することは重要であり、それらの類型等を講義を通じて受講生が理解し、結果として求められるリーダーシップを学ぶことで自身のキャリア形成の一助となることを狙いとす。</p> <p>本授業科目では、様々なリーダーシップのパターンを学ぶとともに、状況に応じてリーダーシップを体感しながら学びを深めていく。</p>
	キャリア形成Ⅲ 〈ワークライフバランス〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：ワークライフバランスとキャリア形成</p> <p>人口減少やデュアル・キャリア世帯（夫と妻がともに生涯を通じたキャリアを築こうとする世帯）の増加など社会やライフスタイルの変化を背景に、子育て世代をはじめ様々な状況にある誰もが安心して働き、能力を発揮できるワーク・ライフ・バランス（WLB）やダイバシティマネジメントへの取組みが必要とされている。本授業ではWLBなどが必要とされる背景を理解し、関連の法律や実際に行われている国・企業・働く一人ひとりの具体的取組について学び、WLBに関する基本的知識を習得することを目的とする。また、授業への参加を通じて将来就業を継続する中で自らが直面するであろうWLBに関する課題を認識しそれを解決するための自らの基本的な考え方を獲得することでキャリア形成の一助とする。</p>
	キャリア形成Ⅳ 〈チームワーク・協働〉	1～4	2	講義 演習	<p>サブタイトル：チームワーク・協働とキャリア形成</p> <p>昨今の「仕事の現場」において、チームワーク、協働を必要としない場面は皆無に等しい。チームにおける自身の役割を認識し、果たすべき役割を責任を持って担っていくことが重要である。本授業科目では、キャリア形成の観点からチームにおける協働とは何かを理解するとともに、それを担うことで自身のキャリア形成にどのような影響をもたらすのかをケースをもとに学ぶ。また、職場におけるチームワークを実践している方をゲストに招いて、その実状を理解する。</p>



第8表 キャリアデザイン科目【2017年度以降入学者用】(つづき)

テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科目概要
グループワーク、グループディスカッション形式	プロジェクト演習 (ホスピタリティとサービス) (企業提案) (企業との協働)	1・2	2	演習	PBL (Project Based Learning) 基礎科目として開講。前期に学んだ「キャリア形成概念の理解」を基礎として、演習形式で複数のテーマに取り組む。学生はそれぞれ設定されたテーマに基づいてグループ毎に課題に取り組み、課題発見、調査・研究、企画構想・構築から提案に繋げていくといった一連のプロセスを経て、キャリア形成において重要な「チームワーク(協働)」を学ぶ。
キャリア形成・選択のための多様な視点の獲得と 業界・企業理解	業界企業分析	2~4	2	講義 演習	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察することで、わが国における各種業界の競争、企業行動について現実をよりよく理解し、将来の進路や方向性を判断する材料を得ることを目標とする。また、業界・企業の調査・研究方法についても具体的に学ぶ。 授業では多様な業界からゲスト・スピーカーを迎えるとともに、履修者自らも調査・研究に取り組む。
キャリア形成・選択のための職業選択の理解	職業選択	2~4	2	演習	世の中には数え切れないほどの種類の仕事(職業)があるが、働き方も人それぞれで、また、社会も日々変化しているため、新たな仕事の登場や既存の仕事が変化することが常に起こっている。この授業科目では、働きざま・働きがいについて考えるとともに、「職業選択」を興味・価値観・能力といった要素と、社会状況・環境の視点から追究し、また、社会人が実際にどのように職業を選択しキャリアを構築したか、ゲストを招き経験談を聞きながら「キャリア」を総合的に考察する。
	時事英語Ⅰ	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
	時事英語Ⅱ	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語Ⅰ」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
	時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。具体的には新聞記者を毎回ゲストスピーカーとして招き、リアルタイムのニュースについて考察する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅠ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の発展科目として開講。「社会を生き抜く基礎力」を理解し、その向上を目指す。これまで学んできた「キャリアデザイン科目」をベースに、現実的な課題に対してチームで解決に向けて取り組むことで、結果として求められる力を理解・修得する。
グループワーク、グループディスカッション形式	キャリア・プランニング・プログラムⅡ	3・4	2	演習	「プロジェクト演習」の最終段階の授業科目として開講。受講生は、これまで学んできた「キャリア形成」について整理・統合し、外部評価委員会委員や外部ゲストの協力も得ながら、実践的な課題に取り組み、「成城の就業力。」を理解・修得する。

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ-3分野別履修方法(自由設計科目)を参照すること。

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】

	テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就業 力 基 礎 科 目	キャリア形成 概念の理解	キャリア形成概論Ⅰ	1・2	2	講義 演習	自らのキャリアを考え始めるスタート科目と位置付け、(1)自分の今とこれまで(自己分析・自己理解)、(2)自分をとりまく社会について、(3)これからの自分の在り方を総合的に考察し、自らのキャリアを形成していく上で必要な考え方を学ぶ。
		キャリア形成概論Ⅱ	1・2	2	講義 演習	自分をとりまく社会の現状や変化を理解するとともに、社会における自分のあり様を探り、自己のキャリア形成を考え、自身の方向付けをしていく。キーワードは「グローバルな視点」、「企業」、「働くということ」。授業は、「講義」と「実習(ディスカッション)」を繰り返しながら理解を深めていく。
	グループワーク、 グループディス カッション形式 展開	スタート・プログラムⅠ 〈ホスピタリティとサービス〉	1・2	2	演習	サービスとホスピタリティの違いを理解し、真の「おもてなし」にはどのような資質・態度・姿勢が求められるか自分なりに解釈し普段の生活のなかで自然に発揮できるようになると共に真の「おもてなし」がキャリア形成にどのように関係するか自分なりに意味づけることを目指す。
		スタート・プログラムⅡ 〈企業提案〉	1・2	2	演習	企業に対して新たな提案をしていくことをとおして、企業における仕事の捉え方や考え方、また、企画がどのように提案され、実行に移されていくかを実践的に学ぶ。
		スタート・プログラムⅢ 〈企業との協働〉	1・2	2	演習	インターネットを活用した新しい「ビジネスサービス」を商品と捉えて、その開発を考える。また、「企業のリアルを知る」と題して「大手」、「ベンチャー(中小)」、「起業」の3つの視点から企業の現状を学ぶ。
	就業 力 発 展 科 目	勤労観醸成	ワークライフ バランス論	2~4	2	講義
キャリアモデル・ ケーススタディ			2~4	2	演習	社会で活躍する方々をキャリアモデル(事例)として取り上げることで、具体的なキャリア形成の在り方を学ぶ。また、過去の企業家(起業家)も事例として取り上げる。
アドバンス・ プログラム			2・3	2	演習	「スタート・プログラム」、「チャレンジ・プログラム」の中間に位置するグループワーク中心の演習科目である。企業をはじめとして、学外の3団体に協力を得ながら社会を生き抜く基礎力の向上を3段階で支援する。時には現場に出向き社会人の振る舞いを体感し、社会に出ることに興味関心を持つことも趣旨のひとつである。 3段階のプロジェクトには、テーマとミッション・ゴールを設定するが、3つのテーマには一貫性があり、段階的に到達目標を設定していく。履修者は社内のプロジェクトと同形式の経験をする中で、チームでも個人でも、成功体験と失敗体験を繰り返しながらビジネスの在り方を体感することで勤労観を醸成する。
職業観醸成		業界企業分析論	2~4	2	講義	業界や企業とは何かを総合的に学ぶとともに、業界間の結びつきや属する企業等について多角的に考察する。
		職業選択論	2~4	2	演習	職業を選択する上で考えなければならないことを具体的に学ぶとともに、社会人がどのように職業選択をし、達成したのかを総合的に考察する。
		グローバル ビジネス論	3・4	2	講義	国によって異なるビジネスカルチャーや各国のビジネスの在り方、グローバルビジネスが今日直面している課題を学ぶことで、グローバルに仕事をしていくということの意味や国際社会に通用する実践的ビジネススキルを習得する。
	チャレンジ・ プログラム	3・4	2	演習	キャリアデザイン科目で学んできたことをベースにして、学生提案型のプロジェクト演習とする。グループを構成し、自らテーマを設定の上、企画立案することで、就業力の総合的なレベルを外部の有識者等に確認していただく。	

第8表の2 キャリアデザイン科目【2016年度以前入学者用】(つづき)

テーマ等	授業科目名	学年 配当	単 位	授業 形式	科 目 概 要
就 業 力 強 化 科 目	時事英語 I	1~4	2	講義	時事英語の入門編として開講する。初級段階の学生を対象として、英語学習の教材として時事問題をトピックとした新聞記事、インターネットニュースを扱う。最終的には自分の意見を英語で表現し、受講生の間で意見交換をすることができるよう、実践的な英語力を強化する。
	時事英語 II	1~4	2	講義	時事英語の中級編として開講する。中級段階の学生を対象として、最近の海外のメディアで報道された重要なニュースを扱ったテキストを用いて、教育、経済、政治、宗教、社会、女性など様々なトピックについて学習する。 ※英字新聞を一度も読んだことのない学生、初級レベルの英語力の学生は、「時事英語 I」の授業を受講した後に本授業を受講することが望ましい。
	時事問題研究	2~4	2	講義	社会人として必要不可欠な時事問題を多角的に学ぶとともに、理解の仕方や解釈の仕方を総合的に学ぶ。
	就業力実践 I	2~4	2	講義	現代経済の問題点や考え方を学び、就業するに当たって最低限知っておくべき経済知識を学ぶ。
	就業力実践 II	2~4	2	講義	全ての仕事の基本となる「会計」について、どのような観点が必要なのかを入門的な観点から学ぶ。
	就業力実践 III	2~4	2	講義	「法律とは何か」を示し、社会において最低限知っておくべき法的知識を学ぶ。

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ-3 分野別履修方法(自由設計科目)を参照すること。

〈成城大学就業力育成・認定プログラム〉

- ① 「成城大学就業力育成・認定プログラム」は、正課(授業科目)と正課外(授業科目以外のプログラム)の連携による総合的なプログラムとなっており、所定の条件を満たすことで「就業力ディプロマ」、「EMS認定」を授与するが、本件については、別途1年次は「キャリアガイダンス」、2年次は「就業力ガイダンス」で説明する。
- ② 2~4年次の「成城大学就業力育成・認定プログラム」受講者を対象に4月に「就業力ガイダンス」を実施するので、プログラム受講者(就業力ディプロマ・EMS認定希望者)は必ず出席すること。詳細については別途通知する。

国際交流科目群は、グローバル化の進む社会への対応力を身につけるための科目群である。「留学対策科目」では、留学時に必要とされるレベルの英語の基礎技能（TOEFL、IELTS試験対策を含む）を、「英語等による地域研究科目」では、世界の地域事情について、「英語等による日本事情関係科目」では、日本の政治・経済・社会・文化等について、「英語等による特定のテーマを扱った科目」では、グローバルな話題性のあるテーマについて、それぞれ英語で留学生と共に学ぶことができる。特に、就学中に留学・海外就学体験を希望する者は、\*\*\*「成城国際教育プログラム（SIEP）」に参加し準備することが推奨される。

\*\*\*詳細・登録方法等については、年度初めに実施される説明会に参加するほか、国際センターに直接問い合わせること。

第9表 国際交流科目

区分	授業科目	学年配当	単位
留学対策科目	Academic Skills I A 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills I B 〈English Reading〉	1～4	1
	Academic Skills II A 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills II B 〈English Listening〉	1～4	1
	Academic Skills III A 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills III B 〈English Writing〉	1～4	1
	Academic Skills IV A 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills IV B 〈English Speaking/Discussion〉	1～4	1
	Academic Skills V A 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills V B 〈English Presentation〉	2～4	1
	Academic Skills VI A	2～4	1
	Academic Skills VI B 〈English Research〉	2～4	1
英語等による地域研究科目	European Studies A 〈Collections and Entertainment in Modern Europe〉	1～4	2
	European Studies B	1～4	2
	North American Studies A 〈Immigration and Refugees in the United States, Past and Present〉	1～4	2
	North American Studies B	1～4	2
	Oceanian Studies A	1～4	2
	Oceanian Studies B	1～4	2
	Asian Studies A	1～4	2
Asian Studies B 〈Exploring Contemporary Cultures and Societies in Asia〉	1～4	2	
英語等による日本事情関係科目	Japan Studies I A 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies I B 〈Introduction to Japanese Economy and Management〉	1～4	2
	Japan Studies II A	1～4	2
	Japan Studies II B 〈Introduction to Japanese Society〉	1～4	2
	Japan Studies III A 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies III B 〈Introduction to Anthropology of Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV A 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies IV B 〈Introduction to Gender and Law in Japan〉	1～4	2
	Japan Studies V A 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies V B 〈Introduction to Japanese Literature〉	1～4	2
	Japan Studies VI A 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VI B 〈Introduction to Japanese Folklore〉	1～4	2
	Japan Studies VII A	1～4	2
	Japan Studies VII B	1～4	2
Japan Studies VIII A 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	
Japan Studies VIII B 〈Introduction to Japanese Cinema〉	1～4	2	

第9表 国際交流科目（つづき）

区分	授業科目	学年配当	単位
英語等による特定のテーマを扱った科目	Special Topics I A 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics I B 〈Cold Wars Old and New〉	1～4	2
	Special Topics II A 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics II B 〈Gender Studies〉	1～4	2
	Special Topics III A	1～4	2
	Special Topics III B	1～4	2
	Special Topics IV A 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
	Special Topics IV B 〈Language, Culture and Communication〉	1～4	2
海外短期語学研修	海外短期語学研修（英語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（英語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（独語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（仏語・春季）	*	2
	海外短期語学研修（中国語・夏季）	1～4	2
	海外短期語学研修（英語・就業体験準備）	1～4	1
海外短期研修	海外短期研修（マレーシア・就業体験研修）	1～4	2
受け入れ留学生科目	日本語 A 〈上級・会話〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・読解〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・表現文型と語彙〉	1～4	2
	日本語 A 〈上級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈中級・総合日本語〉	1～4	6
	日本語 A 〈中級・特別講座〉	1～4	2
	日本語 A 〈初級〉	1～4	8
	日本語 B 〈上級・日本語聴読解〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語文章表現〉	1～4	1
	日本語 B 〈上級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈上級・総合日本語〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語聴読解作文〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語会話〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・日本語文法と漢字〉	1～4	2
	日本語 B 〈中級・総合日本語〉	1～4	2
日本語 B 〈初級〉	1～4	8	
留学準備演習	留学準備演習	1～4	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ-3 分野別履修方法（自由設計科目）を参照すること。

注3) 海外短期語学研修のうち、学年配当が\*印になっているものは、1～3年次いずれかの春季休業期間中に研修に参加し、その翌年度に単位認定がされる科目である。



## G データサイエンス科目群

商品開発、マーケティング、サービス産業における集客力の向上などのビジネスのみならず、医療、災害への危機管理など様々な領域で、発生・収集したデータを理解し、それを有効に活用できる人材が求められている。データサイエンス科目群は、IBM東京基礎研究所の協力を得て、ビッグデータなどの多種多様な情報を効果的に活用するための知識と技能を学習する科目群である。学習する内容は、文理融合的で実践的・実務的なものとなっており、学生諸君は、この科目群を系統的に学ぶことで、さらに視野を広げ、卒業後どのような分野に進んでも活かせるデータ分析力を身につけることができる。

データサイエンス科目群の開設科目は、第10表に示されている。

第10表 データサイエンス科目

	授業科目	学年 配当	単位	講義 形式	内容等	履修条件	DS基礎力 ディプロマ 取得要件	EMS ディプロマ 取得要件
基礎 科目	データサイエンス 入門Ⅰ	1~4	2	講義	データサイエンスの入門講義。データサイエンスに関わる基礎的な知識を得るもので、本プログラム全体の基礎をなす講義である。データに関する基礎知識と共に、データの所在・発生源、データ取得、データの活用領域などを学ぶ。		○	○
	データサイエンス 概論	1~4	2	講義	データサイエンスの実践例について学ぶための概論的講義。企業や行政におけるデータサイエンスのさまざまな実践例について幅広く学び、理解を深める。		○	○
	データサイエンス 入門Ⅱ	2~4	2	講義 演習	データサイエンスの入門講義・演習。データサイエンスを支える統計についての知識を得る。代表的な統計学の解析手法や、テキストデータのように数値化されていないデータを加工する手法など、実践的な知識を習得するとともに、実際にデータに対して適応できる能力を演習により身につける。		○	○
	データサイエンス 応用	2~4	2	講義 演習	問題発見・解決の技術を学ぶ応用的講義・演習。講義に加えて、演習を行う。問題を発見し、データサイエンスを通じて解決方法を提示するコンサルティングの能力を実践的に学ぶ。			○
発展 科目	データサイエンス・ スキルアップ・ プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。指定課題に沿って、データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス入門Ⅰ」「データサイエンス概論」の2科目を修得済みであり、かつ「データサイエンス入門Ⅱ」を修得済みであるか、同時履修している者	○	○
	データサイエンス・ アドバンスド・ プログラム	2~4	2	演習	グループワークによる演習プログラム。データから問題を創造的に発見し、解決方法を見つけ出す。データを分析し、ディスカッションの上、プレゼンテーション資料を作成する。実務者等を招待し、プレゼンテーションを行い、講評を受ける。	「データサイエンス・スキルアップ・プログラム」を修得済みであり、かつ「データサイエンス応用」を修得済みであるか、同時履修している者		○

注) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定 Ⅲ-3 分野別履修方法 (自由設計科目)】を参照すること。

### 〈データサイエンス基礎力育成・認定プログラム〉

- ① 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」は、理論科目と実践科目とを総合したプログラムとなっており、第10表に示される所定の授業科目を履修して単位を修得し、要件を満たすことにより「データサイエンス (DS) 基礎力ディプロマ」、「EMSディプロマ」が授与される。本件については、1年次の4月に開催される「データサイエンス科目ガイダンス」で説明する。
- ② 「データサイエンス基礎力育成・認定プログラム」の対象者は2015年度以降入学者となる。ただし、2014年度以前入学者についても、授業科目の履修については認められる。



## H スポーツ・ウエルネス教育科目

スポーツ・ウエルネス教育科目は全学共通教育科目として位置づけ、以下の教育目標の下に設置されるものである。

- (1) 「ウエルネス」とは、身体的健康、精神的健康、そして他者や自然との良好な関係を築くという意味での社会的健康からなる新しい健康概念である。この科目では「ウエルネス」へのアプローチとして、身体的、精神的健康状態を維持・増進するために必要な科学的知識の理解を深めるとともに、様々なスポーツや運動などの身体活動、身体表現を通して自己や他者や自然と向き合い、また共に生きていくための能力を養う。
- (2) グローバルな文化現象であるスポーツの成り立ち、歴史、現代的意味や社会的価値について様々な理論的知識を学ぶ。また、実際にスポーツ・運動を実践しながら、他者や自然との良好なコミュニケーションに必要な知識、スキルを獲得する。
- (3) 運動やスポーツを主体的に楽しみ、生涯にわたって豊かな「スポーツライフ」と「ウエルネスライフ」をマネジメントするための基盤を形成する。

※ スポーツ・ウエルネス教育科目は、従来の体育実技科目を発展させた科目である。

### 1 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目

スポーツ・ウエルネス講義・演習科目とは、講義、スポーツや身体運動、身体表現の実践、健康状態を知るための測定などを融合した演習形式での授業である。「スポーツ・スタディーズ」では、スポーツ文化やスポーツ社会に関する多様な学問的知識を獲得していく。「ウエルネス・スタディーズ」では、基礎的な健康科学の諸理論を学ぶ。「身体表現・スタディーズ」では、スポーツや武術、ダンスを身体を媒体とした表現行為として学ぶ。

第11表 スポーツ・ウエルネス講義・演習科目（学年配当：1～4年次）

系列	授業科目	単位
スポーツ文化	スポーツ・スタディーズⅠ〈身体と用具の変遷〉	2
	スポーツ・スタディーズⅡ	2
	スポーツ・スタディーズⅢ〈スポーツのグローカリゼーション〉	2
	スポーツ・スタディーズⅣ	2
ウエルネス文化	ウエルネス・スタディーズⅠ〈健康スポーツへの誘い〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅡ〈健康スポーツの心理〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅢ〈身体のリテラシー〉	2
	ウエルネス・スタディーズⅣ〈健康スポーツの科学〉	2
身体表現文化	身体表現・スタディーズⅠ〈アスリートと身体表現〉	2
	身体表現・スタディーズⅡ〈武道とジャパノロジー〉	2
	身体表現・スタディーズⅢ〈身体コーディネーション論〉	2
	身体表現・スタディーズⅣ〈舞踊と身体表現〉	2

注1) 各科目についている山カッコ内は授業の副題を表し、科目名称には含まれない。

注2) 本年度の休講科目については学科ごとの【履修規定】Ⅲ-3分野別履修方法（自由設計科目）を参照すること。

## 2 スポーツ・ウェルネス実技科目

スポーツ・ウェルネス実技科目とは、実際にスポーツや運動の実践をとおして、身体的・精神的な健康の維持・増進を図る授業である。スポーツや運動の基礎的なスキル、方法、ルール、マナーを学びながら、スポーツの楽しさにふれ、人間の営為にとって欠かすことのできないアナログな身体コミュニケーションの重要性を理解し、学年、学部、年齢、ジェンダー、国籍を超えたクラス編成の中で、他者との友好的な関係を作るための本質的なスキルを獲得し、共生社会の一員となるための基礎的な姿勢を身につけることができる。また、生涯にわたって豊かなスポーツ文化を享受するための知識、スキル、方法を獲得することができる。

第12表 スポーツ・ウェルネス実技種目表（学年配当：1～4年次）

	種 目		系 列
定時コース (半期1単位)	オルタナティブスポーツ ゴルフ サッカー&フットサル ソフトボール 卓球	テニス バスケットボール バドミントン バレーボール フットサル	スポーツ文化
集中コース (1単位)	サイクル・スポーツ	スキー	
定時コース (半期1単位)	アクアエクササイズ エアロビクス&コンディショニング エアロビクス&ピラティス コンディショニング 水泳	トレーニング フィットネス ヨガ&ピラティス レクリエーション・スポーツ	ウェルネス文化
	剣道（古武道）	ダンスパフォーマンス	身体表現文化

※ 定時コースは、学園内の施設および近隣の外部施設を利用して、毎週1回、半期開講科目として行う。

※ 集中コースは、キャンパス以外の施設を利用し、シーズンの特徴を活かして、集中的に技能を習得しようとするもの。主に長期休暇を利用して行う。

### 授業実施にあたっての注意事項

- ① 気象条件等により、実施場所等が変更になる場合があるので、第1体育館玄関中の掲示板の指示を確認すること。
- ② 実技の服装は運動専用で作られたものを使用すること。
- ③ 体育館・トレーニングセンターでは室内専用のシューズを使用すること。
- ④ 更衣は第1体育館更衣室を使用する。ロッカーは、ダイヤル式暗証番号（4桁）を入力する。
- ⑤ トレーニングセンターではロッカー室を使用する。
- ⑥ 盗難防止のため、多額の現金、宝飾品などは持参しない。
- ⑦ 体育館内での飲食、喫煙、土足は厳禁とする。

# 教職課程

<b>I</b>	教職課程 .....	174
	1) 本学教職課程の理念	
	2) 本学で取得できる免許の種類と教科	
	3) 免許取得の条件	
	4) 履修科目登録上限単位数の特例措置	
<b>II</b>	教職課程科目の履修 .....	176
	A. 「教職に関する科目」の履修 .....	176
	1) 「教職に関する科目」の単位修得方法	
	2) 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目	
	3) 「教職に関する科目」と学年配当	
	4) 履修上の注意	
	5) 教育実習および教職実践演習を履修するための条件	
	B. 「教科に関する科目」の履修 .....	179
	1) 「教科に関する科目」の単位修得方法	
<b>III</b>	教職課程の説明会・ガイダンス .....	188
	1) 教職課程ガイダンス（1年次）	
	2) 教職課程登録説明会（1年次）	
	3) 教育実習校開拓ガイダンス（2年次）	
	4) 教育実習事前ガイダンス（3年次）	
	5) 教育実習直前ガイダンス（4年次）	
	6) 介護等体験	
<b>IV</b>	教育職員免許状の申請等 .....	189
	A. 教育職員免許状取得見込証明書の発行 .....	189
	B. 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付（4年次） .....	189
	C. 教育職員免許状の有効期間について .....	189

## 1 本学教職課程の理念

本学では、成城学園創立の精神に則り個性の暢達を主眼として広く専門の学芸を研究教授し、広角の視野と高度の教養を具え、かつ、豊かな個性を持つ社会の先導者を育成すると共に、文化の発展に貢献することを目的としている。

個性尊重の基本理念に基づき、各学科では少人数制教育により学生の学びをサポートしているが、教職課程においては教科に関する専門知識に加え、教育に対する理論的・実践的・歴史的理解を深めることで、教育者としての視点を獲得し、さらには使命感を持って教育の現場で実践的に指導し得る教員の育成を目指している。

成城学園は、幼稚園から大学院までをワンキャンパスに擁する総合学園であり、学園（成城小学校）創立時（1917年）の4つの希望理想「個性尊重の教育」、「自然と親しむ教育」、「心情的教育」、「科学的研究を基とする教育」と、旧制七年制高等学校開設時（1926年）に掲げられた「真善美」の教育理念は、全学園に一貫して受け継がれ、実践されている。

本学の教職課程においては、学園各学校間のネットワークを活かし、同じ理念の下、それをまさに日々実践している成城学園中学校高等学校の現役教員による指導を取り入れることで、教員を目指す学生が、教育の現場の感覚を吸収し、実践力を養うだけでなく、学園創立者澤柳政太郎が理想として掲げた「成城教育」を自らの理想としても受容し、継承していくことを期待している。

## 2 本学で取得できる免許の種類と教科

本学では教育職員免許取得希望者のために、教職課程を開設している。この課程において取得できる免許の種類と教科は、第1表のとおりである。

第1表 本学で取得できる免許の種類と教科

学 部	学 科	中学校教諭一種免許	高等学校教諭一種免許
経済学部	経済学科	社 会	地 理 歴 史 公 民
	経営学科	社 会	地 理 歴 史 公 民 商 業
文芸学部	国文学科	国 語	国 語
	英文学科	英 語	英 語
	文化史学科	社 会	地 理 歴 史 公 民
	ヨーロッパ文化学科	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語	ド イ ツ 語 フ ラ ン ス 語
法学部	法律学科	社 会	地 理 歴 史 公 民

第2表 入学から免許状取得まで（モデルケース）

学 年	時 期	関連説明会等	教職に関する科目
1年次	4月	教職課程ガイダンス	教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（必修）（2単位） 教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（必修）（2単位） 教師論（必修）（2単位）
	6月	介護等体験登録説明会	
	3月	教職課程登録説明会	
2年次	4～7月	介護等体験事前ガイダンス 介護等体験直前ガイダンス	教育史（必修）（2単位） 教育方法学（必修）（2単位） 特別活動の指導法（必修）（2単位） 教育心理学（2単位）\ いずれか1科目 青年心理学（2単位）\ 選択必修
	9月～	介護等体験	
	12月	教育実習校開拓ガイダンス	
3年次	4月	教育実習準備	各教科教育法（必修）（4単位） 道徳教育の指導法（必修）（2単位） 生徒指導論（必修）（4単位）
	11月	教育実習事前ガイダンス	
4年次	4月	教育実習直前ガイダンス	社会系教育実習（高）（3単位） 社会系教育実習（中・高）（5単位） いずれか1科目 選択必修
	5月～	教育実習	
	11月	教員免許状授与申請手続き	
	3月23日	免許状授与	教職実践演習（中・高）（必修）（2単位）

注）上記科目の他に、「教科に関する科目」および「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「情報機器の操作」に当たる本学開設科目を修得しなければならない。

### 3 免許取得の条件

中学校・高等学校教諭の免許を取得するためには、以下の事柄が必要である。

- ① 基礎資格として学士の学位を有すること（学部を卒業すること）。
- ② 第3表に従い各学校種ごとに規定された単位を修得しなければならない。

第3表 学校種ごとの教職および教科に関する科目の最低必要単位数

	教職に関する科目	教科に関する科目	計
中学校教諭一種	31	28	59
高等学校教諭一種	29	36	65

- ③ 次の第4表の最低修得単位数を充足しなければならない。  
なお、いずれの科目も早期履修が望ましい。

第4表 教職および教科に関する科目以外に必要な科目と単位数

教育職員免許法施行規則に定める 科目・最低修得単位数		本学開設の授業科目	本学での 最低必要 単位数
科 目	単位数		
日本国憲法	2	法学（含む日本国憲法）a } (注1) 法学（含む日本国憲法）b }	4
体 育	2	スポーツ・ウエルネス実技科目	2
外国語コミュニケーション	2	英語（1）（オーラル・コミュニケーション）(注2) Basic Communicative English（1）a } (注3) Basic Communicative English（1）b } Communicative English（1）a } Communicative English（1）b } Advanced Communicative English（1）a } Advanced Communicative English（1）b } Communicative English（再） } 英語リスニング&スピーキング（初級）a・b 英語リスニング&スピーキング（中級）a・b 英語リスニング&スピーキング（上級）a・b	2
情報機器の操作	2	データ解析入門Ⅰ データ解析入門Ⅱ データ分析（注2） データ分析Ⅰ } (注3) データ分析Ⅱ } コンピュータ・リテラシーA 1 コンピュータ・リテラシーA 2 コンピュータ・リテラシーB コンピュータ・リテラシーC コンピュータ・リテラシーD コンピュータ・リテラシーE	2

(注1) 2017年度より「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法）a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、2016年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法）a・b」双方を修得したものとみなす。

(注2) 「英語（1）（オーラル・コミュニケーション）」、「データ分析」は2016年度以前入学対象科目である。

(注3) 「Basic Communicative English（1）a・b」、「Communicative English（1）a・b」、「Advanced Communicative English（1）a・b」、「Communicative English（再）」、「データ分析Ⅰ・Ⅱ」は2017年度以降入学対象科目である。

- ④ 中学校免許取得希望者は特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、合計7日間の介護等体験を行わなければならない（高等学校免許には不要。ただし、教職に就くためには、中学校・高等学校両方の免許を取得することが望ましい）。

### 4 履修科目登録上限単位数の特例措置

教職に関する科目および教職関連科目（【履修規定】Ⅲ-4）を参照）は、下記のとおり学年ごとに定められている履修科目登録超過可能単位数まで、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。ただし、他の特例措置（【履修規定】Ⅰ 総説【B】履修単位制限2履修科目登録上限単位数）を参照）も併せて履修登録する場合、超過可能な単位数はいずれかの最大値までとする。

- ・ 1年次に、4月の教職課程ガイダンスに出席してその内容を修得したのち、所定の申請手続を行った学生は、「教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）」、「教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）」、「教師論」の6単位について、履修科目登録上限単位数を超えて履修登録することができる。
- ・ 2年次以降に、教職課程に登録している学生は、他の授業科目と合わせて70単位を上限として、履修科目登録上限単位数を超えて、教職に関する科目および教職関連科目を履修登録することができる。

なお、超過する単位数が不適正であり、是正の指示があった場合はそれに従うこと。

## II

# 教職課程科目の履修

### A

## 「教職に関する科目」の履修

#### 1 「教職に関する科目」の単位修得方法

免許法に規定する中学校、高等学校教諭の免許の授与を受ける場合の教職に関する科目の単位の修得方法は、**第5表**左欄の教育職員免許法施行規則第6条第1項により定められている。本学ではこれに対応する授業科目として、**第5表**右欄の科目を開設している。

#### 2 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

第5表 免許法に規定する科目と本学開設の授業科目

	教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本学開設の授業科目
	教職に関する科目	左項の各科目に含めることが必要な科目	修得単位数	授業科目名
第二欄	教職の意義等に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義及び教員の役割</li> <li>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）</li> <li>・進路選択に資する各種の機会の提供等</li> </ul>	2	教師論
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</li> </ul>	6	教育史
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）</li> </ul>		教育心理学 （障害児教育を含む）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項</li> </ul>		青年心理学 （障害児教育を含む）
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義及び編成の方法</li> </ul>	中12 高6	教育原論Ⅰ （教育の制度と社会）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法</li> </ul>		教育原論Ⅱ （教育課程の意義と編成）
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の指導法</li> </ul>		教科教育法
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>		道徳教育の指導法
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</li> </ul>	特別活動の指導法		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導の理論及び方法</li> </ul>	4	教育方法学		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</li> </ul>		生徒指導論 （カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）		
第五欄	教育実習		中5 高3	社会系教育実習（中・高） 社会系教育実習（高）
第六欄	教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）



3 「教職に関する科目」と学年配当

第6表 教職に関する科目と学年配当

	授 業 科 目	単 位	学年配当	備 考
必 修	教育原論Ⅰ(教育の制度と社会)	2	1	
	教育原論Ⅱ(教育課程の意義と編成)	2	1	
	教 師 論	2	1	
	教 育 史	2	2	
	特別活動の指導法	2	2	
	教育方法学	2	2	
	教科教育法	4	3	
	道德教育の指導法	2	3	
	生徒指導論(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)	4	3	
教職実践演習(中・高)	2	4		
選 択 必 修	教育心理学(障害児教育を含む)	2	2	いずれか1科目必修
	青年心理学(障害児教育を含む)	2	2	
	社会系教育実習(高)	3	4	いずれか1科目必修
	社会系教育実習(中・高)	5	4	

4 履修上の注意

①「教育原論Ⅰ(教育の制度と社会)」および「教育原論Ⅱ(教育課程の意義と編成)」は、半期で同時に履修しても、どちらから先に履修しても、また、異なる担当者の科目を履修しても構わない。第6表に掲げる科目(「教育原論Ⅰ」・「教育原論Ⅱ」・「教師論」を除く)を履修するには、教職課程登録が必要となる。登録者は、学年配当に従い履修すること。これにより、第7表の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」も充足される。

なお、教職に関する科目の修得単位は、卒業および進級に必要な単位数に算入することはできない。

②「教科教育法」は、取得を希望する免許ごとに履修しなければならない。

③「社会科・地理歴史科教育法」、「社会科・公民科教育法」、「道德教育の指導法」、「生徒指導論」、「教職実践演習」は2コマずつ開講するが、履修登録の際は学科指定があるので注意すること。

なお、本学部で履修できる各教科教育法の種類は、下記のとおりである。

社 会：社会科・地理歴史科教育法A、社会科・公民科教育法A

公 民：社会科・公民科教育法B

地理歴史：社会科・地理歴史科教育法B

商 業：商業科教育法(経営学科のみ)

④2018年度に以下のように科目が変更された。なお、旧科目の単位を修得している場合、新科目を履修することができない。

旧 科 目	新 科 目
教育原論Ⅰ	教育原論Ⅰ(教育の制度と社会)
教育原論Ⅱ	教育原論Ⅱ(教育課程の意義と編成)
特別活動の研究	特別活動の指導法
道德教育の研究	道德教育の指導法
生徒指導の研究	生徒指導論
社会科教育法	社会科・地理歴史科教育法A
	社会科・公民科教育法A
公民科教育法	社会科・公民科教育法B
地理歴史科教育法	社会科・地理歴史科教育法B
社会系教育実習	社会系教育実習(高)
	社会系教育実習(中・高)

5 教育実習および  
教職実践演習を  
履修するための  
条件

4年次で「社会系教育実習」および「教職実践演習」を履修するためには、3年次終了までに第7表の「教育実習および教職実践演習を履修するための条件」に定める科目を修得していなければならない。

なお、この条件を満たさないと、4年次に教育実習を行うことができず、4年間で教育職員免許状を取得することができなくなるので注意すること。

また、「教職実践演習」は、「教育実習」を履修する年度よりも前に履修することはできない。

第7表 「教育実習および教職実践演習」を履修するための条件

①教育原論Ⅰ（教育の制度と社会）（2単位）	②教育原論Ⅱ（教育課程の意義と編成）（2単位）	
③教師論（2単位）	④教育史（2単位）	⑤特別活動の指導法（2単位）
⑥教育方法学（2単位）	⑦教育心理学または青年心理学（2単位）	
⑧教科教育法（4単位）		計18単位。

## B 「教科に関する科目」の履修

1 「教科に関する科目」の単位修得方法 免許法に定められた教科に関する科目の単位の修得方法については、第8表以降を参照のこと。

第8表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2017年度以降入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史及び外国史	1以上	○外国史概説A・B 外国文化Ⅰa・Ⅰb 外国文化Ⅱa・Ⅱb 外国文化Ⅲa・Ⅲb 外国文化Ⅳa・Ⅳb	○※日本史概説a・b 経営史Ⅰ・Ⅱ 経済学史Ⅰ・Ⅱ 現代経済史Ⅰ・Ⅱ 社会経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 東洋経済史Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ	※文化史特殊講義Ⅰa・Ⅰb ※歴史学特殊講義Ⅰa・Ⅰb ※歴史学特殊講義Ⅱa・Ⅱb ※歴史学特殊講義Ⅲa・Ⅲb ※日本文化史a・b ※東洋文化史a・b ※西洋文化史a・b		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上		○※地理学講義a・b ○※地誌学a・b	経済地理学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ ※人文地理学a・b		8	
3	「法学、政治学」	1以上	○法学(含む日本国憲法)a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論	会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 国際取引法		4	
4	「社会学、経済学」	1以上	【経済学科のみ】 ○マクロ経済学入門・演習 ○ミクロ経済学入門・演習 【経営学科のみ】 ○経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	医療経済論Ⅰ・Ⅱ 英経済書講読Ⅰ・Ⅱ 開発経済学Ⅰ・Ⅱ 企業論Ⅰ・Ⅱ 金融システム論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論Ⅰ・Ⅱ 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経済思想史Ⅰ・Ⅱ 経営数学Ⅰ・Ⅱ 経済数学Ⅰ・Ⅱ 経済統計論 経済変動論 計量経済学Ⅰ・Ⅱ 公企業論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際経営論Ⅰ・Ⅱ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論A・B 社会政策Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情A・B 人的資源論Ⅰ・Ⅱ 数理経済学Ⅰ・B 中小企業論 統計学 独経済書講読A・B 日本経済論A・B 仏経済書講読A・B 貿易論 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学概論 ミクロ経済学 ミクロ経済学概論 リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ		【経済学科】 6 【経営学科】 4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		★※哲学講義a・b ★※宗教学講義a・b ★※倫理学講義a・b ※哲学史特殊講義a・b			4	

注1) ○印の科目（a・b等に分かれている科目は両方）は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第9表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2015～2016年度入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史及び外国史	1以上	外国文化Ⅰ 外国文化ⅡA 外国文化ⅢA 外国文化ⅣA	○※日本史概説 a・b ○ 外国史概説 経営史 現代経済史 社会経済史 西洋経済史 東洋経済史 日本経済史	※文化史特殊講義Ⅰ a・Ⅰ b ※歴史学特殊講義Ⅰ a・Ⅰ b ※歴史学特殊講義Ⅱ a・Ⅱ b ※歴史学特殊講義Ⅲ a・Ⅲ b ※日本文化史 a・b ※東洋文化史 a・b ※西洋文化史 a・b		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上		○※地理学講義 a・b ○※地誌学 a・b	経済地理学 交通論 ※人文地理学 a・b		8	
3	「法学、政治学」	1以上	○法学（含む日本国憲法） a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論	会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 国際取引法		4	
4	「社会学、経済学」	1以上	経営学総論	○ 経済原論 英経済書講読 企業論 金融システム論 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論 経営情報論 経営数学 経営戦略論 経済学史 経済思想史 経済数学 経済統計論 経済変動論 計量経済学 公企業論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際経営論	国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論 社会政策 社会保障論 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情Ⅰ・Ⅱ 人的資源論 数理経済学Ⅰ・Ⅱ 中小企業論 統計学 独経済書講読 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 仏経済書講読 貿易論 マクロ経済学 ミクロ経済学 リスクマネジメント論		4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		★※哲学講義 a・b ★※宗教学講義 a・b ★※倫理学講義 a・b ※哲学史特殊講義 a・b			4	

注1) ○印の科目（a・bに分かれている科目は両方）は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

注3) 2017年度をもって、「外国文化ⅡB」、「外国文化ⅢB」、「外国文化ⅣB」が廃講となった。前年度までに修得した単位は、免許取得要件単位として認められる。また、「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法） a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、前年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法） a・b」双方を修得したものとみなす。

教職課程

第10表 教科に関する科目と最低必要単位数（社会）

2014年度以前入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史および外国史	1以上	外国文化Ⅰ 外国文化ⅡA 外国文化ⅢA 外国文化ⅣA	○※日本史概説 ○ 外国史概説 経営史 現代経済史 社会経済史 西洋経済史 東洋経済史 日本経済史	※文化史特殊講義Ⅰ ※文化史特殊講義Ⅱ ※文化史特殊講義Ⅲ ※歴史学特殊講義Ⅰ ※歴史学特殊講義Ⅱ ※歴史学特殊講義Ⅲ ※日本文化史 ※東洋文化史 ※西洋文化史		8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で28単位以上
2	地理学（地誌を含む。）	1以上		○※地理学講義 ○※地誌学 経済地理学	交通論 ※人文地理学		8	
3	「法学、政治学」	1以上	○法学（含む日本国憲法）a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論	会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際法Ⅰ 国際法Ⅱ 国際取引法		4	
4	「社会学、経済学」	1以上	経営学総論	○ 経済原論 英経済書講読 企業論 金融システム論 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論 経営情報論 経営数学 経営戦略論 経済学史 経済思想史 経済数学 経済統計論 経済変動論 計量経済学 公企業論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際経営論	国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論 社会政策 社会保障論 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情Ⅰ・Ⅱ 人的資源論 数理経済学Ⅰ・Ⅱ 中小企業論 統計学 独経済書講読 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 仏経済書講読 貿易論 マクロ経済学 ミクロ経済学 リスクマネジメント論		4	
5	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上		△※哲学講義 △※宗教学講義	△※倫理学講義 ※哲学史特殊講義		4	

教職課程

注1) ○印の科目は必修である。  
 注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。  
 注3) 2016年度より、「金融機関論」は「金融システム論」に、「保険論」は「リスクマネジメント論」に科目名称が変更された。  
 注4) 2017年度をもって、「外国文化ⅡB」、「外国文化ⅢB」、「外国文化ⅣB」が廃講となった。前年度までに修得した単位は、免許取得要件単位として認められる。また、「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法）a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、前年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法）a・b」双方を修得したものとみなす。

第11表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2017年度以降入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上		○※日本史概説a・b 日本経済史I・II ※文化史特殊講義I a・I b ※歴史学特殊講義I a・I b ※歴史学特殊講義II a・II b ※歴史学特殊講義III a・III b ※日本文化史a・b			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、 全体で36単位数以上
2	外国史	1以上	○外国史概説A・B 外国文化I a・I b 外国文化II a・II b 外国文化III a・III b 外国文化IV a・IV b	経営史I・II 経済学史I・II 現代経済史I・II 社会経済史I・II 西洋経済史I・II 東洋経済史I・II ※東洋文化史a・b ※西洋文化史a・b			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上		○※地理学講義a・b ○※人文地理学a・b 経済地理学I・II 交通論I・II			8	
4	地誌	1以上		○※地誌学a・b			4	

注1) ○印の科目(a・b等に分かれている科目は両方)は必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

第12表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2015~2016年度入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上		○※日本史概説a・b 日本経済史 ※文化史特殊講義I a・I b ※歴史学特殊講義I a・I b ※歴史学特殊講義II a・II b ※歴史学特殊講義III a・III b ※日本文化史a・b			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、 全体で36単位数以上
2	外国史	1以上	外国文化I 外国文化II A 外国文化III A 外国文化IV A	○外国史概説 経営史 現代経済史 社会経済史 西洋経済史 東洋経済史 ※東洋文化史a・b ※西洋文化史a・b			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上		○※地理学講義a・b ○※人文地理学a・b 経済地理学 交通論			8	
4	地誌	1以上		○※地誌学a・b			4	

注1) ○印の科目(a・bに分かれている科目は両方)は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

注3) 2017年度をもって、「外国文化II B」、「外国文化III B」、「外国文化IV B」は廃講となった。前年度までに修得した単位は、免許取得要件単位として認められる。



第13表 教科に関する科目と最低必要単位数（地理歴史）

2014年度以前入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	日本史	1以上		○※日本史概説 日本経済史 ※文化史特殊講義Ⅰ ※文化史特殊講義Ⅱ ※文化史特殊講義Ⅲ ※歴史学特殊講義Ⅰ ※歴史学特殊講義Ⅱ ※歴史学特殊講義Ⅲ ※日本文化史			4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、 全体で36単元以上
2	外国史	1以上	外国文化Ⅰ 外国文化ⅡA 外国文化ⅢA 外国文化ⅣA	○ 外国史概説 経営史 現代経済史 社会経済史 西洋経済史 東洋経済史 ※東洋文化史 ※西洋文化史			4	
3	人文地理学及び自然地理学	1以上		○※人文地理学 ○※地理学講義 経済地理学 交通論			8	
4	地誌	1以上		○※地誌学			4	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

注3) 2017年度をもって、「外国文化ⅡB」、「外国文化ⅢB」、「外国文化ⅣB」は廃講となった。前年度までに修得した単位は、免許取得要件単位として認められる。

第14表 教科に関する科目と最低必要単位数（公民）

2017年度以降入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数	
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年			
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上	○法学（含む日本国憲法）a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論			△国際法Ⅰ △国際法Ⅱ 会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際取引法	8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	【経済学科のみ】 ○マクロ経済学入門・演習 ○ミクロ経済学入門・演習 【経営学科のみ】 ○経済学Ⅰ・Ⅱ 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	○ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 医療経済論Ⅰ・Ⅱ 英経済書講読Ⅰ・Ⅱ 開発経済学Ⅰ・Ⅱ 企業論Ⅰ・Ⅱ 金融システム論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論Ⅰ・Ⅱ 経営戦略論Ⅰ・Ⅱ 経営組織論Ⅰ・Ⅱ 経済思想史Ⅰ・Ⅱ 経営数学Ⅰ・Ⅱ 経済数学Ⅰ・Ⅱ 経済統計論 経済変動論 計量経済学Ⅰ・Ⅱ 公企業論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ 国際経営論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論A・B 社会政策Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情A・B 人的資源論Ⅰ・Ⅱ 数理経済学Ⅰ・B 中小企業論 統計学 独経済書講読A・B 日本経済論A・B 仏経済書講読A・B 貿易論 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学概論 ミクロ経済学 ミクロ経済学概論 リスクマネジメント論Ⅰ・Ⅱ		10		
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		★※哲学講義a・b ★※宗教学講義a・b ★※倫理学講義a・b ※哲学史特殊講義a・b			4		

注1) ○印の科目（a・b等に分かれている科目は両方）は必修である。△印の科目は1科目選択必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第15表 教科に関する科目と最低必要単位数（公民）

2015～2016年度入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上	○法学（含む日本国憲法）a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論		△国際法Ⅰ △国際法Ⅱ 会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際取引法	8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	経営学総論	○ 経済原論 ○ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 英経済書講読 企業論 金融システム論 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論 経営情報論 経営数学 経営戦略論 経済学史 経済思想史 経済数学 経済統計論 経済変動論 計量経済学 公企業論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ	国際経営論 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論 社会政策 社会保障論 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情Ⅰ・Ⅱ 人的資源論 数理経済学Ⅰ・Ⅱ 中小企業論 統計学 独経済書講読 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 仏経済書講読 貿易論 マクロ経済学 ミクロ経済学 リスクマネジメント論	8		
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		★※哲学講義 a・b ★※宗教学講義 a・b ★※倫理学講義 a・b ※哲学史特殊講義 a・b			4	

注1) ○印の科目（a・b等に分かれている科目は両方）は必修である。△印の科目は1科目選択必修である。また、★印の科目は、同一科目「a・b」一組が選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

注3) 2017年度より、「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法）a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、前年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法）a・b」双方を修得したものとみなす。

教職課程

第16表 教科に関する科目と最低必要単位数（公民）

2014年度以前入学者に適用

経済学科・経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数	
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年			
1	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	1以上	○法学（含む日本国憲法）a・b	憲法 国際関係論 商法概論 民法概論			△国際法Ⅰ △国際法Ⅱ 会社法Ⅰ 会社法Ⅱ 行政法Ⅰ 経済法Ⅰ 経済法Ⅱ 国際取引法	8	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位以上
2	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	1以上	経営学総論	○ 経済原論 ○ 国際貿易論Ⅰ・Ⅱ 英経済書講読 企業論 金融システム論 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営管理論 経営情報論 経営数学 経営戦略論 経済学史 経済思想史 経済数学 経済統計論 経済変動論 計量経済学 公企業論 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 国際金融論Ⅰ・Ⅱ	国際経営論 財政学Ⅰ・Ⅱ 産業経済学 社会キャリア論 社会政策 社会保障論 食料・資源経済論Ⅰ・Ⅱ 世界経済事情Ⅰ・Ⅱ 人的資源論 数理経済学Ⅰ・Ⅱ 中小企業論 統計学 独経済書講読 日本経済論Ⅰ・Ⅱ 仏経済書講読 貿易論 マクロ経済学 ミクロ経済学 リスクマネジメント論		8		
3	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	1以上		△※哲学講義 △※宗教学講義	△※倫理学講義 ※哲学史特殊講義		4		

注1) ○印の科目（a・b等に分かれている科目は両方）は必修である。また、△印の科目は1科目選択必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

注3) 2017年度より、「法学（含む日本国憲法）」は、「法学（含む日本国憲法）a・b」となり、a・b両方が必修である。但し、前年度までに「法学（含む日本国憲法）」を修得している場合は、「法学（含む日本国憲法）a・b」双方を修得したものとみなす。

第17表 教科に関する科目と最低必要単位数（商業）

2017年度以降入学者に適用

経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	職業指導	1以上				○※職業指導	4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	商業の関係科目	1以上	○会計学総論Ⅰ ○会計学総論Ⅱ 商学総論Ⅰ 商学総論Ⅱ	会計監査論Ⅰ・Ⅱ 管理会計論 企業会計論Ⅰ・Ⅱ 原価計算論 経営統計学Ⅰ・Ⅱ 財務諸表分析Ⅰ・Ⅱ コンピュータ論 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 財務管理論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 証券市場論Ⅰ・Ⅱ 生産管理論 税務会計論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ		32	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は卒業・進級に必要な単位には算入されない。

教職課程

第18表 教科に関する科目と最低必要単位数（商業）

2016年度以前入学者に適用

経営学科

系列	免許法による規定		学年配当				本学での最低必要単位数	免許取得に必要な単位数
	教科に関する科目	最低修得単位数	1年	2年	3年	4年		
1	職業指導	1以上				○※職業指導	4	各系列の「本学での最低必要単位数」を満たしつつ、全体で36単位数以上
2	商業の関係科目	1以上	○基礎簿記 マーケティング総論	会計監査論 管理会計論 企業会計論 原価計算論 経営組織論 経営統計学 経営分析 コンピュータ論 財務会計論 財務管理論 商学通論 消費者行動論 証券市場論 生産管理論 税務会計論			32	

注1) ○印の科目は必修である。

注2) ※印の付いた科目は、卒業・進級に必要な単位には算入されない。

# III

## 教職課程の説明会・ガイダンス

教職課程に取り組むに当たっては、以下の説明会・ガイダンス等に必ず出席すること。なお、説明会・ガイダンス等に出席する際は、学生証を必ず持参すること（出席確認を行う）。

### 1 教職課程ガイダンス (1年次)

教職課程の登録は2年次に行われるが、登録を検討している1年次生を対象として、教職課程の概要、1年次に履修できる科目等に関する説明を行う。なお、このガイダンスに出席し、説明された内容を修得しないと、1年次配当の教職に関する科目を、履修登録上限単位数を超えて1年次に履修することはできない。教育職員免許取得を希望している学生は、以下の日程のいずれかに必ず出席すること。

**日時** 2018年4月9日(月) 12:20、4月10日(火) 12:20

**場所** 322教室

**対象** 1年次生

### 2 教職課程登録説明会 (1年次)

教育職員免許の取得を希望する学生は、2年次に進級する直前に開催される教職課程登録説明会に出席し、教職課程の登録手続きを行わなければならない。この登録手続きを怠ると、**教職課程科目の履修ができず、教育職員免許を取得することができない。**本年度は、下記の日程で説明会を開催する。

**日時** 2019年3月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

**場所** 未定

**対象** 1年次生

#### 〈教職課程費〉

※ 課程登録に当たっては、教職課程費(33,000円)を所定の期間に納入しなくてはならない。一度納入した教職課程費は、いかなる事情があっても返還しない。また、課程登録後やむを得ず辞退する場合は、すみやかに教務部で辞退の手続きをすること。

### 3 教育実習校開拓ガイダンス (2年次)

4年次に教育実習をするためには、学生自ら実習校を開拓しなければならない。そのために2年次後期に出身校等に教育実習の依頼をし、受け入れの可否を確認することとなる。このとき内諾を得た場合は、その旨を大学(教務部)に報告すること。大学より実習校に依頼状を送付し、その返事として実習校から「受入承諾書」が大学宛に届いて、はじめて4年次の実習が可能となる。

また、3年次の4月初旬には、内諾を得た教育実習校と再度連絡をとり、あらためて挨拶をし、書類等必要事項の確認をする。その結果を教務部に報告し、今後の手続きを進めていくこととなる。

なお、本年度の実習校開拓ガイダンスは、下記の日程を予定している。2020年度に教育実習を希望する者は必ず出席すること。

**日時** 2018年12月頃開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

**場所** 未定

**対象** 2年次生

### 4 教育実習事前ガイダンス (3年次)

一般的に教育実習は、4年次の4～6月に実施することになる(実習校によっては、秋になることもある)。3年次で学習した教科教育法が理論的なアプローチとすれば、教育実習は、文字どおり実践的なアプローチといえよう。教育実習は、通年授業の中で2～4週間、大学を離れて中学校または高等学校という教育現場で行われる授業であり、本学では事前および事後の指導が教科教育法および教育実習担当者により綿密に行われている。

本ガイダンスでは、講師から教育実習への心構えや諸注意について、また本年度に実習を経験した学生から体験談・アドバイス等を講演してもらうので、来年度の教育実習に向けての準備に役立てて欲しい。2019年度に教育実習を予定している者は必ず出席すること。

**日時** 2018年11月頃開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

**場所** 未定

**対象** 3年次生

### 5 教育実習直前ガイダンス (4年次)

講師による教育実習全般の諸注意、教育実習日誌の記入方法等についての指導、および教務部から教育実習日程等の連絡、教育実習日誌配付等の事務連絡を行う。本年度の教育実習予定者は、必ず出席すること。

**日時** 2018年4月9日(月) 18:10

**場所** 322教室

**対象** 4年次生



## 6 介護等体験

「介護等体験特例法」(平成9年法律第90号)および「介護等体験特例法施行規則」(平成9年文部省令第40号)の施行により、中学校教育職員免許の取得を希望する学生は、入学から卒業までの間に社会福祉施設(老人ホームや生活訓練施設等)で5日間、特別支援学校で2日間、合計7日間介護・介助を行うことが義務付けられている。これに伴い本学では、下記のとおり説明会・ガイダンスを開催する。

### ① 介護等体験登録説明会

**日時** 2018年6月開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

**場所** 未定

**対象** 2019年度介護等体験希望者

### ② 介護等体験事前ガイダンス

**日時** 2018年4月10日(火) 18:10

**場所** 322教室

**対象** 昨年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

### ③ 介護等体験直前ガイダンス

**日時** 2018年7月頃開催予定。別途、掲示等にて連絡する。

**場所** 未定

**対象** 昨年度登録手続きを済ませて、本年度体験を予定している者

## IV 教育職員免許状の申請等

### A 教育職員免許状取得見込証明書の発行

教員採用試験等に必要な標記証明書は教務部にて発行する。

### B 教育職員免許状の申請手続・免許状の交付(4年次)

本年度3月卒業見込みの4年次生は、本学をとおして東京都教育委員会にて教員免許取得に必要な単位数の審査を受けることができる。この審査に合格した者については、学位記授与式(卒業式)当日に免許状が交付される。免許取得に必要な単位を修得し、3月に卒業確定した者については、卒業確定者発表と同時に免許取得者を発表する。本件に関する関連事項の手続きとおおよその日程は下記のとおりである。詳細は、Campus Square for Webや教職課程掲示板にて別途案内する。なお、この手続きを怠ると個人申請することになるので注意すること。

#### 免許状記載項目等の確認手続(4年次の11月)

また、秋(9月)卒業する学生については、卒業後に個人申請にて免許状を取得する必要がある。そのため、学位記授与日当日に免許状が交付されない。詳しくは教務部教職課程担当に確認すること。

免許取得後における教育職員免許状授与証明書の発行、免許状の書き換え、再交付等の申請は、免許状授与権者である東京都教育委員会に各人が行うこと。問い合わせ先は、下記のとおりである。

東京都教育庁人事部選考課 免許担当  
〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1 第一本庁舎北側36階  
TEL: 03-5320-6788 FAX: 03-5388-1729

### C 教育職員免許状の有効期間について

2007年6月の改正教育職員免許法の成立により、2009年4月より教員免許更新制が導入され、2009年4月以降に授与された免許状には、10年間の有効期間が定められている。そのため、2010年3月の卒業生から、有効期間付の免許状となっている。